

法政大学講義録

中村, 進午 / 梅, 謙次郎 / 田中, 遜 / 秋山, 雅之介

(出版者 / Publisher)

法政大学

(巻 / Volume)

31

(号 / Number)

1学年の11

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

93

(発行年 / Year)

1906-09-05

（明治三十六年十一月九日第三種郵便物認可）
每月三回 五日 十五日 二十五日發行

明治三十九年九月五日發行

（第壹學年ノ十一）

三十九年度

法政大學講義錄

第三十一號

法政大學發行



0440

三十九年度第三十一號目次

法學通論 (自二〇九) (完)

法學博士 中村進午

表紙及目次 六頁

民法債權 (自一五六)

法學博士 梅謙次郎

國際公法 (平時) (自二五九)

法學博士 中村進午

國際公法 (戰時) (自一九二)

法學博士 秋山雅之介

羅馬法 (自一三五)

法學博士 田中遜

雜錄 ○大審院判例要旨

090
1906
1-1-11

局ノ五局ヲ置ク(明治二十九年五月勅令一九二號)

海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ海軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス此事務ヲ行ハシカ爲メニ海軍省ニ軍務局(海軍將官ヲ以テ局長ニ補ス)醫務局(海軍軍醫總監ヲ以テ局長ニ補ス)經理局(海軍主計總監ヲ以テ局長ニ補ス)司法局(主理ヲ以テ局長ニ補ス)人事局ノ四局ヲ置ク(明治三十年三月勅令五九號)

大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計、出納、租稅、國債、貨幣、預金、保管物、及ヒ銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣郡市町村及ヒ公共組合ノ財務ヲ監督ス此事務ヲ行ハシカ爲メニ大藏省ニ主計局主稅局理財局造幣局專賣局ヲ置ク(明治三十一年十月勅令二六九號)

司法大臣ハ各裁判所及ヒ檢事局ヲ監督シ檢察事務ヲ指揮シ恩赦及ヒ復權及ヒ戶籍ニ關スル事項其他諸般ノ司法行政事務ヲ管理ス此事務ヲ行ハシカ爲メニ司法省ニ民刑局及ヒ監獄局ヲ置ク(明治二十六年十月勅令一四三號明治三十一年勅令一四七號參照)

文部大臣ハ教育學藝ニ關スル事務ヲ管理ス此事務ヲ行ハシカ爲メニ文部省ニ專門學務局普通學務局實業學務局ヲ置ク(明治三十一年十月勅令二七九號)

農商務大臣ハ農、商、工、水産、林野、鑛山、發明、意匠、商標及ヒ地質ニ關スル事務ヲ管理ス此事務ヲ行ハシカ爲メニ農商務省ニ農務局、商工局、山林局、鑛山局、特許局、水産局、製鐵所、地質調査所ヲ置ク(明治三十一年十月勅令二八三號)

逓信大臣ハ官設鐵道、郵便、小包郵便、郵便貯金、電信電話及ヒ航路標識ヲ管理シ北海道官設鐵道、私設鐵道、電氣造船、水陸運輸ニ關スル事業及ヒ航路、船舶、海員ヲ監督ス此事務ヲ行ハシカ爲メニ逓信省ニ鐵道局、通信局、管船局、鐵道作業局、海事局、海員審判所ヲ置ク(明治三十一年十月勅令二九

0441

五號)

第三款 地方官廳

第一 臺灣總督府(明治三十年十月勅令六二號)

臺灣總督府ハ普通一般ノ地方官廳ト異ニシテ臺灣及ヒ澎湖列島ヲ管理スル特別ノ官府ナリ臺灣總督ハ委任ノ範圍内ニ於テ海陸軍ヲ統率シ内務大臣ノ監督ヲ受ケテ諸般ノ政務ヲ統理シ加之勅裁ヲ經テ法律ニ代ルヘキ效力ヲ有スル律令ヲ發スルノ權限ヲ有ス又總督ハ其管轄區域内ノ安寧秩序ヲ保持センカ爲メニ必要ト認メタル場合ニハ兵力ヲ用アルコトヲ得ヘク又守備隊長若クハ駐在武官ヲシテ民政事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得ヘシ此ノ如ク重大ナルモノナルカ故ニ臺灣總督ハ海陸軍ノ大將又ハ中將ヲ以テ之ヲ充ツ

第二 府縣(明治二十六年十月勅令一六二號)

府縣知事ハ其職務ノ全部ニ付テハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ關スル各部分ニ付テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス故ニ府縣知事ノ職權ハ一切ノ事務ヲ其管轄スル所ノ範圍ヲ限リテ行フニ在リ此職務ヲ行ハシカ爲メニ各府縣ニ内務部警察部監獄部ヲ置ク行政事務ニ付キ其職權ニ依リ又ハ特別ノ委託ヲ受ケテ府縣令ヲ發スルコトヲ得該府縣令ニハ十圓以内ノ罰金ヲ科シ又ハ十日以内ノ拘留ニ處スルコトヲ得兵力ヲ用フルノ要アルカ又ハ兵備ヲ要スルトキハ知事ハ師團長又ハ旅團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得知事ノ補助機關トシテハ書記官、警部長、視學官、參事官、技師、典獄、警視、屬、視學、通譯、監獄書記、看守所長等アリ知事ハ自己ノ下級官吏ヲ

監督スルノ權限ヲ有シ郡長又ハ島司ノ爲シ又ハ發シタル處分又ハ命令カ成規ニ違フカ公益ヲ害スルカ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得ヘシ知事ハ又其職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡長又ハ島司ニ委任スルコトヲ得郡長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケテ自己ノ管轄區域内ニ法律命令ヲ執行シ行政事務ヲ管理シ部下ノ官吏ヲ監督シ又行政事務ニ付テハ其部内ノ町村長ヲ指揮監督ス郡長ハ又法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付キ郡令ヲ發スルコトヲ得島司ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ自己ノ管轄區域内ニ法律命令ヲ執行シ行政事務ヲ管理シ部下ノ官吏ヲ監督シ又行政事務ニ就テハ其部内ノ町村吏員ヲ指揮監督ス島司ハ又法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付キ島廳令ヲ發スルコトヲ得

第三 北海道廳(明治三十年十月勅令三九二號)

北海道廳長官ハ府縣知事ト同シク其職務ノ全部ニ付テハ内務大臣ノ監督ヲ受ケ各省ノ主務ニ關スル各部分ニ付テハ各省大臣ノ監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ北海道ノ拓殖民並ニ部内ノ行政事務ヲ總理ス此外北海道廳長官ハ屯田兵ノ開墾授産ノ事ヲ監督ス廳令ヲ發スルコトヲ得ルコト師團長、旅團長又ハ屯田兵司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得ルコト支廳長カ爲シ又ハ發シタル處分又ハ命令カ成規ニ違フカ公益ヲ害スルカ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得ヘキコト府縣知事ニ同シ此ノ職務ヲ行ハシカ爲メニ北海道廳ニ内務部、殖民部、警察部、監獄署ヲ置ク北海道廳長ノ補助機關トシテ事務官、警部長、支廳長、參事官、視學官、警視、技師、典獄、屬、視學、技師、警部、翻譯生、監獄書記、看守所長、監獄醫等アリ

第三節 地方行政

地方行政ハ地方團體ニ由リテ行ハル地方團體ノ機關ハ府縣郡及ヒ市町村ナリ

第一款 府縣道(明治三十二年三月法律六四號府縣制)

府縣ハ法人ニシテ官ノ監督ヲ受ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其公共事務並ニ從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及ヒ將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス府縣ノ機關ハ府縣會及ヒ府縣參事會ナリ府縣會議員ノ選舉權ヲ有スル者ハ府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ニ限ル次ニ被選舉權ヲ有スル者ハ府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ニ限ル右ノ資格ヲ具フルモ第一其府縣ノ官吏及ヒ有給吏員第二、檢事警察官及ヒ收稅官吏第三、神官僧侶其他諸宗教師第四小學校教員ノ四者ハ被選舉權ヲ有セス

府縣會議員ノ數ハ人口ノ多少ニ依リテ人口七十萬未滿ノ府縣ハ七十人ヲ定員トシ七十萬以上百萬以下ハ五萬人ヲ加フル毎ニ一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増ス

府縣會ノ議決スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一、歲入出豫算ヲ定ムル事
- 二、決算報告ニ關スル事
- 三、法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料府縣稅及ヒ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

四、不動産ノ處分並ニ買受讓受ニ關スル事

五、積立金數等ノ設置及ヒ處分ニ關スル事

六、歲入豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及ヒ權利ノ拋棄ヲ爲ス事

七、財産及ヒ營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但法律命令中別段ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

八、其他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項

府縣參事會ハ府縣知事內務大臣ヨリ命セラレタル府縣高等官二名及ヒ府ニ於テハ名譽職參事會員六名ヲ以テ之ヲ組織ス名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ニ就キ之ヲ選舉ス

府縣參事會ノ職務權限ハ左ノ如シ

一、府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二、府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ム

ルトキ府縣會ニ代リテ議決スル事

三、府縣知事ヨリ府縣會ニ提出スル議案ニ付キ府縣知事ニ對シ意見ヲ述フル事

四、府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及ヒ營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事

五、府縣費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

六、府縣ニ係ル訴訟訟認及ヒ和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

七、其他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項

府縣ハ前ニ述ヘタルカ如ク法人ナルカ故ニ自ら財産ヲ所有スルコトヲ得ヘク自己ノ財産ニ依リテ自己

ノ行政ヲ經營スルコトヲ得ヘシ府縣若シ府縣財產ノ收入ニ依リテ行政ヲ爲スコト能ハサルトキハ府縣内ニ住所ヲ有スル者及ヒ府縣内ニ三箇月以上滞在スル者ニ對シテ府縣稅ヲ課スルコトヲ得又住所ヲ有セス又ハ滞在ヲモ爲ササルモ府縣内ニ土地家屋物件ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲シ又ハ特定ノ行爲ヲ爲ス者ニ對シ地租家屋稅營業稅等ヲ課スルコトヲ得

府縣ノ行政ハ内務大臣ノ監督スル所ナリ故ニ内務大臣ハ府縣行政ノ監督ニ關シ必要ナル命令ヲ發シ又處分ヲ爲スノ權利ヲ有シ又府縣行政カ法律命令ニ違反セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヤヲ監視シ又府縣ノ豫算中不適當ナリト認ムヘキモノアレハ之ヲ削減スルコトヲ得ヘク又勅裁ヲ經テ府縣會ヲ解散スルコトヲ得ヘク左ノ事項ニ關シテハ許否ヲ爲スノ權利ヲ有ス

一、學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

二、使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三、寄附若クハ補助ヲ爲ス事

四、不動産ノ處分ニ關スル事

五、第百十二條ニ依リ夫役及ヒ現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

六、繼續費ヲ定メ若クハ變更スル事

七、特別會計ヲ設ケル事

次ニ左ノ事項ニ付テハ府縣ハ内務大臣及ヒ大藏大臣ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

一、府縣債ヲ起シ並ニ起債ノ方法利息ノ定率及ヒ償還ノ方法ヲ定メ若クハ變更スル事但第百十七條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス(第一一七條末項府縣ハ豫算内ノ支出ヲ爲スメ本條ノ例ニ依ラ

府縣參事會ノ議決ヲ經テ一時借入金ヲ爲スコトヲ得)

二、地租三分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事但法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三、法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

北海道ニハ北海道會ナルモノアリ北海道會ノ議員ハ明治三十四年三月法律第二號北海道法及ヒ同年同月勅令第一七條北海道會議員選舉法ニ依リテ選舉スル所ノ三年ヲ任期トスル名譽職タル議員ヲ以テ組織ス北海道會ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノノ外北海道地方費ノ歲入出豫算及ヒ北海道地方稅ノ課目課率ヲ議決ス

第二款 郡(明治三十二年三月法律六五號)

郡モ亦法人ニシテ官ノ監督ヲ受ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其公共事務並ニ法律勅令ニ依リ郡ニ屬スル事務ヲ處理ス郡ノ機關ハ郡會及ヒ郡參事會ナリ郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ郡内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ニ限リ被選舉權ヲ有ス右ノ資格ヲ備フルモ第一、所屬府縣ノ官吏及ヒ有給吏員第二、其郡ノ官吏及ヒ有給吏員第三、檢事警察官吏及ヒ收稅官吏第四、神官僧侶其他諸宗教師第五、小學校教員ノ五者ハ被選舉權ヲ有セス郡會議員ノ數ハ十五人以上三十人以下トシ内務大臣ノ許可ヲ得テ特ニ四十人ト爲スコトヲ得郡會ノ議決スヘキ事項左ノ如シ

一、歲入出豫算ヲ定ムル事

二、決算報告ニ關スル事

三、法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料及ヒ夫後現品ノ賦課徵收ニ關スル事

0444

四、不動産ノ處分並ニ買受讓受ニ關スル事
郡參事會ハ郡長及ヒ郡會議員中ヨリ選舉シタル五名ノ名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス郡參事會ノ職
務、權限ハ概テ府縣參事會ノモノニ同シ

第二款 市町村

市町村トハ一定ノ土地ヲ限トシ其内ニ住居スル人(住居ヲ以テ足レリトシ敢テ本籍ヲ有スルコトヲ要
セス)カ自治的ニ公共事務ヲ處理スル團體ナリ市町村ノ住民ニ公民ト非公民トノ二種アリ公民トハ日
本人ニシテ年齡滿二十五歳ニ達シ二年以上其他ニ住居シ且二年以上其地ノ負擔ヲ分任シ該市町村内ニ
於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納メ一戸ヲ構フル公權ヲ有スル者ナリ市ノ機關ハ市會
ト市參事會トニシテ町村ノ機關ハ町村長ト町村會トナリ此等ニ關スル委細ハ明治二十四年四月法律第
一號市制町村制ヲ參照スヘシ

第四節 行政訴訟及ヒ訴願

行政訴訟ハ違法ナル行政處分ニ因リ箇人ノ權利ヲ害シタル場合ニ被害者ヨリ提起スル訴訟ナリ我國ニ
於テハ此ノ如キ訴訟ヲ裁判スル裁判所ヲ行政裁判所ト謂フ行政裁判所ノ設ケラルル所以ハ行政ヲ不當
ナラサランメンカ爲メニ之ヲ監督セント欲スルニ在リ
訴願ハ箇人ノ利益カ行政處分ニ因リテ害セラレタル場合ニ於テ此處分ニ關係ヲ有スル者カ之ヲ救濟ヲ
得ンカ爲メニ利益ヲ害スル行為ヲ爲シタル行政官ノ處分ヲ變更スル權限ヲ有スル上級ノ行政廳ニ對シ

テ爲ス所ノ二種ノ請願ナリ但各省大臣ノ爲シタル處分ニ對シテ訴願ヲ爲スニハ必ス其省ニ向テ之ヲ爲
スヘキモノナリ

普通ノ請願ハ自由ニ之ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ訴願ハ一定ノ形式ヲ踐ミテ之ヲ爲ササルヘカラス一
定ノ形式トハ文書ヲ以テスルコト行政處分ヲ受ケタル後六十日以内ニスルコト 訴願書ニ不服ノ要點、
理由、要求及ヒ訴願人ノ身分、職業、年齡ヲ記載シ署名、捺印スルコト等ナリ

理由、要求及ヒ訴願人ノ身分、職業、年齡ヲ記載シ署名、捺印スルコト等ナリ
訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外左ノ事項ニ付キ提起スルコトヲ得(明治二十三年十
月法律第一〇五號訴願法參照)

- 一 租稅及ヒ手数料ノ賦課ニ關スル事件
 - 二 租稅意納處分ニ關スル事件
 - 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
 - 四 水利及ヒ土木ニ關スル事件
 - 五 土地ノ官民有區分ニ關スル事件
 - 六 地方警察ニ關スル事件
- 行政訴訟ニ關スルコトハ明治二十三年十月法律第一〇六號行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件及
ヒ明治二十三年六月法律第四八號行政裁判法ニ依リテ規定スル所ナリ
- 一 海關稅ヲ除ク外租稅及ヒ手数料ノ賦課ニ關スル事件
 - 二 租稅滯納處分ニ關スル事件

三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

四 水利及ヒ土木ニ關スル事件

五 土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件

我國ニ於ケル行政裁判所ハ特別裁判所ニシテ東京ニ唯一箇アルノミ且一審ニシテ再審ヲ求ムルコトヲ禁セリ裁判ハ裁判長及ヒ評定官ヲ合セ五人以上ノ奇數ニ依リ合議ノ上爲スヘキモノナリ若シ偶數ト爲リタルトキハ官等ノ最モ低キ評定官ヲ除クヘク除カルヘキ評定官ノ官等カ同等ナルトキハ任官ノ新シキ者ヲ除クヘキモノトス

行政訴訟ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外地方上級行政廳ニ訴願ヲ爲シ其決定ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス但各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ訴願ヲ爲スコトナク直チニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘシ而シテ各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

行政裁判所ハ損害賠償ノ訴ヲ受理セス行政裁判所ノ判決ノ執行ハ之ヲ普通裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第四章 刑法

刑法トハ犯罪者ヲ處罰スルコトヲ定メタル法律ナリ犯罪トハ刑罰ヲ科スルコトヲ定メタル法律違反ノ行爲ナリ故ニ時代ニ依リ又國ニ依リ法律カ刑罰ヲ科スルコトヲ定メサルトキハ同一ノ行爲ナルモ犯罪ト爲ラサルヘク刑罰ヲ科スルコトヲ定メタルトキハ犯罪ト爲ルヘシ

犯罪ノ主體ハ人ナリ人トハ犯罪ニ關シテ責任能力ヲ有スル者ヲ謂フ法人ハ犯罪ニ關シテ責任能力ヲ有

セサルモノナリ幼者、瘖啞者、心神喪失者ハ責任能力ヲ有セサルカ故ニ犯罪の行爲ヲ爲スモ處罰セラルルコトナシ幼者ニ付テハ我刑法ハ十二歳以下ノ者ノ犯罪ヲ絶對ニ問フコトナク十二歳以上十六歳以下ノ者ノ犯罪ニハ犯人辨別心アリト認メタルトキハ二等ヲ減ス十六歳以上二十歳以下ノ者ノ犯罪ニハ總テ一等ヲ減ス

犯罪ノ不論罪タル場合ハ以上ノ外左ノ如シ

(一) 緊急危難ニ對スル防禦の行爲 緊急危難トハ自己ノ利益ヲ保タンカ爲メニ逼迫シタル必要アル場合ニ他人ノ利益ヲ害スルノ状態ナリ刑法第七五條第二項ニ「天災又ハ意外ノ事變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親屬ノ身體ヲ防禦スルニ出タル所爲」トアル是ナリ

(二) 正當防衛 正當防衛トハ他人カ自己ノ權利ヲ不當ニ侵害シタル場合ニ之ニ對シテ必要ナル行爲ヲ爲スノ状態ヲ謂フ正當防衛ノ要素ヲ舉クレハ左ノ如シ

(イ) 其侵害カ急激ナルコト

(ロ) 其侵害カ違法ナルコト

(ハ) 其侵害ニ對スル行爲ナルコト

(ニ) 其侵害ニ對スル防禦の行爲カ萬已ムラ得サルニ出ツルコト即チ國家ノ力ヲ藉ルニ暇ナキコト

(三) 國權の行爲及ヒ法律ニ依リテ與ヘラレタル行爲

(四) 正當ナル業務ノ執行

犯罪成立ノ要素ハ犯人カ犯罪ヲ爲スノ意思ヲ有シタルコトト犯罪ノ行爲アリタルコトノ二ナリ意思ナキ行爲ヲ犯罪トスルハ過失罪ノ場合ニ限ル

犯罪ノ種類ヲ舉クレハ左ノ如シ
 第一 有意犯、無意犯 行爲者カ一定ノ事實ヲ惹起スルコトヲ豫知シテ爲シタル犯罪ヲ有意犯ト謂ヒ過失ニ因リテ爲シタル犯罪ヲ無意犯ト謂フ
 第二 作爲犯、不作爲犯 禁令ニ從ハサル犯罪ハ作爲犯ニシテ命令ニ從ハサル犯罪ハ不作爲犯ナリ作爲犯トハ例ヘハ人ヲ殺傷シ又ハ財産ヲ盜ムカ如シ不作爲犯トハ納稅ヲ怠ルカ如ク兵役ニ服セサルカ如シ第三 既遂犯、未遂犯、中止犯 未遂犯トハ犯罪ヲ爲シタル行爲ニ付テノ希望カ不完全ニ成功シタルモノヲ謂ヒ既遂犯トハ其希望カ完全ニ成功シタルモノヲ謂フ犯罪者カ自己ノ任意ヲ以テ成功セシメサルトキハ中止犯ト爲ル
 未遂犯ニ著手未遂犯ト實行未遂犯トテ缺致犯トアリ他人ノ物ヲ盜メントシタルニ第三者ニ認メラレテ盜ムコトヲ妨ケラレタルハ著手未遂犯ナリ人ヲ殺サントシテ毒藥ヲ飲マシメタルニ其人自ラ解毒劑ヲ用セタルカ如キハ實行未遂犯ナリ
 第四 單獨犯、共犯 共犯トハ一箇ノ犯罪ニ數人カ共同シタルモノヲ謂ヒ單獨犯トハ唯一箇ノ人カ爲シタルモノヲ謂フ其犯ノ場合ニハ共犯者カ或ハ其ニ正犯者タルコトアリ或ハ其一人カ教唆者タルコトアリ又從犯者タルコトアリ正犯トハ共犯ノ場合ニ於テ各、犯罪行爲ヲ爲シタル者ヲ謂ヒ教唆トハ自ら或行爲ヲ爲サス唯他人ヲシテ或犯罪行爲ヲ爲サシムルノ決意ヲ爲サシメ其人ヲシテ實行セシメタルモノヲ謂フ責任無能力者ヲ教唆シテ犯罪ヲ爲サシムルコトヲ得ス何トナレハ責任無能力者ノ行爲ハ犯罪ト爲ルコト能ハサルモノナレハナリ能力者ト雖モ犯意ナキ行爲ヲ爲サシメラレタルトキハ此行爲ヲ爲サシメタル者ハ教唆ニ非ス從犯トハ他人カ重罪又ハ輕罪ヲ犯スヲ幫助スル者ヲ謂フ

第五 一罪犯、俱發犯 俱發犯トハ一罪ニ付キ刑ノ言渡アル以前ニ他ノ罪ニ付キ犯シタル場合ヲ謂フ前ノ犯罪ニ付キ確定判決アリタル以後ニ於テ更ニ犯罪アリタルトキハ是レ俱發犯ニ非スシテ再犯ナリ第六 即成犯、繼續犯 繼續犯トハ一箇ノ犯罪行爲カ引續キテ實行セラルルモノヲ謂フ例ヘハ數月ニ涉リテ兒童ヲ飢餓ニ陥レタルカ如シ
 第七 單行犯、連續犯 連續犯トハ犯罪行爲カ逐次ニ實行セラルル犯罪ナリ單行犯トハ一回ノ行爲ニ因ル犯罪ナリ
 第八 現行犯、非現行犯 現行犯トハ犯罪ノ行ハレタル時ニ發覺シタルモノヲ謂ヒ非現行犯トハ犯罪ノ行ハレタル後ニ發覺シタルモノヲ謂フ
 第九 常事犯、國事犯、軍事犯 國事犯トハ政治ニ關スル犯罪ヲ謂ヒ軍事犯トハ軍事ニ關スル犯罪ヲ謂ヒ常事犯トハ政治、軍事以外ノ事ニ關スル犯罪ヲ謂フ
 第十 能犯、不能犯 不能犯トハ犯罪ノ目的物カ犯罪行爲ノ目的物タル資格ナキ場合及ヒ犯罪行爲ノ手段カ犯罪行爲ヲ爲スニ足ラサル場合ヲ謂フ死骸ヲ殺サントスルカ如キハ前者ニ屬シ砂糖ヲ與ヘテ人ヲ殺サントスルカ如キハ後者ニ屬ス目的物ニ付テノ不能犯ニモ手段ニ付テノ不能犯ニモ兩者各、絕對的ノモノト相對的ノモノトアリテ石地獄ニ斬付ケタルカ如キハ目的物ニ關スル不能犯ノ絕對的ノモノニシテ暗夜ニ人ヲ傷ケントシテ斬付ケタルニ人カ其室ニ在ラザリシカ如キハ目的物ニ關スル不能犯ノ相對的ノモノナリ鹽ヲ與ヘテ人ヲ殺サントスルカ如キハ手段ニ依ル絕對不能犯ニシテ「モルヒネ」ヲ與ヘテ人ヲ殺サントシタルモ其人ノ體質強健ニシテ「モルヒネ」ノ毒ニ感セザリシカ如キハ手段ニ依ル相對的不能犯ナリ

第十一 普通犯、特別犯 刑法ニ定メタル犯罪ヲ普通犯ト謂ヒ特別法ニ定メタル犯罪ヲ特別犯ト謂フ
刑罰トハ犯罪ニ關シ國家カ法律ノ規定ニ從ヒ其犯罪者ニ對シテ犯罪者カ有スル法律上ノ利益ヲ剝奪ス
ルコトヲ謂フ我刑法ニ從ヒテ刑罰ノ種類ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 主刑 主刑トハ獨立ニ科スル刑罰ニシテ特ニ其刑ノ宣告ヲ要スルモノヲ謂フ
(一) 生命刑 死刑
(二) 自由刑

(一) 自由刑

(甲) 常事犯ノ重罪ニ科スルモノ (イ)無期徒刑(ロ)有期徒刑(ハ)重懲役(ニ)輕懲役
(乙) 國事犯ノ重罪ニ科スルモノ (イ)無期徒刑(ロ)有期徒刑(ハ)重禁獄(ニ)輕禁獄

(丙) 輕罪ニ科スルモノ (イ)重禁錮(ロ)輕禁錮

(丁) 違警罪ニ科スルモノ 拘留

(三) 財產刑

(甲) 輕罪ニ科スルモノ 罰金

(乙) 違警罪ニ科スルモノ 科料

第二 附加刑 附加刑トハ主刑ニ附帶シテ科スル刑罰ニシテ主刑ノ宣告アルトキハ特別ノ宣告ヲ俟タ
スシテ當然ニ科セラルモノナリ附加刑ニハ主刑ト同時ニ科セラルモノト主刑ノ終リタル後ニ科セ
ラルモノトノ二種アリ

(一) 自由刑 監視 死刑又ハ無期徒刑ノ滿期免除ヲ受ケタル者ハ宣告ヲ用ヒスシテ當然五箇年ノ監
視ヲ受ケ有期徒刑、懲役及ヒ禁獄ニ處セラレタル者ハ同シク宣告ヲ用ヒスシテ當然本刑ノ短期四分ノ

一ノ監視ヲ受ケ輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ特別ノ宣告ヲ要ス

(二) 財產刑

(甲) 輕罪ノミニ附加スルモノ 罰金

(乙) 重罪ニモ輕罪ニモ共ニ附加スルモノ 沒收

沒セラル(キ)物ハ左ノ如シ

(イ)法律禁制品(ロ)犯罪ノ用ニ供シタル物(ハ)犯罪ニ因リテ得タル物

(三) 名譽刑

(甲) 重罪ニ附加スルモノ 剝奪公權

(乙) 輕罪ニ附加スルモノ 停止公權

刑罰消滅ノ原因ハ左ノ如シ

第一 犯罪者ノ死亡 犯罪者死亡スルトキハ刑罰ヲ科セラルヘキ主體ナキニ至ルカ故ニ到底之ヲ處罰
スルコト能ハス

第二 大赦 大赦トハ天皇ノ大權ニ依リ犯罪ニ對スル法律上ノ效力ヲ消失セシムルモノナリ故ニ一タ
ヒ大赦ニ遇フトキハ該刑罰ヲ受ケサルノミナラス其後ニ於テ犯罪ヲ爲スモ再犯ト爲ルコトナシ

第三 特赦 特赦トハ天皇ノ大權ニ依リ確定判決ヲ受ケタル罪ニ對シテ刑ヲ免除スルモノナレトモ大
赦ノ如ク判決ノ效力ヲ消失セシムルモノニ非ス故ニ以後ニ於テ犯罪ヲ爲ストキハ再犯ト看ラルヘシ

第四 復權 復權トハ天皇ノ大權ニ依リ犯罪者ニ對シテ判決ニ因リテ失ヒタル資格ヲ回復セシムルモノ
ヲ謂フ故ニ復權ハ將來ニ關スル特權ニシテ既往ニ遡リテ既往ノ犯罪ヲ消滅セシムルモノニ非ス

第五 期滿免除 期滿免除トハ時ノ經過ニ因リテ刑罰ヲ消滅セシムルコトヲ謂フ期滿免除ニハ公訴ノ期滿免除ト刑ノ期滿免除トノ二種アリ公訴ノ期滿免除トハ判決ノ確定前ニ處罰ヲ求ムルノ權利ヲ消滅セシムルモノヲ謂ヒ刑ノ期滿免除トハ判決ヲ確定シタル後ニ刑罰ヲ執行スルノ權利ヲ消滅セシムルモノヲ謂フ刑ノ期滿免除ノ年限ハ左ノ如シ

一 死刑ハ三十年

二 無期徒刑ハ二十五年

三 有期徒刑ハ二十年

四 重懲役、重禁獄ハ十五年

五 輕懲役、輕禁獄ハ十年

六 禁錮、罰金ハ七年

七 拘留、科料ハ一年

法學通論 終

(編輯局識)

法學博士 中村進午 講述

法
學
通
論

完

法政大學發行

法學通論目次

總論

第一章 法學通論	一
第二章 法律ノ字義	三
第三章 法律ノ發生及ヒ意義	五
第四章 法律ノ維持	六
第五章 法律ノ制定	八
第一節 狹義ノ法律ノ制定	八
第二節 命令ノ制定	一一
第三節 自治體條例ノ制定	一二
第六章 法律ノ解釋	一三
第一節 學理的解釋	一四
第二節 強制的解釋	一七
第七章 法律ノ分類	一一
第一節 一般法及ヒ特別法(通法及ヒ特法)	一一

法學派

- 第二節 成文法、不文法……………二五
- 第三節 強制法(命令法及禁止法)及隨意法……………二七
- 第四節 實體法、形式法(手續法)……………二九
- 第五節 固有法、繼承法……………三〇
- 第六節 公法及私法……………三一
- 第七節 國內法及國際法……………三五
- 第八章 法律ノ淵源……………三六
 - 第一節 慣習……………三六
 - 第二節 學說……………四〇
 - 第三節 條理……………四一
 - 第四節 條約……………四二
 - 第五節 判決例……………四二
 - 第六節 宗教……………四四
 - 第七節 外國法……………四四
- 第九章 法律ノ公布及施行期限……………四五
- 第十章 法律ノ制裁……………四九

法學派

- 第十一章 法律ノ變更及廢止……………五四
- 第十二章 法律ノ效力……………五六
- 第十三章 法律學ノ分類……………七一
- 第十四章 法律ト道德及宗教トノ關係……………七八
- 第十五章 權利……………七八
 - 第一節 權利ノ性質……………八〇
 - 第二節 權利ノ種類……………八三
 - 第三節 權利ノ主體……………八三
 - 第四節 權利ノ客體……………九〇
- 第十六章 義務……………九二
- 本論……………九二
- 第一章 憲法……………九二
- 第二章 裁判所(裁判所構成法)……………一〇一
- 第三章 行政法……………一〇五
 - 第一節 總論……………一〇五
 - 第二節 中央行政……………一〇七

- 第一款 内閣 一〇七
- 第二款 各省 一〇七
- 第三款 地方官廳 一一〇
- 第三節 地方行政 一一二
- 第一款 府縣道 一一二
- 第二款 郡 一一五
- 第三款 市町村 一一六
- 第四節 行政訴訟及ヒ訴訟 一一六
- 第四章 刑法 一一八

法學通論目次終

- 第十五章 債權ノ種類 一四八
- 第十六章 債權ノ消滅 一五〇
- 第十七章 債權ノ擔保 一五二
- 第十八章 債權ノ移轉 一五四
- 第十九章 債權ノ消滅時効 一五六
- 第二十章 債權ノ時効 一五八
- 第二十一章 債權ノ時効 一六〇
- 第二十二章 債權ノ時効 一六二
- 第二十三章 債權ノ時効 一六四
- 第二十四章 債權ノ時効 一六六
- 第二十五章 債權ノ時効 一六八
- 第二十六章 債權ノ時効 一七〇
- 第二十七章 債權ノ時効 一七二
- 第二十八章 債權ノ時効 一七四
- 第二十九章 債權ノ時効 一七六
- 第三十章 債權ノ時効 一七八
- 第三十一章 債權ノ時効 一八〇
- 第三十二章 債權ノ時効 一八二
- 第三十三章 債權ノ時効 一八四
- 第三十四章 債權ノ時効 一八六
- 第三十五章 債權ノ時効 一八八
- 第三十六章 債權ノ時効 一九〇
- 第三十七章 債權ノ時効 一九二
- 第三十八章 債權ノ時効 一九四
- 第三十九章 債權ノ時効 一九六
- 第四十章 債權ノ時効 一九八
- 第四十一章 債權ノ時効 二〇〇
- 第四十二章 債權ノ時効 二〇二
- 第四十三章 債權ノ時効 二〇四
- 第四十四章 債權ノ時効 二〇六
- 第四十五章 債權ノ時効 二〇八
- 第四十六章 債權ノ時効 二一〇
- 第四十七章 債權ノ時効 二一二
- 第四十八章 債權ノ時効 二一四
- 第四十九章 債權ノ時効 二一六
- 第五十章 債權ノ時効 二一八
- 第五十一章 債權ノ時効 二二〇
- 第五十二章 債權ノ時効 二二二
- 第五十三章 債權ノ時効 二二四
- 第五十四章 債權ノ時効 二二六
- 第五十五章 債權ノ時効 二二八
- 第五十六章 債權ノ時効 二三〇
- 第五十七章 債權ノ時効 二三二
- 第五十八章 債權ノ時効 二三四
- 第五十九章 債權ノ時効 二三六
- 第六十章 債權ノ時効 二三八
- 第六十一章 債權ノ時効 二四〇
- 第六十二章 債權ノ時効 二四二
- 第六十三章 債權ノ時効 二四四
- 第六十四章 債權ノ時効 二四六
- 第六十五章 債權ノ時効 二四八
- 第六十六章 債權ノ時効 二五〇
- 第六十七章 債權ノ時効 二五二
- 第六十八章 債權ノ時効 二五四
- 第六十九章 債權ノ時効 二五六
- 第七十章 債權ノ時効 二五八
- 第七十一章 債權ノ時効 二六〇
- 第七十二章 債權ノ時効 二六二
- 第七十三章 債權ノ時効 二六四
- 第七十四章 債權ノ時効 二六六
- 第七十五章 債權ノ時効 二六八
- 第七十六章 債權ノ時効 二七〇
- 第七十七章 債權ノ時効 二七二
- 第七十八章 債權ノ時効 二七四
- 第七十九章 債權ノ時効 二七六
- 第八十章 債權ノ時効 二七八
- 第八十一章 債權ノ時効 二八〇
- 第八十二章 債權ノ時効 二八二
- 第八十三章 債權ノ時効 二八四
- 第八十四章 債權ノ時効 二八六
- 第八十五章 債權ノ時効 二八八
- 第八十六章 債權ノ時効 二九〇
- 第八十七章 債權ノ時効 二九二
- 第八十八章 債權ノ時効 二九四
- 第八十九章 債權ノ時効 二九六
- 第九十章 債權ノ時効 二九八
- 第九十一章 債權ノ時効 三〇〇
- 第九十二章 債權ノ時効 三〇二
- 第九十三章 債權ノ時効 三〇四
- 第九十四章 債權ノ時効 三〇六
- 第九十五章 債權ノ時効 三〇八
- 第九十六章 債權ノ時効 三一〇
- 第九十七章 債權ノ時効 三一二
- 第九十八章 債權ノ時効 三一四
- 第九十九章 債權ノ時効 三一六
- 第一百章 債權ノ時効 三一八

ノ利益ヲ受クヘキカ故ニ此場合ニ於テハ何等ノ關係ナキ者ニ對シテ爲シタル履行ナルモ有效ナリ若シ
 又其親族若クハ友人カ自ラ受取リタル金錢ノ半額ヲ横領シテ餘ノ半額ヲ債權者ノ爲メニ使用シタリト
 セハ其半額ニ付テハ辨濟ハ有效ナルモ其者カ横領シタル半額ニ付テハ債務者ハ再ヒ之ヲ支拂ハサルヘ
 カラス固ヨリ不當利得ノ原則ヨリシテ特ニ明文ナキモ此結果ニ至ルヘシト雖モ唯法律ノ明文ニ依リテ
 之ヲ履行ト看做スト否トノ差アリ之ヲ履行ト看做ストキハ之ニ附隨スル權利義務ハ其ニ消滅スヘシ而
 シテ擔保權ハ元來不可分ニシテ原則トシテハ一部消滅ナルモノナキカ故ニ殆ト利害ノ關係ナキカ如キ
 モ其一部カ履行トシテ有效ナリトセハ擔保スル債權額減少スヘキカ故ニ債權者ハ其利益シタル金額ヲ
 償還シテ債權ノ全額ニ付キ擔保權ヲ行フコトヲ得ス況ヤ履行カ全部債權者ノ利益ニ歸スルコトアルニ
 於テヤ殊ニ保證債務其他附隨ノ義務ニ付テハ一部消滅スルコトアリ例ヘハ利息附ノ債權ニ付テ其履
 行ノ一部カ有效ナリトセンニ其時以後ニ於ケル其一部ニ付テノ利息ハ支拂ハスシテ可ナリ之ニ反シテ
 他人ニ對スル履行ト爲ラストセハ全部ニ對シテ契約ニ定メタル利息ヲ支拂ハサルヘカラス其結
 果債務者ハ利息ノ金額ヲ損失スルニ至ルヘシ

第四七八條 債權ノ準占有者ニ爲シタル辨濟ハ辨濟者ノ善意ナリシトキニ限リ其效力ヲ有ス
 第四七九條 前條ノ場合ヲ除ク外辨濟受領ノ權限ヲ有セサル者ニ爲シタル辨濟ハ債權者カ之ニ因リ
 テ利益ヲ受ケタル限度ニ於テノミ其效力ヲ有ス

此處ニ此二箇條ノ規定ト代理ノ一般ノ規定トノ關係ヲ説明セサルヘカラス即チ權限ナキ者ノ履行ヲ受
 クルコトヲ得サルハ固ヨリ疑ナキ原則ナリト雖モ代理ニ關シテモ一般ニ權限ナキ者ノ行爲ニ多少ノ效
 力ヲ認メタリ例ヘハ第一一〇條ニハ「代理人カ其權限外ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ第三者カ其權限

民法債權 總則 債權ノ效力

アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシトキハ前條ノ規定ヲ準用スレトアリテ即チ本人カ責任ヲ負フモノトシ又第一一二條ニハ「代理權ノ消滅ハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但第三者カ過失ニ因リテ其事實ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス」ト規定セリ而シテ此等ノ規定ハ履行ノ受領ニ付テモ固ヨリ其適用ヲ受クルモノナリ此場合ニ於テハ履行受領者ハ代理權ヲ有スル者ト同一視スヘキモノニシテ玆ニ規定スル所ノモノトハ其趣ヲ異ニセリ

尙ホ進ミテ之ヲ論スレハ第一一二條以下ニ於テハ代理權ナキ者ノ行為ト雖モ法律ノ「フクシヨシ」ニ依リテ本人カ後日追認ヲ爲シタルトキハ其行為ハ有效ナリトセリ是レ亦固ヨリ履行ノ受領ニ付テモ適用ヲ受クヘキモノナルカ故ニ權限ナキ者ニ對シテ履行ヲ爲シタルモ相手方即チ債權者カ追認ヲ爲シタルトキハ其履行ハ有效ト爲ルナリ但此ニ注意ヲ要スルハ履行ナルモノハ時トシテハ契約タリ又時トシテ單獨行為タルコト是ナリ而シテ契約即チ債權者ト債務者トノ意思ヲ要スル場合例ヘハ直接ニ引渡ヲ要スル場合(此場合ハ常ニ必ス契約ナリ)ニ於テハ債務者カ承諾シテ受取ルニ非サレハ引渡ナルモノハ成立セス而シテ之ヲ契約トスルノ結果ハ一二三條以下ノ規定ノ適用ヲ受ケ其引渡ハ追認ニ因リ常ニ有效ト爲ルナリ又單獨行為ノ場合ニ在リテハ一一八條ノ規定ニ依リ訴權ヲ生スヘシ即チ同條ニ於テハ前段ニ「單獨行為ニ付テハ云前五條ノ規定ヲ準用ス」トアリテ契約ノ追認ニ關スル規定ヲ準用シ後段ニ於テハ「代理權ヲ有セサル者ニ對シテ其同意ヲ得テ單獨行為ヲ爲シタルトキ亦同シ」トアリテ履行ノ單獨行為ナル場合ニ於テハ後段ニ該當スヘキモノナルカ故ニ履行ヲ受クル權限ナキ者ニ對シ債務者カ其同意ヲ得テ辨濟ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之ヲ追認スルコトヲ得ヘシ論者或ハ曰ハン然ラハ第四七八條及七四九條ハ全ク無用ノ條文ニ非サト然レトモ是レ未ダ深く究メサルノ論ナリ元來追認ノ如キ

ハ債權者ニ利益アル場合ニ於テ多ク行ハルルモノナルニ履行等ニ付テハ必スシモ債權者ノ利益ト爲ルモノト謂フヘカラス且第四七九條ノ場合ニ於テ全部債權者ノ利益ト爲リタルトキト雖モ尙ホ追認ヲ爲スヨリハ寧ロ其行為ヲ無効ト爲シ(不當利得ニ關スル請求ヲ受クルハ格別)更ニ履行ヲ受クルヲ以テ利益ト爲ス場合多シ蓋シ不當利得ノ債務ナルモノハ其範圍極メテ限定セラレ普通ノ場合ニ於テハ利息ヲ附セスシテ可ナルノミナラス必スシモ受取リタル物ノ全部ヲ返還スルコトヲ要セサルモノナルカ故ニ一部分カ債權者ノ利益ト爲リタル場合ノ如キハ之ヲ履行ト看做サスシテ更ニ正當ナル履行ヲ受クルヲ以テ利益トスルノミナラス全部其利益ト爲リタルトキト雖モ若シ其債權カ利息ヲ生スヘキモノナルトキハ追認ヲ爲ササルニ利アリ然レトモ法律ハ履行ニ付テハ代理ノ普通ノ規定ヨリハ特ニ善意ノ債務者ヲ保護スルノ必要アリトシ債權者ノ利益ヲ受ケタル限度ニ於テハ履行トシテ有效ナルモノトセリ是レ債務者ハ履行ヲ受クル者カ果シテ權限ヲ有スルヤ否ヤヲ知ルコト實際困難ナルノミナラス履行ナルモノハ最モ容易ニ且迅速ニ行ハルルヲ以テ利益トシ債務カ永ク存在スルハ甚タ喜フヘキコトニ非サルカ故ニ苟モ債務者ニ過失ナク又債權者カ之カ爲メニ損失ヲ被ルニ非サレハ常ニ履行ヲ有效トセリ即チ理論上ニ於テハ無効タルヘキモノヲ有效ト爲シタルモノニシテ是レ外國ニ於テ多ク其例ヲ見ル所ナリ

以上ヲ以テ履行ヲ受クヘキ人ハ如何ナル者ナルカノ原則ヲ説キ了レリ尙ホ是ヨリ進ミテ眞ノ債權者或ハ前ノ規定ニ依リテ履行ヲ受クヘキ法律上ノ資格ヲ有スル者ト雖モ尙ホ二條件ヲ具備スルコトヲ要スルコトニ付テ説明セン

第一ハ何ナルカト云フニ辨濟ヲ受クル者カ能力者タラサルヘカラサルコト是ナリ元來辨濟ヲ受クルノ

行爲ハ一ノ法律行爲ナルカ故ニ法律行爲ノ一般ノ能力ヲ有セサルヘカラス之ニ付テハ舊民法ノ如キハ特別ノ明文アリタレトモ新民法ニ於テハ一般能力ノ規定ヲ適用スヘキモノトシテ特ニ之ニ關スル規定ヲ設ケサリキ其結果如何ト云フニ未成年者禁治產者カ履行ヲ受ケタルトキハ之ヲ取消シテ更ニ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘシ例ヘハ金錢債務ナルトキハ一旦金錢ヲ受取リ之ヲ消費シタル後更ニ又金錢ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得ルナリ尙ホ準禁治產者、妻等ニ於テモ多クノ場合ニ於テハ所謂「元本領收」ナル語ノ中ニ履行ヲ受ケルコトヲ包含スルカ故ニ保佐人又ハ夫ノ許可ヲ得シテ之ヲ受領シタルトキハ同シク後日ニ至リ取消スルコトヲ得ルカ故ニ辨濟ヲ爲ス者ハ其相手方ノ能力ヲ調査シテ然ル後履行ヲ爲スニ非サレハ非常ナル損失ヲ被ルノ虞アリ

第二ニハ債權者ニ對シテ差押ナキコトヲ必要トス即チ甲カ乙ニ對シテ一定ノ債權ヲ有シ又甲ハ丙ニ對シテ債務ヲ負擔セル場合ニ於テ甲ハ丙ヨリ差押ヲ受ケ其結果乙カ支拂ノ差止ヲ受ケタルトキ即チ「汝カ甲ニ支拂フヘキモノハ支拂フコトヲ得ス」ト裁判所ヨリ命セラレタル場合ニ於テハ假令債權者ナルモ其債權者ハ履行ヲ請求スルコトヲ得ス又履行ヲ受ケル資格ナキカ故ニ其者ニ對シテ履行ヲ爲スモ之ヲ以テ丙即チ差押債權者ニ對抗スルコトヲ得ス勢ヒ二重拂ヲ爲ササルヘカラスルニ至ルヘシ第四八一條ハ規定シテ曰ク

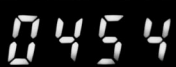
支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者カ自己ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ差押債權者ハ其受ケタル損害ノ限度ニ於テ更ニ辨濟ヲ爲スヘキ旨ヲ第三債務者ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第三債務者ヨリ其債權者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス
ト茲ニ所謂「受ケタル損害」トハ之ニ關リテ債權者カ完全ナル辨濟ヲ受ケルコトヲ得サリトキニ於テ

其不足額ヲ謂ヒ尙ホ徒ニ費用ヲ出シタルトキハ是レ亦此中ニ包含スルモノナリ此二重拂ヲ爲シタル債務者ハ自己ノ債權者ニ對シテ即チ前ノ例ニ付テ言ヘハ甲ニ對シテ一旦支拂ヒタル物ヲ取返スコトヲ得ヘシ詳言スレハ全部二重拂ヲ爲シタルトキハ全部ヲ取返シ半額二重拂ヲ爲シタルトキハ半額ヲ取返スコトヲ得ルナリ極端ノ例ヲ舉ケレハ二倍ノ辨濟ヨリ多額ヲ支拂ハサルヘカラサルコトアリ即チ差押債權者、前ノ例ヲ以テ言ヘハ丙ナル者カ甲ノ乙ニ對スル債權ノミニ依リテ辨濟ヲ受ケント欲シ而モ甲ハ他ニ一ノ財産ヲモ有セサル場合ニ於テ乙ハ甲ニ辨濟シ甲ハ之ヲ消費シタルカ爲メ丙ハ毫モ得ル所ナキトキハ丙ハ乙ニ對シテ再ヒ債務ノ全額ヲ支拂ハシムルコトヲ得ルノミナラス尙ホ損害ヲ受ケタルトキハ之ヲ賠償セシムルコトヲ得ヘシ故ニ此場合ニ於テハ二倍ヨリ多ク支拂ハサルヘカラサルニ至ル而シテ乙ハ自己ノ債權者即チ甲ニ對シテ場合ニ依リ債權額又ハ丙ニ支拂ヒタル同額ノ物ノ償還ヲ請求スルコトヲ得ヘキナリ

第三 履行ノ目的

履行ノ目的ハ嚴格ニ之ヲ言ヘハ債權ノ目的ニ外ナラス債權ノ目的ノ實行ハ即チ履行ナルカ故ニ債權ノ目的ト履行ノ目的トノ間ニハ差異ナク唯觀察點ヲ異ニスルノミ債權ノ目的ト云フトキハ重ニ債權發生ノ時ヨリ觀察シ履行ノ目的ト云フトキハ履行スル時即チ之ニ因リテ債權カ將ニ消滅セントスルトキニ觀察スルモノニシテ自ラ論點ヲ異ニス抑、履行ノ目的ハ普通ノ場合ニ於テハ特ニ問題トスルノ價値ナシ履行ヲ爲スヘキ時期ニ於テ債務者カ任意ニ履行ヲ爲シ而シテ其履行カ債權ノ目的タルトキハ履行ハ完全ナルモノニシテ之ニ因リテ債務ハ竟ニ消滅スヘシ故ニ此場合ニ於テハ特ニ論スルノ必要アラサル



モ特別ナル場合ニ於テ多少論スヘキ問題四アリ

第一ノ問題ハ債務者カ任意ニ履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ之ヲ強制シテ履行ヲ爲サシムルコトヲ得ルヤ否ヤニ在リ之ニ付テハ古來主義ニ種種ノ變遷アリテ羅馬法ノ古ニ於テハ此問題カ如何ニ決セラレシカハ今日尙ホ一ノ疑問ニシテ學者ノ一致セサル所ナリ彼ノ「ガイユス」ナル羅馬ノ法律家カ此問題ヲ説明セル文字ノ意義ニ付キ議論アリ甲ノ讀ミ方ニ據ルトキハ強制履行ナルモノハ古來之ヲ許サザリシト云ヒ乙ノ讀ミ方ニ據ルトキハ太古ハ之ヲ許シタルモ後ニ至リ之ヲ許ササルニ至レリト云ヘリ然レトモ羅馬法ノ原則ハ概シテ強制履行ヲ許サザリシコトハ少クモ正確ナル法律ノ存在シタル時代ニ於テハ疑ナキ所タリ(即チ羅馬ノ中古ノ法律ニ於テハ正ニ強制履行ヲ許サザリシコト疑ナシ)尤モ之ニ對シテハ多少ノ例外ヲ認メタレトモ原則ハ常ニ變更スルコトナカリキ其理由ニ曰ク凡ソ人ハ自由ナリ如何ニ法律ノ力ヲ以テスルモ自由ヲ束縛スルコトヲ得ス任意ニ履行セサル者ハ強制シテ履行ヲ爲サシムルコトヲ得サルカ故ニ此場合ニハ唯損害ヲ賠償セシムルニ止メサルヘカラスト此原則ハ歐洲ニ於テハ今日尙ホ學者ノ盛ニ唱道スル所ナリ然レトモ予ノ信スル所又近世ノ學者カ唱道スル所ニ據レハ是レ大ニ誤レルモノナリ蓋シ債務關係存在スル以上ハ債務者ハ決シテ自由ナリト謂フコトヲ得ス債務者ハ必ス債權者ニ對シテ一定ノ事ヲ爲ササルヘカザサルノ羈束ヲ受クルモノナリ即チ自由ナラサルカ故ニ任意ニ履行ヲ爲ササルトキハ之ニ對シ損害賠償ヲ請求シ損害賠償ヲ任意ニ履行セサルトキハ財產ヲ差押ヘ之ヲ賣却シテ債權ノ辨濟ニ充ツルコトヲ得ルナリ殊ニ羅馬ニ於テハ身體ニ對シテモ亦強制執行ヲ許シ野蠻時代ニハ債務者ヲ奴隸トシ甚シキニ至リテハ身體ヲ切斷シテ之ヲ分取スルニ至レリ然レハ尙ホ債務ノ強制履行ヲ爲スヲ得ストハ甚タ了解ニ苦ム所ナリ例ヘハ債權者カ債權者ニ對シテ或權利ヲ移轉スル

義務ヲ負ヘル場合ニ於テ羅馬法ノ主義ニ據ルトキハ權利移轉ノ行爲ハ之ヲ強制スルコトヲ得サルカ故ニ任意ニ履行ヲ爲ササルハ唯損害賠償ニ止メサルヘカザサルヲ原則トセリ然レトモ近世各國ノ法律ハ強制履行ヲ爲シ得ヘキ場合ヲ擴張シ權利移轉ノ義務等ニ付テハ強制履行ヲ許スニ至レリ殊ニ債務ノ目的物ヲ任意ニ引渡ササルトキハ公力ニ訴ヘテ差押ノ方法ニ依リ引渡ヲ強行スルニ至レリ然レトモ作爲及ヒ不作爲ノ義務ニ付テハ今日ト雖モ尙ホ強制履行ヲ爲スコトヲ得ストノ舊式ノ學說アリ例ヘハ俳優カ甲ノ劇場ノ座元ニ對シテ自己ハ乙ノ劇場或ハ一切他ノ劇場ニ出テテ演藝セストノ契約ヲ爲シタルニ其俳優カ約ヲ破リ他ノ劇場ニ於テ演藝ヲ爲サントスル場合ニ於テ強制履行ヲ爲スコトヲ得ストノ說ニ據ルトキハ如何トモスル能ハス唯後日損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ルノミ然ルニ強制履行ヲ爲スコトヲ得ストノ說ニ據ルトキハ公力ニ訴ヘテ其演藝ヲ中止セシメ或ハ其劇場ニ起クヲ妨クルコトヲ得ヘシト輩ハ信ス苟モ債務ノ性質カ強制シ得ヘキモノナルヲ不當ナリトセハ初ヨリ債務ヲ認メサルニ如カス又一方ニスルハ債務ノ性質ニシテ若シ自由ヲ害スルヲ不當ナリトセハ初ヨリ債務ヲ認メサルニ如カス又一方ニ於テ法律ハ進歩スルニ隨ヒ益々其效力ヲ正確ナラシメサルヘカラスト即チ法律カ認メタル所ノ權利義務ハ法律ノ規定ノ如ク行ハルルハ法律ノ進歩ナリ且債務發生ノ原因ノ大多數ハ法律行爲ナルカ故ニ法律行爲ニ依リテ當事者カ希望シタル事項即チ債權ノ目的ノ實行ナルモノハ一旦法律カ之ヲ權利トシ義務トシテ認メタル以上十分之ヲ完カラシメサルヘカラスト此ノ如ク自由ヲ束縛スルハ強制履行ヲ許サザルノ理由ト爲ラストセハ債務ノ性質ノ許ス限リ強制履行ヲ爲スコトヲ得セシメサルヘカラスト是レ新式ノ學說ナリ舊民法ニ於テハ尙ホ舊套ヲ脱セス原則トシテ強制履行ヲ爲スコトヲ得サルノ主義ヲ採レリ法文ハ頗ル明瞭ヲ缺ケリト雖モ其精神ハ略々窺フコトヲ得ヘシ即チ財產編第三二二條ニハ義務ノ本旨ニ從

0455

ヒテ直接ノ履行ヲ債權者ヨリ請求シ且債務者ノ身體ヲ拘束セスシテ履行セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ裁判所ハ其直接履行ヲ命スルコトヲ要スルト云ヘリ是レ舊式ニ在リテハ非常ノ進歩ナルモ予等ノ說ニ據レハ身體ヲ拘束シ自由ヲ束縛スルモ尙モ公力即チ執達吏若クハ巡查ノ力ヲ以テ爲シ能フ限りハ強制ヲ爲シテ可ナリトノ論結ニ至ルヘシ新民法第四一四條第一項ハ之ヲ規定シテ曰ク

債務者ノ任意ニ債務ノ履行ヲ爲ササルトキハ債權者ハ其強制履行ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但債務ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

ト「債務ノ性質カ之ヲ許ササル」トハ概シテ言ヘハ債務者ノ意思ヲ要スル場合ナリ例ヘハ畫ヲ描ク契約ノ如キハ強制履行ヲ許サス何トナレハ之ヲ督促スルコトヲ得ヘキモ自ラ描カント欲スルノ意思ナキ者ヲ強ヒテ描カシムルコト能ハサレハナリ

物ノ引渡ヲ目的トスル債務ハ引渡ト同時ニ權利ヲ移轉スル場合ナルト否トヲ問ハス絶對ニ強制スルコトヲ得ヘシ蓋シ引渡ナル行爲ハ必スシモ債務者ノ意思ヲ要セス即チ債務者ノ任意ニ引渡ヲ爲ササルトキハ執達吏ヲシテ其物ヲ差押ヘシメテ之ヲ債權者ニ引渡スコトヲ得ヘシ是レ舊民法(財三八二條二項)ニモ認メタル所ニシテ今日ニ於テハ論ナキモ羅馬法ニハ之ヲ認メサリキ又權利移轉ノ行爲(引渡ニ非ス)ハ動産ニ付テハ引渡ニ伴フコト多シト雖モ常ニ必スシモ然リト云フコト能ハス殊ニ不動産ニ付テハ之ニ伴ハサルコト多シ甲カ乙ニ對シテ所有權ヲ移轉スルノ義務ヲ負ヒ又ハ甲カ乙ノ爲メニ地上權、永小作權ヲ設定スル義務ヲ負フ場合ニ於テ昔時ハ一定ノ方式ヲ要シ此方式ヲ踐ムコトヲ首セサル以上ハ如何トモスル能ハサリシカ後世ニ至リ引渡ナルモノカ殆ト唯一ノ方式ト爲リシカ爲メ引渡ノミニ付テハ強制履行ヲ爲シ得ルニ至レリ然レトモ引渡以外ニ權利移轉若クハ權利設定ノ義務ヲ負ヘル場合ニ於テ

ハ強制履行ヲ爲シ能ハサルナリ即チ契約ノ當時ヨリシテ直チニ權利ヲ移轉スルノ意思ナルトキハ引渡ヲ強制スルハ羅馬ノ末若クハ近世ノ歐洲ニ於テハ權利ハ完全ニ移轉シタレトモ當事者カ直チニ權利ヲ移轉スルノ意思ナク一定ノ時期ニ至リ更ニ一定ノ行爲ヲ爲シ以テ權利ヲ移轉セントノ意思ナル場合ニ於テハ唯引渡ノミヲ強制スルコトヲ得ルモ充分ナラス此ノ如キ場合ニ於テハ特ニ新ニ契約ヲ結ハサルヘカラサルコトアリ是レ舊民法ニ於テモ賣買ノ豫約ニ付テ其場合ヲ想像セル所ナリ(取二六條乃至二八條)

其他權利移轉ヲ目的トセサル法律行爲ヲ爲スヘキコトアリ例ヘハ或人カ友人ノ保證人ト爲ルヘキ契約ヲ爲シ而シテ保證契約ヲ締結セサルトキ或ハ法律行爲ヲ他人ニ代リテ爲スノ委任ヲ受ケ而モ其委任ヲ履行セサルトキ即チ他人ノ爲メニ法律行爲ヲ爲スノ義務ヲ負ヒナカラ其義務ヲ盡ササル場合ノ如キ總テ法律行爲ヲ爲ササルヘカラサル場合ニ於テハ意思ヲ必要トスルカ故ニ正確ニ云ヘハ本人カ其意思ヲ有セサルトキハ如何トモスル能ハス然レトモ是レ間接ニ強制スルコトヲ得ヘキモノナリ何トナレハ法律行爲其モノハ債務者ノ意思ヲ要スルコト固ヨリ争フヘカラスト雖モ元來法律行爲ヲ爲スノ目的ハ法律行爲其モノヲ欲スルニ非スシテ寧ろ是ヨリ生ズル效力ヲ目的トスルモノナレハナリ故ニ此場合ニ於テハ債務者カ其意思ヲ有セサルニモ拘ハラズ法律上其意思ヲ有シタルト同一ノ效力ヲ生セシムレハ強制履行ヲ爲シタルニ同シ故ニ「法律行爲ヲ目的トスル債務ニ付テハ裁判ヲ以テ債務者ノ意思表示ニ代フルコトヲ得」ルモノトモ是レ先ニ引用シタル賣買ノ豫約ニ付テハ舊法典ニ規定アレドモ一般ノ規定ニ至リテハ舊法典ニ見ル能ハサル所ナリ然レトモ民事訴訟法ハ此點ニ於テハ民法ヨリハ進歩シタルモノニシテ新法典ニ類似ノ規定アリ即チ民事訴訟法第七三六條ニハ「債務者カ權利關係ノ成立ヲ認諾

0456

スヘキコト又ハ其他ノ意思ノ陳述ヲ爲スヘキコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ認諾又ハ意思ノ陳述ヲ爲シタルモノト看做ス」ト是レ民法ノ缺點ヲ補ヒタルモノニシテ新民法第四一四條第二項但書ノ規定ト同シ(尙ホ民法第五四條ヲ以テ改メタル民訴第七三三條第一項ヲ看ヨ)此主義ヲ適用セル例ハ不動産登記法ナリ此事ハ舊登記法來認ムル所ニシテ同法第一〇條「暗ニ此原則ヲ認メタリ抑モ登記ナルモノハ契約者雙方ヨリ請求スヘキモノナルモ若シ裁判所ノ命令アルトキハ一方ノ請求ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得何トナレハ裁判ハ請求ニ連署セサルモノ即チ請求ヲ共ニ爲ササル當事者ノ意思ニ代ルモノナレハナリ不動産登記法モ亦之ト同シクシテ舊登記法ヨリモ尙ホ一層明瞭ナリ即チ同法第二二六條ニハ「登記ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス」ト云ヘリ是レ本則ニシテ次ノ第二七條ニハ「判決又ハ相續ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得」トアリテ雙方ヨリ請求スルハ本則ナリト雖モ一方カ承諾ヲ爲ササル場合ニ於テハ己ムヲ得テ判決ヲ以テ承諾ヲ爲ササルモノノ意思ニ代フルモノニシテ其精神ハ不動産登記法全體ヨリ之ヲ觀テ疑ナキ所ナリ即チ第四一四條第二項但書ノ原則ノ適用ト看ルモ支障ナカラント信ス

今一ノ今日各國ニ於テ行ハルル事項ハ性質上強制履行ヲ爲シ得サルモノ即チ債務者ノ意思ヲ要スルモノニシテ而モ尙ホ他人ヲシテ同一ノ事ヲ爲サシメ其費用ヲ債務者ヨリ償ハシメテ以テ履行ニ代フルコトヲ許スモノ是ナリ是レ新法典第四一四條第二項ノ本文ニ規定スル所ナリ

債務ノ性質カ強制履行ヲ許ササル場合ニ於テ其債務カ作爲ノ目的トスルトキハ債權者ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得

ト是レ如何ナル場合ナルカト云フニ畫工等ニ付テハ其適用ヲ見ルコト極メテ稀ナリト雖モ亦必スシモ

ナキニ非ス例ヘハ予カ家屋ヲ建築シ其棟ニ甲ナル畫工ヲシテ畫ヲ描カシムルノ契約ヲ爲シタルニ甲カ之ヲ描カサル場合ニ於テハ甲ニ對シ損害賠償ヲ請求スルヲ普通ト爲セトモ予ハ伎倆ニ於テ稍ヤ同等ナル乙ナル畫工ヲ備ヒテ之ヲ描カシメタリトセハ予カ乙ヲ備ヒタルカ爲メニ支出シタル費用ハ甲ニ於テ負擔セサルヘカラス固ヨリ甲ニ報酬ヲ與フヘキ場合ニ於テハ其報酬ト費用トヲ相殺スルコトヲ得ヘシ然レトモ是レ甚タ稀ナル例ニシテ今少シク下等ノ作業ニ付テ見ルトキハ其適用甚タ少カラス即チ大工或ハ左官ノ仕事ハ甲ノ爲シタルモノト乙ノ爲シタルモノト普通ノ職人ナル以上ハ同一ナリ故ニ甲ノ費用ヲ以テ乙ニ爲サシムルコトヲ得ヘシ然レトモ是レ亦前ニ述ヘタルカ如ク前者ニ報酬ヲ與フヘキ場合ニ於テハ報酬ト費用トヲ相殺スヘキカ故ニ實際ニ於テ此適用アルハ無報酬ニシテ仕事ヲ爲スヘキ場合或ハ報酬ヲ既ニ支拂ヒタル場合若クハ其報酬額非常ニ低額ナル場合ニ多カラン是レ舊法典ノ業ニ既ニ認ムル所ナリ即チ財産編第三八二條第三項ハ規定シテ曰ク「作爲ノ義務ニ付テハ裁判所ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ強行履行ヲ許ササル場合ニ限ルモノナリ但此等ノ場合ニ於テモ理論上ヨリ廣キニ失スト雖モ畢竟スルニ強制履行ヲ許ササル場合ニ限ルモノナリ但此等ノ場合ニ於テモ理論上ヨリ之ヲ言ヘハ損害賠償ニ外ナラス蓋シ債務ノ目的ハ飽マテモ甲ノ作爲ニシテ甲ノ作爲ニ代フル乙ノ作爲ヲ以テスルハ不履行ニ因ル損害ヲ防ク一ノ方法ニ過キス唯其結果カ殆ト強制履行ヲ爲シタルト同一ニ歸スルト云フニ止マルノミ

以上ハ重ニ作爲ノ債務ニ付テ述ヘタリシカ不作爲ノ債務ニ付テ今少シク説明スル所アラシ不作爲ノ債務ハ強制履行ヲ許スモノ多シ否殆ト悉ク之ヲ許スト曰フモ可ナリ例ヘハ營業ヲ爲スヘカラスナル場合ニ於テ營業ヲ爲サントスルトキハ裁判所ニ請ヒ執達吏ヲシテ其開店ヲ妨ケシムルコトヲ得ヘ



シ唯實際ニ於テハスルコトハ非常ナル煩累ヲ醸スコト多キカ故ニ敏口損害賠償ニ甘スルヲ常トスヘシト雖モ法律上ニ於テハ之ヲ爲シ得ヘキナリ加之不作爲ノ義務ニ反シテ或行爲ヲ爲シタルトキハ之ヲ取除カシムルコトヲ得ヘシ例ヘハ或場所ニ家屋ヲ建築セストノ契約ヲ爲シナカラ家屋ヲ建築シタルトキハ執達吏ノ干渉ニ依リテ其家屋ヲ取毀テ之ヲ取拂ハシムルコトヲ得ヘク且將來再ヒ義務不履行ノ行爲ヲ爲ササラシムル爲メ適當ナル處分ヲ命セシムルコトヲ得ヘシ例ヘハ俳優カ或劇場ニ出演スルコトヲ得サル契約アルニモ拘ハラス出演シタルトキハ裁判所ニ請求シテ之ニ對シ將來出演スルコトヲ得ス若シ出演シタルトキハ更ニ判決ヲ求ムルコトナク執達吏ニ依リ之ヲ妨ケテ可ナリ或ハ其場合ニハ一日ニ付キ若干ノ過怠金ヲ支拂ハシムルコトヲ定メシムルヲ得ヘシ此等ハ總テ不作爲ノ義務ヲ履行セザリシトキニ於テ債權者カ之ヲ請求スルコトヲ得ヘキナリ其他債務ノ種類ニ依リ種種ノ處分方法アレトモ要スルニ將來ニ於テ不作爲ノ義務ヲ怠ルナカラシムルニ適當ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ第四一四條第三項ニ於テハ左ノ如ク規定セリ

不作爲ノ目的トスル債務ニ付テハ債務者ノ費用、以テ以テ其爲シタルモノノ除却シ且將來ノ爲メ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ請求スルコトヲ得

ト而シテ舊民法財産編第三八二條第四項ニハ「不作爲ノ義務ニ背キテ爲シタルモノノ債務者ノ費用ヲ以テ毀壞セシメ云云」トアリテ此「毀壞」ナル文字ハ狹キニ失スト雖モ其意味ニ於テハ異ナルコトナシ

此第四一四條第三項ノ場合ニ付テ尙ホ一ノ論スヘキモノアリ即チ第三項ニ於テハ單ニ「請求スルコトヲ得」ト書シ而シテ第一項及ヒ第二項ニ於テハ「裁判所ニ請求スルコトヲ得」トアルカ故ニ第三項ノ場

合ニ於テハ裁判所ニ請求セスシテ直接ニ債務者ニ對シ請求ヲ爲スモ可ナルヤノ問題是ナリ而シテ予ハ固ヨリ直接ニ債務者ニ對シテ請求スルコトヲ得ヘキモノト解釋ス蓋シ第一項ニ於テハ特ニ「裁判所ヲテハ文字ヲ加ヘ第三項ニ於テハ之ヲ加ヘス而シテ新民法ノ文例ニ據ルトキハ單ニ「請求」ト曰フ場合ニ於テハ方法ノ如何ヲ問ハサルモノナリ況ヤ舊民法ニ於テハ前項ニ「裁判所ハ……債權者ニ許ス」ト云ヒタル次ニ「債權者ニ許ス」ナル文字ヲ用ヒテ裁判所カ之ヲ許スコトヲ意味セシメタルニ新民法ハ特ニ之ヲ改メタルモノナルカ故ニ必スシモ裁判所ニ請求スルコトヲ要セザルハ疑ヲ容レズ然ラハ何故ニ第三項ノ場合ニ於テハ裁判所ニ請求スルコトヲ必要トセザリシカト云フニ事項ノ性質ニ依リ裁判所ノ干渉ヲ必要トセザルコトアルカ爲メナリ即チ債務者ノ費用ヲ以テ其爲シタル物ヲ除却スルカ如キハ裁判所ノ命令ナシト雖モ之ヲ爲シ得ヘカラサルモノニ非ス例ヘハ債務者カ家屋ヲ建築セストノ契約ヲ締結シナカラ家屋ヲ建築シタル場合(惡意ニテモ不注意ニテモ可ナリ)ニ於テ債權者ハ特ニ裁判所ニ訴フセザルモ債務者ニ對シテ其取拂ヲ請求シ債務者モ亦之ニ抵抗スルモ利益ナク且假令之ヲ裁判所ニ訴フ可ナリ而シテ第一項、第二項ノ場合ニ於テ裁判所ヲ煩ハササルヘカラサル理由ハ第一項ノ場合ニ於テハ任意ニ履行ヲ爲ササルトキハ強制履行ヲ請求スヘキモノナルカ故ニ幾度請求ヲ爲スモ任意ニ履行セザルモノト視ルヘキヲ以テ裁判所ニ請求スルヲ要シ第二項ノ場合ニ於テモ債務者ハ自己カ契約シタル作爲ヲ爲スコトヲ欲セス單ニ之ヲ請求スルモ應セザルモノナルカ故ニ之ニ對シ第三者ヲシテ代リテ爲サシメトトノ請求ヲ爲スモ依然應セザルモノト看做ササルヘカラスシテ爲スヘカラサルモノヲ爲シタルトキニ之ヲ取除カシムルトハ事理ニ於テ自ラ異ナル所アリ若シ債務者ニ於テ「自ら契約シタル事ヲ



爲スハ欲セサルモ第三者ヲシテ代リテ之ヲ爲サシメヨ予ハ其費用ヲ支辨セン」と言ヘルトキハ是レ一種ノ更改ト視ルヘクシテ茲ニ論スル履行ノ方法ニ非ス故ニ第二項ノ場合ニ於テモ裁判所ニ請求スルトキニ非サレハ此規定ノ必要ナシ即チ任意ニ斯ル事ヲ爲ス場合ニ於テハ強制履行ノ問題ニ關係ナキモノト視ルヘキナリ況ヤ法律行為ニ代ルヘキモノハ裁判ニシテ債務者ノ不承諾ナルニモ拘ハラズ承諾シタルモノト認ムル場合ナルニ於テヤ是ヲ以テ之ヲ觀レハ第一項、第二項ノ場合ニ於テハ到底裁判ヲ煩ハササルコトヲ得サルモ第三項ノ場合ノミハ必スシモ裁判ヲ要セサルカ故ニ特ニ「裁判所」ナル文字ヲ加ヘサリシナリ

以上ニ陳述シタル所ハ純然タル強制履行又ハ之ニ代ルヘキ準強制履行ナルモノノ説明ナリ此強制履行若クハ準強制履行ナルモノハ法律ノ許ス範圍内ニ於テハ常ニ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニ依リテ必スシモ債務者カ適當ノ時期ニ於テ任意ニ履行ヲ爲シタル同一ノ結果ヲ得ヘキモノニ非ス即チ一定ノ時期ニ履行ヲ爲ササルヘカラサル者カ其時期ニ於テ履行ヲ爲ササルカ爲メ裁判所ニ請求シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ強制履行ヲ請求シタルトキハ大ニ時日ヲ遲延シ之カ爲メニ債權者カ損害ヲ被ルコト少カラズ且強制履行ヲ請求スルニハ多クノ費用ヲ要スルモノナルカ故ニ損害賠償トシテ之ヲ請求スルコトヲ得セシメサルヘカラス就中第三者ヲシテ代リテ履行ヲ爲サシメタル場合又ハ不作爲ノ義務ニ背キタル場合ノ如キハ大ナル損害ヲ生スルコトアリ蓋シ第三者ヲシテ代リテ之ヲ爲サシムルモ或ハ時期ニ後レ或ハ全然同伎倆ヲ有スル者ヲ得難キカ爲メ劣等ナル者ヲシテ之ヲ爲サシメタルヲ以テ損害ヲ受ケルコトアリ又不作爲ノ義務ニ背キタル場合即チ家屋ヲ建築スヘカラサル場所ニ家屋ヲ建築シタル爲メ債權者ノ所有地ニ日光ノ及ハサル部分ヲ生シ作物其他植物ニ損害ヲ受ケタルトキハ債權者ハ假令強制履行若

クハ準強制履行ヲ得ルモ未ダ以テ満足スヘカラス尙ホ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得サルヘカラス是レ殆ト言フヲ俟タサル所ナリト雖モ元來損害賠償ナルモノハ不履行ノ場合ニ請求スヘキモノナルカ故ニ特ニ茲ニ規定シタルナリ(四一四條四項)

以上ヲ以テ強制履行ノ説明ヲ了レリ是ヨリ第二ノ問題即チ物ノ引渡ニ關シテ特ニ生スル問題ヲ説カント第四八三條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ辨濟者ハ其引渡ヲ爲スヘキ時ノ現狀ニテ其物ヲ引渡スコトヲ要ス

物ノ引渡ニハ特定物ノ引渡ト不特定物ノ引渡トアリ不特定物ノ引渡ノ場合ニ於テハ通常一定ノ性質ヲ有スル物ヲ引渡スヘキヲ以テ物ノ何時ノ狀態ニ於テ引渡ササルヘカラサルカノ問題ヲ生スルノ餘地ナシ例ヘハ武藏ノ上米百石ヲ引渡スヘキ場合ニ於テハ武藏上米百石ヲ引渡セハ可ナリ固ヨリ腐敗セル米ヲ引渡シテ「契約ノ時ニハ腐敗セサルモ爾後降雨ノ爲メニ腐敗シタリ」ト稱シテ責ヲ免ルヘカラサルハ勿論ナリ故ニ此問題ハ特定物ニ非サレハ生シ得ヘカラサルナリ

特定物ニ於テハ物ハ一ナルモ其狀況ハ時ト共ニ變遷スルモノニシテ先ツ債權發生當時ノ狀況、其履行ヲ爲スヘキ時期ニ於ケル事實履行ヲ爲シタル時ニ於ケル狀況ノ三時期ヲ觀察スルノ必要アリ而シテ之ニ就テハ三主義ヲ想像シ得ヘシ即チ債權發生當時ノ狀況ニ於テ引渡スヘシトスル主義ト債權履行ノアルヘカリシ時ニ於ケル狀況ニテ引渡スヘシトスル主義ト債權ノ實際履行セラレタル時ノ狀況ニ於テ引渡スヘシトスル主義ト是ナリ而シテ新民法ハ此三主義中第二ノ主義カ最モ其當ヲ得タルモノト認メタリ固ヨリ此問題ハ法律行為ヨリ生スル債權ニ在リテハ當事者ノ意思ヲ以テ之ヲ決スルコトヲ得ヘシ法律ヨリ直接ニ生スル債權ニ付テハ法律カ別段ノ規定ヲ爲スコト極メテ稀ナルヘシト信スレトモ當



事者ノ意思ニ依リテ債權ノ發生シタル場合ニ於テハ往往此問題ヲ決シ置クコトアルヘシ殊ニ債權發生當時ノ狀況ニテ引渡サン或ハ遅延シタルトキハ其遅延シタル時ノ狀況ニテ引渡サント定ムルコトヲモ得ヘシ然レトモ普通ノ場合ニ於テハ當事者ハ債權發生ノ當時ニ於テ若シ債權發生ノ時期ト履行ノ時期トカ異ナレハ其間ニ特定物ノ狀況ニ變化ヲ來スヤモ知ルヘカサルコト特ニ履行ノ時期ヲ定メタル場合ニハ其時期ニ於ケル狀況ヲモ想像シタルナラン何年後、何月後ニ於テ履行スヘキモノナルニモ拘ラス現今ノ狀況ヲ變セサルモノトハ想像セサルヘシ而モ一旦履行スヘキ時期ヲ定メタル以上ハ遅延シテ履行セラルヘキヲ想像シテ其遅延シタル時ノ狀況ニテ引渡サルモノト信スヘキモノニ非ス當事者ハ履行ヲ爲スヘキ時ノ狀況ニテ引渡スノ意思ナルコトハ多クノ場合ニ於テ疑ナキ所ナリ故ニ第二ノ主義ヲ以テ最モ正確ナルモノナリトシ第四八三條ノ如ク規定シタルナリ

斯ク漠然ト論スルトキハ或ハ何ノ必要アルカラ疑フ者アランモ一ノ例ヲ擧クルトキハ其必要ナル所以ヲ悟ルヲ得ヘシ例ヘハ家屋ノ引渡ヲ爲ス義務アル場合ニ於テ今日引渡ノ義務生シタリトシ引渡ハ來年一月一日ノ契約ナリト假定シテ此間ニ於テ家屋カ自然ニ汚損スルハ殆ト數ノ免レサル所ナリ其家屋ニ附屬シタル疊建具ノ如キ殊ニ然リ故ニ若シ債權發生當時ノ狀況ニテ引渡ササルヘカラストノ主義ニ據レハ其汚損シタルモノヲ更新セサルヘカラスト然ルニ債權履行ノ時ノ狀況ニテ可ナリトノ主義ニ據ルトキハ之カ更新ヲ爲サスシテ之ヲ引渡スコトヲ得ヘシ又若シ家屋カ履行ヲ爲スヘキ時期後漸次汚損シタル場合ニ於テ履行ヲ爲スヘカリシ時ノ狀況ニテ引渡スコトヲ要スルノ主義ニ據ルトキハ之ヲ更新シ履行期ノ狀態ニ復シテ之ヲ引渡ササルヘカラスト是レ大ニ差異アル所ニシテ若シ實際履行ヲ爲ストキノ狀況ニテ可ナリトセハ右ノ場合ニ於テモ更新ヲ爲スノ要ナカルヘシ其不當ナルコト因ヨリ喋喋ラ俟タ

サル所ナリ

又物カ前ノ如ク滅シタル場合ニ非スシテ増シタル場合ニハ如何物カ増ストハ動物ノ如キハ發育シ植物ノ如キハ成長シ又花ヲ著ケ實ヲ結フモノナレハ此等ノ場合ニ於テハ如何即チ債權發生當時ニ於テハ一頭ノ動物ナリシモノカ引渡ヲ爲スヘキ時ニ於テハ子ヲ産ミタルカ爲メ二頭ト爲リタル場合ニ於テハ此産兒ハ素ト母體ノ一部タリシモノナルカ故ニ母體ニ對シテ權利ヲ有スル者ハ其産兒ニ對シテモ亦權利ヲ有セサルヘカラスト然ルニ若シ債權發生當時ノ狀況ニテ引渡セハ可ナリト云フトキハ産兒ハ其當時ニ於テハ未ダ存在セザリシモノナルヲ以テ親ノミヲ引渡セハ可ナリト云フニ至リ甚ダ不都合タルヲ免レ故ニ此場合ニ於テハ親ト産兒ト併セテ之ヲ引渡ササルヘカラスト是レ固ヨリ當然ノ理ニシテ假令債權發生ノ當時ニ引渡ヲ受ケタリトスルモ債權者ノ許ニ在リテ出生スヘキモノナリ況ヤ成長スルハ動物物自然ノ結果ナルヲ以テ之ヲ理由トシテ報酬ノ増加ヲ請求シ或ハ債權者ヨリ之ヲ償ハサルヘカラスト云フハ甚ダ理由ナキ所ナリ樹木ニ付テ言フモ亦同シ債權發生ノ當時ニ於テハ未ダ花ヲ著ケス實ヲ結ハサリシト云フヲ理由トシテ故ラニ花又ハ實ヲ落シテ之ヲ引渡ス如キハ決シテ許スヘキモノニ非ス唯茲ニ問題ノ起ルヘキハ若シ此引渡スヘキ時期カ前ノ例ヲ以テ言ヘハ一月一日ナリシニ其時期ニ後レテ引渡シタル場合ニ於テ其間ニ物ノ増加アリタルトキハ如何ト云フニ在リ第四八三條ノ法文ヲ機械ニ解釋スルトキハ或ハ曰ハン一月一日ニ於テハ一頭ナリシモノニ至リテ兒ヲ産ミタルモノナルカ故ニ一頭ヲ引渡セハ可ナルニ非スヤト然レトモ是レ大ニ誤レリ何トナレハ産兒ハ既ニ其當時ニ於テ親ノ胎内ニ存セシモノナルヲ以テ假令債權者ニ引渡スモ債權者ノ許ニ於テ出生スヘキモノナレハナリ故ニ債務者ハ併セテ之ヲ引渡ササルヘカラスト焉ノ債務者ハ懈怠シタルカ爲メニ利益スルノ理アラシヤ樹木ニ付テ



言フモ亦同シ故ニ第四八三條ノ「引渡ヲ爲スヘキ時」ナル文字ハ寧ロ物カ不利益ニ變更シタル場合ニ於テ特ニ必要アリト謂フヘキナリ

第三ノ問題ハ他人ノ物ヲ以テスル履行ナリ凡ソ特定物ノ引渡ヲ目的トスル場合或ハ特定物ノ上ニ權利ヲ設定シ若クハ移轉スル場合ニ於テハ他人ノ物ヲ以テスル履行ナル問題ハ生スルコトナシ何トナレハ物カ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス特定物ヲ引渡スヘキ契約ヲ爲シタルトキハ其物ヲ引渡セハ即チ履行ト爲リ又特定物ノ上ニ權利ヲ設定シ若クハ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ若シ其物カ他人ノ所有物ナルトキハ契約シタル權利ヲ移轉スルコト能ハサルヤモ知ルヘカラスト雖モ是レ履行ノ不能ナル場合ニシテ所謂他人ノ物ヲ以テスル履行ナルモノニ非ス此場合ニ於テハ擔保ノ問題ヲ生スルモノニシテ諸子ハ贈與、賣買ノ講義ニ於テ其説明ヲ聽クコトヲ得ヘシ茲ニ論スルハ不特定物ノ給付ヲ目的トスル債務ニ關スルモノニシテ此場合ニ於テハ他人ノ物ヲ給付スルモ履行ト爲ラサルカ故ニ債務者ハ更ニ自己ノ所有物ヲ給付シテ履行ヲ爲スノ義務アリ是レ疑ナキ所ナルモ唯此場合ニ於テ問題ト爲ルハ第一一旦給付シタル他人ノ物ヲ取返スコトヲ得ルヤ否ヤ第二若シ取返スコトヲ得ルモノトセハ如何ナル場合ニ於テモ債權者ハ之ヲ拒ムコトヲ得サルカ又第三ニハ債權者ハ自ら進ミテ他人ノ物ヲ返還シ更ニ他物ヲ給付セヨト請求スルコトヲ得ルヤ否ヤ三ナリ

先ツ第一ニ他人ノ物ヲ以テ履行ヲ爲シタル場合、例ヘハ千圓ノ金ヲ支拂ハサルヘカラサルトキニ於テ他人ノ金錢ヲ奪取シテ之ヲ支拂ヒタル場合(金錢ニ付テハ實際ノ適用ナキモ理論上ヨリ言フ)ニ於テハ理論上權利ハ相手方ニ移轉セサルヲ以テ履行ト爲ラス故ニ債務者ハ更ニ自己ノ所有ニ屬スル金錢ヲ以テ履行ヲ爲シ而シテ前ニ支拂ヒタル金錢ヲ取返スコトヲ得ルヤ否ヤト云フニ原則トシテハ之ヲ取返ス

コトヲ得ヘシ即チ債務者ハ自己ノ占有内ニ在ル物ヲ債權者ニ與フルモ債務ノ履行ト爲ラサルトキハ之ヲ取返スコトヲ得サルヘカラスト然レトモ之ニ付テハ反對ノ説ヲ爲ス者アリ曰ク債務者ハ之ヲ取返スコトヲ得サルヘシ何トナレハ此場合ニ於テハ物ハ債務者ノ所有ニ屬セス然ルニ何ノ權利ニ依リテ之ヲ取返スコトヲ得ヘキカ他人ノ物ヲ奪取シ來リテ之ヲ引渡シタル場合ニ於テ所有者カ之ヲ取返スハ固ヨリ其所ナルモ債務者自ラ之ヲ取返スト曰フハ未タ其理由アルヲ見スト然レトモ予ノ見解ヲ以テスレハ是レ大ニ誤レリ固ヨリ債務者ハ自己ノ所有物ニ非サル物ヲ引渡シタルニハ相違ナシ)而シテ占有ナルモノハ諸君ノ占有權ヲ有セシモノナリ(假令盜品ナルモ占有ヲ爲シタルニハ相違ナシ)而シテ占有ナルモノハ諸君ノ知ラルル如ク法律ノ保護ヲ受クヘキモノナルカ故ニ債務者ハ自己カ占有權ヲ有セシモノヲ故ナク債權者ニ引渡シタルヲ以テ之カ返還ヲ請求シ再ヒ占有權ヲ得ントスルハ是レ正當ナル希望ト謂ハサルヘカラスト盜品ノ場合ニ於テハ殆トスル事ヲ許スノ必要ナキカ如クナルモ他人ノ所有物ヲ占有シテ之ニ費用ヲ投シタルカ如キ場合ニ於テハ其費用ノ支拂ヲ受クルマテ之ヲ差押フルコトヲ得ルコトアリテ法律ハ之ヲ保護スルカ故ニ占有權ノ取還ハ理論上之ヲ許サルヘカラスト

又債務者カ他人ノ物ヲ以テ債權者ニ給付ヲ爲シタルトキハ所有者ニ對シテ責任ヲ負ハサルヘカラスト即チ若シ債權者カ其給付シタル物ヲ消費シタルトキハ債務者ハ所有者ニ對シテ損害ヲ賠償セサルヘカラスト(金錢ノ如キハ後ニ説明スル理由ニ依リ實際ニ於テ斯ル問題ヲ生セサルモ他ノ物即チ米或ハ他ノ商品ニ付テ起リ得ヘシ)故ニ斯ル場合ニ於テハ債務者ハ速ニ債權者ヨリ其物ヲ取還シテ更ニ自己ノ所有物ヲ以テ完全ナル履行ヲ爲サントスルハ正當ナル希望ト謂ハサルヘカラスト又債務者カ惡意ナリシトキハ前非ヲ悔ヒ過失ナリシトキハ所有者ニ對スル情誼上之ヲ取還サントスルコトアリ此ノ如キ場合ニ於

0461

テハ固ヨリ之ヲ妨クヘキモノニ非ス
 以上ニ述ヘタルノ理由アルニ由リ他人ノ物ヲ給付シタル債務者ハ之ヲ取還スコトヲ得ヘシ唯之ニ對シテ一ノ例外アリ他ナシ債權者カ善意ニシテ且過失ナク其物ノ占有ヲ得タルトキ即チ履行トシテ之ヲ受クルニ當リ其物ハ債務者ノ所有物ナリト信シ且之ヲ信スルニ付テ過失ナク又前ノ第一ノ場合ニ付テ言ヘハ盜品若クハ遺失物ナラザリシトキ或ハ盜品若クハ遺失物ナルモ既ニ二年ヲ經過シタルトキハ債權者ハ所有權ヲ得ヘシ此ノ如ク法律ノ規定ニ依リ債權者カ既ニ權利ヲ取得シタル場合ニ於テハ債務者ハ最早之ヲ取還スコトヲ得ス何トナレハ債權者ハ法律ノ規定ニ依リテ之ヲ取得シタルモノナルカ故ニ債務者ハ自己カ占有權ヲ有セシテ理由トシテ其物ヲ取還スコトヲ得ヘキニ非サレハナリ而シテ之ニ因リ所有者ニ對スル責任ヲ生スルコトアルモ是レ自業自得ト謂フヘクシテ如何トモスルコト能ハス
 第二ニ債務者ハ之ヲ取還スコトヲ得ヘキハ前ニ述ヘタル所ニ依リ決定シタルモ之ニ代ルヘキ履行ヲ爲サスシテ取還スコトヲ得ヘキカト言フニ是レ能ハサル所ナリ換言スレハ債權者ニ於テ其物ノ返還ヲ拒ムコトヲ得ヘキ場合アリ即チ債務者ヨリ自己ノ所有物ヲ以テ完全ナル履行ヲ爲スニ非サレハ債權者ハ之カ返還ヲ拒ムコトヲ得ヘシ是レ民法ノ規定スル所ニシテ其理由ハ債權者ニ在リテハ純然タル履行ヲ受ケサルニ他人ノ物ヲ以テシタル履行ノ目的物ヲ返還スルトキハ債務者ハ竟ニ純然タル履行ヲ爲ササルヤモ知ルヘカラス然ルニ之ヲ占有スルトキハ一方ニ於テハ債權者ハ占有權ヲ有スルカ故ニ權利ヲ取得スルノ望アルト又一方ニ於テハ債務者ハ所有者ニ對シテ返還ノ義務アルカ故ニ間接ニ債務者ヲシテ自己ノ所有物ヲ以テ履行ヲ爲サシムル方法ト爲ル故ニ債權者ハ之ヲ留置シテ債務者カ完全ナル履行ヲ爲スマテ之ヲ返還セサルコトヲ得ヘキナリ

國家カ其公使ヲ日本ノ如キ遠地ニ差遣スル場合ニハ自然ノ必要上其外國ノ土地ヲ通過セサルヘカラス
 (ロ)條約ニ因リテ生スル地役ハ積極的ノ性質ノモノト消極的ノ性質ノモノトアリ千八百七十七年ノ條約ニ於テ「ルーマニア」カ露國ノ軍隊ノ通過ヲ許可セシカ如ク自國カ爲スヘキ必要ナキニ進テ其義務ヲ負フニ至ルモノハ前者ニ屬シ「ルクセンブルヒ」カ自國內ニ城塞ヲ築カサル條約ヲ結ヒシカ如ク自國家カ爲シ得ルコトヲ爲ササル義務ヲ負フニ至ルモノハ後者ニ屬ス
 地役ハ要役地ニ附隨スル義務ニシテ換言スレハ人的ノ非スシテ地的ノモノナルカ故ニ承役地國家ノ滅亡ハ地役ノ消滅ヲ來スコトナク新國家ハ依然舊狀ニ於テ此義務ヲ負フモノトス

第四 同盟アル場合

是レ國家ノ軍事上ノ行政權ニ加ヘタル制限ナリ即チ總テノ國家ハ外國ニ對シテ戰爭ヲ爲シ又ハ爲ササルコトヲ得ルモノナリト雖モ時トシテハ一國カ戰爭セハ必ス之ニ加擔セヘク或ハ必ス中立ヲ守ラサルヘカサル義務ヲ負フモノニシテ是レ同盟條約ノ結果ナリ
 同盟條約ハ種種ノ標準ニ依リテ之ヲ分類スルヤトヲ得ヘシ或ハ(イ)攻撃同盟、防禦同盟及ヒ攻守同盟ト爲スコトヲ得ヘク或ハ(ロ)全部同盟及ヒ局部同盟ト爲スコトヲ得ヘク或ハ又(ハ)平時同盟及ヒ戰時同盟ト爲スコトヲ得ヘシ夫ノ明治二十七年日韓ノ同盟條約カ清國ニ對スルコトヲ定メタルカ如キハ局部的ニシテ戰時同盟ナリ又三國同盟、露佛同盟及ヒ日英同盟等ハ平時同盟ニ屬ス
 同盟國ノ權利義務ノ範圍ハ條約ニ依リテ定マルモノナリト雖モ同盟國ノ一方カ相手國ト媾和ヲ爲シ又ハ爲ササルトキハ同盟國(他方)モ亦之ヲ進退ヲ同シウセサルヘカラス是レ此種ノ條約ノ性質上當然生スル所ノ結果ナリ其他同盟條約ノ消滅、二條約トシテ生スル權利義務等同盟ニ特別ナラサル點

0462

ニ付テハ一般條約ノ法理ニ依リテ決スルモノトス

日英同盟ノ性質ハ防禦同盟ニ非ス攻撃同盟ニ非ス又攻守同盟ニモ非スシテ一種特別ナル性質ヲ有スルモノナリトス即チ同盟國ノ一方カ外國ヨリ攻撃セラレタルトキハ他ノ一方ハ必ス中立ヲ守ルヘク又同盟國ノ一方カ甲國ト戰爭ヲ開キタルニシテ乙國カ甲國ヲ助勢スル場合ニ於テハ同盟國ノ他ノ一方ハ其交戦セル同盟國ニ加勢スヘキコトヲ定ム而シテ同盟條約ニハ戰爭ニ加勢スヘキ軍隊ノ數等ヲモ定ムルヲ常トスルモ日英協約ニハ之ニ關スル規定ナシ而シテ此條約ノ效力ヲ有スル間ハ之ト抵觸スル他ノ同盟條約ヲ締結スルコト能ハサルヘシ今左ニ參考ノ爲メ日英協約ノ本文ヲ掲クヘシ

日英協約

(明治三十五年一月二十日英京龍動ニ於テ締結セラレタルモノ)

第一條 兩締約國ハ相互ニ清國及韓國ノ獨立ヲ承認シタルヲ以テ該二國孰レニ於テモ全然侵略的趨向ニ制セラルルコトナキヲ聲明ス然レトモ兩締約國ノ特別ナル利益ニ鑑ミ即チ其ノ利益タル大不列強國ニ取リテハ主トシテ清國ニ關シ又日本國ニ取リテハ其清國ニ於テ有スル利益ニ加フルニ韓國ニ於テ政治上並ニ商業上及ヒ工業上格段ニ利益ヲ有スルヲ以テ兩締約國ハ若シ右等利益ニシテ別國ノ侵略的行動ニ因リ若クハ清國又ハ韓國ニ於テ兩締約國孰レカ其臣民ノ生命及ヒ財產ヲ保護スル爲メ干涉ヲ要スヘキ騷擾ノ發生ニ因リテ侵迫セラレタル場合ニハ兩締約國ハ孰レモ該利益ヲ擁護スル爲メ必要缺クヘカラサル措置ヲ執リ得ヘキコトヲ承認ス

第二條 若シ日本國又ハ大不列強國ノ一方カ上記各自ノ利益ヲ防護スル上ニ於テ別國ト戰端ヲ開クニ至リタル時ハ他ノ一方ノ締約國ハ嚴正中立ヲ守リ併セテ其同盟國ニ對シテ他國カ交戦ニ加ハル

ヲ妨クルコトニ努ムヘシ

第三條 上記ノ場合ニ於テ若シ他ノ一國又ハ數國カ該同盟國ニ對シ交戦ニ加ハル時ハ他ノ締約國ハ來リテ援助ヲ與ヘ協同戰闘ニ當ルヘシ講和モ亦該同盟國ト相互合意ノ上ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第四條 兩締約國ハ孰レモ他ノ一方ト協議ヲ經スシテ他國ト上記ノ利益ヲ害スヘキ別約ヲ爲ササルヘキコトヲ約定ス

第五條 日本國若クハ大不列強國ニ於テ上記ノ利益カ危殆ニ迫レリト認ムル時ハ兩國政府ハ相互ニ充分ニ且ツ隔意ナク通告スヘシ

第六條 本協約ハ調印ノ日ヨリ直ニ實施シ該期日ヨリ五箇年間效力ヲ有スルモノトス若シ右五箇年ノ終了ニ至ル十二箇月前ニ締約國ノ孰レヨリモ本協約ヲ廢止スルノ意思ヲ通告セザルトキハ本協約ハ締約國ノ一方カ廢棄ノ意思ヲ表明シタル當日ヨリ一箇年ノ終了ニ至ル迄ハ引續キ效力ヲ有スルモノトス然レトモ右終了期日ニ至リ同盟國ノ一方カ現ニ交戦中ナルトキハ本同盟ハ講和結了ニ至ル迄當然繼續スルモノトス

今日現存スト稱セラルル有名ナル同盟條約ハ日英同盟ノ外ニ前示セル三國同盟及ヒ露佛同盟ナリ其由來ニ付テハ後ニ詳述スルノ機會アルヘク茲ニハ其内容ヲ概説セン

獨逸、奧太利、伊太利ノ三國同盟ハ千八百八十八年二月三日ニ公然發表セラレタリ其大要ヲ摘示スレハ獨逸兩國ハ其一方カ露國ノ攻撃ヲ受クルトキハ共同戰闘ニ從事スヘク若シ露國以外ノ國家ト戰爭スルトキハ他方ハ好意ノ中立ヲ守ルヘシ然レトモ後ノ場合ニ於テ若シ露國ニシテ當該國ニ援助ヲ與ヘンカ同盟國ノ他方ハ一方ヲ助ケテ共同戰闘ニ從フヘシトセリ而シテ伊太利ハ此二國同盟ニ加入シ伊奧間ノ

此條約ニ加盟セリ其後千八百八十五年、千八百九十一年、千八百九十七年等此條約ニ追加及ヒ改正ヲ爲サンカ爲メ會議ヲ開キタリ而シテ支那、朝鮮及ヒ「オレンジ」國カ之ニ加入シタルハ千八百九十七年以降ニ在リ然レトモ朝鮮ノ如キハ名義上之ニ加盟シタルノミニテ實際ニ於テハ何等加盟ノ實ヲ舉ケス此郵便同盟ハ其中央事務所ヲ瑞西「ベルン」ニ設置シ此條約ニ加入シタル國ニ對シテ報告ヲ爲シ又其事務所ニ納付スヘキ費用ヲ取立ツルノ事務ヲ掌管セリ其費用ノ點ニ付テハ同盟各國ヲ數等ニ分チテ之カ支出額ヲ定ムルコトトセリ而シテ此事務所ヲ瑞西ニ設置シタルハ此事務所カ萬國共同ノ平和的の利益ニ關スルモノナルカ故ニ戰時ニ於テモ亦此等ノ利益ヲ圖ルノ必要アルヲ以テ永久局外中立國タル瑞西ニ設置スルコトト爲シタルモノナリ

此萬國郵便同盟ノ約定シタル主要ナルモノハ封書、葉書、往復葉書、印刷物、見本等ニ關スル事項ニシテ此條約ニ付キ一大進歩トシテ見ルヘキハ此等同盟各國ニ送ルヘキ郵便物ニ對シテ其距離ノ遠近ヲ問ハス郵稅ヲ同一ニシタルコト是ナリ尤モ此約定ニ對シテハ各國間ノ特別條約ヲ以テ變則ヲ定ムルコトヲ得サルニ非サルヲ以テ此條約ニ加入シタル國家ト雖モ亦他ノ國家ト特別ナル他ノ條約ヲ締結スルコトヲ妨クルモノニ非ス例ヘハ獨逸國ノ條約ノ如シ此同盟ニ加入シタル諸國ノ郵便物ニ對シテハ通過ノ手数料ヲ課セサルモノトス又此條約ニ於テ書留郵便、代金引替小包郵便、新聞雜誌ノ郵便購求等ノコトヲモ定メラレタリ

第二 電信

電信ニ關シテハ歐洲大陸諸國ノ間ニ條約ヲ以テ定メラレタルモノ數多アリト雖モ其一般諸國ニ通スルモノハ千八百八十五年五月十七日巴里ニ於テ締結セラレタル「一般電信同盟條約」ヲ以テ始トス而シテ此

條約ト郵便同盟條約ト相異ナル所ハ郵便ニ關シテハ其距離ノ遠近ヲ問ハス其郵稅ヲ同一ニセリト雖モ電信ハ其距離ノ遠近ニ由リテ其電信料ニ差異ヲ設ケタルコト是ナリ而シテ其中央事務所ハ前ノ郵便同盟ノ場合ト同シク瑞西ノ「ベルン」ニ設置セリ其後千八百九十五年(明治二十八年)ニ至リ電信料ヲ畫一ニセシコトヲ議定スル爲メ何牙利ノ「ベスト」ニ於テ列國會議ヲ開キタルモ遂ニ成立ヲ見スシテ止ミタリ

海底電信ニ付テハ千八百八十四年巴里ニ於テ海底電線保護條約ヲ締結シ又此條約ノ附則ヲ定メタリ本條約ハ同年十一月ニ之ヲ議定シ翌年三月ニ其宣告ヲ公布シタリ此條約ニ與リタル主ナル國ハ獨逸、奧地利、佛蘭西、英吉利等ナリトス後ニ至リ日本モ亦之ニ加入セリ又千八百八十八年五月一日ニハ數國ノ領地、殖民地ニ連ル海底電線ノコトニ關スル條約ヲ締結セリ此條約ハ沿岸海ニ適用スヘキモノニ非スシテ公海ニ於テノミ適用スルコトトセリ何トナレハ沿岸海ハ其國家ノ主權ノ及フヘキモノナレハナリ又此條約ハ平時ニ於テノミ適用スヘキモノニシテ戰時ニ於テハ之ヲ適用セスト定メタリ然ラハ戰爭アリタルトキハ此海底電線ヲ切斷スルコトヲ得ルヤ否ヤ此點ニ關シテハ學說區區タリシカ千九百二年九月白耳義ノ「ブリュタセル」ニ於テ開カレタル國際法協會ハ此問題ヲ解決シテ左ノ如ク決議シタリ

(イ) 交戰國間ノ海底電線ハ之ヲ切斷スルコトヲ得ルモ中立國ヲ通過スルトキハ其間ノ電線ハ之ヲ斷ツコトヲ得ス

(ロ) 中立國間ノ電線ハ之ヲ切斷スルコトヲ得ス

(ハ) 中立國ト交戰國トノ間ノ電線ニ付テハ交戰國ハ自國ノ領海内ノモノノミヲ切斷スルコトヲ得ルモ封港セラレタル公海内ニ於テハ之ヲ切斷スルコトヲ得ス

0455

(二) 中立國ハ海底電線ヲ切斷スルコトヲ得ルモ交戰國ノ一方又ハ他方ヲ助クルコトヲ得ス
 (ホ) 此規定ハ海底電線カ國家ノ有タルト私人ノ有タルトヲ問ハサルモノトス
 平時ニ於テ若シ海底電線ノ故意又ハ過失ニ因リテ切斷シタル者ハ國法ニ依リテ處罰セラルヘキモノナ
 リ而シテ軍艦ハ此等ノ電線ヲ監督スルモノナルヲ以テ若シ其切斷ヲ企ツル嫌疑者アルヲ發見シタルト
 キハ之ヲ逮捕スルコトヲ得ヘキナリ然レトモ國法ニ依リテ之ヲ處罰スルハ一ニ其船舶所屬國ノ權限ニ
 屬スルヲ以テ其處罰ハ之ヲ所屬國ノ裁判所ニ請求セサルヘカラス又同條約ニ依レハ之ニ加入シタル各
 國ハ海底電線ヲ保護スルカ爲メニ國法ヲ制定スヘキ旨ヲ規定ス

第三 海電話

電話ニ關シテハ未タ各國家間ニ於テ萬國電話同盟條約ノ如キモノヲ締結シタルコトナシ然レトモ歐洲
 諸國ニ於テハ各國間ニ之ニ關スル條約ヲ締結シタルコトアリ即チ佛蘭西、瑞西間ノ條約ノ如キ千八百
 九十五年和蘭、白耳義間ノ條約ノ如キ及ヒ白耳義、獨逸間ニ於ケル條約ノ如キ是ナリ

第四 鐵道

鐵道ニ付キ各國カ條約ヲ以テ約定スルコトヲ得ルハ固ヨリ多言ヲ俟タサル所ナリ元來鐵道カ一國內ニ
 布設セラレタル場合ニ於テハ其國家政權ノ支配ニ屬セシムルヲ得ルコトハ勿論ナリト雖モ今日ノ如ク
 交通日ニ頻繁ナルニ至リテハ各國間ニ鐵道ヲ聯絡セシメ一國ノ列車カ外國ニ赴クノ必要アルコト屢
 之アリ是レ茲ニ鐵道ニ付テ說明セントスル所以ナリ

一國ノ列車カ他國ニ赴ク場合ニ關シ最モ重要ナル問題ハ稅關ニ關スルコト是ナリ國家ハ他國ノ列車カ
 自國內ヲ通行スルコトヲ禁止スル權利ヲ有スルカ故ニ他國ノ列車ヨリ其運搬スヘキ人及ヒ荷物ヲ卸シ

テ之ヲ自國列車ニ乗換ヘシムルコトヲ得ルモノナリト雖モ今日ニ於テハ此ノ如キ煩雜ナル手續ヲ省略
 シ他國列車カ直チニ其儘通過スルコトヲ拒マズ從テ起ルヘキ問題ハ其通過ニ關スル運賃ノ點ナリトス
 例ヘハ伊太利ノ列車カ獨逸ニ赴カントセハ伊太利ヲ發車シ瑞西ヲ通過シテ而シテ獨逸國ニ入ルモノニ
 シテ即チ三箇國ノ國境ヲ經過セサルヘカラス此場合ニ於テ其運賃ハ如何ニ計算スヘキヤト云フニ其國
 境毎ニ之ヲ支拂フヘキモノニ非スシテ運賃ノ全部ハ發車シタル伊太利ニ於テ受取ルモノナルカ故ニ通
 過スル各國ハ其割合ニ應ジテ之カ支拂ヲ受ケサルヘカラス從テ一之カ詳細ナル計算ヲ爲スノ必要ア
 ルヲ以テ之カ爲メ特ニ其事務所ヲ瑞西國「ベルン」ニ設置セリ之ニ關スル條約ハ千八百九十年十月十四
 日ヲ以テ佛蘭西、獨逸、和蘭、白耳義、伊太利、埃地利、露西亞、瑞西、「ルクセンブルヒ」ノ九箇國間ニ締
 結セラレタルモノニシテ全部六十箇條ヨリ成レリ而シテ此條約ニ英吉利ノ加入ナルハ其國境ヲ接セサ
 ルヲ以テナリ其後千八百九十三年及ヒ千八百九十五年ニ至リ此條約ノ附加條款ヲ定メ千八百九十七年
 (明治三十年)丁抹モ亦此條約ニ加入セリ此條約ニ規定セル重要ナル事項ハ(一)「ベルン」ニ中央事務所
 ヲ設置スルコト(二)國家間ニ鐵道ノ運送ニ關シ爭議ヲ生シタルトキハ事務所カ仲裁者トナルコト(三)
 一國カ請求スヘキ運賃ノ取次ヲ事務所ニ於テ爲スヘキコト此運賃ノ取次ニ付テハ其事務所カ請求シ又
 ハ支拂フヘキモノニ非スシテ事務所ハ支拂ヲ義務アル會社ニ命令ヲ下シ其會社ヨリ之ヲ受取ルヘキ權
 利アル會社ニ支拂ハシムルモノトス(四)其計算期ハ毎月一回又ハ二回ナルコト(五)支拂フヘキ會社ニ
 シテ其支拂ヲ拒絕シタル場合ニ於テハ果シテ其拒絕ノ理由アリヤ否ヤハ事務所ニ於テ決定スヘキコト
 (六)支拂フヘキ會社カ命令ヲ受ケタル後三週間ヲ經過スルモ尙ホ之ヲ支拂ハサルトキハ其國家ニ對シ
 テ請求スルコトヲ得ルモノナルコト(七)鐵道カ官設ナルトキハ國家ニ對シテ其請求ヲ爲スヘク若シ六



週間何等ノ通知ナキトキハ其支拂ヲ默諾シタルモノト看做スコト(八)以上ノ諸事項ニ關シテ爭ヲ生シタルトキハ事務所ハ當ニ仲裁者ト爲ルノミナラス裁判者ト爲ルヘキコト等是ナリ
 以上述ヘタル外、國ト國トノ間ニ締結シタル條約ハ許多アリ「サンゴタール」ノ鐵道ハ「アルプス山」ヲ貫通シテ伊太利ヨリ瑞西、獨逸ニ通スルモノナリ此鐵道ニ付テハ獨逸、伊太利、瑞西ノ三箇國間ニ條約成立セリ此條約ハ千八百六十九年十月十三日瑞西「ベルン」ヲ會議ニ於テ伊太利、瑞西ノ間ニ締結セラレタルモノナリシカ其後千八百七十一年十月二十八日獨逸之ニ加入シ鐵道創設費用トシテ二千萬「フラン」ヲ支出スルコトトセリ然ルニ千八百七十八年三月ニ至リ更ニ一千萬「フラン」ヲ増加シ合計三千萬「フラン」ヲ支出スルコトトセリ而シテ瑞西ハ此事務ニ關スル一切ノ主權ヲ有スルモノト定メ尙ホ此鐵道ヨリ七「パーセント」以上ノ利益ヲ得ルニ至リタルトキハ此條約ノ加盟國ニ其利益ヲ分配スヘキモノトセリ獨逸カ此ノ如ク多額ノ費用ヲ支出シテ此條約ニ加入シタル所以ヲ述ヘンニ獨逸ハ地理上海洋ニ依ルニ非サレハ伊太利ヲ始メ地中海沿岸諸國ニ赴クコトヲ得ス而シテ海洋ヲ通過スルニ付テハ多クノ日子ヲ徒費スルヲ以テ寧ロ此條約ニ加入シ三千萬「フラン」ヲ支出スルモ陸路鐵道ニ依ルノ却テ利益アルヲ以テナリ尙ホ此條約ハ列車ヲ如何ニシテ連鎖スルヤ又稅關ハ如何ニスルヤ等ノ事項ニ付キ約定シタリ

鐵道ニ關シテハ我日本國ハ何等ノ國際關係ヲ惹起スルコトナシ何トナレハ他國ト陸上ニ於テ境界ヲ接セレハナリ而シテ彼ノ京釜鐵道ハ我國私人ノ設計所有ニ係リ且韓國ハ我國ノ一部主權國ナルカ故ニ該鐵道ニ關シテハ國內法的ノ觀察ヲ爲セハ足レリ

第五 通商

古代ニ於テハ各國ハ概ネ鎖港主義ヲ採用シ外國トノ交通ヲ杜絶セリト雖モ今日ニ於テハ絕對ノ「外國ト交通セザル」國家ナク自由ニ通商貿易ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ之ヲ條約ノ歴史ニ徵スルニ各國ノ交通ハ修好條約ニ始マレリ即チ鎖國ヲ以テ國是ト爲シ攘夷ヲ以テ國防ナリト思惟セシ時代ヨリ互ニ修好スルニ至リシカ今日ニ在リテハ修好ヲ原則トシ鎖國主義ハ全然其根ヲ絶テタルヲ以テ茲ニ通商條約ノ發達ヲ見ルニ至レリ而シテ該條約中ニハ通常(一)締結當事國人民ノ住居ノ自由(二)生産及ヒ製造貨物ノ輸出入ノ自由及ヒ(三)關稅ニ關シテ規定ス然レトモ各國間ノ輸出入ハ其輸出シ又ハ輸入スル物ノ性質ヨリ又ハ時ニ付キ若クハ場所ニ付キ一定ノ制限アルモノトス例ヘハ(イ)國家ノ公ノ秩序ニ反スル物ノ輸入、其國家ノ專賣品ノ輸入、其國家ノ人民ノ健康ヲ害フ物ノ輸入(例ヘハ支那カ阿片ノ輸入ヲ禁シタルカ如キ)又ハ善良ノ風俗ヲ禁ル物品ノ輸入ヲ禁スルカ如キ或ハ又伊太利カ其國ノ特質タル美術品ノ保存ノ爲メニ古器物ノ輸出ヲ禁スルカ如キハ物ノ性質ヨリ來ル制限ナリ(ロ)又戰爭ノ繼續中石炭ノ輸出ヲ禁シ「ベスト」流行中綿花ノ輸入ヲ禁スルカ如キハ時ニ關スル制限ナリ而シテ(一)軍港ニ於テ物品ヲ輸入スルコトヲ禁スルカ如キ場所ニ關スル制限、概ネ軍事上ノ必要ヨリ來ル而シテ物品ノ輸出入ニ附帶シテ説明スヘキハ關稅ナリ

國家ハ輸出品及ヒ輸入品ニ對シテ租稅ヲ課スルコトヲ得而シテ租稅徵收ノ方法ニ二アリ一ヲ國定稅率(General tariff)ト謂ヒ二ヲ協定稅率(Conventional tariff)ト謂フ前者ハ其國ノ法律ヲ以テ一般ニ輸出入ノ物品ニ課スルモノニシテ後者ハ條約ヲ以テ或特定ノ國ト協約シテ定ムル方法ナリ而シテ我國ハ開國以來協定稅率ヲ採用シ嘗テ明治十一年ニ於テ日米條約ハ國定稅率ヲ定メタルモ遂ニ實施ニ至ラスシテ止ミタリ或ハ條約ヲ以テ稅率ヲ協定スルハ國權ノ制限ナリト論スル學者アリト雖モ偏狹ノ辭ヲ免

0457

レ協定稅率ヲ行フノ結果ハ國際間ノ交誼ヲ圓滑ニスルノ利益アルモノナリ其他協定稅率ニ對シテ種ノ批難ヲ試ムル者アリト雖モ協定稅率其モノカ不可ナルニ非スシテ唯我國カ諸外國ニ對シテ協定稅率ヲ課スルニ拘ハラス諸外國カ日本ヨリノ輸出品ニ對シテ國定稅率ヲ課スルノ點カ公平ヲ失スルノ以上二箇ノ方法ハ各別ニ及ヒ同時ニ之ヲ採用スルコトヲ得ヘク又二者何レカ一方ニ依ルコトカ他方ニ依ルヨリモ多ク又ハ少キトキハ其何レカニ依ルコトヲモ條約ヲ以テ定ムルコトヲ得ヘシ

租稅ヲ課スルノ標準ハ從價稅又ハ從量稅ノ何レカニ依ルコトヲモ條約ヲ以テ定ムルコトヲ得ヘシ

價稅ハ其物品ノ仕入地產出地若クハ製造地ニ於ケル原價ニ其仕入地、產出地若クハ製造物ヨリ仕向港ニ至ルマテノ保險料及ヒ運送賃ヲ加ヘ又手數料アルトキハ之ヲモ加ヘテ算定スヘキモノト規定セリ而シテ此方法ニ依ルニ付テハ殺猪ナル商人ノ不正行為ヲ防クカ爲メニ種種ノ方法ヲ採用ス或ハ稅關官吏ヲシテ其物品ニ付テ調査セシメ或ハ廉價ニ過ケル物ハ官ヲシテ買取ラシメ又ハ多クノ鑑定人ヲシテ其價格ヲ鑑定セシメ其最高價格ヲ標準トシテ課稅スルアリ然レトモ各一失アルヲ免レヌ又從價稅ヲ課スルニ付キ金錢ヲ以テセスシテ物品ヲ以テスルモノモアリ次ニ從量稅ハ物品ノ量ニ從テ課稅スルモノナルモ先ア價格ヲ定メ一定ノ價格アル物ノ量ニ從テ此方法ナリ而シテ此方法モ亦從價稅ト同シク缺點アルモノニシテ容量大ナル物ノ容器等ヲモ計算シテ課稅スルハ甚ク不公平タルヲ免レシ今日ニ於テハ或ハ前者ヲ採用スル國アリ後者ヲ採用スル國アリ

輸入ノ租稅ニ附加シテ說明スヘキハ所謂通過稅ナリ通過稅ニ二義アリ一ハ內國ノ國境マテ來リ其稅

關ニ於テ關稅ヲ課セラタルモノカ更ニ内地ニ入ルニ關シテ課セラルルモノニシテ二ハ一國ヨリ他國ニ行ク場合ニ於テ經過スル間ニ課スルモノナリ而シテ何レノ場合ニ於テモ此種ノ稅ハ之ヲ課セザルヲ原則トス然レトモ内地生產ノ物品ニ課稅セラルルコト甚シキニ至ルトキハ爲メニ外國ヨリノ輸入品ニ壓セラレ外國生產家ノ爲メニ其利益ヲ獨占セラルルニ至ルコトアルヘシ故ニ日英條約ノ議定書ノ如キハ精糖ニ關シテ規定ヲ設ケ內國稅ヲ増率スルトキハ輸入品ニモ同率ノ課稅ヲ行フコトヲ定ム又後者即チ狹義ノ通過稅ニ關シテハ其物品ノ其地ニ於テ使用又ハ消費セラルルコトナキヲ證明セザルヘカラス英國ノ如キハ之カ證明ニ代ヘテ先ツ課稅シ他日國境ヲ退去スルニ當リテ其稅金ヲ返還スルカ或ハ稅關ノ倉庫ニ寄托セシムルカ何レカノ方法ヲ採ルコトト爲ス又我國ト諸外國トノ條約ニ於テハ物品ノ見本ニ付キ通過稅ヲ課セザルコトヲ定ム

次ニ交通ノ要具タル船舶ニ付キ說明スル所アルヘシ

船舶ハ之ヲ種種ニ分類スルコトヲ得英國學者ハ之ヲ公船(Public vessels)及ヒ私船(Private vessels)ニ區別シ獨逸學者ハ之ヲ軍艦及ヒ商船ノ二ト爲ス然レトモ前者ハ所謂公私意義不明ナルノ嫌アリ後者ハ船舶全體ノ分類ニ非スシテ部分ノ分類タルノ缺點アリ從テ獨逸學者ハ或船舶ハ之ヲ軍艦ニ準シ他ノ船舶ハ之ヲ商船ニ準シテ其缺點ヲ補正シ英國學者ハ大體ニ於テ政府ノ所有ニ屬スルト否トヲ標準トシテ其公私ヲ分タントセリ願フニ英國主義ノ如クスルモ政府ノ所有ニ係ル船舶ニシテ私用ニ供セラルルモノアルヘク獨逸主義ノ如クスルモ如何ナル船舶ヲ以テ軍艦ニ準スヘキモノト爲スヤヲ知ルコト難シ今試ニ「フェルバー」大佐(Herrn)ノ著書ニ依テ之ヲ見ルニ

(一) 商船タルニハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス

國際公法(平時) 本論 國家ノ權利義務 國家ノ權利

- (イ) 内國ニ於テ建造セラレタルコト
- (ロ) 船舶所有者ノ獨逸人タルコト
- (ハ) 船長ノ獨逸人タルコト
- (ニ) 船舶ノ登記アリ且實際ト一致スルコト
- (ホ) 船長タル免許狀ヲ有スルコト
- (二) 軍艦タルニハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス
 - (イ) 軍艦旗及ヒ司令旗ヲ掲揚スルコト
 - (ロ) 艦長ニ於テ其軍艦タルコトヲ表證シ得ルコト
 - (ハ) 本國君主ヨリノ命令ヲ受ケタルコト

以上ノ要件ヲ標準トシテ或ハ軍艦ニ或ハ商船ニ準セントスルモノナルモ予ハ其論據ノ甚タ薄弱ナルヲ見ル

船舶ハ動産ナリト雖モ其國籍ヲ表彰スルニ便スルカ爲メ人ト同シク之ニ國籍ヲ與フルコト近時各國ノ認ムル所ニシテ其國籍ハ各國法規ヲ以テ之ヲ規定セリ我國ニ於テハ明治三十二年三月法律第四六號船舶法第一條ヲ以テ之ヲ定ム然レトモ縱令國法ニ於テ國籍ヲ付與スルモ他國ニ於テ之ヲ認メサルニ於テハ何等ノ效力ナキヲ以テ屢通商條約ヲ以テ締結國一方カ締結國他方ノ船舶ニ自國ノ船舶ト同一ノ待遇ヲ與フルコトヲ約定スルノ必要生スルコトアリ例ヘハ日英條約第一三條ニ「本條約ニ於テハ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト認メ又大不列顛國ノ國法ニ從ヒ大不列顛國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ大不列顛國船舶ト認ムヘシ」トアルカ如キナリ尙

0469

ホ日本ト諸外國トノ條約ニ於テモ凡テ斯ル條款アリ然レトモ此方法ニ依ルモ尙本國籍ニ付テ積極又ノ消極ノ衝突ヲ生スルヲ免レヌ例ヘハ我船舶法第一條第三號ハ日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶ヲ日本船舶トシ通商條約ニ依リテ英國其他ノ外國人ニシテ之ヲ日本船舶ト認ムト雖モ若シ英國其他ノ外國ニ於テ其國ニ事務所ヲ有スル法人ニシテ其社員ノ一人又ハ數人カ其國ノ臣民タルモノノ所有ニ屬スル船舶ハ之ヲ其國ノ船舶トストノ規定アリテ通商條約ノ結果我國ニ於テハ其船舶ヲ以テ英國又ハ其他ノ外國ノ船舶ナリト認ムトモハ其船舶ハ同時ニ日本船舶タリ又外國ノ船舶タル結果ヲ生スルヲ以テナリ然レトモ今日ニ於テハ未タ此缺點ヲ補フヘキ條約ナシ

船舶ノ國籍ヲ表彰スル方法ニアリ一ハ國旗ニシテ他ハ船舶國籍證書ナリ國旗ヲ以テ國籍ヲ表彰スルハ最モ簡便ナル方法ナレトモ之ニハ往往詐欺ノ行ハルルコトアルノミナラス時ニ確實ヲ保シ難キコトアルヲ以テ國旗ノ外ニ尙本國籍證書ヲ付與シ國旗ハ以テ外部ニ對シテ國籍表彰ノ用ニ供シ國籍證書ハ以テ其實質ヲ表彰スルノ具ト爲ス

予ハ船舶ヲ分類シテ國家ヲ代表スルモノト然ラザルモノトノ二ト爲スラ正當ナリト信ス即チ代表權ノ有無ヲ標準トスルモノニシテ所有權ノ何人ニ屬スルヤノ私法的觀念ヲ容レサルト同時ニ既ニ其意義ノ明確不變ナル軍艦又ハ商船アルカ如クナスノ獨斷ヲ爲ササルナリ而シテ船舶ハ其航行地ノ如何ニ依リテ適用スヘキ國際法規ヲ異ニス自國領海内ニ在ル時其ナリ外國領海内ニ在ル時其ニナリ公海ニ在ル時其ニナリ故ニ船舶ニ關スル研究ハ次ノ表ノ如キ順序ヲ採ルヲ便ナリトス

自國領海内

國家ヲ代表スル船舶

國家ヲ代表セサル船舶

外國領海内

國家ヲ代表スル船舶

國家ヲ代表セサル船舶

公海中

國家ヲ代表スル船舶

國家ヲ代表セサル船舶

而シテ代表船舶ハ治外法權ヲ有スルニ反シ非代表船舶ハ之ヲ有スルコトナシ

第一 公海ニ在ル國家ヲ代表セサル船舶

公海ニ在ル船舶ハ自國ノ國權及ヒ其裁判權ニ服從スルノ外如何ナル國ノ法令ニモ服從スルヲ要セス蓋シ公海上ニハ如何ナル國家モ主權ヲ及ホスヘキモノニ非サレハナリ獨リ一國ノ船舶ノ單獨行爲ニ付テ然ルノミナラス他國ノ國籍ニ屬スル船舶ニ對シテ違法ノ行爲ヲ加ヘタル場合ト雖モ其國家ハ公海上ニ於テ司法權若クハ警察權ヲ行フコトヲ得ス換言スレハ其國家ハ權力ヲ以テ之ニ對抗スルコト能ハス唯實力ヲ以テ之ヲ救済スルノ外ナキノミ例ヘハ日本船ト英國船ト公海上ニ於テ衝突シタルトキハ何レノ國ノ法律ニモ從フコトヲ要セサルヲ原則ト爲ス然ルニ或學者ハ曰ク此場合ニ於テハ其公海ニ最モ近接セル港ヲ有スル國ノ法律ニ從ハシムヘキモノナリト然レトモ此說ノ採ルニ足ラサルコト辯ヲ俟タズ但特別ノ條約アル場合ニ於テハ固ヨリ條約ニ從フヘキコト論ナキナリ

上述ノ原則ニ對シテハ次ノ例外アリ

(第一) 甲國ノ船舶ニ在ル乗組人中ニ乙國ノ領地若クハ領海ニ於テ犯罪ヲ行ヒタル者アルトキハ其船舶カ領海ヲ越エテ公海ニ出テタルトキト雖モ乙國ハ之ヲ追跡シテ其犯人ヲ逮捕スル權利ヲ有ス

此場合ニハ左ノ四條件ヲ必要トス

一 自國ノ領域ニ於テ犯罪ヲ爲シタルコト

二 自國ノ領海ヨリ追跡ヲ始メタルコト

三 繼續シテ追跡シタルコト

四 其行爲カ他國領海内ニ於テ爲サレサルコト

但甲國ノ船舶カ無事ニ公海ヲ通過シテ本國ノ領海又ハ第三國ノ領海ニ逃ケ入りタルトキハ乙國ハ之ヲ追及スルノ權利ヲ失フモノトス

此例外ハ國安ノ必要上ヨリ起リタルモノナリ最初海上國際法ニ於テ有名ナル「ベールルス」等之ヲ主張シ千八百九十五年三月巴里ノ國際法協會及ヒ同年十月開會セル「ブリュクセル」ノ同會議ニ於テ之ヲ認メタリ其實際ニ現ハレタル例ハ明治二十八年ニ起リタル「テールルス」號事件ナリ其事實ノ大要ハ臺灣カ我國ノ版圖ニ歸シタル後劉永福カ日本ノ軍隊ニ抵抗シタルモ力盡キテ英艦「テールルス」號中ニ遁逃セシヲ以テ我軍艦八重山之ヲ追跡シテ臨檢ヲ行ヒタルニ犯人ハ艦内ニ在ラザリキ尙ホ疑フヘキ所アルヲ以テ再ヒ追跡シテ之ヲ臨檢シタルニ初ノ如クナリキ是ニ於テ英國ハ八重山ノ處置ヲ以テ國際法違反ナリト主張シ我國ハ之ニ對シテ損害賠償ヲ爲スコトセリ

(第二) 海賊ヲ追及スル場合 海賊ニ付テハ「リビエー」ノ定義ニ依レハ「公海ニ於テ他人ノ動産ヲ掠奪スルノ意思ヲ以テ強力ヲ用ヒテ他船ヲ攻撃スルモノヲ謂フ」ト言ヒ「ニルバー」ハ「國家ノ許可ヲ



得シテ收益ヲ目的トシテ海上ニ於テ爲ス暴力ナリト言ヘリ然レトモ前者ニ於テ「動産ノ掠奪」ヲ其要件トセルハ不可ナリ何トナレハ單純ナル暴行ヲ爲スモノモ亦之ヲ海賊ト爲スニ於テ妨シタル所ナクハナリ又後者ニ於テ「收益ノ目的」ヲ其要件ト爲スモノ可ナラス何トナレハ單純ニ攻撃ヲ爲ス目的ヲ有スルモノモ亦之ヲ海賊ト爲スニ於テ妨ナクハナリ又「リビエ」ハ「他船ヲ攻撃スル」コトヲ要スト爲スモ是レ狭キニ失スルノ嫌アリ海底電線ノ切斷、竊取モ亦海賊行爲ナレハナリ故ニ予ハ次ノ定義ヲ下シテ海賊ノ意義ヲ定メントス

海賊トハ公海ニ於テ本國ノ委任ナク暴力ヲ加フル行爲ナリ

海賊ハ公海中ニ於ケル行爲ナリ領海内ニ於テハ其領海ニ對シテ主權ヲ有スル國家ニ於テ之ヲ處分スヘク所謂海賊ニ非ス公海中ノ行爲ナルカ故ニ何レノ國家モ之ニ對シテ其權力ヲ及ホスコトヲ得ヘシ而シテ海賊ハ何レノ國籍ヲモ有セサルモノニシテ若シ國籍ヲ有スル船舶カ海賊ヲ行フトキハ同時ニ其國籍ヲ喪失スルモノトス是レ萬國カ海賊ニ對シテ其權力ヲ行フトコトヲ得ル所以ナリ
次ニ海賊ト同視スヘキモノニ付テ説明セン其第一ハ戰時ニ私船ヲ以テ拿捕スル場合ニシテ千八百五十六年ノ巴里宣言ノ定ムル所ナリ此點ニ付テハ戰時國際法ノ講義ヲ參照スヘシ其第二ハ國籍ヲ有セサル船舶ニシテ所屬國家ヲ知ルコト能ハス非行アリタル場合ニ於テ責任ヲ負フヘキ國家ナクハナリ其第三ハ奴隸賣買ヲ爲ス者アル場合ニシテ奴隸賣買ニ付テハ千八百九十六年ノ「ブルジュセル」條約ニ依リテ絕對ニ禁止スル所ナリ是レ海賊ト同シク國際法上ノ犯罪ト看做スコトヲ得ヘク從テ如何ナル國ノ船舶ト雖モ奴隸賣買ヲ爲スアルトキハ之ニ侵入スルノ權利アリトス
海賊ハ之ヲ捕ヘ及ヒ裁判ス其管轄權ニ付テハ異說アリ或ハ之ヲ捕ヘタル船舶ノ屬スル國家ニ裁判權

アリトシ或ハ最初船舶ノ到着シタル國家ニ此權アリト論ス予ハ捕ヘタル船舶ノ屬スル國家ニ裁判權アリト思惟ス海賊ノ掠奪シタル物件ハ原所有者ニ返還スヘキモノナルモ其原所有者ノ不明ナル場合又ハ掠奪シタル金銭ヲ以テ他ノ物品ヲ購買シタルカ如キ場合ニハ總テ其軍艦ノ屬スル國家ニ沒收スルモノトス又其乗組員ニ對シテハ若シ海賊ヲ處罰スル特別ノ明文ナキトキハ強盜其他ノ罪名ヲ付シテ其責任ヲ定ムルコトヲ得ヘシ

第二 公海ニ在ル國家ヲ代表スル船舶

其主要ナルモノハ軍艦ナリ而シテ代表船舶ハ公海ニ於テ海賊ヲ捕ヘ私裝捕拿船ヲ捕獲スルコトヲ得シレ非代表船舶ノ有セサル權利ナリ
代表船舶若シ海賊行爲ヲ爲シタルトキハ如何ニスルヤト云フニ海賊ハ何レノ國籍ヲモ有セサルヲ前提トス然レニ代表船舶ハ其行爲ノ不法ナル場合ニ於テモ所屬國家ノ國籍ヲ失フモノニ非スシテ依然代表船舶タリ從テ他ノ國家ノ代表船舶ニ於テ之ヲ海賊トシテ捕フルコトヲ得スレハ亦非代表船舶ト異ナル所ナリ然レトモ其所屬國家ハ監督不行届テ理由トスル責任ヲ免ルルコト能ハス
代表船舶ハ公海上ニ於テ儀式上ノ特權ヲ有ス非代表船舶ヨリ先ツ旗ヲ出シテ禮シタル後之ニ答禮スルヲ以テ足り若シ君主又ハ大統領ヲ載セタル代表船舶ナルトキハ答禮スルノ必要ナキモノトス

第三 外國領海内ニ在ル國家ヲ代表セサル船舶

非代表船舶ハ外國領海内ニ於テ總テ其滞在國ノ國權ニ服從セサルヘカラス然レトモ
(一) 條約ヲ以テ例外ヲ定メタル場合アリ例ヘハ日獨領事職務條約ニ依レハ日本官憲カ獨逸船ノ日本ニ來レルモノヲ搜索スルニハ獨逸領事ノ立會ヲ要シ我船舶ノ彼地ニ在ルモノニモ同様ナリトセルカ

如キ是ナリ

(二) 刑事事件ニ關シテハ外國ノ國家ヲ代表セサル船舶ノ船員相互間ノ爭議等例ヘハ日本ノ領海ニ於ケル佛國商船ノ乗組員ノ鬭争ノ如キモノニ付テハ日本ノ主權ヲ及ホスコトナク其本法ニ依ラシム但事自國ノ公安ニ關スルトキハ其國法ヲ適用スルモノトス然レトモ此規則ハ條約ニ特約アル場合ニ限リ之ヲ適用スヘク若シ何等ノ明文ナキトキハ原則ニ復歸シテ滞在在地ノ國法ヲ以テ處分ス(以上ノ例外ヲ以テ治外法權ト稱スルハ不可ナリ)

外國ノ沿岸通過ノ場合ニ於テハ沿岸國ハ之ニ對シテ主權ヲ及ホスコトナク司法權ハ勿論租稅徵收ノ義務ヲモ負擔スルコトナキナリ

第四 外國領海内ニ在ル國家ヲ代表スル船舶

此問題ニ付テハ前ニ治外法權ノ章下ニ於テ説明セシカ故ニ茲ニ再說セス但代表船舶ニシテ外國領海内ニ於テ其公安ヲ知り暴行ヲ働タトキハ滞在セル國家ニ於テ之ヲ抑留スルコトヲ得ヘシ所謂治外法權ハ絶對的ノモノニ非サルナリ

第五 自國領海内ニ在ル自國船舶

此場合ニ於テハ代表船舶タルト非代表船舶タルトヲ問ハス國際法上ノ問題ヲ生スルコトナク説明スルノ必要ナシ

第三目 衛生ニ關スル行政權

衛生ニ關スル國家ノ行政權ニ對スル一ノ制限トモ云フヘキハ國境附近ニ於テハ外國ニテ免許セラレタ

ル醫師、產婆ヲ自國內ニ於テ營業セシメツアルコト是ナリ又檢疫ナルモノハ今日一般ニ行ハルル所ニシテ自國ニ於テ制定シタル檢疫ニ關スル法律ヲ外國ノ船舶又ハ汽車等ニ適用スルモノナリ檢疫ノ目的ハ外國ノ交通機關ヲ内地ニ接近セシメサルニ在リ即チ隔離ニ因リテ其目的ヲ達セントスルナリ此方法ニ依リテ目的ヲ達シタル最古ノ事件ハ十四紀ノ中葉ニ於テ起リタリ當時土耳其ニ於テ「ハベスト」病流行シ蔓延傳染ノ俱アリシヲ以テ伊太利「ヴェニス」ニ於テハ檢疫隔離ノ方法ニ依リテ土耳其ノ病毒輸入ヲ拒キ以テ實效ヲ奏スルコトヲ得タリ

千八百五十六年那翁三世ノ發議ニ因リ巴里ニ國際衛生會議ヲ開キ千八百五十七年國際衛生條約ヲ締結セリ然レトモ邊ニ之カ批准ヲ見ルニ至ラス其後屢回會議ヲ開キタルモ一回モ締結ノ運ニ至ラザリシカ千八百九十二年一月「ヴェニス」條約ヲ締結セリ而シテ此條約ハ完全ニ成立スルコトヲ得タリ然レトモ其條約ノ關係スル所ハ埃及及ヒ「ヴェニス」運河ノミニシテ之ニ署名シタル國家ハ佛、奧、獨、露、白、蘭、希、丁、英、西、土、瑞典、諾威是ナリ

千八百九十三年ニ於テ「ドレスデン」ニ萬國衛生會議ヲ開キ歐洲ニ於ケル「コレラ」撲滅ニ關スル事項ヲ約定セリ其約定事項ノ重要ナルモノハ旅行者ノ身體及ヒ其荷物ヲ取締ルニ在リ而シテ此條約ニ加盟スル國家ハ其國內ニ「コレラ」ノ發生アリタルトキハ他ノ同盟各國ニ之カ通知ヲ爲スノ義務ヲ負ヒ其患者ノ總テノ物品ハ之ヲ處置スルコト此等ノ爲メニ他人ノ旅行ヲ阻害セサルコト又海上ノ交通ニ關シテハ病船、無病船、嫌疑船等ニ分チ病船ハ之ヲ抑留スルコト、嫌疑船ハ消毒セシムルコト、無病船ハ其通行ヲ自由ナラシムルコト等はナリ

千八百九十四年伊太利「ヴェニス」ニ於テ「ベスト」ヲ撲滅スルノ目的ヲ以テ各國相會合セリ此會合ヲ見

0472

ルニ至リタル所以ハ印度、ボンベイニ於テ「ペスト」病發生シ猖獗ヲ極メタルヲ以テ其歐羅巴ニ侵入スルヲ防止セントスルニ出テタルモノナリ其約定中ノ主要ナル事項ハ其第一編ニ歐洲以外ニ起リタルトキ其發生ヲ各國ニ通知スルコト其發生地ヨリ來リタル者ニ對シテハ入津ヲ禁止スルコト、其發生地ヨリ出帆スル船舶ニ對シテハ充分ナル監督ヲ爲スコト等ヲ定メ第二編ニ於テハ歐洲ニ於テ其發生アリタル場合第三編、第四編ハ消毒ニ關スルコト、第五編ハ本條約ノ實行ヲ監視スルコト等ヲ定メタリ

我國ニテハ明治十二年七月第二九號布告ヲ以テ檢疫停船規則ヲ定メ其第五條第一項ニ「コレラ」病ノ檢疫ヲ規定セシカ同年獨逸船「ヘスベリア」號神戸ニ入津セシニ之カ檢疫ヲ爲スコト能ハザリシヲ以テ茲ニ問題ヲ生シ此時以來檢疫ニ關シテハ我國モ亦國際法ノ主體ナリト認メラルルニ至レリ而シテ同法ハ廢止セラレ明治三十二年二月法律第一九號ヲ以テ海港檢疫規則ヲ定メ前示萬國條約ノ原則ヲ採用スルニ至レリ而シテ此事ニ關スル現行法ハ海港檢疫法是ナリ

其他暹カラス條約トシテ現ハルヘキ望アルモノハ花柳病ノ撲滅ヲ目的トスル事項ナリ此事タル千八百九十八年白耳義ニ於テ第一回ノ會議ヲ開キ千九百一一年ニ於テ第二回ノ萬國會議ヲ開キタリ然レトモ未タ萬國ヲ拘束スヘキ力アル條約ト爲ルニ至ラス

第四目 動植物ノ保存ニ關スル行政權

獸類ノ病氣就中狂犬病ニ關シテハ歐洲各國ノ間ニ狂犬病ノ撲滅ヲ圖ル爲メ條約ヲ締結シタルコトアリ又葡萄牙虫ニ關シテハ千八百七十八年該虫驅除ニ關シ歐洲各國ノ間ニ條約ヲ締結シ其後千八百八十一年及ヒ千八百八十九年ニ至リ之ニ補充ヲ爲ス條約ヲ締結セリ加盟國家ハ佛蘭西、獨逸、奧地利、伊太利、葡萄牙、瑞西、白耳義、伊太利「ルムクセンブルヒ」和蘭、西班牙、「ルイメニヤ」、「セルビヤ」等ノ諸國トス而シテ此條約ニ於テ定メタル大要ハ其加盟シタル國家ニ於テ葡萄牙虫ヲ驅除スル國內法ヲ制定スルコト、葡萄牙ヲ切取りタルトキハ其葡萄牙ハ外國ニ輸出スヘカラサルコト、自國ニ於テ制定シタル葡萄牙虫驅除法ハ之ヲ條約同盟國ニ配布スルコト等はナリ然レトモ該條約ニ付テハ未タ之ニ關スル國際的事務所ヲ設置スルニ至ラス單ニ以上ノ如キ條約ヲ締結シタルニ止マレリ

次ニ各國家ヲ貫流スル河流中ニ於テ漁業ヲ爲スノ權利ニ關シテ說明センニ嘗テ獨逸、佛蘭西、和蘭、瑞西等ノ各國間ニ「ライン」河ニ於テ小魚ヲ捕獲スルコト及ヒ其卵ヲ捕獲スルコトヲ禁止スル旨ノ條約ヲ締結シタルコトアリ

又沿岸海ニ於テ漁業ヲ爲スノ權利ニ關シテ注意スヘキハ沿岸海ニ於テ漁業ヲ爲スノ權利ヲ内外人ニ同等ニ與フルコト是ナリ此權利ハ元來私權ニ屬スルモノナリ故ニ原則トシテ外國人ニモ之ヲ付與スルヲ至當ナリトス故ニ之ニ關シテハ何等ノ問題ヲ惹起スヘキニ非ス然レトモ海洋ニ於ケル漁業ニ關シテハ條約ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ必要トス蓋シ海洋ハ公開ニシテ各國自由ニ之ヲ使用スルコトヲ得ルモノナレハナリ然レトモ海洋ハ無主物ナリト云フコトヲ得シテ各國ノ共用シ得ヘキモノタルニ過キス故ニ何レノ國家ト雖モ獨占ノニ之ヲ使用スルコトヲ許ササルヲ以テ必スヤ各國ノ間ニ衝突ヲ生スルコトヲ免レシ是ニ於テカ其各國間ノ調和ヲ圖ランカ爲メニ條約ヲ締結スルノ必要ヲ生スヘシ千八百八十二年北海ノ沿岸海以外ニ於テ漁業ヲ爲スコトニ關スル條約ヲ締結シタルコトアリ其締結國ハ英吉利、佛蘭西、獨逸、和蘭、白耳義、丁抹等ニシテ約定ノ大要ハ條約加盟國ノ漁船ハ遠方ヨリ之ヲ觀ルモ直チニ識別シ得ヘキ様ニスルコト、其漁船ノ衝突其他ノ事ヲ監督スルハ同盟各國ノ軍艦ナルコト、監督軍艦ハ漁

船ヲ檢視スルノ權ヲ有シ又其漁船ヲ其本國マテ送還スルノ權ヲ有スルコト等是ナリ而シテ又其漁船ニ對シ裁判權ハ其本國ニ在リテ監督スル所ノ軍艦ハ此等ノ權限ヲ有セサルコトヲ約定セリ又「ベリ」シグ海ニ於ケル臘虎漁業ニ關スル條約ハ英吉利、北米合衆國トノ間ニ千八百九十三年ニ於テ締結セラレタリ而シテ其條約ノ内容ハ各一定ノ漁業區域ヲ定メタルコト、漁業ヲ爲スニ火器、彈藥ヲ使用スルヲ禁止シタルコト、漁業者ハ政府ノ許可ヲ受クルコト等是ナリ之ヲ爲メ北米合衆國ノ如キハ國內法ヲ制定シタリ又千八百九十七年十一月七日ニ北米合衆國ハ日本國、露國トノ間ニ「ベリ」シグ海ニ於ケル臘虎漁業ニ關スル條約ヲ締結シタリ

其他千八百九十五年ニハ歐洲各國ヨリ委員ヲ派出シテ鳥類ニ關スル條約ノ締結ニ付キ協議スル所アリタルモ終ニ其成立ヲ見ルニ至ラス又動物保護組合等ノ如キモ續續現出スルニ至リタリ畢竟此等人類以外ノ物ニ對スル保護其他ノ關係カ發達シタル結果トシテ前述セルカ如キ條約ノ組合等ノ成立ヲ見ルニ至リタルモノナレハ國際上實ニ嘉スヘキモノ現象ナリトス

第五目 學問技藝ニ關スル行政權

學術技藝ニ關スル制限ノ最モ顯著ナルモノハ著作權同盟及ヒ工業財產保護同盟是ナリ我國ニ於テハ改正條約實施ト同時ニ此同盟ニ加盟シタリ

昔時ニ在リテハ學術ニ付テモ鎖國主義行ハレ自國ノ學術ノ他國ニ入ルコトヲ防クト同時ニ外國ノ學術ノ自國ニ入ルコトヲ阻塞セリ此レ我舊幕時代ニ於ケル狀態ヲ見ルモ明カナリ然ルニ其後相互ニ學術ヲ交換スルノ條約締結セラレ千八百六十一年獨逸關稅同盟諸國ト支那トノ條約ノ如キハ相互ニ自國ノ語

學其他ノ學問ノ研究及ヒ授業ヲ是認シ書籍ノ賣買ヲ公認セリ

然ルニ今日ニ至リテハ文運ノ隆盛ナル各國ニ於ケル學術技藝ハ殆ト世界的ト爲リ從テ之カ保護ヲ必要トスルニ至リシヲ以テ茲ニ萬國條約ヲ以テ著作權同盟及ヒ工業財產保護同盟ヲ作ルニ至リ我國モ亦之ニ加盟セリ而シテ此條約ニ付テハ明治三十二年七月ノ勅令ヲ參照スヘク其詳細ナル說明ハ國際私法ノ研究ニ讓ル

第六目 奴隸、貧民等ノ保護ニ關スル行政權

貧民保護條約ハ既ニ一ノ國ニ締結セラレタル所ナリ同條約ハ外國人カ自國內ニ滯在中貧窮ニ陥リタルトキニ其國家カ之ヲ救助スルノ條約ヲ謂フ即チ「ババリヤ」ト奧地利トノ間ニ又瑞西ト和蘭トノ間ニ締結セラレタルモノノ如キ是ナリ千八百九十年ニハ巴里ニ列國會議ヲ開キ職工保護國際規則ヲ制定シ以テ各國ノ職工ヲ保護セントシタルモ遂ニ其成立ヲ見ルコトヲ得ス又海外移住民ヲ保護スル爲メ條約ヲ締結セントノ發議アリタルモ亦其成立ヲ見ルニ至ラス

然レトモ獨リ奴隸ニ關スル條約ニ至リテハ其完成ヲ告ケタリ初メ千八百十五年英吉利ト北米合衆國トノ發議ニ因リ維納會議ヲ開キ黑人ヲ賣買ノ目的物ト爲スハ國際法上不法行爲ナリト議決セリ其後千八百十五年ニ至リ第二ノ巴里平和條約ニ於テモ亦黑人ノ賣買ヲ禁止スル旨ヲ約定セリ其他黑人賣買ニ關シテハ種種ノ條約ヲ以テ約定シタリ次ニ今日ヨリ十六年以前英吉利ハ各國トノ間ニ奴隸賣買ニ關スル事項ヲ條約ヲ以テ約定セシコトヲ主張セリ即チ黑人ト白人トヲ問ハス等シク人格ヲ認メサルヘカラサルコトヲ主張セリ此奴隸賣買ニ關スル條約中最モ必要ナル維納會議ノ宣言書ノ大要ハ第一此條約締結

國ハ自國人ニシテ奴隸ノ賣買ヲ爲ス者ニ對シ處罰スヘシ第二ニ條約締結國軍艦ハ奴隸ノ賣買ヲ爲ス船
 舶ヲ臨檢搜索スルノ權アリ第三ニ其船舶ヲ捕拿シタル場合ニ於テハ其捕拿シタル軍艦ノ所屬本國カ之
 ニ對スル裁判權ヲ有スルモノトスルコト是ナリ次ニ千八百四十一年十二月二十日英吉利、佛蘭西、露西
 亞、奧地利、普瀋西諸國ノ間ニ倫敦條約ヲ締結セリ此條約モ亦奴隸賣買ヲ禁止シタリ尤モ以上列記スタ
 ル諸國中佛蘭西ハ之カ批准ヲ爲サス其後千八百五十一年ニ至リ獨逸、白耳義ノ兩國ハ此條約ニ加盟ス
 ルニ至レリ千八百四十一年ニ締結シタル本條約ニ對シ英吉利ハ其補缺ヲ爲サンコトノ發議ヲ爲シタリ
 シモ遂ニ成立セス而シテ亞弗利加ノ分割セラレタル以來此奴隸賣買禁止ニ關スル世界ノ輿論ハ益々旺
 盛ヲ極メタリ千八百八十五年ニハ「コンゴ」條約ヲ締結シ亞弗利加ヨリ奴隸ヲ輸出スルコトヲ禁止ス
 ル旨ヲ約定シ尙ホ此實行ヲ期スル爲メ千八百八十九年「ブルグセル」ニ會議ヲ開キタリ之ニ加入シタ
 ル國家ハ英吉利、佛蘭西、伊太利、和蘭、獨逸、奧地利、白耳義、丁抹、西班牙、北米合衆國、露西亞、土耳其、
 瑞典、諾威、葡萄牙、波斯、コンゴ、オレンジ、自由國「ザンジバル」、「ルクセンブルモ」、「リベリヤ」
 等ナリ而シテ此條約ハ凡テ七編百條ヨリ成レリ其第一編ハ奴隸ヲ借受クル土地及ヒ奴隸ヲ輸出スル道
 路ヲ取締ルコトヲ定メ各國ヨリ軍艦ヲ派遣シテ奴隸輸出港ヲ監視シ且之ニ違背シテ奴隸ヲ賣買スル者
 ヲ國法ヲ以テ處罰スルコトヲ規定スヘキ旨ヲ定メ第二編ハ奴隸賣買取締、第三編ハ海上ニ於ケル奴隸
 賣買ノ監督、第四編ハ爾後奴隸ヲ禁止スルニ止マラス從來ノ奴隸ヲ廢止スヘキコト、第五編ハ「ブル
 グセル」ニ奴隸賣買廢止中央事務局ヲ置クコト、第六編ハ精酒販賣ノ監督及ヒ制限、第七編ハ此條約ニ
 對スル批准ヲ定メタリ
 尙ホ終ニ流ミテ一言スヘキハ支那ノ勞働者ニ關スル問題ナリ此問題ニ付テハ皆多クハ國內法ヲ以テ規

定シタリ故ニ詳細ハ國際法講義ノ範圍外ニ屬スルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

第三章 國際法上ノ機關

國際法ハ之ヲ適用スルニ付キ機關ナカルヘカラス然レトモ國內ニ於ケル機關ハ茲ニ説明スルノ限ニ在
 ラス國際團體ノ機關トシテ國際法ノ適用ニ當ルモノニ付キ概説スル所アルヘシ而シテ國家機關ニ常設
 的ノモノト臨時的ノモノトノ區別アルカ如ク國際團體ノ機關ニモ亦此二種ノ區別アリ

第一節 臨時の國際法上ノ機關

此種ノ機關ハ臨時必要アル場合ニ於テ設ケラルルモノナルカ故ニ其種類ハ豫メ列擧シ得ヘキモノニ非
 ス今例解スレハ那翁カ歐洲全土ヲ擾亂セシ以後ニ於テ千八百十四年九月歐洲諸國ノ代表者カ奧國維納
 府ニ會合シテ戰後ノ處分ヲ議セシカ如キ又「クリミア」戰爭後千八百五十六年三月巴里府ニ於テ講和會
 議ヲ開キタル場合ノ如キ皆臨時の國際團體ノ機關ナリ而シテ其機關ヲ組織スル各國代表者タル特定人
 ハ國家ノ機關ニ非サルト同時ニ國際團體ノ機關ニモ非ス其組織セラレタル一體カ國際團體ノ機關トシ
 テ活動スルモノナリ

第二節 常設的國際法上ノ機關

此種ニ屬スル機關ニハ世界萬國ニ共通ナル性質ノ機關ト特別ナル機關トノ二アリ

第一 萬國共通ノ機關

國際公法(平時) 本論 國際法上ノ機關 臨時時的國際法上ノ機關 常設的國際法上ノ機關

萬國共通ノ常設的國際法上ノ機關ハ其數甚タ多シ今其主要ナルモノヲ列擧スレハ左ノ如シ

- 一 萬國電信同盟 萬國電信同盟ハ千八百六十五年始メテ巴里ニ之ヲ開キ千八百六十八年ニ至リ電信行政國際事務所ヲ瑞西「ベルン」ニ設置セリ此事務所ニハ各國ヨリ其代表者ヲ派遣セス「ベルン」ニ設置シアルヲ以テ瑞西ニ於テ其役員ヲ自由ニ任命スルコトヲ得ヘキ旨ヲ承諾セリ而シテ其役員ニハ事務所所長一人其他補助ヲ爲ス者四人ヲ置キ其所長ノ職務ハ事務所内ノ秩序ヲ維持スルコト又例ヘハ英吉利ト日本トノ間ニ爲シタル電信ニ關シ其料金ノ差引ヲ爲スカ如キコト又萬國電信同盟委員會ヲ開ク場合ニ各國ニ之ヲ通知スルカ如キ又電線ニ破損ヲ生シタル場合ニ其修繕ヲ爲スカ如キ等是ナリ
- 二 萬國郵便同盟 萬國郵便同盟ニ付テハ千八百七十四年十一月九日瑞西「ベルン」ニ其事務所ヲ設置シ其翌年九月十五日ニ至リ萬國電信同盟ト同シク之ヲ瑞西ノ監督ニ委セリ事務所ニハ局長一人、補助六人アリテ其任命ハ萬國電信同盟ト同一ナリ此事務所ノ事務ハ郵便ニ關スル會議ヲ開ク場合ニ於テ各國ニ通知ヲ爲スコト、郵便ニ關シテ各國間ニ爭ヲ生シタル場合ニ其仲裁ヲ爲スコト、又毎月郵便ニ關スル雜誌「ニオン、ボスタール」ヲ發行スルコト等是ナリ
- 三 度衡同盟 度衡國際事務局ハ巴里ニ在リ是レ千八百七十五年五月二十日各國間ニ條約ヲ以テ定メタルモノナリ事務局ニハ所長一人、補助二人、其他不定數ノ補助人ヲ置クコトヲ得ルモノト定マレリ其事務ハ「メートル」「キログラム」ヲ本位トナサンカ爲メ各國ノ度衡ヲ比較シテ一定スルモノトス我國ハ明治十九年ニ至リ之ニ加入セリ此同盟ヲ「メートル」條約ト譯スル者アリト雖モ是レ狭キニ失スルノ嫌アリ或ハ又度量衡萬國條約ト譯スル者アリ是レ亦廣キニ過ク何トナレハ此同盟中ニハ量ニ關スル事項ナケレハナリ此同盟ニハ英吉利ハ加入セザリキ

- 四 此條約ニ加入セル各國ヨリ十四人ノ委員ヲ出シ六年毎ニ巴里ニ度衡ニ關スル會議ヲ開クコトセリ 萬國工業財產保護同盟 萬國工業財產保護同盟ハ元來國際私法ニ於テ説明スヘキ性質ノモノナルヲ以テ茲ニハ之カ實質ニ關スル説明ヲ爲サス唯一言スヘキハ其事務所ハ他ノ多クノ事務所ト同シク瑞西「ベルン」ニ在リテ其事務所ヨリ每週雜誌「ラ、プロブレテ、アンヂュストリエル」ヲ發行セリ
- 五 文學美術保護同盟 文學美術保護同盟ハ其中央事務所ヲ瑞西「ベルン」ニ設置シアリテ其事務所ハ前段ニ述ヘタル工業財產保護同盟ノ事務所ト同一ナリ此條約ハ千八百八十六年ニ各國間ニ成立シタルモノナリ而シテ此二箇ノ事務所ハ瑞西外務省ノ監督ニ屬シ所長一人、補助三人ヨリ成レリ毎月機關雜誌「ル、ド、ア、トール」ヲ發行セリ
- 六 國際土地測量同盟 國際土地測量同盟ハ千八百六十四年伯林ニ於テ成立セシモノニシテ其目的トスル所ハ純粹ノ學問上ヨリ之カ觀察ヲ爲シテ土地ノ測量ヲ爲スニ在リ此同盟ハ七人ノ委員ヨリ成リテ此七人カ常置委員會ヲ設ケ其中央事務所ヲ「ボッダム」ニ置キ所長一人、書記一人ヲ置ク
- 七 奴隸廢止同盟 奴隸廢止同盟ハ其事務所ヲ亞弗利加「ザンデバル」ニ設置セリ該同盟ハ千八百九十年「ブラッセル」ニ於テ成立セシモノナリ此條約締結國ハ各一人宛委員ヲ事務所ニ派出スヘキコトトセリ
- 八 稅率公布同盟 稅率公布同盟ハ千八百九十年七月二十日白耳義「ブラッセル」ニ於テ各國間ニ成立シ又事務所ヲ同所ニ設置スルコトヲ定メタリ該同盟ノ目ハ各國ノ稅率及ヒ各國カ變更シタル場合ニ之ヲ一切取經メ其同盟國ニ通知スルコト是ナリ此事務所ヨリ稅率公布ニ關スル雜誌ヲ發刊ス

九 鐵道貨錢交通同盟 鐵道貨錢交通同盟ハ千八百九十年瑞西(ベルン)ニ於テ其成立ヲ見ルニ至レリ 此他鐵道ニ關スル各國ノ爭議ニ付キ仲裁方法ヲ一定スヘキ旨ヲ獨逸ヨリ發起シタルコトアルモ其成立ノ運ニ至ラス而シテ此同盟ニハ英吉利ハ加入セス是レ英吉利ハ島國ニシテ大陸諸國ト鐵道ノ連絡ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テナリ又同事務所ヨリハ雜誌ヲ發行セリ

十 萬國仲裁裁判所 是レ千八百九十九年和蘭(ハーグ)ニ於ケル會議ノ結果當設機關トシテ設ケラレタル國際法上ノ機關ナリ而シテ此機關ニ付テハ後ニ仲裁裁判所ノ題下ニ於テ詳説スルノ機會アルヘキヲ以テ茲ニ説明ヲ略ス

第二 特別ナル機關

特別ナル機關ハ萬國共通ノ性質ヲ有スルコトナク地域ヲ限リ又ハ事項ヲ限リテ其事務ヲ行フ而シテ其數甚タ多シ例示スレハ「ダニユーブ」委員會ハ同河ノ沿岸及ヒ河流ニ關シ「スエズ」運河ノ中立實行ヲ確保センカ爲メニ埃及ニ設ケラルル委員會ノ如キ何レモ 局地的ノモノナリ又千八百九十四年ニ確定シ「コレラ」病撲滅ヲ目的トスル土耳其ニ於ケル衛生委員會ノ如キ土耳其、埃及、希臘ノ財政監督ヲ目的トスル各機關ノ如キ何レモ事項ニ依ル特別ノ機關タリ千八百七十六年ニ成レル埃及ノ公債委員會ノ組織ヲ見ルニ同委員會ハ英、佛、獨、伊、露、埃ノ六國ノ代表者ヲ以テ成リ同國一切ノ收入ハ其幾部ヲ控除シテ之ヲ外債償還ニ充ツヘク租稅ノ徵收ハ同委員會ト埃及政府トノ協議ニ依リテ定メラレタル會社ヲシテ之ヲ取立テシメ委員會之ヲ受領シ一定ノ額ヲ同政府ニ割與シテ殘額ヲ外債ノ償還ニ充ツルコトトセリ又土、希ニ於ケル委員會ノ組織モ之ト大同小異ナリ

第四章 國家ノ權利義務ノ承繼

國家カ他ノ國家ノ全部又ハ一部ヲ讓受ケタル場合ニ於テ如何ナル權義ヲ承繼スルヤノ問題ハ昔時ニ在リテハ起ラザリキ蓋シ當時ニ於テハ自國ノミヲ國家ナリトシ他ノ國家ヲ認ムルコトナク他國ヲ征服スルハ無主ノ地ニ入ルカ如ク考ヘタレハナリ其後他國ノ權利義務ヲ認ムルニ至リテハ開戰ト同時ニ相手方ノ人格ヲ否認シ從テ權義ノ承繼問題ヲ生スル餘地ナカリシヲ以テナリ然ルニ今日ニ於テハ嘗テ説明セシ如ク *Occupatio colonica*, *Occupatio bellica* 以外ニ於テ合意ニ基ク權義ノ承繼ヲ認ムルニ至リ平時ハ勿論戰時ニ於テモ相手國ノ權義ヲ否認スルカ如キコトナシ

國家ノ權義承繼ノ問題ハ場合ヲ分テ説明スルヲ便ナリトス

一 一國滅亡シテ他國之ニ代リテ發生セシ場合 例ハ支那ニ於テ明朝覆没シテ清朝ト爲リタルカ如シ

- 二 一國滅亡シテ數國ノ發生セシ場合 近世ニ於テハ其例ヲ見ス
- 三 一國ノ一部獨立シタル場合 例ハ北米合衆國カ英國ヨリ葡萄牙カ西班牙ヨリ「セルビア」ニモシテネグロ「ルーマニア」カ土耳其ヨリ白耳義カ和蘭ヨリ分離シテ獨立セシカ如シ
- 四 一國ノ一部他國ニ割讓セラレタル場合 支那カ臺灣ヲ日本ニ、西班牙カ「フィリピン」ヲ米國ニ、佛國カ「アルサス」「ローレン」ヲ獨逸ニ割讓セシカ如キ之ニ屬ス而シテ之ニハ強制的ナルト任意ナルトアリ
- 五 一國カ數國ニ分割セラレタル場合 例ハ露、埃、普ノ三國カ「ポーランド」ヲ分割セシカ如キ是

0477

ナリ

六 數國滅亡シテ一國成立シタル場合 伊太利ノ合一ハ其適例ナリ
七 一國カ他國ヲ合併シタル場合 例ハ明治三十一年ニ布哇カ米國ニ合併セラレ千八百三十一年

「ポーヘンツォレルン」カ普國ニ合併セラレタルカ如シ琉球モ亦我國ニ合併セラレタルモノト見
テ不可ナシ

以下前示ノ各場合ニ於ケル權義ノ承繼如何ヲ見
第一 一國滅亡シテ他國ニ代リテ發生セシ場合

此場合ニ於テハ權利義務ノ承繼問題ヲ生スルコトナシ何トナレハ後ノ國家ハ事實上前國家ト同一ノ領
土ヲ保有スルニ止マリ而モ前國家ハ滅亡シタルモノナルカ故ニ權義ノ承繼ヲ生スル原因結果ノ關係ナ
クテハナリ又前掲例示ノ清朝ノ明朝ニ代リタルカ如キハ主權者ノ更替ニシテ國家トシテハ前後同一ナ
ルカ故ニ清朝ハ勿論明朝時代ノ國家ノ外國ニ對スル權義ヲ持續スヘキナリ

第二 一國滅亡シテ數國ノ發生セシ場合
此場合ニハ前國家滅亡シタルモノナルカ故ニ權義ノ承繼ヲ生スルコトナシ

第三 一國ノ一部獨立シタル場合
一國ノ一部分離シテ獨立シタル場合ニ於テハ二箇ノ問題ヲ生ス即チ獨立シタル國家ノ權義、其本國ト
分離國トノ關係是ナリ

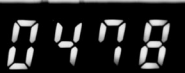
一 分離國ト本國トノ關係 分離以前ニ於テ其地方カ本國ノ一部トシテ有シタル權利義務ハ分離ニ因
リテ消滅ス故ニ分離以後ニ於テハ承繼ノ問題ヲ生セズ分離國ト本國トノ間ノ新ナル權義ノ問題ト爲

ル例ハ北米合衆國カ其母國タル英國ヨリ分離セシ後其以前ヨリ繼續シ來リタル「ニューファウン
ランド」(英領)ノ漁業權ヲ以テ既得ノ權利トシテ英國ニ對シ主張シタリト雖モ英國ハ之ヲ以テ不當
ナリ既得權ハ國內法上ノ法理ニシテ國際上ノ法理ニ非ストシ故障ヲ申出テ遂ニ合衆國ノ敗ト爲レリ
是レ英米間漁業問題ノ一ナリ千八百三十一年白耳義カ和蘭ヨリ分離セシ場合ニハ特別ノ條約ヲ以テ
詳細ナル議決ヲ爲シテ未發ニ防キタリ

二 分離國ト他國家トノ關係 此場合ニ於テハ分離國ハ本國ノ權義ヲ他國家ニ對シテ繼承セサルヲ原
則トス然レトモ分離國カ母國ノ一部分タリシ場合ニ其土地ニ專屬セシ權義ハ之ヲ繼承セサルヘカ
ス例ヘハ其地ニ築港ノ舉アリテ其爲メニ負債セルトキハ其負債ハ分離國ノ負擔タルカ如シ

然レトモ前示ノ例外ニ對シテハ更ニ例外アルコトヲ知ラサルヘカラス即チ其土地ニ專屬セシ權義ナ
リト雖モ若シ從前ノ國家ノ獨立ニ關係セル權義換言スレハ政治上又ハ軍事上ノ負擔權義ナルトキハ
決シテ承繼スルコトナシ例ヘハ舊國家カ其地ニ外國軍隊ノ駐屯ヲ約セシカ如キ負擔ハ新獨立國家ニ
於テ承繼スルコトナキカ如シ

第四 一國ノ一部他國ニ割讓セラレタル場合
土地割讓ノ性質ニ付テハ異說アリ或ハ土地其物ノ事實上ノ割與ナリト云ヒ或ハ主權ノ分割ナリト云フ
然レトモ主權ハ不可分ナリ又割讓ハ法理的ナラサルヘカラス予ハ前國家カ割讓地上ニ從來及ホシタル
主權ヲ制限シ爾後讓受國ノ主權ヲ之ニ及ホスヲ以テ國際法上ノ法理ナリト信ス故ニ讓渡國カ嘗テ外國
トノ間ニ約セシ權利義務ハ原則トシテ讓受國之ヲ承繼セズ次ニ讓受國カ從來外國トノ間ニ爲シタル權
義ノ關係ハ其一般ノ性質ヲ有スルモノハ當然割讓地ニ及フヘキモノトス



以上ノ原則ニ對シテハ第三ニ付テ述ヘタルト同シク例外アルコトヲ忘ルルコト勿レ即チ其土地ニ附著スル權義ハ政治上又ハ軍事上ノ事項ヲ除キ讓受國ニ於テ承繼セサルヘカラス明治二十九年二月ノ勅令ヲ以テ我帝國カ諸外國ニ對シテ臺灣ノ開港ヲ宣言セシハ承繼ヨリ生スル當然ノ義務タリシナリ而シテ割讓地ニ在ル外國人ノ私有財産ハ之ヲ害スルコトヲ得サルハ國際法上ノ原則ナルカ故ニ我國内法ハ外國人ニ土地所有權ヲ與ヘサルニ拘ハラズ臺灣ニ於ケル外國人ノ從來ヨリ有スル所ノ土地所有權ヲ認メタリ

中立國ノ一部ヲ他國ニ讓渡シタル場合ニ於テ其割讓部分ハ尙ホ永久ニ中立タルヘキヤノ問題ニ付テハ次ノ二説アリ

第一説 曰ク永久中立ハ世界ノ平和ニ關ス故ニ其土地カ何レノ國ノ領土ト爲ルモ中立義務ハ之ヲ承繼セサルヘカラス然ラサレハ世界ノ平和ハ之ヲ保持スルコト能ハサルヘシト

第二説 曰ク永久中立ハ其土地カ其國家ノ組織部分ナルトキニ於テノミ然リ一部ヲ割讓シタルトキハ讓受國中立義務ヲ負擔スルコトナシト

顧フニ永世中立ノ義務タル土地其物ニ附著スルモノナルカ故ニ其一部ノ割讓アリタルトキハ讓受國其負擔ヲ承繼スヘク同一ノ理法ニ依リテ例ヘハ埃及國ヲ承繼シタル國家アルトキハ當然「スエズ」運河ノ中立義務ヲ認メサルヘカラサルナリ

第五 一國カ數國ニ分割セラレタル場合

此場合ニ於テハ後ノ國家ハ前ノ國家ノ權利義務ヲ悉ク繼承スルヲ原則トス然レトモ此原則ニ對シテモ亦一箇ノ例外アリ即チ其合併セラレタル國家カ獨立セルコトヲ前提トシテ存在スル權利義務即チ政治

上及ヒ軍事上ノ權義ハ其國家獨立ノ存在ヲ失フト同時ニ其權利義務モ亦從テ消滅スルモノニシテ後ノ國家ハ之ヲ繼承スルモノ非ス

如何ナル割合ヲ以テ權利義務ヲ繼承スルヤニ付テハ左ノ諸説アリ

第一ハ其土地ノ上ニ在ル人口ニ依テ人ヲ定ムヘシト爲ス説ニシテ波蘭分割ノ場合ニ行ハレタル所ナリ
第二ハ其土地ノ廣狹ニ依リテ之ヲ定ムヘシト云フ然レトモ人ニ貧富賢愚アリ土地ニ荒肥アリ故ニ此等ノ標準ハ適當ナルモノトシテ採用スルコト能ハス第三ハ其土地ヨリ收納スル租稅額ニ依リテ之ヲ定ムヘシト爲ス即チ此説ニ依ルトキハ其土地ニ對スル富ノ如何ニ因リ其負擔ノ部分ヲ定ムルコトヲ得ヘキヲ以テ能ク公平ヲ得ルモノト謂フヘシ要スルニ此問題タル波蘭分割以後實際問題トシテ起リタル實例ナリ從テ未タ充分ナル研究ヲ爲スニ至ラス

第六 數國滅亡シテ一國成立シタル場合

第七 一國カ他國ヲ合併シタル場合

以上二箇ノ場合ニ於テハ何レモ前國家ノ權利義務ヲ承繼スヘク政治上又ハ軍事上ノ事項ニ付テハ例外ヲ成スモノナルコト前ノ場合ト異ナラス

等五章 國家ノ代表機關

國家ノ代表機關ハ之ヲ分テ二ト爲ス一ハ政治上ノ代表機關ニシテ二ハ經濟上ノ代表機關ナリ前者ハ外交官ニシテ後者ハ領事官ナリ

第一節 外交官

國家ノ政治上ノ代表機關タル外交官ニハ常設的ノ外交官ト臨時的ノ外交官トアリ其何レニ屬スルヲ問ハス外交官ハ政治上ノ目的ヲ以テ外國ニ派遣セラレ外國ニ於テ本國ノ其國ニ對スル政治的行爲ヲ爲ス者ナリ外交官ハ(イ)政治上ノ行爲ヲ爲ス者ナルカ故ニ領事又ハ外債募集ノ任務ヲ帶ヒテ外國ニ派遣セラレタル者其他ノ國家機關ハ外交官ニ非ス(ロ)又外國ニ派遣セラレル者ナルカ故ニ縱令外國トノ間ニ立テテ政治上ノ行爲ヲ爲スモ外務大臣其他ノ大臣ハ外交官ニ非ス外交官タルニハ以上ノ二要件ヲ具備セサルヘカラス

臨時的ノ外交官ハ古代ヨリ存在シ常設的ノ外交官即チ公使ハ近時ノ發達ニ係ル希臘ノ使節タル *Legation* 羅馬ノ使節タル *Ambasciatore* ハ何レモ一時的ノ外交官ニシテ東洋諸國ニ於ケル古代ノ使節モ亦然リ推古天皇ノ十五年ニ於テ小野妹子ヲ隋ニ遣ハシタルカ如キ臨時的ノ外交官ナリシナリ而シテ常設的公使ノ起原ニ付テハ學說一定セス「マルテンヌ」ノ如キハ中古羅馬法王カ「フランケン」王ニ對シテ *Legationes* 常設的ニ派遣セシニ始マルト説キ「ヘフター」「ランケ」等ハ古代ノ希臘ノ使節ニ基クモノナリト論ス又「クラウスケ」ハ千八百八十五年常設外交發達史ヲ著シ千四百五十五年ニ於テ伊太利「ミラノ」ヨリ「ゼノア」ニ派遣シテ常駐セシメタル使節ヲ以テ外交官ノ嚆矢ナリトセリ然レトモ國際法上常設使節ヲ約定シタルハ千六百四十八年「ウエスファリア」會議ニ在リ而シテ今日ニ至リテハ殆ト總テノ國家ハ其使節ヲ外國ニ常駐セシムルニ至レリ

公使ハ必ス之ヲ授受セサルヘカラスルカ「マルテンヌ」「ヒューブラー」ノ如キハ特約ナキ限ハ之ヲ接受

差遣スルノ義務アルモノニ非スト論スト雖モ今日各國家カ國際團體ニ加入シ相互ニ交通セル以上ハ國家ノ代表機關タル外交官ノ授受ハ權利タルト同時ニ義務ナリト解セサルヘカラス故ニ若シ自國ノ國力薄弱ニシテ外國ニ使節ヲ常駐セシムル資力ナキトキハ此義務ノ履行不能ナルヘシト雖モ外國使節ノ駐劄ヲ拒絕スルコト能ハサルヘシ

公使ヲ外國ニ常駐セシムル理由如何今日ニ於テハ本國ト駐在國トノ關係ヲ親密ナラシムルヲ目的トシ縱令使節ヲ常置セサルモ事電書面等ヲ以テ辨シ得ルカ如シト雖モ斯ル通信ハ時ニ意思ノ誤解ヲ生シ易ク相互間ノ眞意ヲ疏通スル能ハサルコトアルヲ以テ特定ノ適任者ヲ條交國ニ駐マラシムルニ至レルナリ然レトモ其内意ニ至リテハ必スシモ然ラサルモノアリ駐在國カ本國及ヒ第三國ニ對シテ不穩ノ舉動ナキヤ否ヤヲ監視スルコトモ常駐使節ヲ設クル目的ノ一ナルヘシ但是レ政治上ノ理由ニシテ國際法上ノ理由ニ非ス古昔ニ於テハ寧ロ之ヲ以テ唯一ノ目的ト爲シタルモノノ如シ「サー」「ヘンリー」「ウ」トシ「エリサベス」(時代)ハ外交官ヲ説明シテ曰ク全權大使トハ國家ノ幸福ヲ圖ランカ爲メニ外國ニ於テ詐欺ヲ働クモノナリ

駐外公使ハ相集マリテ外交團ヲ組織ス外交團 (*corps diplomatique*) ハ公使全體ニ共通ナル利害問題ニ關シ及ヒ儀式ニ關シテ一致協同ノ活動ヲ爲スル目的トシ之ニ團長 (*chef de corps*) アリ團長ハ大使ヲ以テ之ニ充ツト雖モ「カトリック」教國ニ於テ羅馬法王ノ大使アラハ之ヲ團長ニ推スモノトス抑モ外交團ハ第十八世紀ニ於テ埃地利ニ發達シタルモノニシテ當時同國ハ實ニ外交ノ中心ナリキ而シテ法王ノ大使ヲ以テ團長ト爲スハ宗教上ノ尊敬ニ出ツルモノニシテ時トシテハ或國家カ「カトリック」教國ナルヤ否ヤニ付キ疑ヲ生スル場合アリ十數年以前ニ於テ「ブラジル」ニ此實例アリキ若シ此點ニ付キ疑アルトキハ其

國法ニ依リテ決スルノ外ナカルヘシ

第一 公使ヲ派遣スル者

公使ヲ派遣スル者ハ國家ナリ然レトモ國家内ノ如何ナル機關カ之ヲ任免スルカハ國內法上ノ問題ニ屬ス各國ノ國內法ヲ通覽スルニ其國ノ元首ニ此權アルヲ通例ト爲スモ露國ニ於テハ露領トルキスタンニ總督ニ英國ニテハ印度總督ニ其國ヨリ外國ニ領事ヲ派遣スルノ權ヲ委ネタリ

一部主權國ハ原則トシテ公使授受ノ權ナシ唯條約ニ依リテ領事ヲ授受スルノミ然レトモ公使授受ノ權ナキコトノミヲ以テ一部主權國ノ特徵ト爲スコト勿レ變例トシテ此權ヲ有シツツ而モ一部主權國タルモノナキニ非ス韓國ノ如キ之ニ屬ス

政合國ニ於テハ之ヲ組織セル國家ニ公使授受ノ權アルコトナク政合國家ニ此權アルモノトス合衆國亦然リ北米合衆國ノ千七百八十一年ノ憲法ハ各州ニ此權アリトセシモ千七百八十七年ニ改正セラレテ合衆國ノミ此權ヲ有スルニ至レリ然レトモ聯邦ニ於テハ其組織國家ハ聯邦國家ト獨立シテ公使ヲ授受スルコトヲ得

羅馬法王ハ國家ニ非ス然レトモ「カトリック」教國ニ於テハ羅馬法王ヲ崇拜スルヲ以テ羅馬法王ハ公使ヲ授受シ而モ法王ノ大使ヲ以テ最モ上席ニ置クノミナラス其位置ヲ他公使ノ上ニ置クコトトセリ故ニ羅馬法王ノ大使ハ縱令最後ニ其國ニ赴任シタル場合ニ於テモ古參ノ他大使ヲ超エテ優遇ヲ受クルモノトス然レトモ是レ事實ニシテ國際法上ノ權利トシテ授受シタル使節ニ非ス

第二 公使ト爲リ得ル者

公使トシテ派遣セラルル適格者ニ付キ國際法上ヨリ之ヲ研究セン抑モ國家ハ外國使節ヲ受クルノ權利

ヲ有スルト同時ニ義務ヲ負フモノナルコトハ前述ノ如シト雖モ是レ國際法上適格者タル使節ニ付テ云フモノニシテ若シ不適當ナルモノヲ差遣シタル國家アルトキハ之ヲ公使トシテ受クルヲ拒絕スルコトヲ妨ケス故ニ公使ト爲リ得ル者ニ付テノ問題ハ國家ハ如何ナル特定ノ使節ヲ使節トシテ拒絕スルコトヲ得ルヤノ問題トシテ研究スルコトヲ得ヘシ

一 女子ヲ使節ト爲スコトニ付テハ古代ニ在リテハ行ハレタル所ニシテ今日ニテモ米國ニテハ女子ニ公使タル權利ヲ付與スヘシト論スル者尠カラズ「ホール」曰ク國家ハ女子タルノ理由ヲ以テ其使節ヲ受クルコトヲ拒ムヲ得スト

二 自國人又ハ外國人ヲ使節ト爲スコトヲ得ルヤ前者ニ付テハ自國人ヲ公使トシテ受クルコトヲ拒ムトセル國家アリ又之ヲ是認セル國家アリテ國際法上確定セル規定アルコトナシ各國ノ自由裁量ニ委ヌ又後者ニ付テハ之ヲ公使トシテ拒絕スルコトヲ得ス日清媾和ニ先チ清國ノ使節ナリト稱シテ來朝セシ米國人「フエスタ」ヲ拒絕セシハ全權ニ缺タル所アリシカ故ニシテ外國人タルカ故ニ非ス

三 其他國家ハ其特定人ノ不適當ナルコトヲ摘示シテ之ヲ拒絕スルコトヲ得ヘシ例ヘハ千八百八十五年北米合衆國カ「ケレー」ナル者ヲ公使トシテ伊太利ニ派遣セルニ同國ハ「ケレー」カ嘗テ伊太利國王ノ羅馬法王ニ對スル處置ヲ批難シタルコトアル理由トシテ之ヲ拒絕シタルヲ以テ更ニ埃地利國王ニ派遣シタルニ同國ハ同盟國タル隣邦ノ拒絕シタル外國使臣ヲ接受スルコトヲ好マストノ理由ヲ以テ亦之ヲ拒絕セリ又千八百四十七年普瀟西ヨリ「ハノーバー」ニ派遣シタル公使ハ天主教信者ナリシヲ以テ同國ハ斯ル宗教ヲ信スル者ハ之ヲ公使トシテ受クルコトヲ得ストノ理由ヲ以テ拒絕セリ其他千八百二十年伊太利國ハ普瀟西國ヨリ派遣セラレタル公使ノ妻カ叛逆人ノ娘ナリシトノ理由ヲ以

テ拒絕シタルコトアリキ

然レトモ公使ヲ拒絕スルコトハ獨リ拒絕セラレタル特定人ノ恥辱タルノミナラス其派遣國家ノ惡感情ヲ惹起スルノ基因タルヲ以テ今日ニ於テハ派遣國ハ先ツ以テ公使トシテ派遣スヘキ者ヲ豫メ相手國ニ通知シ其内意ヲ問フヲ一般ノ慣例トス此書面ヲ稱シテ *de jure* ト謂フ

次ニ國家ハ既ニ公使トシテ受ケタル者ヲ拒絕スルコトヲ得ル場合アリ此場合ニ關スル實例ハ北米合衆國ニ駐在セシ英國公使カ白晝淫賣婦ヲ隨伴シテ公園ヲ逍遙セシヲ以テ之ヲ公使トシテ長ク受ケタルコトヲ拒ミタルカ如キ明治十六年我國ニ於テ時ヲ外務卿ノ條約改正談判ニ關スル機密ヲ漏洩セシカ爲メニ和蘭國公使ヲ拒絕シタルカ如キ其他「ブルガリア」駐在ノ露國公使カ駐在國ノ一揆ヲ煽動セシカ爲メニ「ブルガリア」カ其本國ニ對シテ呼戻ヲ請求セシカ如キ是ナリ之ヲ要スルニ公使トシテ受ケタル以前ノ拒絕ハ寧ロ容易ナリト雖モ之ヲ受ケタル以後ノ拒絕ハ前者ニ比シテ重大ナル事由タルコトヲ要スルノ差アリ

公使ノ數ハ一人ナリ何トナレハ或政務ニ關シテ一國ヲ代表スル全權者ハ二人以上アリ得ヘカラサレハナリ勿論臨時公使ノ場合ニ於テハ數人ニ任命スルコト多シト雖モ其中ノ一人ヲ以テ主タル使節ト爲ササルヘカラス國際會合ノ場合ニ此例多シ然レトモ一國ニ對シテ必スシモ一人ノ公使ヲ駐在セシムルノ必要ナシ事務繁簡ノ都合ニ依リ數國ニ向テ一人ヲ派遣スルコトヲ妨ケス支那ノ如キハ嘗テ歐洲全國ニ向テ一人ノ使節ヲ派遣シタルコトアリキ

第一款 外交官ノ階級

古昔ニ於テハ公使ニ階級ナク一般ニ之ヲ *ambassadeurs* ト稱シ或特別事件ノ爲メニ派遣セラレル者ヲ *chargés* ト云ヒシニ過キサリシカ千八百十五年ノ「ヴィヤナ」會議ニ於テ全權大使、全權公使及ヒ代理公使ノ三種ヲ認メ其後千八百十八年「アーヘン」會議「ニキスラシヤベル」ノ會議ニ於テ後二者ノ間ニ辨理公使ヲ加ヘテ今日ニテハ四段ノ階級アルニ至レリ

第一 全權大使 (Ambassadeurs)

全權大使ヲ授受スルノ權ハ所謂王の榮譽ヲ有スル國家ノミ之ヲ有スルコトハ嘗テ説明セシ所ナリ然ルニ「マルテンズ」ノ如キハ之ニ反對シテ何レノ國家モ對等ノ權アリ所謂王の榮譽ヲ有スル國家ニ付テ特例ヲ認ムルハ理由ナキコトニシテ是レ唯事實上然ルノミ法理論トシテハ探ルニ足ラサルモノナリト論スト雖モ予ハ此慣習ハ既ニ慣習法トシテ確立セルモノニシテ全權大使ノ授受ハ王の榮譽ヲ有スル國家ノ特權ナリト信ス而シテ實際ニ於テハ全權大使ノ授受ハ相互的ニ行ハルト雖モ之ニ對シテ公使ヲ差遣スルモ國際法違反ニ非ス

大使ヲ分テ二種トス其一ハ羅馬法王ノ派遣スル大使ニシテ其二ハ一般ノ特命全權大使ナリ羅馬法王ノ派遣スル大使ハ之ヲ「ノンス」*nonces* ト稱ス羅馬法王ヨリ其代表者トシテ「カトリック」敎國ニ對シテ派遣スルモノナルカ時ニ或ハ「カトリック」敎國ニ非サル國家ニ對シテ派遣スルゴトアリ其使節ノ性質ハ前ニ説明セシカ如シ

一般ノ特命全權大使ハ宗教上ノ意味ヲ有セス然レトモ單ニ其本國ノ政治的機關タルニ止マラスシテ本國君主ノ一身ヲ代表ス「ヴィアナ」條約第二條ニ於テ代表的性質 (*representative character*) ナル文字アルハ此意義ニ解セサルヘカラス從テ大使ノ駐在スル場合ニ於テハ其國家ハ外國ノ君主自身駐在スルト

0482

同一ナリ是ヲ以テ大使ノ享有スル特權普通外交官ノ享有スル特權ト大ニ異ナル所アリ而シテ其享有スル特權ニ實質的ト形式的トノ二アリ左ニ之ヲ分説スヘシ

一 實質的ノ特權 實質的特權トハ其駐在國ノ元首ト直接談判ヲ開始スル權利ヲ有スルコトヲ謂フ也ノ一般外交官ハ直接ニ元首ト談判スルコトヲ得サルニ反シ特命全權大使ハ本國君主ヲ代表セルヲ以テ直接ニ駐在國元首ト談判スルコトヲ得此ノ如ク大使ハ元首ト直接談判ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ本國君主ハ其談判ノ結果タル權利義務ヲ直チニ有スルニ至ルモノニ非スシテ此問題ニ付テハ之ヲ區別シテ論セサルヘカラス即チ其本國カ立憲國ナル場合ニ於テハ他ノ國家機關ヲ經ルニ非サレハ直チニ其談判ノ結果ヲ受クルモノニ非ス然レトモ若シ君主專制國ナル場合ニ於テハ其君主ハ直チニ其談判ノ結果タル權利ヲ受ケ義務ヲ負擔スルニ至ルモノトス

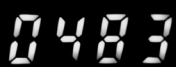
二 形式的ノ特權 形式的ノ特權中ニハ(一)「エキセレンス」(閣下)ノ稱號ヲ受ケ(二)駐在國ノ元首ハ元首ノ配偶者ニ向テ自ラ本國ヨリ特參セル信任狀ヲ捧呈スル場合ニ於テ特別ナル待遇ヲ受クヘキモノトス其儀式ハ各國ニ於テ異ナリ(三)始メテ元首ニ謁見スル場合ニ頭ヲ蔽フ權アリ(四)普通ノ公使ハ新ニ駐在國ニ著任シタル場合ニ當時其國家ニ駐在セル他ノ公使ヲ訪問セサルヘカラスルモ特命全權大使ハ却テ他ノ公使ヨリ訪問セサルヘカラス即チ大使ハ既ニ駐在セル公使ヨリ訪問ヲ受クルノ權利アリ(五)大使ノ應接室内ニハ皇帝ノ著席スヘキ椅子ヲ備ヘ置クコトヲ得(六)儀式等ノアル場合ニ於テハ六頭馬車ヲ使用スルコトヲ得又其車ノ頭上ニ赤色ノ絹布ヲ掛クルコトヲ得ル等はナリ特命全權大使ニ附從シテ大使ノ妻モ之ト同一ノ優待ヲ受ク即チ大使ノ妻ハ職務ヲ執行スル者ニ非サルモ恰モ職務ヲ執行スルト同一ノ待遇ヲ受クヘキモノトス從テ特命全權大使夫人閣下ノ稱號ヲ受ケ又始

メテ元首ニ謁見スル場合ニ於テモ大使ノ受クルト同一ナル待遇ヲ受ク又他ノ公使ヨリ前ニ謁見スルコトヲ得次ニ宮廷ニ於ケル著席ル次ニ付テモ特命全權大使ノ次席ニ著席スルコトヲ得ヘク公使等ハ其次ニ著席スルモノナリ又倚リ凭リナキ椅子ニ坐スルノ權ヲ有ス

第二 全權公使 (Envoyé Extraordinaire et Ministre Plenipotentiaire) 特命全權公使トモ云フ特命全權公使モ亦本國君主ノ任命スル所ニシテ外國ニ派遣スル者ナリ而シテ其特命全權大使ト異ナル所ハ全權大使ハ本國ヲ代表スルノミナラス本國君主ヲ代表スル者ナリト雖モ全權公使ハ唯單ニ本國ヲ代表スル權利ヲ有スルニ過キス從テ全權公使ハ全權大使ノ如キ數多ノ特權ヲ享有スル者ニ非サルナリ

第三 辨理公使 (Ministre Resident) 辨理公使ハ特命全權公使ト略ホ同一ナルヲ以テ茲ニ其說明ヲ略ス唯前者ヨリモ一等級下位ニ在ル者ナルヲ以テ儀式等ニ於テモ其下位ニ立ツヘク又特命全權公使ヨリモ官等ノ卑キ者ヲ以テ之ニ任スルヲ常トス而シテ全權公使以外ニ於テ辨理公使ヲ認ムル國內法上ノ區別ヲ國際法ニ採用セシモノニシテ國內法上ニ於テモ辨理公使ハ其資格地位ニ於テ全權公使ノ下ニ立ツヲ常トス

第四 代理公使 代理公使ニ二箇ノ意味アリ其一ハ臨時代理公使 (Charge des Affaires) ニシテ其二ハ普通ノ代理公使 (Charge d'Affaires) ナリ臨時代理公使トハ公使ノ不在中其公使ノ代理ヲ爲ス者ヲ謂ヒ初ヨリ代理公使トシテ派遣セラレタル者ニ非ス故ニ寧ロ公使代理ト稱スルヲ可トス次ニ普通ノ代理公使トハ公使ノ駐在ナキ外國ニ對シテ代理公使トシテ派遣スル者ヲ謂フ而シテ此代理公使ハ君主ヨリ派遣スル者ニ非スシテ外務



省ヨリ命令シ派遣スル者ナリ特命全權大使、特命全權公使、辦理公使ハ本國君主ヨリ外國君主ニ對シテ派遣スル者ナルコトハ前既ニ説明セル所ナリ之ニ反シテ代理公使ハ本國外務省ヨリ外國外務省ニ對シテ派遣スルモノナリ從テ代理公使ハ閣下等ノ稱號ヲ享有セス此點ニ於テハ臨時代理公使モ亦同一ナリトス

以上説明シタル所ハ常設公使ノ階級ニ屬ス次ニ職務上ヨリ外交官ヲ區別スルトキハ形式上ノ職務ヲ有スル外交官(ambassadeur de cérémonie)及ヒ實質上ノ職務ヲ有スル外交官(ambassadeur de négociation)ノ二ト爲スコトヲ得例ヘハ戴冠式ニ列スル大使ノ如キ又ハ謝罪使ノ如キハ前者ニ屬シ政治上軍事上ノ職務ヲ有スル外交官ハ後者ニ屬ス而シテ後者ハ更ニ之ヲ分テ二ト爲ス一時的ノ外交官及ヒ繼續的ノ外交官即チ是ナリ常設公使ハ後者ニ屬シ媾和ニ關スル全權委員ノ如キ仲裁裁判ニ出席スル委員ノ如キハ前者ニ屬ス

第二款 公使ノ授受

公使タルノ地位ハ國內法ニ於テハ其任命ニ依リテ始マルヘシト雖モ國際法上即チ駐在國家トノ間ニ在リテハ其國內ニ入り信認狀(Letter de créance)ヲ捧呈シタル時ニ於テ其地位ヲ得ルニ至ルモノトス信認狀トハ本國ノ元首(外務大臣)カ其公使ヲ信認スル意思ヲ表示シテ駐在國ノ元首(若クハ外務省)ニ信テタル書面ナリ而シテ其信任狀ハ全權大使、全權公使及ヒ辦理公使ニ在リテハ其駐在セントスル國家ノ元首ニ宛テ代理公使ニ在リテハ外務省ヨリ其駐在セントスル國家ノ外務省ニ宛ツルモノナルコトハ前既ニ述ヘタル所ナリ而シテ其信任狀中ニハ公使タルヘキ者ノ官職、姓名等ヲ記載スルヲ例トス又特

派ノ公使ノ場合ニ於テハ別ニ全權狀(Letter patent)ヲ授與スルヲ普通トス蓋シ一般的ノ職務ニ非スシテ特別ナル事項ニ關シ議スルモノナレハ特ニ全權狀ヲ授クル必要アレハナリ故ニ常設公使ハ信認狀以外ニ於テ全權狀ヲ携フルコトナシ尙ホ此他訓令書(Instruktion)ヲ授クル場合アリ其訓令書中ニハ公使ノ職務ヲ執行スルニ必要ナル事項ヲ記載スルモノトス既ニ全權狀ヲ授ケ之ニ權限ノ事項ヲ記載スル以上ハ訓令書ノ必要ナキカ如シト雖モ職務ヲ執行スル場合ニ或ハ秘密ヲ要スルコトアリ此等ノ場合ニハ其秘密事項ヲ訓令書ニ記載スヘキヲ以テ全權狀以外ニ之ヲ必要トス蓋シ訓令書ハ必スシモ對手國家ニ差出スコトヲ要セサルモノナレハ秘密ニ之ヲ携帶スルコトヲ得ヘケレハナリ而シテ此訓令書ハ之ヲ公ニスルモノナリ又ハ秘密ニスルモノアリ前者ハ之ヲ對手國ニ差出スモノナリト雖モ後者ハ之ヲ差出ササルモノナリ而シテ此公ノ訓令書及ヒ秘密ノ訓令書ヲ公使ニ授與スル場合ニ於テハ此二者ハ決シテ相違アルヘカラサルナリ

其他或ハ公使ハ旅行免狀ヲ必要トスルカ如ク說明セル著書アルヲ見ルモ是レ古昔ニ行ハレタルコトアルニ止マリ今日ニテハ不用ニ屬シ實際之ヲ携帶スルコトナシ抑モ旅行免狀ナルモノハ一私人カ外國ニ赴ク場合ノ如キ其必要ヲ感スルコト甚ク大ナリ其故ハ此旅行免狀ハ其一人ノ外國ニ赴クコトヲ許容スルモノナレハナリ即チ犯罪人等ニ對シテハ決シテ之ヲ付與セサルカ故ニ此旅行免狀ヲ有スル者ニ對シテハ外國モ之ニ保護ヲ與フルヲ例トス故ニ一私人ノ外國ニ赴クヤ最モ此旅行免狀ヲ必要トスヘシ故ニ公使ト雖モ駐在國以外ノ國家ニ旅行スル場合ニ於テハ普通人ト同シク其國法ノ求ムル所ニ從テ之ヲ携帶セサルヘカラス抑、公使カ公使タル特權ヲ有スルハ駐在國ニ於テノ第三國ニ入ルトキハ此特權ヲ享受スルノ限ニ在ラス何トナレハ本國元首ノ信認及ヒ之ヲ受ケタル國ノ元首ノ認容ハ其境ヲ越エテ

效力ナケレハナリ「ブルンチユリー」ハ之ニ反對スト雖モ多數學者ノ採ラサル所ナリ此點ヨリ推論セハ駐在國ニ入ルノ途中ニ於テ旅行免狀ヲ必要ト爲スカ如キモ交通頻繁ナル今日ニ於テハ公使ノ發途ハ直チニ第三國ニ報道セラレ旅行免狀ヲ要セスシテ其公使ヲ通過セシムヘキヲ以テ結局公使ニハ此免狀ヲ必要トセザルモノトス

第三款 公使ノ特權

公使ノ特權トシテ説明スヘキモノ三アリ治外法權、不可侵權及ヒ信教自由ノ權即チ是ナリ

第一 治外法權 治外法權ノ性質及ヒ其範圍ハ既ニ説述セリ再説ノ要ヲ見ス

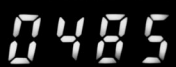
第二 不可侵權 不可侵權ト治外法權トノ差異ヲ示スコト甚タ困難ナリ英國多數ノ學者(例ヘハ「フーリモア」「ケント」「トイッス」「ロリマー」)如キ是ナリ)ハ二者ヲ以テ同一ナリト解シ或ハ公使ハ治外法權ヲ有スルカ故ニ不可侵權ヲ享受スト説明シ或ハ不可侵ナルカ故ニ治外法權アリト論スル者アリ然ルニ獨逸ノ學者ハ二者ヲ以テ全然別物ト云フモ如何ナル點ニ於テ差異アリヤト明カニセス之ヲ歸納的ニ觀察スルニ治外法權ハ消極的ノ性質ヲ有シ不可侵權ハ積極的ノ性質ヲ有スルカ如シ佛蘭西、獨逸等ノ刑法ニ於テハ外國ノ大使又ハ公使ニ對シテ或危害ヲ加ヘタル者ハ特ニ刑ヲ加重シテ罰スヘキコトヲ規定ス若シ之ヲ以テ公使ノ不可侵權ニ關スルモノトセハ公使ハ駐在國家ヨリ特別ナル恩惠ヲ受クルコトト爲リ積極的ノモノト爲ルナリ之ニ反シテ治外法權ナルモノハ單ニ公使カ外國ニ在リテ其法律ヲ適用ヲ受ケザルコトヲ謂フモノナルカ故ニ消極的ノモノナリ然レトモ國內法ニ於テ斯ル規定ナキ場合ニハ二者ノ間ニ差異ナキコトト爲ルヘシ

第三 信教自由ノ權 信教ノ自由ニ關シテ憲法上ノ保障アル國家ニ對シテハ特ニ之ヲ以テ公使ノ享有スル特權ナリト稱スルノ必要ナシト雖モ往往未タ宗教上ノ自由ヲ認メザル國家アリ斯ル場合ニ於テハ公使カ其國家ニ駐劄スル間ハ當然此特權ヲ享有スルモノトス例ヘハ支那ノ如キハ三十四年以前ニ於テハ國內ニ佛敎ノミヲ許シ耶蘇敎ヲ禁シタルヲ以テ駐在公使ハ公使館内ニ禮拜堂ヲ設ケ館員ノミナラス居留民ニモ參拜ヲ許容シ此事ニ付テ特別ノ條約ヲ締結シタルコトアリキ支那ト露國トノ間ノ條約ノ如キ是ナリ

其他往時ニ在リテハ東洋ニ在ル公使ニ付キ其館員ニ對スル民刑ノ裁判權ヲ認メタリト雖モ今日ニ於テハ此權ヲ認ムルコトナシ

第四款 公使ノ終了

公使終了ノ原因ハ次ノ如シ
一 公使ヲ派遣スル國家又ハ之ヲ受クル國家ノ滅亡 公使ヲ派遣シ又ハ之ヲ受クル主體ハ國家ナリ國家ニシテ滅亡スルトキハ公使ノ終了スルコト明カナリ
二 公使ノ死亡 公使ニシテ死亡スルトキハ其終了ヲ來スコト勿論ナリ從テ其家族從者等モ直チニ治外法權ヲ有セザルニ至ルヘキモノナレトモ國際法上便宜ノ爲メニ一定ノ期間内ハ治外法權ヲ有ス一定ノ期間内トハ此等ノ者カ其國ヲ退去スルニ必要ナル期間内ヲ謂フモノニシテ其期間經過後ハ此權ヲ有セザルニ至ルモノナリ又此精神ヲ擴張シテ公使ノ遺產ニ付テモ其相續人ニ移轉スルマテ治外法權アリト爲ス



然レトモ死亡シタル公使ノ葬式ニ與フル駐在國家ノ保護ヲ以テ治外法權ノ作用ナリト云フハ誤ナリ
或ハ大使ハ元首ノ代表者ナルカ故ニ其死去シタル時ニ於テモ葬式ニ付テ元首ト同シク治外法權アリ
ト論スル者アリト雖モ所謂代表ハ生前ニ於テ有スル觀念ニシテ死後ニ之アリト云フヘカラス故ニ一
般ニ公使ノ葬式ニ付テハ上述ノ如ク解セサルヘカラス

三 公使カ其國ノ駐在ヲ免セラレタル場合 或國ニ駐在ヲ命セラレタル公使カ其駐在ヲ免セラレタル
トキハ公使ハ終了ス其公使タルコトヲ免セラレタル場合亦同シテ此場合ニ於テモ其後一定ノ期
間内ハ便宜上公使タル特權ヲ保有ス然レトモ賜暇歸朝ハ駐在ヲ免セラレタルモノニ非ス又其公使タ
ルコトヲ免セラレタルモノニ非サルヤ勿論ナリ

四 駐在國カ公使ヲ拒絶シタルトキ 國家ハ或外國公使ヲ公使トシテ受クルコトヲ拒絶シ又ハ一旦公
使トシテ受ケタル者ノ駐在ヲ拒絶スルヲ得ヘキコト前ニ述ヘタルカ如シ茲ニ駐在國カ公使ヲ拒絶シ
タルトキト云フハ此後ノ場合ニ該當ス

五 戰爭ノ開始 公使ヲ派遣シタル國家ト之ヲ受ケタル國家トノ間ノ戰爭ハ公使ヲ終了ヲ來スモノナ
リ蓋シ公使ナルモノハ其派遣セラレタル本國ト駐在國トノ間ノ平和的關係ヲ維持スルカ爲メニ派遣
セラレタルモノナレハ其兩國ノ間ニ開戦アリタル場合ニ於テハ其目的ト職務トヲ失フニ至ルヘケレ
ハナリ而シテ純理上ヨリ云フトキハ兩國間ニ開戦スルト同時ニ公使ハ公使トシテノ待遇ヲ受ケサル
ヘキモノナレトモ其駐在國ノ國境ヲ出ツルマテ依然公使タル待遇ヲ留存シ之ニ伴フ特權ヲ付與スル
モノト是レ前示公使ノ免セラレタル場合ト同シク便宜上ヨリ生シタル慣例ナリ又戰爭ノ開始ト共
ニ當然其本國ニ歸來セサルヘカラサルモノニ非ス若シ數國ニ派遣セラレタル公使ナルトキハ他ノ平

和關係ヲ持續スル國家ニ赴クコトヲ妨ケス

戰爭ノ開始ハ公使終了ノ原因タリ然レモ或ハ之ヲ以テ單ニ中止ノ原因タルニ止マルモノナリトスル
見解スリ例ヘハ千八百六十六年普墺戰爭アリシカ其以前ヨリ普瀋西ニ駐劄セシ墺太利公使ハ開戦ト
同時ニ本國ニ歸去シ平和克復ノ後ニ於テ再ヒ同國駐劄ヲ命セラレタリシカ開戦前ニ借受ケタル該地
所在ノ家屋ニ付キ再來後尙ホ之ヲ借受クル權利アリト主張シ其理由トシテ開戦ハ公使ヲ終了ニ非ス
一時ノ中止ナリト論述セリト雖モ予ハ之ヲ以テ認見ナリト斷スルニ憚ラス

六 公使ノ本國又ハ駐在國ノ元首ノ死亡又ハ禪位 一般ニ公使ハ國家ヲ代表スルモノニシテ元首ヲ代
表スルモノニ非ス故ニ其國家ノ滅亡ハ公使ヲ終了ヲ來スコト勿論ニシテ前ニ説示シタルカ如シト雖
モ元首ノ死亡ハ公使ニ影響スヘキ理由ナキカ如シ然レトモ嘗テ論述セシカ如ク公使ハ第四級ノ者ヲ
除クノ外ハ元首ヨリ信任ヲ得テ派遣セララルモノニシテ駐在國ノ元首モ亦其親任狀ニ信賴シテ之ヲ
受ケタルモノナルカ故ニ其何レカ一方ノ元首ノ死亡又ハ禪位ハ因テ信賴スルニ至リタル公使ノ信任
ノ根基ヲ動カスノ結果トナルモノト去レテ實際ニ於テハ公使ヲ派遣シタル國家ノ元首ノ死亡又ハ禪位
ル場合ニ於テモ駐在國ノ元首ハ在來ノ公使ノ信任ヲ默認シ又ハ駐在國ノ元首ノ死亡又ハ禪位アリタ
ル場合ニ於テ本國元首ヨリ新ニ親任狀ヲ送付シテ公使其人ノ變更ヲ爲ササルコト一般ナリト雖モ此
關係ノ法理的觀察ハ上述ノ如クスヘキナリ第四級ノ公使ノ場合ニ於テ外務大臣ノ死亡ハ公使終了ノ
原因ト爲ルモノニ非ス何トナレハ此種ノ公使ノ派遣ハ外務省ヨリ爲スモノニシテ或特定ノ大臣カ當
時外務省ノ長官タル椅子ニ在リシコトハ偶然ノ事實ナレハナリ故ニ其本國ノ存續シ及ヒ其公使ニ他
ノ終了原因存セサル限ハ此種ノ事實ハ公使ニ影響ナキモノナリト知ルヘシ



七 特別ノ職務ノ爲メニ派遣セラレタル場合ニ於テ其職務ノ終了セル場合 例へハ戴冠式ニ參列スルカ爲メニ派遣セラレタル場合ニ於テ其儀式ノ終リタルカ如キ締和條約ヲ締結スルカ爲メニ派遣セラレタル場合ニ於テ其締結ヲ終リタル場合ノ如キ是ナリ然レトモ前展其例ヲ見タルカ如ク其職務終了後一定ノ期間内即チ其國ヲ退去シテ國境ヲ辭スルマテノ期間内ハ便宜上禮儀上其特權ヲ持續スルモノトス

其他國家ノ政體變更スルモ元首ニ變更ヲ來ササル場合ニ於テハ公使終了ノ原因ト爲ルコトナシ例へハ我日本國カ從前專制政體ナリシニ後ニ立憲政體ニ變シタルカ如キ場合ニ於テモ元首ノ變更ナカリシヲ以テ公使ニ影響スル所ナカリキ又國家カ一時無政府ノ狀態ト爲ルコトアルモ等シク公使ニ影響スル所ナシ例へハ我國カ維新前ニ於テ一時無政府ノ狀態ニ陥リシコトアリシモ公使ニ何等ノ關係ヲモ及ホササリキ其他公使ノ本國ト駐在國トノ間ニ葛藤ヲ生シ他ノ代表者カ其駐在國政府ト交渉談判スルカ如キ場合ニ於テハ公使ハ實際職務ヲ執ラサルコトアルヘキモ是レ公使ノ中止ノミ其終了ニ非サルナリ

第五款 一部外交官

一部外交官ハ其職務カ一部外交的ノ性質ヲ有スル場合ニ存スルモノニシテ「ヒューブラー」ノ所謂半外交官ナルモノ即チ是ナリ多數ノ學者ハ之ニ關シテ詳細ナル説明ヲ試ミスト雖モ其實質ヲ認ムルコト勿論ナリ一部外交官ハ斯ノ如ク其職務カ所謂外交官ノ其レト一部其性質ヲ同シウスルモノナルカ故ニ其職務ノ範圍甚タ廣汎ニシテ一枚擧スルコト能ハス今左ニ一例ヲ示シテ參考ニ資セン

- 一 本國ヨリ信任ヲ得テ駐在スルモ駐在國ヨリ明カナル接待ヲ受ケサル場合 一部外交官ハ縱令本國ヨリ親任狀ヲ受ケ外國ニ在ル場合ト雖モ其駐在國ヨリ外交官タル待遇ヲ受ケサル場合アリ例へハ駐在國ニ秘密ニ派遣セラレタル場合ノ如キ是ナリ清國ノ王之春カ露國ニ派遣セラレタルハ此適例タリ然レトモ此等ノ外交官ニ對シテモ慣習ニ因リ特權ヲ付與スルコトアリ
- 二 公ニ信任ヲ受ケテ駐在國ニ赴キ且駐在國ヨリ相當ノ待遇ヲ受クルモ外交專門ノ爲メニ派遣セラレタルニ非サル者 例へハ技術家カ國境ヲ一定スル爲メニ派遣セラレタル場合ノ如キ是ナリ斯ル者ニ對シテハ多クノ場合ニ於テ條約ヲ以テ公使等ト同一ノ特權ヲ享有セシムルコトヲ以テ普通トス
- 三 半獨立國ノ外交官モ亦一部外交官ナリ 宗主國カ其一般事務ニ付テ代表スルヲ以テナリ 縱令政事上ノ目的ヲ以テ本國力之ヲ信任シテ派遣スルコトアルモ駐在國家力之ヲ使節トシテ受ケサルトキハ其者ハ一部外交官ニ非ス例へハ我國ニ滯留セシ韓國亡命者金玉均、朴永孝等ノ行動ヲ觀察セシムル目的ヲ以テ朝鮮國家カ適任者ナリト信任シテ我國ニ人ヲ派遣スルコトアルモ我國ハ之ヲ使節トシテ接受シタルモノニ非ザルヲ以テ管ニ之ヲ優遇スルノ必要ナキノミナラス必要ノ場合ニ於テハ之ヲ國境外ニ追放スルコトヲ妨ケス其他元首ノ私用ヲ以テ外國ニ赴ク者モ亦一部外交官ニ非ス例へハ露國皇帝カ其皇女ヲ獨逸ノ皇太子妃ト爲サンカ爲メニ使臣ヲ獨逸ニ送り其意ヲ通セシムル場合ノ如シ而シテ子ハ前ニ君主ノ行爲ニ公私ノ差別ヲ立ツルコト能ハサル旨ヲ論セシカ故ニ其推論ヨリシテ此場合ニハ事公務ニ關シ從テ其使臣ハ外交官ノ性質ヲ帶フルモノナリト解決スヘキカ如シト雖モ國家ノ公務ハ即チ是レ政事上ノ事務ナリト云フコトヲ得サルカ故ニ此種ノ使節ヲ以テ政事上ノ任務ヲ要素トセル外交官ナリト決定スルコト能ハサルハ勿論ナリ

0487

第二節 領事

領事ハ本國ノ經濟上ノ代表者ナリ其外國ニ駐在シテ職務ヲ執ルノ點ニ於テハ公使ト異ナルコトナシト雖モ其實質ニ付テハ實ニ大ナル差異アリテ存ス即チ(イ)公使ハ政治上ノ代表者ナルモ領事ハ經濟上ノ代表者タル根本的ノ差異以外ニ於テ(ロ)公使ハ其數ニ限アルモ領事ハ然ラス公使ハ一國ニ對シテ一人ナルヲ常例ト爲スニ反シ領事ハ一國內ノ諸所ニ駐在スル數人ヲ設クルヲ常トス是レ政治上ノ利害關係ハ一ナルヘシト雖モ經濟上ノ利害關係ハ一國內ノ各所ニ依リテ異ナルヘケレハナリ又(ハ)公使ノ授受ハ特別ノ條約ヲ待ツコトナキニ反シ領事ノ駐在ハ條約ノ定ムル所ニ從フヘキモノトス而シテ之ヲ定ムルニ付キ何レノ場所ニ於テモ之カ駐在ヲ許可スルヲ原則トシ其駐在ヲ許ス國家ニ不利益ナル土地ニ付テハ特ニ之ヲ指定シテ許容セサル主義ト先ツ其領事ヲ駐マラシムヘキ場所ヲ限定スル主義トノ二アルヲ見ルヘク前者ハ今日文明諸國ノ採用スル所ニシテ日露條約第一五條第一項但書ノ如キハ明カニ「領事官ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラサル場合ハ此限ニ在ラス」ト規定セリ是レ開戰前貿易事務官ヲウラジオストツクニ置キタル必要アル所以ニシテ露國ハ同港ヲ以テ日本領事官ヲ駐在セシムルニ便宜ナラストスルモ而モ經濟上ノ觀察監督等ニ關シテ我國ヨリ事務官ヲ派遣スルノ必要アリシヲ以テナリ日伊、日英條約第一六條第一項但書モ亦同様ノ規定ヲ設ク

第一款 領事ノ種類

國際法上領事ヲ區別スルトキハ領事發生ノ原因如何ニ依リ及ヒ其權限ノ如何ニ依リテ任命領事、選舉領事、名譽領事及ヒ通商領事、裁判領事ノ二ト爲スコトヲ得ヘシ

第一 任命領事、選舉領事及ヒ名譽領事 任命領事(又ハ職務領事)ハ本國ノ官吏タル領事ニシテ名譽領事ハ外國人ニ領事ノ職務ヲ執ラシムルモノナリ又選舉領事ハ古代ニ於テ外國駐在ノ自國人中ヨリ選舉シ之ニ一定ノ職務ヲ執ラシメタルモノニシテ前ニ沿革中ニ略說セシ所ナリ然レトモ今日ニ於テハ既ニ此種ノ領事ヲ見サルニ至レリ何レモ領事ト稱スト雖モ其間著シキ性質上ノ差異アリ今其重要ナル差點ヲ示サン(一)任命領事ハ一定ノ俸給ヲ受クルモノナレトモ選舉領事又ハ名譽領事ハ然ラス(二)任命領事ハ其官職ヲ以テ專務ト爲スト雖モ選舉領事又ハ名譽領事ハ他ニ職業ヲ有シ其傍ラ領事ノ職務ヲ執ルモノトス(三)任命領事ハ本國ニ於テ試驗ノ上領事ニ採用スルモノナルモ選舉領事又ハ名譽領事ハ試驗ノ上之ヲ採用スルモノニ非ス(四)任命領事ハ營業ヲ營ムコトヲ得スト雖モ選舉領事又ハ名譽領事ハ商業ヲ營ムコトヲ得(五)任命領事ハ自國人ナルモ選舉領事又ハ名譽領事ハ外國人ヲ以テ之ニ任スルコトヲ得此點モ亦外交官ト差異アル所ニシテ外交官ニハ外國人ヲ任用セザルヲ一般トス(六)任命領事ハ後ニ説明スルカ如キ特權ヲ有スト雖モ名譽領事ハ此權ヲ有セス

名譽領事ヲ置クノ必要ハ其地方ノ經濟上ノ情況ハ本國任命ノ官吏ヨリモ寧ロ其地方ノ外國人ニ依リテ熟知セラルルモノナルカ故ニ便宜上發生シタルモノナリ

第二 通商領事及ヒ裁判領事 此分類ハ論理的ノモノニ非ス即チ裁判領事ナルカ故ニ通商ニ關係セス

ト云フニ非サルナリ裁判領事ハ領事固有ノ職務タル通商ニ關スル職務ヲ行フノ外裁判事務ヲモ管掌スル領事ニシテ通商領事ハ其名ノ示ス如ク通商ニ關スル事務ヲ執行スル領事ナリ凡ソ領事ニシテ通商事務ヲ管掌セサル者ナシト雖モ裁判事務ニ至リテハ特別ノ條約ナカルヘカラス即チ條約ヲ以テ本國人民ノ上ニ裁判權ヲ有スルコトヲ約定セラレタル地ニ赴任スル領事ハ裁判權ヲ有シ所謂裁判領事タルナリ又其裁判權ノ範圍モ條約ヲ以テ定メラルモノトス支那朝鮮暹羅ニ於ケル我國ノ領事ハ裁判權ヲ有スルコト前既ニ說明セシ所ナリ而シテ遺產ニ關シテハ獨逸ニ於ケル日本領事ハ裁判權ヲ有シ獨逸領事ノ我國ニ在ル者亦同シ(日獨領事職務條約一四條六號)然ラハ獨逸以外ノ諸外國ハ此事項ニ關シテ均霽シ何レノ領事モ在外自國臣民ノ遺產ニ關シテ裁判權ヲ有スルモノナリヤ否ヤ予ノ信スル所ニ依レハ領事職務條約ハ特別ノ性質ヲ有シ一般ノ通商條約ニ非ス從テ後者中ニ規定セラレタル最惠國條款ハ決シテ前者ニ其效力ヲ及ホスコトナク從テ諸外國ハ之ニ均霽スルコトナルヘシ是レ恰モ甲乙兩國間ニ犯罪人引渡條約ノ締結アリタレハトテ他國ハ最惠國條款ニ依リテ之ニ均霽スルコトナキハ同一法理ナリ

領事ヲ國法上ノ階級ニ依リテ區別スレハ四アリ即チ一、總領事二、副領事三、領事代理是ナリ總領事ハ或駐在外國ノ總テノ領事ヲ監督シ其管轄區域ハ駐在國ノ全土ニ亘ルモノナルモ領事ハ其下ニ在リテ其管轄區域ハ駐在外國ノ一地方ニ限ラル又副領事ハ領事ノ補助役タルコト其名稱ノ示スカ如ク領事代理ハ領事不在又ハ其他ノ故障アル場合ニ於テ之ニ代ルモノナリ其他總領事ハ國際法上公使ナキ場合ニ於テ一時之ニ代理スルコトアリ(我邦ト他國ト締結シタル條約等ニ於テハ以上ノ外代辦領事ナルモノヲ規定シアリト雖モ今茲ニ之ヲ述ヘス)始メ明治二十六年十月勅令第一二四號外交官及ヒ領事官官制ニ於テハ領事ヲ分テ總領事、二等領事、三等領事、領事官補ニ區別セリト雖モ其後前掲ノ如ク變更シタルナリ

第二款 領事ノ接受

今日ノ實際ニ於テハ外國ハ外國ニ對シテ領事ヲ差遣スルノ權ヲ有スルモ外國ノ領事ヲ受クルノ義務ヲ有セス其理由トスル所ハ外國ノ領事ヲ受ケサレハトテ國際の交際ヲ拒ムモノニ非ス是レ公使ト異ナル所ナリト云フニ在リト雖モ予ハ理論上之ヲ以テ不當ナリト信ス何トナレハ各國相互ニ交通スル以上ハ一方ノ利益ハ同時ニ他方ノ利益ナルカ故ニ一國カ他國ニ對シテ領事ヲ差遣スル權利アリト爲スニ於テハ他國ヨリノ領事ヲ受クルハ其義務ナリト謂ハサルヘカラサレハナリ然レトモ國際的交際ノ實際ハ上述ノ如クナルヲ以テ今日ニ於テハ條約ヲ以テ領事ヲ受クルコトヲ規定ス日英條約第一六條ノ如キ是ナリ其他諸國トノ條約ニ於テモ同様ノ規定アルヲ見ル

領事ヲ接受スル權利ヲ有スルモ之ヲ派遣スル權利ヲ有セサル國家アリ例ヘハ獨逸帝國國ハ之ヲ派遣スル權利ヲ有スルモ獨逸帝國國ヲ組織スル各邦ハ之ヲ派遣スル權利ナル權ナク唯接受スル權利ヲ有スルノミ是レ其國法ノ規定ヨリ生スル結果ナリ

領事ハ本國ヨリ任命セララルモ其國際法上ノ地位ノ發生ハ之ヲ接受シタル國カ認可狀(Exequatur)ヲ與フルニ依リテ生ス而シテ領事ヲ受ケタル國家ハ其者ニ對シテ認可狀ヲ與フルヲ普通トスルモ其者カ管テ或犯罪ヲ犯シタル者ナルトキ又ハ其國ノ安寧秩序ヲ紊ルカ如キ者ナルトキハ之ヲ拒否スルコトヲ得ヘシ例ヘハ千八百六十九年ニ於テ米國ヨリ英國ノ「グラスゴ」ニ駐在セシムヘキ領事ヲ差遣セシニ英

國政府ハ之ヲ拒絕セリ而シテ其理由トスル所ハ該領事ハ嘗テ英國人ニシテ愛蘭土獨立黨ノ一人ナリシカ其後米國ニ歸化シタル者ナリ此種ノ者ハ領事トシテ英國之ヲ受クルコトヲ得スト云フニ在リキ而シテ拒否ニ付テハ公使ノ場合ト同シク最初其領事ヲ受クルコトヲ拒ム場合ト一旦認可狀ヲ與ヘ後日其不適任ヲ認メテ之ヲ拒否スル場合トアリ前ノ場合ニ於テハ拒否ニ關スル理由ヲ附スルヲ要セスト雖モ後ノ場合ニ於テハ拒否ノ理由ヲ附シテ本國ニ通知セサルヘカラス

第三款 領事ノ職務

領事ノ職務ノ範圍ハ國內法ノ定ムル所ナリト雖モ一般ニ國際法上ヨリ論スルトキハ次ノ如シ

第一 駐在國ニ於テ本國ノ經濟上ノ利益ヲ圖ルコト 領事ハ駐在國ノ何地ニ於テ本國ノ如何ナル物品

ノ需用アリヤヲ調査シ本國ノ輸物ヲ多カラシムルコトヲ努ムヘキモノナリ

第二 本國ト駐在國トノ間ニ於ケル通商交通ニ關スル條約カ實際適當ニ行ハルルヤ否ヤヲ監視スルコト

第三 駐在國ニ在ル本國人民ヲ保護スルコト 領事ハ時トシテ第三國ヨリ依頼ヲ受ケタルトキハ其人民ヲ保護スルコトアリ例ヘハ(イ)日清戰爭ノ際日本政府亞米利加ノ政府ニ依頼シテ其國ノ領事ニ清國ニ滞在スル日本人民ノ保護ヲ委嘱セシカ如キ日露戰爭ニ際シ露國ハ其我國ニ滞在スル露國人ノ保護ヲ佛國領事ニ委託セシカ如キ其他(ロ)葡萄牙領事カ明治二十六年其國家ノ經費節減ノ爲メ我國ヲ去ルニ臨ミテ西班牙領事ニ其滯留葡國人ノ保護ヲ依頼セシカ如キ是ナリ其他(ハ)清國ハ暹羅ニ領事ヲ派遣セサルヲ以テ同國駐在ノ清國人ハ其擇フ所ニ從テ或ハ英國領事或ハ佛國領事ニ依頼シテ其保護

第七 郵便船モ亦官船ト私船トノ別ナク時トシテ捕獲セラレザリシコトアリ千七百九十三年英、佛兩國ハ郵便局ニ使用シタル郵船ヲ戰爭中互ニ捕獲セス千八百四十三年及ヒ千八百五十六年英佛條約ニ於テモ戰爭中互ニ之ヲ捕獲セサルコトトシ近年郵便船ニ關シテハ一般ニ寬大ナル待遇ヲ爲スニ至リタレトモ條約ヲ以テスルニ非サレハ未タ其免除ヲ國家ノ義務トスルコト能ハサルカ如シ

第二款 私有船舶及ヒ載貨

交戰國カ敵國ノ私有船舶及ヒ載貨ヲ捕獲シ得ヘキコトハ中世以來爭フヘカラサル法則ナルニ拘ハラス千七百八十五年普米兩國間ノ通商條約ニテ其免除ヲ規定シ其後米國大統領「モンロー」及ヒ千八百五十六年「アダムス」モ英、米、露三國ニ交渉シテ其免除ノ條約ヲ設ケントシテヨリ以來近世海上ニ於ケル敵國私有財産ノ捕獲ニ反對ノ議論盛ニシテ其理由トスル所ハ(第一)戰爭ハ國家間ノ爭鬪ニシテ國際公法上私有財産ヲ不可侵トスル原則ニ適合セス(第二)戰爭ニ於テ敵國ノ戰鬥力ヲ奪フノ行爲ハ正當ナレトモ私人ノ船舶、載貨ヲ掠奪スルハ戰鬥力ヲ減スルモノニ非ス隨テ私有財産ノ海上捕獲ハ戰爭ノ目的ヲ達スルニ必要且直接ニ非ス(第三)陸上ニ於テ私有財産ヲ尊重ヲ原則トスル以上、海上ニ於テモ同一ナルヘキニ拘ハラス海上捕獲ニ於テ此原則ヲ認メサルハ不當ナリ(第四)陸上ニ於ケル徵發、取立金ハ一定ノ方法ヲ以テ占領地一般ヨリ公平ニ徵收スルモノナルニ反シ海上捕獲ハ物品所有者タル個人ノミヤノ損害ヲ生スルカ故ニ其性質上掠奪ト同一ナリ(第五)徵發、取立金ハ軍隊ニ直接且必要ノ物品ノミヤ徵用スルニ拘ハラス海上捕獲ハ戰鬥員ノ日常品ヲ取得スルニ非ス隨テ其捕獲セラルヘキ物品ノ種類及ヒ程度ニ制限ナキハ不當ナリ(第六)近世開戰ニ當リ交戰國ノ港内ニ在ル敵國船舶ニ退去ヲ許シ又商業

社會ノ交通復活ト爲リタルカ爲メ海上ノ危險ヲ冒シテ航海スル者ノ數ヲ減シ隨テ海上捕獲ノ實用ハ減縮シ來リタルカ故ニ之ヲ存續スルハ交戰國ノ不利益ニテ中立國ノ利益スルモノトス何トナレハ敵國商人ハ中立國船舶ニ貨物ノ運搬ヲ依頼シ又ハ中立國ニ船籍ヲ移シテ捕獲ヲ免ルヘキヲ以テナリ(第七英、佛、米獨ノ諸國ニ於ケル如キハ其商業ノ大部分ハ海上ニ依ルカ故ニ捕獲ヲ廢止スルハ其各國ノ利益ナリ何トナレハ軍艦ヲ以テ多數ノ商船ヲ防禦スルノ困難ナルニ反シ巡洋艦一艘ハ多數ノ商船ヲ攻撃シ得ルカ故ニ捕獲ヲ廢止スルトキハ商船防禦ノ必要ナクシテ海軍ノ全力ヲ以テ戰鬪又ハ封鎖ノ用ニ供シ得ヘシト云フニ在リ

之ニ反シテ海上捕獲ヲ辯護スル者ハ(第一)戰争ハ國家間ノ公争ナレトモ私人ニ關係ナシトスルハ法理ニ背キ事實ニ反シ私有財産ハ敵國ノ戰鬪力ヲ助ケルノミナラス海上ノ商業ハ敵國ニ取リ最モ大ナル財源ナルカ故ニ之ヲ攻撃シテ其財源ヲ涸渫スルハ速ニ戰争ノ目的ヲ達スルノ有力ナル手段ナリ又私人ノ利益ヲ害スルノ故ヲ以テ此重要ノ權利ヲ行フヘカラストスルハ私人ノ利益ノ爲メ國家ノ利益ヲ犧牲ニ供スヘシト云フニ外ナラス(第二)商船ハ運送船其他戰争ニ缺クヘカラサル使用ニ供セラルカ故ニ之ヲ押收スルハ敵國ノ戰鬪力ヲ減殺スル上ニ於テ大ナル效力アルカ故ニ其行爲ノ性質上決シテ不法ニ非ス(第三)海上捕獲ハ陸戰ニ於ケル徵發、取立金ト同一ナルノミナラス陸上ニ於ケル私有財産ノ尊重ハ事實上占領者ノ利益ニ基キ軍隊ノ成功ヲ圖ルノ利害關係上其尊重ノ必要アリト雖モ海上ニ於テハ全ク之ニ反シ敵國戰鬪ノ資料及ヒ財源ヲ涸渫シテ戰争ノ目的ヲ達スルハ自己ノ利益ナリ(第四)私有財産ノ海上捕獲ハ其結果ニ於テ掠奪ノ行爲ニ近シト雖モ陸上ニ於ケル私有財産不可侵モ亦事實上其實行ノ範圍カ明確ナラサルニ依リ軍隊カ苛酷ノ徵發、取立金ヲ命スルトキハ多數ノ商人ニ對スル掠奪ト其結果

ヲ同一ニ爲スカ故ニ既ニ徵發、取立金ヲ正當ト爲ス以上ハ獨リ海上捕獲ヲ不當ト爲スコト能ハス(第五)海上捕獲ハ陸上ノ如ク之カ爲メ直接ニ箇人ノ生活及ヒ家族ノ平穩ヲ紊ルコトナク其生命、身體ニ危害ヲ及ボサス單ニ捕獲ヲ知リナカラ其危險ヲ冒シテ航海スル者ノ財産ヲ押收スルニ過キサルノミナラス近世海上保險ノ發達ニ依リ其損害ハ必スシモ所有者一人ニテ全額ノ負擔ニ終ラサルモノアリ(第六)國家ニ依リテハ多クノ海軍ヲ有シナカラ陸軍ノ大ナルモノアリ又大ナル海軍ヲ有スルノ必要ナクシテ優勢ナル陸軍ヲ有スルモノアリ此等兩國間ニ戰争アルニ際シ捕獲ノ廢止ハ海軍國ノ不利益ニシテ陸軍國ハ自由ニ徵發、取立金ヲ占領地ニ行ヒ得ヘシ加之海上捕獲ノ爲メ敵國ノ船舶カ海上ニ出ツルコト能ハス中立國ニ船籍ヲ移スカ又ハ商品ノ運搬ヲ中立國船舶ニ依頼スルノ不利益ハ其商業ニ對スル打擊ナルノミナラス實際敵國ニ於テ其商業ノ材料アル間ハ商品ヲ悉ク中立國船舶ニ依頼シ得ヘキモノニ非ス又船籍ヲ中立國ニ移スモ必スシモ捕獲ヲ免ルヘキモノニ非ス(第七)海上捕獲ノ存在ハ戰争ヲシテ私人ノ利害ニ直接關係ヲ有セシメ之カ爲メ一般ニ戰争ヲ不人望ト爲シ之ヲ未萌ニ防クノ利アルカ故ニ政策上ニ於テモ之ヲ廢止スヘカラストセリ

之ヲ要スルニ戰争ノ遂行上陸軍ト海軍トハ其方法ヲ異ニシテ陸軍ハ敵地ヲ侵略、占領シ得ヘク其侵略及ヒ占領ハ戰争ノ目的ヲ達スルノ捷徑ナルニ反シ海軍ニ於テハ敵國軍艦其他ノ敵船ヲ攻撃シ及ヒ敵國ノ商業ヲ零落スルノ外其使用ノ途ナキノミナラス敵國ニ取リ大ナル財源タル商業ノ攻撃ハ戰争ノ目的ヲ達スルニ付キ最モ大ナル效力ヲ有スルカ故ニ私有財産ノ海上捕獲ハ今日ニ至ルマテ主トシテ英、佛兩國ノ反對ニ依リ廢止ニ至ラサル所以ナリ

0491

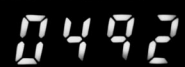
第一項 拿捕ノ方法及ヒ船舶、載貨ノ國性

交戰國軍艦ハ中立國ノ軍艦其他ノ官船ヲ除キ海上ニ於テ遭遇スル一切ノ船舶ニ實彈ヲ込メスシテ發スル空砲又ハ彈丸ヲ込メルモ其的ヲ外ツシテ發射スル虛砲ヲ以テ其進行ノ停止ヲ命スルノ權利アリテ之ヲ停航權ト稱ス交戰國軍艦ヨリ停航ヲ命セラレタルトキハ總令中立國ノ船舶ト雖モ直チニ其進航ヲ停止スルノ義務ヲ有シ其命令アリタルニ拘ハラヌ尙ホ進航ヲ繼續スルトキハ交戰國軍艦ハ之ヲ窮追シ兵力ヲ以テ停止シ得ヘク軍艦ヨリ士官一名ニ相當ノ水兵ヲ端舟ニテ停航船舶ニ派遣シ其士官ノ外二名又ハ三名ノ水兵ヲ其船舶ニ乗移ラシメ船籍證明書、乘組員名簿、通航券、航海日誌、船積證書、送狀、積荷目錄等船舶備附ノ書類ヲ船長ヨリ提出セシメ之ニ依リ其船舶ノ國籍、航海ノ目的、積荷ノ種類及ヒ到達地等ヲ調査シ尙ホ其點ニ疑アルトキハ訊問シテ之ヲ體ムルヲ臨檢權ト稱シ其臨檢ノ結果ニシテ拿捕スヘキ船舶又ハ載貨ニ非サルコト疑ナキトキハ臨檢員ハ其旨ヲ航海日誌ニ記載シテ同船ヲシテ進航ヲ繼續セシメ之ニ反シテ臨檢ニ際シ船舶ニ備附アルヘキ書類ノ整頓ヲ缺キ又ハ不明ノ點アルカ若クハ偽造、變造又ハ秘密ノ書類アルトキ若クハ其他ニ付キ拿捕スヘキ嫌疑アルトキハ臨檢員ハ船長又ハ其代理者ノ立會ヲ以テ船内ヲ點檢シ其閉鎖ノ場所若クハ貨物ヲ開披セシメテ檢査シ得ヘク此權利ヲ搜索權ト稱ス而シテ臨檢、搜索ヲ行使シタル結果ニシテ何等捕獲スヘキ船舶又ハ載貨ノ疑ナキモノハ直チニ放免シ若シ捕獲スヘキモノナルコト明白ナルカ又ハ其嫌疑アルモノハ軍艦ニ於テ之ヲ自國ノ捕獲審檢所ニ迴送シ其裁判ニ依リテ沒收ト否トヲ決スルモノトス

臨檢、搜索ニ依リテ船舶ノ國性ヲ體メ敵船舶トキハ捕獲審檢所ニ於テ裁判ノ上之ヲ沒收シ又其載貨

ニ付キ敵物ナルモノハ船舶ト共ニ之ヲ沒收スルモノナルカ故ニ果シテ如何ナルモノカ敵船ニシテ如何ナル載貨ヲ敵物ト爲スヤヲ明カニセサルヘカラス此點ニ付キ佛國ト英國トハ其見解ヲ異ニシ佛國主義ニ依ルトキハ船舶ト載貨ト間ハス其所有者ノ國籍如何ニ依リテ敵物ト否トヲ決シ若シ船舶カ敵國ニ船籍ヲ有スルカ又ハ其所有者カ敵國人民ナルトキハ之ヲ敵船トシ戰爭中敵國人民ヨリ中立國人民ニ船舶ノ讓渡又ハ開戰前戰爭ヲ豫期シテ捕獲ヲ免レトスル讓渡ヲ無効トス之ニ反シテ英米主義ニテハ船舶ト載貨ト間ハス其國性如何ヲ決スルニ付キ所有者ノ國籍ニ依ラスシテ定住地如何ニ依リテ其理由トスル所ハ船舶又ハ載貨ヲ何レノ國民カ之ヲ所有スルニ拘ハラヌ苟モ所有者カ敵國ニ定住スルトキハ其物品ハ敵國ノ財源ト爲リ敵國政府ノ保護若クハ管轄ノ下ニ立テ同國收入ノ一部トシテ戰爭ノ資料ト爲リ必要ノ場合ニハ之ヲ戰爭ニ徵用シ得ヘキヲ以テ自ラ敵物ト爲スニ在リ加之戰爭中ニ於テモ敵國人民カ船舶ヲ中立國人民ニ賣却スルヲ認ムト雖モ其賣却ハ最モ嚴格ニ審查セラレ善意ニ且完全ニ所有ノ移轉アリタルコトヲ必要トシ且所有者ニ於テ其所有權ノ讓渡ハ善意ニシテ完全ナルコトノ事實ヲ證明スヘク若シ賣主ニ於テ其利益ノ一部ヲ保留スル契約、條件、賦約等ノ存在スルトキハ賣却ヲ無効トシ戰爭後買戻ノ條件アルカ又ハ代金ノ全部若クハ一部ノ支拂ニ關シテ權利ヲ保留シアルトキハ之ヲ敵船トシ敵國船ノ嫌疑アルモノハ其所有者又ハ船長ニ於テ敵船ナラサルコトヲ立證スヘキ責任ヲ有シ敵船内ノ載貨ハ總テ敵物ト推測スルカ故ニ其反證ハ所有者ニ於テ立證スヘキコトモ兩國主義ニ於テ同一トス此故ニ我捕獲規程第七條第五號ニ於テモ嫌疑アリトシテ拿捕セラレ該嫌疑ヲ終ニ證明シ得サル船舶ヲ適法ノ捕獲ト規定セリ

國際公法(戰時) 交戰關係ノ法則 海戰ニ於ケル敵國財産ニ關スル權利 海上捕獲



敵船内ニ在ル載貨ニ付キ佛國主義ニ於テハ所有者ノ國籍ニ依リ敵物ト否トヲ決シ航海中ナル載貨ハ其移轉ヲ認メス又商業上海上ノ貨物ハ一般ノ慣例上其受取人ニ於テ航海ノ危險ヲ負擔スルカ故ニ之ヲ受取人ノ物品ト看做ストモ當事者間ノ契約又ハ諸國ノ慣例ニ依リ特別ノ約定若クハ慣例アルトキハ佛國ニ於テハ之ヲ尊重シ捕獲ヲ避クルカ爲メ詐僞ニ出ラタル場合ノ外ハ其反對ノ沒收ヲ爲サスト雖モ英米主義ニ於テハ載貨ニ付テモ定住地ニ依ルカ故ニ

第一 所有者ノ定住地ヲ敵國ニ有スル者ハ自國人又ハ中立國人ト雖モ其財産ハ敵物ト看做シ定住地ノ意義ハ本人ニ於テ其地ニ永住ノ意思(Animus Manendi)及ヒ其地ニ存在ノ年月ヲ考量シ各場合ニ就キ本人カ同所ヲ其住所ト爲シタルト否トニ依リ之ヲ決スヘク加之定住地ハ事實上ノ住所ヲ意味シ法律上ノ住所ニ非サルカ故ニ假令其本法ニ於テ他國ニ定住地ヲ置クコトヲ禁シタル場合ト雖モ本人ニ於テ其永住ヲ爲シ居ル事實アル以上ハ其住所ヲ定住地ト看做シ又一旦永久ノ住所ヲ定メタルトキハ一時其地ヲ去リタル爲メ財産ノ國性ニ影響ナシト雖モ居住ニ依リテ國性ヲ取得シタルモノハ本人カ其永住ヲ抛テ歸來ノ意思ナク(Sine Anim. Revertendi)其地ヲ退去スルト同時ニ終了シ又交戰國人民ハ戰爭中他國ニ移住スルニ依リテ定住地ノ變更ヲ認ムルコトナシ

第二 交戰國ニ商店ヲ有スル者ハ其商店ニ直接所屬ノ財産ヲ敵物トシ之ニ反シテ敵人ニシテ中立國ニ商店ヲ有スル場合ニハ其商店ニ附屬ノ財産モ亦敵物トス

第三 敵國ノ領土若クハ其占領地ヲ產物又ハ製造品ニシテ土地又ハ製造所所有者ノ手ニ在ル間ハ所有者ノ國性如何ニ拘ハラズ之ヲ敵物トス

第四 拿捕物ノ國性如何ハ其拿捕アリタル當時ノ國性ニ依リテ決スヘク其拿捕アリタル後ニ於テハ假

令捕獲審檢所ノ判決前ニ於テ所有者カ國性ヲ變更スルモ之カ爲メ同物品ノ捕獲ト否トニ影響ヲ及ホスコトナシ

第五 航海中ナル貨物ハ佛國ニ於ケル如ク其移轉ノ例外ヲ認メスシテ中立國人民ヨリ敵國人民ニ運搬中ノ物品ハ絕對的ニ買主ノ財産ト看做シ敵國人民ヨリ中立國人民ニ宛テタル物品ハ其買主ノ善意ニシテ且完了シタル場合ニ限り之ヲ買主ノ物品トシ其取引善意ニシテ所有權移轉ヲ完全ニ行ヒタルコトハ船長又ハ物品所有者ニ於テ立證ノ責任ヲ有ス

我國捕獲規程ニ於テハ載貨ノ敵性ニ付テ孰レノ主義ヲ採リタルヤ其明文ナシト雖モ船舶ニ付テハ第二條ニ

左記ノ船舶ハ敵船トシテ拿捕スルコトヲ得

- 一 運送船トシテ敵國政府ノ備入レタル船舶其ノ備入ハ敵國政府ノ脅迫ニ依レル時亦同シ
- 二 敵國ノ旗章及通航券ヲ有スル船舶
- 三 敵國政府ノ免狀ニ依リ航海スル船舶
- 四 何レノ國籍ニ屬スルヲ問ハス敵國軍艦ノ保護ノ下ニ航海スル船舶
- 五 假令船舶書類面ハ帝國臣民若クハ同盟國若クハ中立國ノ船ナルモ一部若クハ全部敵ノ所有ニ係ル船舶
- 六 外見ハ帝國、同盟國若クハ中立國ニ住所ヲ有スル人ノ所有船舶ナルモ其ノ船舶ハ出港後ニ敵ヨリ買受ケタルモノニシテ尙ホ進航中ニアリテ未タ其人ノ所有ニ歸セサルモノ
- 七 外見ハ帝國、同盟國若クハ中立國ニ住所ヲ有スル人ノ所有船舶ナルモ若シ其ノ所有者開戰後

若クハ開戦前豫メ開戦ヲ慮リテ該船舶ノ所有權ヲ敵ヨリ得タルモノナルトキハ取引ノ善意ニシテ且ツ既ニ完了セル證明充分ナラサルモノ

ト規定シ就中第一號ハ官船ニシテ第二號乃至第四號ハ英佛兩國主義ニ於テモ敵國財産ト看做スコト疑ナク第五號ノ規定中帝國臣民ナル用語ヨリセハ佛國主義ニ依リタルモノ疑アレトモ第六號乃至第七號ニ於テハ敵船トシテ捕獲スル船舶ハ悉ク定住地主義ニ依リ佛國ノ如ク國籍ニ依ラサルコト明カナルカ故ニ第五號ノ帝國臣民ナル文字ハ蓋シ誤ナルヘク臣民ノ二字ヲ削除スヘキモノノ如シ加之第七號ニ於テ開戦後ニ於ケル船舶所有權ノ移轉ハ佛國主義ニ於テ全然認メサルニ拘ハラス此規定ニ依レハ取引ノ善意ニシテ完了ノ場合ヲ認メタルハ英國主義ニ依リタルモノナルコト明白ナルカ故ニ我國ノ捕獲規程ハ不完全ナカラ船舶ノミニ付テハ荷モ英米主義ヲ取リタルモノト謂ハサルヲ得ス

第二項 拿捕物ノ處分竝ニ共同拿捕及ヒ再拿捕

交戰國ノ軍船カ拿捕シタル船舶ハ總テ本國ニ於ケル捕獲審檢所ノ審判ニ付スルカ爲メ捕獲審檢所ノ所在地若クハ其最近港ニ引致スヘキコトヲ原則トス然レトモ軍艦カ巡洋中拿捕ノ船數ヲ加フルニ從ヒ軍艦自ラ之ヲ本國ニ引致スルコト能ハサルコトアリ斯ル場合ニハ船長ハ士官及ヒ水兵ヲ被捕船舶ニ乗組マンシメテ捕獲審檢所ノ所在地又ハ其最近港迄之ヲ廻送スルヲ常トスト雖モ時トシテハ其乗組ヲ爲サンムヘキ人員ニ缺乏スルコトアリ或ハ又被捕船舶ノ速力其他載貨ノ事情若クハ天候、風浪乃至戰鬪ノ情況ニ依リテハ軍艦カ到底其被捕船舶ヲ無事ニ本國ニ廻送スルコト能ハサルコトアリ昔時ニ於テハ斯ル場合ニ際シテ屢、中立國ノ港内ニ交戰國カ捕獲審檢所ヲ開キテ拿捕物ヲ審判シタルコトナレトモ現今ニ於

テハ斯ル行爲ヲ斯法上中立國主權ノ侵害ト爲スノミナラス中立國モ屢、交戰國軍艦ニ對シテ拿捕物ヲ率キテ入港スルコトヲ禁スルカ故ニ斯ル事情ノ下ニ於テハ拿捕者ハ其船舶及ヒ載貨ニ付キ已ムヲ得ス非常處分ヲ爲シ本國ノ捕獲審檢所ニ提出スルニ先テテ載貨ヲ消費シ船舶ト共ニ之ヲ賣却、破壊シ若クハ古來ノ慣例上船舶所有者ニ被捕船舶及ヒ載貨ヲ賠償セシメテ解放シ得ヘキモノトス此故ニ我捕獲規程第二〇條ニ於テモ

拿捕船舶若シ船體ニ破損等アリテ第十八條ノ港ノ捕獲審檢所所在地又ハ其最近港ヲ意味スルマテ進行ニ堪ヘサルトキ若クハ艦長該船舶ヲ進行セシムルニ充分ナル下士卒ヲ乘込マシメ能ハサルトキ若クハ其積荷カ第十八條ノ港ニ到達スル前腐敗等ノ虞アルトキハ艦長ハ該船舶ヲ最近ノ港ニ引致シ適宜ノ處分ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ艦長ハ軍艦乗組員ノ中ヨリ最モ適任ナル鑑定員ヲ選ミ事實ヲ鑑定セシメ圖書ヲ製シ竝ニ一切ノ手續ヲ詳記シ之ヲ捕獲審檢所ニ提起スヘシ………

前項ノ場合ニ於テ艦長ハ該船舶ノ敵ニ屬セサルコト明瞭ナルトキハ戰時禁制品沒收ノ後之ヲ放免スヘシ

ト規定セリ

又第二條ニハ

敵國政府ノ船舶ニシテ第十八條ノ港ニ引致スルコト能ハサル事由アルトキハ艦長ハ水夫書類及若シ得ヘクハ積荷ヲ移シタル後其船舶ヲ破壊スヘシ但水夫書類及ヒ積荷ハ第十八條ノ港ニ廻送スヘキモノトス

ト規定シ我國捕獲規程ニ於テハ敵國政府ニ屬セサル敵國ノ船舶ニ付キ之ヲ破壊シ得ヘキ規定ナシト雖

0494

モ此第二二條ニ於ケル敵國政府ナル文字ハ單ニ「敵國」ト改メ政府ノ二字ハ削除スルヲ穩當ト思考ス何トナレハ國際公法上敵國私有船舶ト雖モ敵國政府ノ艦船ト同シク

一 其船體ノ破損海上ノ風浪又ハ速力ノ遲緩等ノ爲メ捕獲審檢所所在ノ港又ハ其最近港ニ廻送シ能ハサルトキ

二 作戰上其廻送ヲ爲スノ暇ナキトキ

三 優勢ナル敵國海軍ノ襲來ニ因リ取戻サルル恐アルトキ

四 本國ノ諸港敵軍ノ爲メ封鎖セラレ廻送スルコト能ハサルトキ

五 其載貨ニ危險ノ虞アルカ如キトキ

ニ於テハ拿捕ノ場所ヨリ最近キ本國又ハ他國ノ港内ニ引致シテ適宜ノ處分ヲ爲シ得ヘク若シ中立國ニ於テ其入港ヲ禁スルカ又ハ其他ノ事情ヨリシテ軍艦カスル引致スラ爲スコト能ハサルトキハ拿捕者ハ敵國政府ノ船舶ト同シク私船ノ敵國船舶若クハ載貨ヲ破壞シ得ヘク國際法協會ノ捕獲規程第五〇條ニ於テモ

左ノ場合ニ於テ拿捕ノ船舶ヲ破壞シ又ハ沈没セシムルコトヲ得但其前ニ船内ノ人員ヲ軍艦ニ乗移ラシメ載貨ヲ成ルヘク充分ニ荷卸シ且拿捕ヲ行ヒタル指揮官ニ於テ船舶書類並ニ審判ノ爲メ要スル物件ヲ保存スヘキモノトス

一 船舶ノ狀態不良ニシテ海上ノ險惡ナルカ爲メ同船ヲ航海セシメ能ハサルトキ

二 船舶ノ速力遲緩ニシテ軍艦ニ隨伴スルコト能ハス且容易ニ敵ノ回復スル恐アルトキ

三 優勢ナル敵國兵力ノ襲來シ拿捕ノ船舶ノ取戻サルル恐アルトキ

四 軍艦ニ於テ拿捕シタル船舶ニ充分ノ海員ヲ乘込マシメントスルトキハ軍艦ノ安全ニ必要ナル人員ヲ缺クトキ

人員ヲ缺クトキ

五 拿捕シタル船舶ヲ廻送セシムルコトヲ得ヘキ港ノ遠隔シタルトキ
ト規定セリ此故ニ拿捕者ハ捕獲審檢所ニ引致シ能ハサル事情アルトキハ拿捕物ヲ賣却、破壊又ハ燒却シ得ヘク又ハ被捕船ノ船長ヨリ一定ノ金銭ヲ支拂ハシメ若クハ其支拂ヲ約定セシメテ捕獲ヲ免除シ得ヘク此場合ニハ賠償證書ニ通テ作リ其一通ヲ拿捕者ニ與ヘ他ノ一通ハ船長カ自ラ所持シテ通航券ノ代用トシ其證書ニ指定ニ係ル航路ニ依リ指定ノ時日間ニ於テハ敵意ノ攻撃ヲ受クルコトナクシテ歸航シ得ヘク其約定ノ航路及ヒ期限ヲ故意又ハ怠慢ニ因リ誤マルトキハ重キテ拿捕セラルモノトス但拿捕物ノ賠償ハ拿捕者本國ニ取リテモ利益ニ非サルカ故ニ歐洲諸國ハ一般ニ國法ヲ以テ現今之ヲ禁止セリ然レトモ苟モ軍艦本國ノ國法ニ於テ斯ル禁止ナキ以上ハ國際公法ノ見地ヨリセハ之ヲ行ヒ得ヘキモノトス

海上ニ於テ二艘以上ノ軍艦カ共同ニ一船舶ヲ拿捕シ若クハ陸軍ト軍艦トカ共同シテ同一ノ拿捕ヲ爲スル共同拿捕ト稱ス此問題タル歐米諸國ニ於テハ軍艦ノ艦員カ拿捕物ノ分配ヲ受クルコトナルカ故ニ其拿捕ニ手ヲ下シタル者並ニ拿捕ヲ助ケタル者ハ分配金又ハ救助料トシテ拿捕物ノ價格ノ幾分ヲ取得スルヲ以テ最も重要ナルコトナレトモ我國ニ於テハ軍艦カ拿捕ヲ爲シタル場合ニ艦員ハ拿捕物ノ分配金ヲ受クルコトナク拿捕ニ係ル船舶又ハ載貨ハ全然政府ノ財産ト爲ルカ故ニ我國ニ屬スル一軍艦ト他ノ軍艦トノ間ニ於テハ共同拿捕ノ問題ハ重大ナルモノニ非ス然レトモ例ヘハ我國軍艦ト英國軍艦トカ共同ニ敵國ノ商船ヲ拿捕スルトキハ其分配ノ問題ヲ生スヘク英國及ヒ佛國ニ於テハ其雙方乘組員ノ人

0495

數ニ應ジ均一ニ分配スルコトシ米國ニ於テハ軍艦間ノ共同拿捕ハ大砲及ヒ艦員ノ數ヲ其分配ノ標準トセリ

更ニ又再拿捕トハ交戰國一方ノ軍艦カ敵國ノ船舶若クハ一定ノ場合ニ於ケル中立國ノ船舶、載貨ヲ拿捕シタル後其拿捕物ヲ對敵國又ハ其同盟國ノ艦船ニ於テ取戻スコトヲ意味シ再拿捕ノ場合ニハ其船舶又ハ載貨ノ原所有者カ其所有權ヲ回復シ得ヘキヤ又ハ再拿捕者ノ所有ニ歸スヘキヤノ問題ヲ生ス現今一般ノ慣例ニ於テハ所有者カ再拿捕者ニ對シ其取戻ノ努力ニ對スル救助料ヲ與ヘテ物品ヲ回復シ得ルモノトス但其復權ハ同一戰爭中ニ再拿捕アル場合ニ限り又敵國ニ所有權ノ移轉シテ其國家ノ使用ニ供セラレ居ル場合ニハ原所有者ニ復權スルコトナキノミナラス敵國ニ於テ正當ニ沒收シ其物件カ第三國人ノ所有ト爲リタルトキハ再拿捕ニ依リ原所有者ニ復權セス

拿捕物カ如何ナル時期ニ於テ捕獲者ニ所有權ノ移轉スルヤハ再拿捕ニ於テ最重要ノ關係ヲ有シ第七八世紀ニ於テハ拿捕者カ二十四時間平穩ニ其物件ヲ占有シタルトキニ所有權ノ移轉スルモノト爲シタルコト殆ト一般ニ行ハレ此場合ニハ復權ヲ許サザリシカ佛國ニ於テハ千七百七十九年ノ勅令ニテ官船カ再拿捕ヲ爲シタル場合ニ二十四時間内ナルトキハ拿捕物ノ價格三十分ノ一ヲ救助料トシ其以後ナルトキハ十分ノ一ヲ救助料トシテ原所有者ニ返還スルコト定メ英國ニ於テハ縱令敵國ノ捕獲審檢所ニ於テ沒收サレタル場合ト雖モ第三國人ノ手ニ渡ラサル間ハ再拿捕ニ依リ復權ヲ許シ千八百六十四年ノ法律ニテ軍艦カ再拿捕ヲ爲シタルトキハ其物件ノ價格八分ノ一ヲ救助料トシ米國モ同一ニシテ其他諸國ニ於ケル救助料ノ割合ハ一定シタルコトナシ

第四節 捕獲審檢所

捕獲審檢所ノ性質ニ付キ英國法廷ノ見解ニテハ其法廷ヲ國際的ノモノトシ國際公法ヲ適用執行スヘキモノト爲スカ故ニ同法廷ハ敵國ニ在ルト自國ニ在ルトヲ問ハス共ニ國際公法ノ法則及ヒ慣例ニ依ルヘク自國ノ法律規則カ國際公法ニ矛盾スルトキハ法廷ハ決シテ國法ニ拘束セラルルコトナシトシ之ニ反シテ大陸諸國ニ於テハ捕獲審檢所ノ裁判ハ國法ニ準據シ國法ニ規定ナキ場合ニ於テノミ國際公法上ノ慣例及ヒ法則ニ依ルヘキモノトセリ然レトモ何レノ國ニ於テモ交戰國ノ義務トシテ戰爭中此裁判所ヲ開設スヘク自國ノ艦船カ海上捕獲ヲ爲シタル毎ニ必ス其法廷ニ提出シテ其捕獲ノ正當ト否トヲ裁判スヘキコトハ國際公法ノ原則ニ屬シ總テ拿捕物ノ裁判ハ拿捕本國ノ法廷ニ限りテノミ之ヲ行ヒ中立國ノ法廷又ハ同盟國ニ於テ之ヲ爲スコトヲ許サズ又交戰國ヨリ他國ノ法廷ニ其裁判ヲ委任シ能ハサルモノトス

現行法上文明國ハ戰爭中ニ限り必ス捕獲審檢所ヲ開設スヘク其法廷ノ組織ハ各國ニ於テ任意ニ之ヲ規定シ中立國又ハ敵國ニ於テハ其裁判ノ結果カ國際公法ニ違反スル場合ニ於テノミ之ニ抗議シ得ヘキニ過キス然レトモ一般ノ法則トシテ同法廷ハ戰爭ノ繼續中ニ非サレハ審判ヲ行フコト能ハス又他國ノ法廷ニ其裁判ヲ委任シ能ハサルト同時ニ中立國ノ版圖内ニ開廷スルカ若クハ同盟國ニ駐在スル領事官其他ノ官吏ヲシテ拿捕物ヲ裁判セシムルコト能ハサルノミナラス中立國ニ滞在スル軍艦内ニ於テモ之ヲ開廷スルコトマテ決シテ許ササル所トス此故ニ同法廷ハ必ス交戰國ノ版圖内ニ開設スヘク其國ノ殖民地又ハ征服ニ係ル敵地ニ開クモ妨ナシ又捕獲審檢所ハ之ヲ始審及ヒ終審ノ二種ニ分ツテ普通トシ佛國ニ

0496

於テ其始審廷ノ裁判官ニハ司法省、海軍省及ヒ陸軍省ノ官吏ヲ以テシ終審ヲ元老院トシ英國ニ於テハ高等海軍裁判所カ戰爭中勅命ニ依リテ捕獲審檢所ノ職務ヲ行ヒ終審ハ樞密院ニ於テシ米國ニ於テハ地方裁判所及ヒ控訴院カ始審ヲ爲シ終審ハ高等法院ニ於テシ我國ハ明治二十七年八月二十日勅令第一七九號捕獲審檢令ニ依リ始審及ヒ終審ハ二種ヲ置キ其審判官ニハ英米兩國ノ如ク純然タル司法官ノミヲ以テセス歐洲大陸諸國ト同シク文官及ヒ武官ヲモ之ニ加ヘテ樞密顧問官裁判官海軍士官並ニ法制局及ヒ外務省ノ官吏ヲ以テ其評定官ニ充テタリ

捕獲審檢所ノ裁判管轄ハ戰爭中自國ニ屬スル戰團、巡洋ノ艦船カ行ヒタル拿捕物ヲ悉ク審理裁判シ其拿捕ハ軍艦カ單獨ニ海上ニ於テ行ヒタルト沿岸ノ陸上ニ於テ取得シタルト又陸軍ト共同ニ爲シタルトヲ問ハス戰爭中公海又ハ敵國若クハ自國ノ領海、港灣、河流ニ於テ拿捕シ又ハ降服ニ依リテ取得シタル船舶、載貨並ニ戰爭前ニ當リ報仇、船舶抑留ニ依ル拿捕物ヲ審判シ再拿捕、共同拿捕、賠償證書其他之ニ附帶スル救助料及ヒ巡洋行爲ニ關スル箇人ノ損害等總テ交戰國カ海上ニ於ケル戰爭關係ノ事項ヲ悉ク裁判スルト同時ニ斯ル事項ハ他國ニ於テ之ヲ裁判スルノ權ナシ但其唯一ノ例外ハ交戰國ノ艦船カ中立國ノ領海内ニ於テ拿捕ヲ行ヒ又ハ中立國版圖内ニ於テ懸裝シタル交戰國ノ艦船カ公海其他ニ於テ敵船ヲ拿捕シタルトキハ其國權ヲ侵サレタル中立國ニ於テ自國ノ版圖内ノ同拿捕物ノ入り來リタルトキ直接ニ之ヲ差押ヘテ裁判シ得ヘキモノトス

捕獲審檢所ノ判決ハ拿捕ニ關スル最終裁判ニシテ拿捕者ト拿捕物所有者間ニ在リテハ其判決ノ效力カ絕對的ノモノトス隨テ其裁判ニ係ル事件ニ付キ拿捕者ハ其後拿捕物ノ原所有者ニ對シ他國ニ於テモ何等ノ責任ヲ有スルコトナク他國モ亦同一事件ヲ再審又ハ覆審スルコト能ハス然レトモ其判決カ國際公

法上不當ナルトキハ其責任ハ裁判所本國ニ屬シ被害人民ノ本國政府ニ對シテ其責ニ任スヘク此場合ニ於テ國際公法ニ背反スルカ又ハ寬嚴ニ失シタル内國法アルモ其規定ハ國際談判上抗辯ノ理由ト爲ルコトナシ又捕獲審檢所ノ裁判手續ハ各國ノ法令ヲ以テ任意ニ規定シ得ル所ナレトモ拿捕者ハ其拿捕物ノ提供ト共ニ拿捕ノ事由及ヒ其正當ヲ證スヘキ一切ノ事項ヲ記載シタル供述書ヲ證據書類ト共ニ法廷ニ提出シ法廷ハ被捕船ノ艦長及ヒ海員ノ口述ヲ聽取リテ調査書ヲ作り其審判ニ於テハ拿捕行為ハ正當ト推測セラレ拿捕物ノ所有者又ハ關係者ニ於テ其反證ヲ舉クヘク捕獲審檢所ニ於ケル審判ノ結果ニシテ若シ罰金ヘキモノトスルトキハ船舶又ハ載貨ヲ沒收シ之ニ反シテ相當ノ嫌疑アリテ拿捕セラレタルモ沒收スヘカラサルモノト決定スルトキハ之ヲ放免シテ其附帶ノ費用ハ船舶所有者ニ於テ負擔スヘク若シ又何等拿捕ノ理由ナクシテ引致セラレタルモノナルトキハ拿捕者本國ニ於テ航海ノ遲延其他ノ費用ヲ負擔スヘク苟クモ捕獲審檢所ノ審判ニ於テ其捕獲ノ不當ヲ示スニ足ルヘキ立證ヲ拿捕者ノ所有者若クハ其關係者ニ於テ充分ニ爲シ能ハサルモノハ悉ク沒收シ又拿捕ノ理由アル場合ニ於テハ拿捕者ノ意思又ハ過失ニ出テタル損害ヲ拿捕船舶又ハ載貨カ受クルコトアルモ拿捕者ハ其賠償ノ義務アルコトナシ

第五章 戰團方法ニ關スル法則

第一節 總則

交戰國ハ海陸ノ戰團ニ於テ敵國ニ加ヘ得ヘキ暴力ノ程度ニ付キ戰爭ノ目的ヲ達スルニ不必要ナル慘酷ヲ制限シ其兵力抵抗ヲ減殺スルニ不必要又ハ不適當ナル苦痛ヲ與フル行為ヲ禁セラレ戰爭ノ目的ニ反

シ若クハ之ニ比例セサル暴力ノ濫用ヲ許ササルモノトス加之交戰國ハ互ニ全然敵對ノ地位ニ立ツモノナレトモ素ト人類相互間ノ戰爭ナルカ故ニ其間ニ於テ幾分カ好誼上ノ行為カ自ラ行ハルヘキコトハ人類社會ニ伴ヒタルノ現象ニ屬シ古來戰爭ニ於テ必ス斯ル行為ノ形跡カ存在シ來リタルモノトス然レトモ其好誼ノ關係タル固ヨリ國家間ノ平和關係ト同一ノモノニ非ス單ニ交戰者間ニ於テ戰爭關係ノ存續スルニ拘ハラヌ一時のニ暴力ノ行使ヲ中止スルニ止マルモノニシテ斯ル好誼ノ交通ヲ實行セントスルノ時期ハ交戰者雙方ノ希望ニ出テ其雙方ノ便宜ニ基クヘキモノナルカ故ニ戰爭中ニ於テ之ヲ實行スルト否トハ交戰者各方ノ任意ニ屬シ其各場合ノ事情如何ニ基クヘキモノトス然レトモ苟モ一定ノ好誼ノ關係ヲ行ハントスルニ際シテハ其實行ニ當リ國際公法上一定ノ慣例カ存在スルカ故ニ交戰國ハ誠實ニ其慣例ノ實行ヲ努ムヘク違反アルニ於テハ對敵國ニ於テ報仇ノ手段ニ出テ得ヘキモノトス此慣例ヲ名ケテ交戰國間ノ平和の交通又ハ非敵意ノ關係ト謂フ

第二節 敵人ニ對スル加害ノ程度

平和會議ノ陸戰ノ法規慣例條約第二二條ニ於テモ交戰者ハ害敵手段ノ選擇上無限ノ權力ヲ有スルコトナシト規定シ敵國非戰國員ニ對シテハ勿論戰國者ニ對シテモ之ニ加害ノ程度ハ國際公法上一定セラレ居ルモノトス今戰國ノ方法中ニ付キ不法トシテ斯法上嚴禁セラレ居ルモノヲ列舉セハ

第一 暗殺 戰爭ノ勝敗ハ往來敵國ノ君主又ハ重要ナル文武官若クハ敵軍ノ將帥ノ在否ニ關スルコト多キヲ以テ昔時ノ戰爭ニ於テハ暗殺カ行ハレ羅馬ニ於テモ暗殺ノ種類ニ由リテハ其擧ヲ賞賛シ「ドロシウス」モ暗殺ニ付キ德義ヲ害スルモノト然ラサルモノト區別シテ暗殺ノ正當ナル場合ト否トヲ論

シタレトモ今日ニ於テハ暗殺ハ全ク之ヲ嚴禁セラレ「ブルセル」宣言ニモ敵國又ハ軍隊ニ屬スル箇人ヲ詐術ヲ以テ殺害スルヲ禁ストノ規定アリ茲ニ暗殺ト云ヘルハ兵士又ハ箇人ノ服裝形狀ヲ變シ欺罔ノ口實ヲ構ヘテ敵人ヲ詐リ若クハ其營中ニ忍ヒ入り將帥其他ヲ殺害スルモノニテ斯ル行為ヲ爲ス者ハ固ヨリ文明諸國ノ慣例ニ背キ其德義ヲ破壞スルノ行為ニシテ戰爭ノ不必要ナル慘狀ヲ減却セントスル近世ノ趨勢ニ反ルカ故ニ之ヲ卑ムヘキ戰爭法ノ規則ト爲スノミナラス斯ル刺客ヲ使用シ獎勵シ又ハ補助スルハ文明國ノ不名譽ニシテ憎ムヘキ行為ナルカ故ニ決シテ國際公法上之ヲ行フコト能ハス隨テ日清戰役ノ當時清國政府ハ我國ノ將帥若クハ兵士ノ首級ヲ懸賞シテ求メタルカ如キハ皆不法トス然レトモ暗殺ト襲撃トハ之ヲ混同スヘカラスシテ例ヘハ軍服ヲ著シタル兵士カ單獨ニ敵陣中ニ入り若クハ軍人ノ一團カ暗夜ニ乘シ竊ニ敵營ニ入りテ將帥ヲ殺害スルカ如キハ決シテ暗殺ニ非スシテ却テ勇敢ノ行為ナリトス

第二 毒藥 毒藥ヲ使用スルハ古來戰爭ニ於テ行ハレタルモ文明ノ進歩ト共ニ戰爭ニ於テ不人情ナル手段ヲ不法ト看做スニ至リ「ドロシウス」ヲ始メ諸學者ハ毒藥ノ使用ヲ非難シテ文明國人ノ行為ニ背反スルモノトシ諸國ノ國法ニ於テモ之ヲ禁スルコトト爲リ「ブルセル」宣言「オクタスフオー」陸戰法規ニモ其禁止ノ明文アリ方今ニ於テハ陸戰ノ法規慣例條約第二三條ニ於テ

毒又ハ毒ヲ施シタル兵器ヲ使用スルコト

ヲ嚴禁シタル如ク凡テ敵國人ノ生命及ヒ財産ニ對シ有力ナル加害ノ武器其他ノ物件ヲ發明シテ之ヲ使用スルハ適法ナレトモ毒藥ノ武器ヲ用フルハ戰爭ノ慘酷ヲ加フルニ止マリ其彈丸又ハ刀劍ニ依リテ既ニ負傷シ戰國ニ堪ヘサルニ至リタル者ニ對シテ無益ナル苦痛ヲ生スルニ止マリ其傷痍ヲシテ全治ノ途

ナカラシムルニ過キサルヲ以テ戰闘ノ方法トシテ之ヲ禁止スル所以ナリトス此故ニ兵器、彈藥中ニ毒藥ノ使用ヲ禁スルノミナラス一般ニ毒ヲ使用スルコトヲ不法トシ殊ニ飲用水又ハ食物、飲料ニ毒藥ヲ使用スルハ一層嚴禁スル所トナレハ前述ノ理由ニ因リ是レ管ニ敵國ノ戰闘力ヲ減却スルニ必要ナル陰險ノ行爲ナルノミナラス糧食、飲料ニ之ヲ使用スルコトヲ許スニ於テハ無辜ナル人民即チ敵國戰闘者以外ノ者モ之ニ依リテ悲惨ナル毒殺ヲ被ルヘキ危險アルヲ以テナリ又之ト同一ノ理由ニ因リ平和會議ニ於ケル宣言ヲ以テ締盟國ハ窒息セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ散布スルヲ唯一ノ目的トスル投射物ノ使用ヲ禁止スルコトト爲セリ

第三 無益ノ苦痛ヲ與フル彈丸 戰爭ハ敵ノ兵力抵抗ヲ殺タコトヲ其目的ト爲スカ故ニ千八百六十八年十二月西班牙ヲ除クノ外歐洲強國ハ露國「ベテルブルグ」ニ代表者ヲ送り交戰國ノ陸軍又ハ海軍ニ於テ四百瓦以下ノ重量ナル彈丸ニシテ爆裂ノナルモノ若クハ爆發又ハ燃燒シ易キ物質ヲ包含スルモノヲ戰闘ニ使用スルコトヲ禁止スル宣言ヲ爲セリ此宣言ハ諸國ノ批准ヲ了スルニ至ラス又之ニ贊同ヲ明言セサルモノアレトモ現行文明國ノ慣例上同一ノ彈丸ヲ用ヒ敵國戰闘者ニ對シテ不必要ノ苦痛ヲ與ヘ治療スヘカラサルノ負傷ヲ蒙ラシムルコトハ到底爲スヘカラサルニ至リタルカ故ニ同宣言ニ規定シタル事項ハ自ラ國際公法ノ一部ト爲リ「ブルッセル」宣言ニ於テモ之ヲ援用シ又兵器、彈藥其他戰爭用ノ物件ニシテ右宣言以外ノモノト雖モ苟モ不必要ノ苦痛ヲ與フルモノハ凡テ其使用ヲ禁セララルニ至レリ此故ニ陸戰ノ法規慣例條約第二三條ニ於テモ

無益ノ苦痛ヲ與フヘキ兵器、彈丸其ノ他ノ物質ヲ使用スルコト

ヲ嚴禁スルノ明文アリ此故ニ今日ニ於テ四百瓦以下ノ爆裂彈ヲ使用スヘカラサルノミナラス鐵片其他

ノ金屑又ハ硝子等ヲ大砲、小銃ニテ發射スル如キコトハ一般ニ許ササル所トス

又普通ノ彈丸ト雖モ不規則ナル形狀ヲ爲シタルモノヲ發射スルハ負傷者ニ無益ナル苦痛ヲ與フルノ理由ヲ以テ不法トシ先年平和會議ノ議場ニ於テモ英國ノ埃及遠征ニ用ヒタル「ダムダム」丸ト稱シテ人體ニ入り其一端ノ膨脹スル彈丸ヲ非難シ英國代表者ハ同爆發ノ性質ハ「スル」非難ヲ來スヘキモノニ非ス又野蠻人ニ對シテハ一層有效ナル彈丸ヲ使用セサルニ於テハ其戰闘力ヲ失ハサルカ故ニ文明國間ノ戰爭ヨリモ稍殘酷ナル彈丸ヲ使用スルノ止ムヲ得サルコトヲ辯シタレトモ遂ニ同會議ハ宣言ヲ以テ

締盟國ハ外包硬固ナル彈丸ニシテ其外包中心ノ全部ヲ外包セス若ハ其ノ外包ニ截裂ヲ施シタルモノノ如キ人體内ニ入りテ容易ニ開展シ又ハ扁平ト爲ルヘキ彈丸ノ使用ヲ各自ニ禁止ス

規定シ更ニ他ノ宣言ヲ以テ

締盟國ハ輕氣球上ヨリ又ハ之ニ類似シタル新ナル方法ニ依リ投射物及爆裂物ヲ投下スルコトヲ五箇年間禁止スルコトヲ約ス

ト規定アリ此等ノ宣言ハ單ニ締盟國二十六箇國間ノ條約ニ止マルノミナラス其締盟國間ノ戰爭ニ於テノミテ遵守スヘキコトト爲シタルニ過キスシテ野蠻人ニ對スルカ又ハ締盟國以外ノ國ニ對スル戰爭ニ於テハ締盟國ト雖モ之ヲ遵守スヘキ義務ナシト雖モ其規定ハ學理上固然スヘキ所ナキヲ以テ遠カラズシテ國際公法上ノ法則ト爲ルニ至ルヘキカ如シ要スルニ現今兵器、彈丸ノ使用ニ付キ過法ト否トカ岐ルルハ其破壊力ノ大小ニ非スシテ敵國ノ抵抗力ヲ減殺スル程度ニ比シ其與フル苦痛ノ多小ニ由ルモノナルカ故ニ例ヘハ水雷ノ如キハ一撃ノ下ニ軍艦全體ヲ沈没セシムヘキ有力ノ兵器ナリト雖モ其使用ハ正當ナルニ反シ彈丸ニ硫酸ヲ附著スルカ如キハ斯法上大ナル犯則ナリトス



第四 掠奪及ヒ荒壞 昔時ノ戰爭ニ於テハ、敵國領土及人民ニ對シテ無制限ナル掠奪ヲ行ヒ其土地ヲ荒壞ニ歸セシメタリシコトアリシカ現今ハ全ク之ニ反シ交戰者ハ敵地ニ侵入スルニ當リテモ其地ニ在ル住民ノ財産及ヒ其商工業等ヲ却テ保護スヘキ責任ヲ有スルコトト爲レリ然レトモ荒壞ハ今日ト雖モ戰爭ニ於テ絕對的ニ禁止セラレタルニ非スシテ戰爭ノ進行中場合ニ依リ已ムヲ得サルトキハ之ヲ行ヒ得ヘク「グロシュース」ハ交戰者ニ於テ敵國ヲシテ其要求ヲ容ルルニ至ラシムヘキ小時間ノ荒壞ハ之ヲ行ヒ得ヘシトシ「ヴァテル」ハ敵軍ヲ防衛シ若クハ野蠻人ヲ懲戒スル爲メニ荒壞ヲ行フハ禁スル所ニ非スト論セリ然レトモ今日ニ於テハ戰爭ニ於テ敵國財産ノ破壞ヲ行ヒ得ヘキ場合ト決シテ之ヲ行フヘカサル場合竝ニ事情ニ因リテハ之ヲ行ヒ得ヘキモノト三者ヲ區別スルノ必要アリテ敵國私有財産ニ對シテ破壞ヲ行ヒ得ヘキ場合ハ例ヘハ交戰者ニ於テ自己防禦ノ場所ヲ堅固ニシ若クハ敵軍ヲ攻撃又ハ自國軍ノ防禦ヲ容易ニスルカ爲メ軍隊ノ進退ヲ自由ト爲スカ如キ作戰ニ必要アルトキニ限り常ニ破壞ヲ行フヘカサルモノトス例ヘハ寺院又ハ公ノ建築物ニシテ敵軍ニ使用セラレ居ラサルモノ若クハ使用セラレヘキ地位ニ在ラサル場合ノ如キ作戰上ニ何タル關係ナキ破壞トス而シテ軍隊ノ生存ニ必要ニシテ其亡滅又ハ降服ヲ避クルニ已ムヲ得サル破壞ハ其財産ノ種類如何ヲ問ハス之ヲ行ヒテ妨ナクシテ陸戰ノ法規條約第二三條ニ於テモ

戰爭ノ必要上萬己ムヲ得サルノ外ハ敵ノ財産ヲ破壞シ又ハ押收スルコトヲ禁スルノ規定アリ

茲ニ注意スヘキハ千八百十三年佛國軍ノ進撃ニ際シテ露國カ莫斯科市府ヲ燒燬シ和蘭國モ屢々第十七世紀、第十八世紀ニ於テ佛國軍又ハ西班牙軍ヲ防禦スル爲メ自ラ水門ヲ開キテ海水ヲ國內ニ横溢セシメ

タルカ如キ交戰者カ其自國財産ニ對スル破壞ハ各國ノ自由行爲ニ屬シ決シテ國際公法ニ於テ之ヲ禁スルモノニ非ス隨テ敵國財産ニ對スル破壞ト自國財産ニ對スル破壞トノ間ニハ大ナル區別カ斯法上ニ存在シ敵國財産ニ對シテハ「ブルセル」宣言第一五條乃至第一八條ニ之ヲ規定シ陸戰ノ法規慣例條約第二五條ニ於テ

防守セサル市府村落居宅又ハ建物ヲ攻撃又ハ砲撃スルヲ禁ス

ト規定シ又第二六條ニ

攻撃軍隊ノ指揮官ハ強襲ノ場合ノ外砲撃ヲ始ムル前ニ其ノ旨ヲ官廳ニ通告スル爲凡ソ其ノ權内ニ屬スル總テノ手段ヲ盡スヘキモノトス

ト規定シ第二七條ニ於テハ

攻圍及砲撃ニ於テハ宗教、技藝、學術及慈善ノ爲設ケラレタル建物病院並病者傷者收容所ハ其ノ軍事上ノ目的ニ供セラレサルニ於テハ成ルヘク之ニ害ヲ加ヘサル爲必要ノ手段ヲ施スヘシ

被圍者ハ敵ノ攻圍者ニ通知シタル看易キ特別ノ徽章ヲ以テ此等ノ建物又ハ收容所ヲ表示スルノ義務アリ

トシ第二八條ニ於テハ

突撃ヲ以テ攻撃シタル市府又ハ其ノ他ノ地域ト雖掠奪ヲ行フコトヲ禁スト規定セリ

第五 防守セサル場所ノ攻撃又ハ砲撃 戰圍ノ目的ハ敵國ノ戰圍力ヲ滅殺スルニ在ルカ故ニ自國軍隊ニ敵抗スルノ能力ナキカ又ハ兵器ヲ採リテ抵抗ヲ爲ササル市町村居宅又ハ建物ヲ攻撃又ハ砲撃スルノ必要ナキニ依リ斯ル攻撃又ハ砲撃ヲ現行法上禁止スルコトハ前記ノ如ク陸戰ノ法規慣例條約第二五條

ニ規定スル所ナリ殊ニ近世ノ大砲ハ非常ノ損害ヲ惹起スルモノナルカ故ニ其砲撃ハ最モ慎ムヘク敵國軍艦又ハ戰闘員ニ對シテ激烈ナル砲撃ヲ加フルハ其戰闘力ヲ削ク所以ニシテ正當ナレトモ兵力防禦ナキ場所ヲ合圍シ又ハ兵力ヲ以テ攻撃シ或ハ砲撃スルニ於テハ戰争ノ目的ニ必要ナキ殺傷ヲ非戰闘員タル住民ニ加ヘ不必要ナル財産ノ大ナル破壊ヲ其私有財産ニ蒙ラシムルニ過キス

然レトモ兵力上ノ防備アル市府例ヘハ現今旅順ノ如キ地點ハ之ヲ正當ニ攻撃シ得ヘク之ヲ攻陷スルハ敵國ノ戰闘力ヲ削キテ戰争ノ目的ヲ達スルニ必要ナルヲ以テナリ又斯ル場所ヲ攻陷セントスルニ付テハ必スシモ軍隊ヲ之ニ侵入セシムルカ又ハ之ヲ砲撃スルニ限ラスシテ軍略上ノ必要アルニ於テハ單ニ合圍シテ其糧食ヲ絶テ若クハ領水ヲ涸渴シ飢餓ニ依リテ之ヲ攻撃シ得ヘク普佛戰争中獨逸軍隊カ巴里城ヲ合圍シタルハ主トシテ此方法ニ依リタルモノトス茲ニ所謂防守セル場所等ヲ攻撃砲撃シ得ヘシト云フニ付キ防守ノ有無ハ必スシモ旅順ノ如キ砲臺アル場所ヲ意味スルニ限ラスシテ砲臺ナク砲臺ナキ場所ト雖モ戰闘又ハ巡洋ノ艦船カ入泊シ居ル港内若クハ陸軍兵士其他戰闘員ノ兵力抵抗ヲ爲シ居ルカ又ハ斯ル抵抗ヲ爲シ得ル場所ハ之ヲ攻撃若クハ砲撃シテ妨ナク之ニ反シテ縱令城壁アリ砲臺ノ設備アル場所ト雖モ其場所ノ戰闘員若クハ非戰闘員カ兵力抵抗ヲ爲ササルトキハ殊更ニ之ニ攻撃若クハ砲撃ノ必要ナキカ故ニ濫ニ其攻撃砲撃ヲ加フルコト能ハス

加之前述ノ區別ニ依リ交戰者カ砲撃ヲ加ヘ得ヘキ場所ニ對シテモ其地域内ニ在ル宗教技術學術及ヒ慈善ノ爲メ設備セラレタル建物、病院及ヒ病者、傷者ノ收容所ノ如キ人類ノ文明ヲ補助スルノ用ヲ爲ス建物ハ成ルヘク之ニ加害ヲ爲スコトヲ避クヘキ義務ヲ有シ又被圍者ニ於テモ斯ル建物ニ付キ其被害ヲ免ルルノ必要及ヒ攻撃軍隊ヲシテ其義務ヲ盡サシムルコトヲ助ケルカ爲メ豫メ攻撃軍ニ通知シ置キタ

ル看易キ一定ノ徽章ヲ其建物ニ表示スヘク旗章其他ヲ以テ斯ル表示ヲ爲シ置クニ非サレハ之ニ對スル敵軍ノ加害ヲ咎ムルコト能ハス但一般ニ攻撃又ハ砲撃ヲ免ルヘキ建物ニ於テモ之ニ軍隊ノ屯在スルカ又ハ赤十字條約ニ基キタル中立事業ヲ除クノ外軍隊ノ兵力ヲ補給ノ場所トシテ之ヲ使用シ居ルトキハ縱令中立ノ徽章ヲ表示スルモ欺罔ノ行爲ナルカ故ニ不法ニ屬シ其表示ノ爲メ砲撃又ハ攻撃ヲ免ルヘキモノニ非ス

防守セル海岸ヲ海軍ノ砲撃ニ付テモ陸戰ト其法理ヲ同一ニスルカ故ニ管テ浦鹽ニ在ル露國艦隊カ羽後國酒田港ヲ砲撃ノ嚆アリタレトモ事實無根ナリシハ戰争法上固ヨリ然ルヘキ所ニシテ決シテ其砲撃ヲ許スヘカラサルモノトス然レトモ交戰者ハ敵國ノ防守セル港ニ對シテ徵發、取立金ヲ課シ得ヘキヤ否ヤハ問題ナリト雖モ陸戰ニ於テ防守セル場所ヲ占領シテ徵發、取立金ハ賦課シ得ヘキカ如シ終ニ注軍ニ於テモ若シ爲シ得ヘクハ敵國ノ防守ナキ港ニ對シテ徵發、取立金ハ賦課シ得ヘキカ如シ終ニ注軍ニ於テモ陸戰ノ法規慣例條約第二六條ニ於テ攻撃軍隊ノ指揮官ハ砲撃ヲ始ムル前ニ其場所ヲ砲撃スル旨ヲ其地ノ官廳ニ通告スヘキコトト爲シタルハ決シテ如何ナル場合ニ於テモ斯ル預告ヲ爲スヘキ義務アルニ非ス畢竟其預告ヲ爲スハ同地ニ於ケル非戰闘員ヲシテ砲撃前無事ニ避難セシムルニ在レトモ荷モ敵國ノ防守アル場所ヲ攻撃スルニ先テ斯ル預告ハ軍略上自國ノ利益ニシテ爲スヘカラサルコトナリ又其攻撃ヲ行フニ當リ戰闘ノ進行上之ヲ爲サントスルモ其違ナキコトアリテ其預告ヲ爲スルコトハ獎勵スヘキ行爲ナルニ拘ハラズ之ヲ交戰者ノ義務ト爲スコト能ハサルカ故ニ不意ニ攻撃スルカ如キ強襲ノ場合ヲ同條ニ於テ除外シタルノミナラス然ラサル場合ニ於テモ指揮官ノ權内ニ於テ之ヲ爲シテ支障ナシト認ムル範圍ヲ超エサル程度ニ於テ其預告ヲ爲スコトヲ努ムヘキニ過キス

0501

第六 助命セサル宣言 第十七世紀以後ヨリシテ戰勝軍ハ戰敗者ニ對シ其生命ヲ救助スルノ義務アルモノト認メラルルニ至リタルニ拘ハラス小ナル城壘ニ據リ到底對抗スヘカサル大軍ニ向ヒテ頑固ナル抵抗ヲ爲シテ以テ進軍ヲ妨ケタルトキハ其城中ニ在リテ防守シタル者ノ生命ハ救助スヘカラスト看做サレタル古來ノ法則ハ「ナボレオン」戰争ノ當時ニ至ルマテ一般ニ是認セラレ來リタルカ如シ今其法則ノ理由トシタル所ヲ見ルニ斯ル抵抗ハ防守者ノ本國ニ益ナクシテ徒ラニ敵軍ニ對シテ無益ノ殺傷ヲ繼續スルニ止マルカ故ニ之ヲ嚴罰スルニ在リトス然ルニ世ノ進歩ト共ニ不完全ナル城壘ヲ堅ク守リタルノ故ヲ以テ其生命ヲ救助セサルノ行爲ハ人情ニ反スルモノナルト同時ニ歴史ニ就テ觀ルモ小軍ヲ以テ城壘ヲ固守スルハ必スシモ無益ナル殺傷ヲ繼續スルニ限ラスシテ之カ爲メニ國家ノ運命ヲ挽回シタルコト尠カラス隨テ「ヴァッテル」ハ此法則ヲ排斥シ如何ナル場合ヲ問ハス兵器ヲ捨テタル敵人ハ他ニ犯罪アル者ヲ除クノ外殺戮スヘカラスト論シ現今ニ於テハ降服スルモ其生命ヲ助ケサルヘキ宣言ヲ敵軍ニ對シテ爲スハ不法ト看做サルルコトト爲リ「ブルッセル」宣言竝ニ陸戰ノ法規慣例條約第二三條ニ於テモ

兵器ヲ捨テ又ハ自衛ノ手段盡キテ降ヲ乞ヘル敵兵ヲ殺傷スルコト 助命セサルノ宣言ヲ爲スコト トヲ嚴禁セリ

然レトモ茲ニ所謂助命ノ恩典ヲ拒ムヘカラストスルハ如何ナル場合ニ於テモ敵國戰闘員ノ生命ヲ救助スヘシト云フニ非スシテ自國軍隊ノ事情ニ於テ之ヲ救助スルトキハ自國軍隊ニ來スヘキ危險アリテ其危險ハ急遽必且至大ニシテ他ニ之ニ代フルノ方法ナク又他ノ手段ヲ擇フノ暇ナキ場合ニ於テハ自衛

上之ヲ殺傷シ得ヘキ場合アルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ隨テ助命セサルノ宣言ヲ禁スルハ斯ル非常ノ場合及ヒ報仇ニ出ツル場合ハ自ラ例外ニ屬シ豫メ一般的ニ敵人ヲ助命セサルノ宣告ヲ爲スヘカラスト云フニ過キス

前述ノ六種ノ方法ハ戰闘ノ方法トシテ絶對的ニ禁止スル所ナレトモ詐略ヲ用フルト間諜ヲ使用スルトハ決シテ禁スル所ニ非ス左ニ之ヲ分説セン

第七 詐略 友誼國間ニ於テ一舉一動互ニ誠實信義ヲ以テ交際スヘク之ヲ缺クトキハ友誼ヲ保持シ得ヘカサルカ故ニ平時國際公法ニ於テハ詐欺詐術ヲ絶對ニ禁スト雖モ戰時ニ於テハ互ニ自國ノ防衛ト戰争ノ成效ヲ期スルノ必要ニ基キ敵軍ノ缺點ト不幸トヲ利用スルノ已ムヲ得サル事情アルカ故ニ戰闘方法ニ詐略ヲ用フルハ決シテ禁スル所ニ非ス陸戰ノ法規慣例條約第二四條ニ於テモ

奇計竝敵情地形探知ノ爲必要ナル手段ノ行使ハ適法ト看做ス
規定セリ此故ニ戰争ニ於テ敵軍ヲ詐リテ其發砲ノ方向ヲ誤ラシメ其他其攻撃ヲ無効ナルニ歸セシメ又ハ敵軍ヲ詐リ誘ヒ不意ニ攻撃シテ進退ヲ失ハシメ之ヲ殺傷又ハ降服セシムル如キハ禁スル所ニ非ス然レトモ戰争法上ノ慣例トシテ特種ノ行爲又ハ徽號ハ特定ノ意義ヲ有シ戰闘中兩軍ノ交戦交通若クハ協議ニ必要ノモノアリ列國ノ條約ヲ以テ一定ノ人員又ハ物件ヲ人類一般ノ爲メ保護スルコトアリ軍隊旗、軍使旗又ハ赤十字旗等ノ如キ是ナリ然ルニ此等ノ行爲ヲ變ヒ又ハ徽號ヲ用ヒテ敵軍ヲ欺クハ嚴禁スル所ニシテ軍隊旗又ハ休戰旗ヲ濫用スルハ間諜ト看做サレ病院若クハ其附屬員ニシテ或ハ赤十字旗ヲ軍隊ノ輸送、兵器、彈藥ノ運搬ニ用ヒテ其攻撃ヲ免レントシ或ハ之ヲ病院綑帶所以外ノ建築物ニ濫用シ又ハ赤十字臂章ヲ病者、負傷者ノ救護ニ從事セサル者ニ於テ携帶スル如キハ國際公法又ハ條約ノ違

反ナルカ故ニ犯罪トシテ嚴ニ處罰セラルヘキモノトス

第八 間諜 間諜トハ「ブルジョアセル」宣言第一九條ニ定義セルカ如ク敵軍ニ通報スルノ意思ヲ以テ交戦者ノ作戦地内ニ於テ秘密ニ行動シ若クハ虚妄ノ口實ヲ稱ヘテ各種ノ情報ヲ收集シ若クハ收集セントスル行為ヲ意味スルモノトス隨テ偵察又ハ斥候ノ如ク戰爭ニ行ハルル普通方法トシテ敵情ヲ探知スルハ間諜ニ非ス此故ニ軍服ヲ著シ軍人タルコトヲ隠スコトナクシテ敵軍ノ作戦地帯ニ入りタル者又ハ軍人ト否トヲ問ハス敵軍ニ信書ヲ傳送スル任務ヲ公然執行スル者又ハ自國軍隊間ノ使者ニシテ誤リテ敵軍ニ入りタル者等ハ間諜ト看做スコト能ハス總テ軍隊ニ於テ間諜ヲ使用スルノ利益ハ作戦上大ナル利益アルヲ以テ古來名將ハ之ヲ使用シタルコト尠カラズ軍隊ニ於テ間諜ヲ正當ニ使用シ得ヘキヤ否ヤハ議論アリタル所ニシテ「ヴァテル」ノ説ニ於テハ間諜ハ正當ニ之ヲ死刑ニ處スヘク依リテ以テ間諜ヨリ生スル危害ヲ防クヲ必要トシ且間諜ノ任務ハ詐欺ノナルヲ以テ名譽ヲ重スル者ハ自ラ之ヲ承諾スヘキモノニ非ス又交戦國ノ君主モ特別ノ場合ニ際シ避クヘカラサルニ非サレハ其人民ニ對シテ間諜ト爲ルコトヲ請求スルコト能ハスト説キタレトモ今日ニ於テハ交戦者カ間諜ヲ使用スルハ國際公法上不法ニ非サルコトハ一般ニ認メラルルニ至レリ

歐洲ニ於テハ間諜ハ名譽アル任務ト看做サレ居ラスシテ古來一般ニ賤メラルモノナレトモ間諜ニ二種アリテ本國軍隊ノ行動ヲ裏切シテ其作戦計畫等ヲ敵國ニ通報スルハ固ヨリ憎ムヘク卑ムヘキ行動ナレトモ國際公法ノ法則トシテハ交戦者ニ於テ其簡カ敵國人ト自國人又ハ中立國人ナルトヲ問ハス間諜ノ任務ヲ務ムル者ハ之ヲ利用シ又ハ使用シ得ヘク又自國人ノ危險ヲ冒シ生命ヲ賭シテ間諜ト爲リ自國軍隊ニ大ナル便益ヲ與フヘキ敵軍ノ情報ヲ竊ニ探知スルハ卑ムヘカラサル行為タルノミナラス却テ

名譽アル勇敢ノ行為ト爲スヘク「ナボレオン」第一世カ西班牙ヲ侵襲シタルニ際シ敵國ノ多數ノ間諜カ佛國ニ入り居リタルハ以テ西班牙國ノ亡滅ヲ救ヒ歴史家モ其間諜ノ勇敢ト才徳トヲ賞賛セリ隨テ間諜カ敵軍ノ爲メニ捕ヘラルルトキハ「ブルジョアセル」宣言ニモ規定セル如ク軍法會議ニ於テ死刑ニ處セラルヘシト雖モ國際公法上ノ犯罪ニ非ス單ニ敵國ノ之ヲ捕ヘタル場合ニ於テノミ敵國カ之ヲ犯罪トシテ刑罰ヲ得ルニ止マリ普通間諜ハ本國軍隊司令官ノ命令ニ出テタルト否トヲ問ハス其任務ニ從事スル者ハ緊害アリテ刑罰ニ處スヘカラサル者ヲモ死刑ニ付セラルルノ虞アルカ故ニ必ス先ツ之ヲ裁判シタル後ニ於テ刑罰ヲ行フヘキコトヲ交戦國ノ義務ト爲シ陸戰ノ法規慣例條約第三〇條ニ於テ「現行中ニ捕ヘラルタル間諜ハ先ツ裁判ニ付シタル上ニ非サレハ之ヲ罰スルコトヲ得ス」ト規定セリ加之間諜ハ國際公法上ノ犯罪ニ非サルヲ以テ斯ル刑罰ニ付セラルルニハ必スヤ現行中ニ捕ヘラルタル場合ニ限ル所以ニシテ其間諜カ一旦其本國軍隊ニ復歸シタル後ニ至リ敵ノ爲メニ捕ヘラルタル場合ニ付テハ受クヘク其前ニ於テ同カ間諜ノ行為ヲ爲シタルノ故ヲ以テ如何ナル刑罰ヲ受クルコトナシ

戰爭中輕氣球ヲ以テ敵軍ノ情況ヲ探知スル爲シタルノ故ヲ以テ如何ナル刑罰ヲ受クルコトナシ之ヲ用ヒテヨリ近來ノ戰爭ニ於テハ盛ニ使用セラルルニ至リ千八百七十年普佛戰爭中巴里包圍中佛軍ニ於テハ六十四箇ノ輕氣球ヲ用ヒテ各邦ト聯絡ヲ謀リ「ガンベッタ」ハ之ニ乘シテ包圍ヲ出テ地方ニ於テ義勇兵ヲ募集セリ當時英國人其他ノ中立國人モ輕氣球ニ乘シテ獨逸國ニ捕ヘラルタル者アリテ獨逸國ハ許可ナクシテ自國軍隊ノ場所ヲ輕氣球ニテ通過シタル者ハ何國人タルヲ問ハス自國軍隊ノ事情ヲ敵軍ニ通報スルノ嫌疑ニテ軍法會議ニ付シ間諜トシテ罰セント試ミ軍人カ軍人タルノ身分ヲ隠蔽スル



コトナクシテ輕氣球ニ乗シテ敵情ヲ探知スルハ間諜行爲ナリヤ否ヤハ戰時ノ問題ト爲リタリシカハブルセルニ宣言第二二條及ヒ陸戰ノ法規條例條約第二九條ニ於テ此點ヲ明カニシ信書ヲ傳達スル爲メ又ハ軍隊間若クハ軍隊ト地方トノ間ニ聯絡ヲ通スル爲メ輕氣球ニテ派遣セラレタル者ハ間諜ト看做スヘカラサルコトヲ規定セリ

第三節 非敵意ノ交通

第一款 休戰及ヒ停戰

休戰ナル名稱ハ之ヲ廣義ニ言ヘハ交戰者雙方ノ合意ヲ以テ戰闘ヲ中止スルモノヲ總稱シ其戰闘ヲ定ムル區域ノ大小又其期間ノ長短ヲ問ハサレトモ之ヲ狹義ニ解釋スレハ其戰闘中止ノ區域ノ小ニシテ期間ノ短キモノヲ停戰ト稱シ其區域ノ大ニシテ政治上ノ意味アルモノヲ休戰ト名ク凡テ休戰又ハ停戰ニ於テ戰闘行爲ヲ中止スルハ交戰國雙方ノ約定ニ因ルヲ要シ其中止ノ範圍ハ軍隊全部ニ涉リ若クハ一部ニ限ルコトアリ全部ニ涉ルハ交戰國間ノ戰闘ヲ一時全ク中止シ其一部ニ限ルモノハ單ニ特定ノ地域内ニ於テ軍隊中特定ノ部隊間ニ戰闘ヲ中止スルモノトス就中其戰闘中止ノ軍隊一部ニ限リ軍隊雙方ノ便宜ニ因リ互ニ負傷者ノ運搬、死亡者ノ埋葬、俘虜ノ交換又ハ軍隊間ノ協議等ノ爲メ小時間一定ノ場所ノ戰闘ヲ中止スルヲ停戰ト謂ヒ之ニ反シテ休戰ハ例ヘハ媾和條約ノ締結、軍隊ノ降服其他政治上ニ關係ヲ有シ戰闘中止ノ區域大ニシテ其日時ノ長キモノヲ謂フ而シテ全軍ニ涉ルノ休戰ハ國家ノ主權者ノミ之ヲ行ヒ兩國政府ヨリ特ニ命セラレタル者ニ於テ之ヲ協定スヘク陸海軍ノ司令長官ト雖モ其普通ノ職權内ニテハ之ヲ行フコト能ハス雖テ陸海軍司令官カ本國主權者ヨリ特別ノ命令ヲ受ケスニテ斯ル

約定ヲ爲シタルトキハ主權者ノ追認アルコトヲ必要トシ之ニ反シテ一地域ヲ限リ又ハ軍隊一部ニ涉ルノ停戰ハ兩軍指揮官ノ間ニ於ケル協議ニ因リテ自由ニ之ヲ行ヒ得ヘク其效力ハ單ニ其指揮ノ下ニ在ル兵士ノミヲ拘束スルニ過キスニテ其指揮ニ屬セサル他ノ部隊ヲ拘束セサルカ故ニ他ノ軍隊ノ行動ニ付テハ何タル影響ヲ及ボスコトナシ

停戰並ニ休戰ハ其ニ其約定ニ交戰國ノ批准ヲ要セスシテ其合意アルヤ直チニ效力ヲ有ス又總テ戰闘ノ中止ヲ爲スニ當リテハ其中止間ニ於ケル兩軍ノ行爲其他ノ關係及ヒ戰闘ノ中止ヲ實行シ又ハ再ヒ之ヲ開始スル時期等ヲ明カニ協定シ置クノ必要アリ又休戰ノ場合ニ於テ其命令ヲ各軍ニ傳達スルニハ時日ヲ要スルコトアルヲ以テ休戰開始ノ時期モ自ラ軍隊ノ位置ニ應ジ其各部分ニ付キ異ナリタル時日ヲ規定シ得ヘク何レノ場合ニ於テモ交戰者ハ時期ヲ失ハス休戰ノ關係官衙及ヒ軍隊ニ公然通知ヲ爲スノ義務ヲ有ス又休戰若クハ停戰ニ於テ其終了ニ關スル期限ヲ豫メ定メ置キタルモノハ其期限ノ滿了ト其再ヒ戰闘ヲ開始スルコトヲ得ヘシト雖モ終了期ヲ明定シ置カサルトキハ交戰者一方ノ任意ヲ以テ何時ニテモ再ヒ戰闘ヲ開始シ得ヘシト此場合ニハ戰爭ヲ開クノ通知ヲ敵軍ニ爲セハ足ルモノトス其他交戰者一方ニ於テ停戰休戰ノ規約ニ付キ大ナル違反破約ノ行爲アルトキハ之ト同時シ他ノ一方ハ其規約ノ條件ヲ履行セサルノ權ヲ有スルノミナラス緊急ノ場合ニハ直チニ戰闘ヲ開始シ得ヘシ然レトモ時トシテハ斯ル規約ノ違反ハ軍隊ノ意思ニ非スシテ個人カ軍隊指揮官ノ命令ニ違背シタル行爲ニ出ワルコトアルニ由リ對敵者ハ先ツ其破約ニ付テノ理由ヲ詰問シ相當ノ辯解又ハ賠償ヲ爲シ得ヘキ機會ヲ與フルコト必要ニシテ個人ノ意思又ハ怠慢ニ因リテ約定ニ違反アルトキハ單ニ違反者ヲ罰セシメ之カ爲メ損害アルトキハ賠償ヲ求ムルノ權利ヲ有スルニ過キスニテ休戰又ハ停戰ヲ廢止スルコトヲ得ス

0504

休戦又ハ停戦ハ交戦國間ニ於テ平時ノ交通通商ノ關係ヲ回復スルモノニ非スシテ軍ニ戰場ニ於テ戰闘行為ヲ中止スルニ過キス而シテ休戦又ハ停戦中各交戦者ハ其休戦又ハ停戦開始ノ當時ニ於ケル戰闘進行ノ状態ヲ進捗スルコトナク其戰闘中止當時ノ状態ヲ存続スヘキコトヲ通則トス然レトモ縱令戰闘中ニ於テモ交戦者一方カ他方ニ對シテ禁制シ能ハサル性質ヲ有スル行為ハ休戦、停戦中ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ例ヘハ包圍ヲ受ケタル城壘ニ於テハ敵ノ砲撃ニ因リテ破壊セラレタル城壁等ヲ修復スルコト能ハサレトモ敵丸ノ達セサル場所ニ防禦ノ工事ヲ起スハ妨ナク休戦中ト雖モ内國ニ於テ軍艦其他戰争用ノ船舶ヲ製造、修復シ又ハ兵士ヲ募集、訓練シ或ハ戰地以外ニ於テ陸海軍ノ軍備ヲ爲スハ妨ナキカ如シ

休戦中交戦者ノ行為ニ關シテ殊ニ議論ノ存スルハ包圍ニ係ル場所ニ外部ヨリ糧食ヲ運搬シ得ルヤ否ヤノ問題ニシテ此場合ニ於テ糧食ハ被圍者ニ取リテハ武器同シク戰争ヲ繼續スル必要物件ニテ休戦中ト雖モ城中ノ人民ハ之ヲ消費スルニ拘ハラス休戦ハ之ヲ開始シタル當時ニ於ケル兩軍ノ状態ヲ休戦終了ノ時マテ繼續スルヲ通則ト爲スニ由リ休戦中消費スヘキ糧食ハ外部ヨリ運搬セシムルハ理論上正當ナルカ如ク千八百一年「トレビゾー」休戦ニ於テ伊國兵士ハ毎十日間ノ糧食ヲ城外ヨリ運搬スルコトト約定シ其消費高ヲ超過スルコトナキヲ糧食ヲ歐洲同盟軍ヨリ供セラレタルコトアリ然レトモ休戦中ノ城ニ於テ圍マレタル佛軍ハ五日間毎ニ糧食ヲ歐洲同盟軍ヨリ供セラレタルコトアリ然レトモ休戦中ノ條件ハ交戦者雙方ノ合意ニ出ツヘキモノナルカ故ニ合圍者ニ於テ城中ノ兵士並ニ人民ヲ饑餓ニ瀕セシメ以テ降伏ヲ早メントスルカ如キ攻撃軍ノ軍略ニ依リテハ必スシモ糧ノ運搬ヲ許スコトヲ承諾スヘキ義務ナク其供給又ハ運搬ニ付キ特別ノ約定ナキ以上ハ合圍者ニ於テ之ヲ拒絕スヘカラサルノ義務ナキ

コトハ現行法上疑ナク千八百七十年獨逸軍ハ縱令制限ノ時日間ニ充ツヘキ糧食ノ運搬ヲ佛軍ニ拒ミ同年十一月巴里府ヲ圍ミタル獨逸軍ハ二十五日間ノ休戦ニ於テ同期日間城中人民ノ要スル糧食ヲ外部ヨリ運搬スルコトヲ拒絕シタルハ其一例ナリ

第二款 降伏其他軍隊間ノ約定

戰争ノ開始前又ハ戰争中ニ於テ交戦者雙方ノ約定ヲ以テ俘虜ノ交換、軍使ノ接受又ハ郵便、電信等ノ交通ニ關シ一定ノ規則ヲ守ルヘキコトヲ規定スルコトアリ此等軍隊間ノ約定ハ其性質上批准ヲ要セスシテ司令官ニ於テ誠實ニ之ヲ遵守スヘク其約定ヲ濫用シテ敵情ヲ探リ又ハ敵國攻撃ノ助ト爲スコト能ハス殊ニ俘虜交換ノ如キハ兩軍ヨリ互ニ自國官吏ヲ對手國ニ派遣シ之ヲシテ其交換ヲ監督シ又其俘虜交換船カ特權ヲ有スルコトハ既ニ述ヘタル所ナリ又戰争中ニ於テ都市、城砦又ハ一定ノ地方ニ於ケル行政長官若クハ陸海軍ノ本隊又ハ枝隊ニ於テ敵軍ニ抵抗スルノ力足ラサルカ爲メ望ナキ戰争ヲ繼續シ無益ナル殺傷ヲ避クルコトヲ欲スルコトアルト同時ニ對手國ニ於テハ其降伏ヲ許スコトアリ斯ル場合ニ於テ降伏ノ條件ハ固ヨリ兩軍司令官ノ間ニ於ケル協議ニ依ルヘク降伏地ノ人民保護ニ關スル約定、其信教及ヒ財産ノ安全其他種種ノ特典ヲ定メ兵士ニ付テハ單ニ俘虜トシテ降伏スルカ若クハ軍隊ノ名譽ヲ維持シ軍旗及ヒ兵器等ヲ携帯シテ本國ニ立退キ又ハ他ノ本國軍隊ニ加ハルコトアリ其條件如何ハ降伏者ノ兵力ト其降服ヲ許スヘキ軍隊ノ實力ト其當時ノ事情ニ因リテ兩軍ノ任意ニ協定スヘキモノナルヲ以テ自ラ條件ニ緩嚴アルヲ免レス然レトモ降伏ノ條件ニシテ本國ノ憲法其他政治上ニ關係ヲ有セス軍

0505

隊ノ名譽ニノミ關係スル事項ハ司令官ノ職權ニ據リ任意ニ約定シ得ヘキモノナルニ反シ其領土若クハ人民ニ關係アル條件ニシテ政治上ニ影響ヲ有スルモノナルトキハ司令長官ノミニテ之ヲ約定スルハ無効ニ屬シ國家ノ之ヲ追認スルニ非サレハ其實行ヲ爲スコト能ハス加之司令官ノ權限内ニ在ル事項ト雖モ本國政府ノ訓令ニ違反スルモノハ其效力ナキハ論ヲ俟タス

第三款 軍使旗、通行券及ヒ警護

戰闘中交戦者一方ニ於テ白旗ヲ示シタルトキハ對手軍ニ向ヒテ協議ヲ求ムルコトヲ意味スルモノニシテ「ブルセル」宣言ニ於テモ交戦者一方ノ命令ヲ帶ヒ白旗ヲ立テテ喇叭又ハ軍鼓ノ兵士一名及ヒ旗手ヲ伴フ者ハ軍使旗ヲ有スル者ト認メラレ必要アルトキハ通辯ヲ伴ヒ得ヘク此等ノ人員ハ其ニ不可侵權ヲ有スルモノトセリ隨テ其使者ハ敵軍ヨリ身體上ノ危害ヲ受クルコトナク又俘虜トセラルコトナシ戰闘中交戦者一方ヨリシテ斯ル軍使ノ派遣ニ付テハ其出發ト同時ニ之ヲ派遣スル軍隊ハ戰闘行為ヲ中止スヘク之ニ對シテ對手軍ハ其軍使ノ來リ得ヘキヤ否ヤニ付キ合圖ヲ爲ササルヘカラスシテ若シ近進スルコトヲ許ストキハ直チニ發砲ヲ停止セサルヘカラス之ニ反シテ其軍使ノ接受ヲ欲セサルトキハ之ニ退クヘキコトヲ表示シ得ヘク然ルトキハ軍使ハ本隊ニ引返ササルヘカラス凡テ軍使ヲ出サントスルニ際シ對手軍ハ必スシモ何時ニテモ之ヲ受クヘキ義務アルニ非ス戰闘ノ狀況ニ因リテハ一定ノ時間内ニ之ヲ受ケサルコトヲ豫メ敵軍ニ通告シ得ヘク斯ル通告ヲ爲シタルカ又ハ軍使ニ退クヘキコトヲ示シタルニ拘ハラズ猶ホ之ヲ送リ來ラントスルニ於テハ白旗ヲ有スル使者ニ對シテモ猶ホ發砲シ得ヘキモノトス

軍使ハ縱令敵軍ニ接受セラルルトキニ於テモ固ヨリ敵軍ノ事情ヲ探知シテ本國軍ニ報スルコトヲ許ササルヲ以テ自國軍ニ向ヒ來ルトキハ其對談ノ場所ヲ制限シ或ハ兩眼ヲ蔽フカ如キ自國軍隊ノ事情ヲ知ラシメサルニ必要ノ方法ヲ取り得ヘク軍使ニシテ其特權ヲ濫用スルトキハ司令官ハ一時之ヲ拘留シ得ヘキハ勿論其特權ヲ濫用シテ欺罔ノ行為ヲ爲シ若クハ其行為ヲ教唆シタルトキハ嚴罰セラルヘキモノトス又海戰ニ於テハ軍使ハ白旗ヲ立テタル短艇ヲ以テ之ヲ派遣シ對手軍ニ於テハ同一ノ旗ヲ立テタル短艇ヲ送リテ對談ヲ爲スヲ普通トス

通行券トハ軍司令官カ其統帥スル軍隊ノ占領シタル地域又ハ屯在スル場所等ニ對シ一定ノ箇人ニ之ヲ無事ニ通行セシムルコトヲ許可スル書類ニシテ斯ル通行券ハ敵人ニ對シテモ之ヲ交付スルコトアリ然レトモ交戦國カ一定ノ敵人ヲシテ自國ノ版圖又ハ自國軍隊ノ占領地ヲ無事ニ通過セシムルニ付テハ其場所又ハ通行ノ期日等ヲ制限スルヲ常トシ就中自國管轄ノ下ニ在ル領土全體ニ關スルノ許可ハ政府ニ於テノミニテ交付シ軍隊ノ支配ノ下ニ在ル土地ヲ通行スル如ク特別ノ場合ニ限リ特定ノ目的ヲ以テ一定ノ場所ノ通行ニハ政府又ハ軍隊司令官ニ於テ之ヲ許可シ得ヘシ總テ通行券ハ其有效ノ期限ヲ定メタルモノト否トヲ問ハス其携帶者ニ於テ善良ノ行為アル間ニ限リ之ヲ交付シタルコトヲ條件ト爲スヲ以テ之カ交付ヲ受ケタル指名者其携帶品並ニ通行ノ目的、場所及ヒ時間等ニ付キ嚴重ニ其條件ヲ違スルヘク違反ノ行為アルトキハ嚴罰ヲ受クヘキモノトス

通行券ハ之ヲ交付シタル事情ニ依リ例ヘハ敵人ニ對シテ自國軍ノ屯所其他ニ來ルコトヲ許シタルトキハ再ヒ同人出發地ニ歸リ行クコトノ許可ヲ與ヘタルモノト解釋セラルヘク其通行券ノ有效ナル間ハ敵人ト雖モ保護ヲ受クヘキモノトス然レトモ素ト通行券ノ交付ハ好意ニ依リ本人ニ於テ其許可ノ場所ヲ



通行スル權利ヲ有セサルニ拘ハラス之ニ通行ヲ任意ニ許シタルモノナルカ故ニ之ヲ與ヘタル政府又ハ軍隊ノ事情ニ因リ其通行ヲ不利益ト認ムルコトアルトキハ何時ニテモ其許可ヲ取消シ得ヘク此場合ニ於テハ携帶者ハ安全ニ出發地ニ歸リ來ルコトヲ許サルヘキモノトス又通行券ノ效力ハ之ヲ交付シタル者ノ權力カ行ハル場所ニ限リテ有效ナルニ止マリ一師團ノ司令官カ之ヲ與ヘタル同師團司令官ノ指揮ニ屬スル軍隊ニ限リテ之ヲ侵ササルヘシト雖モ他ノ師團ニ屬スル軍人ヲ拘束スルコトナシ而シテ執レノ場合ヲ問ハス通行券ハ簡人的ノモノニシテ他人ニ讓與又ハ貸與スルコトヲ得ス

警護トハ交戰者一方ノ軍隊司令官其他將校ヨリシテ自己ノ權力ノ行ハレ居ル範圍内ニ在ル特定ノ人又ハ物ニ對シテ保護ヲ與ヘ其安全ニ關シ兵士ノ暴行ヲ加フルナカラシムルモノニシテ斯ル簡人ニ對シ戰闘行為ヲ及ホスヘカラサルノ命令書ヲ交付スルコトアリ一定ノ建築物ニ付キ之ニ警護ノ命令書ヲ糊著シテ其保護ヲ公示スルコトアリ又ハ斯ル簡人若クハ物件ニ關シ兵士ヲ以テ警備ヲ爲サシムルコトアリ普通警護ヲ爲ス物件ハ寺院、博物館、圖書館其他ノ公ノ建築物ニシテ時トシテハ私人ノ家屋ニ之ヲ附スルコトナキニ非ス又警護ノ命令書ヲ携帶セシメ若クハ警備ノ兵士ヲ附スルハ自國人又ハ中立國人ニ限ラス時トシテ敵國人ニモ之ヲ附シテ本國ニ送還スルコトナキニ非ス就レノ場合ニ於テモ警護ニ付テハ之ヲ交付シタル官憲ノ支配ノ下ニ在ル兵士ニ於テ其命令ヲ嚴正ニ遵奉スヘク違反アルトキハ將帥ノ命令ニ違反スルノ故ヲ以テ嚴罰セラルヘキモノニ屬シ又警備ヲ敵人ニ附シタル場合ニ於テハ其兵士ハ敵軍ノ爲メニ攻撃若クハ俘虜トセラルヘキモノニ非ス

第四款 商業ノ免許

戰爭中交戰國ハ自國人民若クハ敵國人民或ハ中立國人民ニ對シ一定ノ場所又ハ物品ニ限リテ戰爭中禁止シタル商業ヲ營ミ得ルノ免許ヲ爲スコトアリ就中其免許ヲ場所若クハ物品ノ種類ニ特定ノ制限ヲ以テ一般ニ與フルコトアリ又ハ簡人的ニ之ヲ與フルコトアリテ其免許狀中ニ明示スル方法ニ依リテ商業ニ從事スルコトヲ許可スルモノトス斯ク免許ニ基キ其免許アルニ非サレハ營ムヘカラサル商業ニ從事スル者ニ對シテハ其免許ヲ與ヘタル交戰者ハ之ニ敵意ノ行為ヲ爲スヘカラスシテ其免許ニ係ル商業ニ關シテハ交戰國人民間ニ於テモ契約ヲ結ビ得ヘキハ勿論戰爭中ト雖モ其訴訟ヲ法廷ニ提起スルコトヲ得ルモノトス然レトモ免許ノ效力ハ之ヲ與ヘタル國ヲ拘束スルニ過キスシテ對手國ニ向ヒテ何等ノ效力ナキニ因リ其商業ニ從事スル船舶及ヒ其商業ニ關係アル物品ハ敵國ノ爲メニ捕獲セラルルノ危險ヲ免ルルコト能ハサルハ言フ俟タス

凡テ戰爭中敵國トノ商業ヲ免許スルト否トハ各交戰國ノ任意ニ屬シ一般的ニ其免許ヲ與フルハ戰爭ニ關スル權利上交通通商ヲ遮斷スル原則ノ中止ナルニ外ナラサルカ故ニ斯ル免許ハ交戰國主權者ノミニ於テ之ヲ與ヘ得ヘク普通勅令又ハ軍隊一般ニ對スル訓令ニ依リテ之ヲ與ヘ特種ノ商業又ハ特定ノ人ヲ限リテ免許ヲ爲スモ其簡人ヲ指定セ又ハ交戰國ノ版圖及ヒ占領地ニ付キ一定ノ場所ヲ限定セザルモノハ主權者ニ於テ之ヲ許可スヘキモノトス然レトモ一定ノ場所ヲ限リテ特別ノ事情ニ因リテハ海陸軍司令官又ハ地方長官ニ於テ軍隊ノ必要若クハ占領地等自己ノ支配ノ下ニ在ル地方ノ必要ニ應シスル免許ヲ與フルコトアリ此場合ニ於テハ其免許ハ之ヲ與ヘタル者ノ支配以外ノ場所ニ對シテハ效力ナキモノトス例ヘハ米墨戰爭中「カリフォルニア」州ニ於テ食物缺乏ヲ告ケ又當時其地方ニ米國商船ノ少カリシニ由リ米國太平洋艦隊司令官ハ敵國人ニ商品輸入ノ免許ヲ爲シタルカ如シ凡テ商業ノ免許ハ政府ヨリ出

0507

シタルト軍隊司令官又ハ地方長官ヨリ爲シタルヲ問ハス其免許ヲ與ヘタル趣旨ニ基キ物品ノ種類、分量又ハ品質並ニ運搬ノ船舶、方法、場所、時間等ノ規定アルトキハ嚴正ニ之ヲ遵守スヘク特定ノ人ヲ指定シテ付與シタルトキハ其指定者又ハ代人ノミニ從事シ得ヘク運搬ノ時間ニ關シテモ天災又ハ敵國ノ妨害ニ出テタル場合ノ外之ヲ誤ルトキハ其免許ノ效力ナキモノトス

第六章 戰爭ノ終了

第一節 總則

交戰國間ニ戰爭ヲ終了シテ平和關係ヲ回復スルハ媾和條約ニ依ルコト近世文明國間ニ行ハルル普通ノ方法ナリト雖モ條約ニ依ラスシテ戰爭ノ終了スルコトナキニ非ス即チ交戰國カ互ニ戰鬪行爲ヲ全然廢止スルカ又ハ其一方カ敵國ニ征服セラルル場合トス就中征服ニ於テ交戰國一方ノ全滅スルトキハ戰爭ノ終了スルコト固ヨリ論ナク交戰國間ニ戰鬪行爲ヲ單純ニ廢止シ全ク之ヲ行ハサルニ至ルトキハ之ト同時ニ戰爭ノ終了ト謂ハサルヘカラス又交戰國ニ於テ媾和條約ヲ締結スルトキハ之ト共ニ平和ノ關係ヲ回復スルモノニシテ媾和條約ノ調印アルヤ否ヤ戰爭ニ附隨スル行爲ハ一切繼續スルコト能ハス隨テ交戰國ニ於ケル戰鬪ハ條約調印ト同時ニ廢スヘキノミナラス占領軍ハ其地方ニ對シ徵發取立金ヲ徵收スルコト能ハス又其未納ニ係ルモノニ付テモ之ヲ収立ツルノ權利ナク俘虜モ亦平和克復ト共ニ其資格ノ當然解除ト爲ルコトハ前述ノ如シ但便宜上俘虜ヲ歸國ニ付テハ兩國ニ於テ其引渡ニ關スル協議ノ纏マルマテ抑留國ニ於テ之ヲ保管シ置クハ一般ニ行ハルル所ニシテ妨害ナシ又平和回復ト共ニ戰爭中中止セラレタル兩國人民間ノ私權ノ行使ハ悉ク回復シ戰爭前ニ於ケル契約ハ法廷ノ保護ニ依リ履行セラル

ヘシト雖モ戰爭ノ爲メニ事實上履行スヘカラサルニ至リタルモノハ其履行ヲ要求スルコト能ハスシテ戰爭ハ天災即チ不可抗力ト同一ニ看做サルヘク同一法理ニ基キ一定ノ時間ヲ契約履行ニ付キ約定シタルモノハ戰爭繼續間ノ日時ハ其期限ニ算入セサルモノトス
茲ニ殊ニ注意ヲ要スルハ媾和ヲ爲ス場合ニ於テ交戰國カ媾和條約中ニ反對ノ規定ヲ設ケ置カサル以上ハ其當時交戰國雙方ノ管轄スル土地並ニ之ニ屬スル物件ハ互ニ自國ノ所有ト爲スノ法則ニシテ例ヘハ占領地ノ處分ヲ媾和條約中ニ特ニ規定セサル場合ニ於テハ悉ク占領國ノ領有ト爲リ動産ニシテ占領軍ニ沒收セラレタル物件ハ固ヨリ其所有ニ歸シ未タ沒收ノ完了セサル物件ハ原所有者ニ回復スルモノトス此法則ヲ名ケテ現有法ト曰フ此法則タル理論上ニ於テハ批難スヘキ點アルヘシト雖モ實際ノ便宜ハ最モ多クシテ媾和條約ニ記載セサルカ又ハ交戰國ニ於テ讓與ヲ明言スルコトヲ欲セサル物件ノ所有權ヲ定ムルニ最モ便宜ナル法則ナリ然レトモ交戰國雙方ノ意思ニ因リテハ必スシモ此法則ニ依ルコトヲ要セスシテ復原法ニ依リテ平和ノ回復ト共ニ戰爭前ノ狀態ニ其物件ヲ回復スルコトヲ爲スヲ得ヘシ各兩國ノ意思ニ基キ明文ヲ以テ復原法ヲ用ヒタル場合ニ於テハ條約中ニ明言セサル占領ノ土地並ニ其附屬ノ物件ヲ原所有國ニ返還スルノ意義ニシテ戰爭ノ法則ニ依リテ行ヒタル徵收又ハ損害ヲ本國ニ賠償スルノ意義ニ非ス換言セハ平和回復ノ當時占領地ニ於ケル狀況ニ變更ヲ加フルコトナクシテ舊國ニ返還スルニ止マルモノトス

第二節 媾和條約

第一款 媾和ノ開始

媾和條約ハ「ツアテル」ノ云ヘル如ク交戰國雙方ノ讓歩ニ因リテ戰爭ヲ終了スルモノニシテ若シ雙方ニ於テ嚴正ニ其權利ヲ主張スルニ於テハ決シテ戰爭ヲ終了スル能ハサルモノトス而シテ媾和條約ニ依リテ戰爭ヲ終ルトキハ戰爭ノ原因ト爲リタル問題ヲ之ニ依リテ決定スルノミナラス戰爭中ニ於ケル雙方ノ行爲並ニ戰爭ノ費用及ヒ損害ニ付テモ悉ク條約規定ヲ以テ確定スルモノニテ條約ヲ締結スルハ交戰國雙方ニ於テ全權委員ヲ選定シ以テ其條約ヲ締結スルモノニテ他ノ條約ト均シク兩國主權者ノ批准ヲ要シ批准ニ依リテ始メテ有效ト爲ルモノトス然レトモ條約中ニ戰爭行爲ヲ終了ノ時日ヲ特ニ記載セサルトキハ條約調印ト共ニ其行爲ヲ廢棄スヘキ效力ヲ有シ日清戰爭ニ於ケルカ如ク豫メ休戰ノ約定アリタルトキハ論ナシト雖モ特ニ休戰ノ約定ナキ時ニ於テモ其條約調印ト共ニ當然休戰ト爲ルヘキモノナリ何トナレハ若シ條約ノ批准アルトキハ其效力ハ調印ノ當時ニ遡ルニ由リ調印後戰爭ヲ繼續セハ當ニ戰闘地方ニ不必要ナル損害ヲ與ヘ兵士ヲ無益ニ傷フノミナラス之カ爲メニ條約締結當時ノ事情ヲ變更シ其條約ノ實行ヲ困難ナラシムヘキニ至ルヲ以テナリ又戰爭ノ行ハルル場所ノ廣クシテ軍隊屯在ノ場所ニ由リテハ交通不便ノ爲メ迅速ニ媾和ヲ通知スルコト能ハサルコトアリ斯ル場合ニハ豫メ其場所ニ由リ戰爭行爲ヲ廢止スル時期ヲ異ニシ置クコトナキニ非ス斯ル場合ニ於テハ其約定ノ日時ヲハ平和ノ事實ヲ知ラスシテ戰爭ヲ繼續スルハ妨ナシト雖モ若シ其期日前ニ於テ公ナル平和回復ノ通知ヲ得タルトキハ其約定ノ期日ヲ待タズ同通知ヲ受領シタルト同時ニ戰爭ヲ廢止スヘキモノトス茲ニ公ナル通知ト云フハ本國政府ヨリ公然ニ軍隊又ハ艦隊司令官等ニ與フル公ノ通告ニテ軍隊ハ自國政府以外ノ關係ヨリシテ平和回復ノ通知アルモ之ニ依リ行動スルノ義務ヲ有セス又蓋ニ斯ル通知ニ信賴シテ行動スルハ危險ナルモノトス此適例トシテ千八百一年英佛戰爭ハ「アミアン」條約ニ依リ終了シ印度洋ニ於テハ

五箇月間ニ戰爭行爲ヲ終ルヘキコトト爲シタルニ其期限滿了前英艦「スワインハート」號ハ印度洋ニ於テ佛國ノ爲メ拿捕セラレタリ此場合ニ於テ其拿捕者ハ英國及ヒ葡萄牙國ヨリシテ戰爭ノ既ニ終了シタリ通知ヲ得タルニ拘ハラス拿捕ヲ行ヒタルモノナリシカ佛國捕獲審檢所ハ其捕獲ヲ正當トセリ是レ全ク佛國政府ノ公報ナキニ因リタルニ外ナラス

第二款 媾和條約ノ效果

媾和條約ニ於テハ之ニ依リテ交戰國間ニ於テ戰爭發生ノ原因ト爲リタル係争ノ問題ヲ悉ク決定スルヲ普通トスト雖モ時トシテハ其問題ノ多岐ニ亘リテ一時ニ之ヲ處理スルコトノ困難ナル所ヨリシテ其詳細ノ決定ヲ後日ニ譲リナカラ漫然交戰國間ニ平和ノ回復ニ付テノミ先ツ條約ヲ締結スルコトナキニ非ス千八百十四年英米兩國間ノ「グント」媾和條約ニ於テ戰爭ノ原因ト爲リタル問題ヲ解決スルコトナクシテ單ニ其戰爭ヲ終了スヘキコトヲ規定シタルハ其一例ナリ然レトモ此ノ如キ實例ハ最も稀ニシテ普通係争問題ヲ一定シ之ト同時ニ戰爭ノ結果ニ伴フ新狀態ニ附隨スル必要ナル種種ノ約定ヲ爲シ其人民ノ私權ヲ保護シ通商其他國際上ノ關係ヲ規定スルモノニシテ例ハ馬關條約ニ於テ戰爭ノ原因タリシ朝鮮ノ獨立ヲ確定シ臺灣ノ割讓及ヒ償金等ヲ定メ加フルニ兩國間ニ於テ新ニ通商條約ヲ締結スルニ關シテ其基礎ト爲ルヘキ標準ヲ規定セルカ如シ今簡短ニ媾和條約ノ效果ヲ列舉セハ左ノ如シ

(甲) 戰爭前ノ事項ニ關シテハ

第一 交戰國間ニ於テ戰爭ヲ惹起スルニ至リタル問題ヲ絕對的ニ終了シ同一問題ニ付キ兩國ノ爭議ヲ全ク消滅スルモノニシテ普通媾和條約ニ於テハ其條文中ニ締盟國ハ永久ノ平和アルヘキコトヲ明



言スルモノトス此永久ノ平和トハ將來如何ナル原因ニ付テモ決シテ戰爭ヲ爲サスト約定シタルニ非
 スシテ戰爭ヲ開始シタル問題ニ付キ兩國ハ再ヒ戰爭ヲ爲ス能ハスト云フニ過キス就中媾和條約ノ效
 果ハ其戰爭ヲ惹起スルニ至リタル特定ノ問題ニ限ルヲ以テ締盟國ハ同一種類ノ事件ニ付キ權利ノ侵
 害又ハ損害ヲ重キテ受クルトキハ其事件タル縱令戰爭ト爲リタル問題ト其性質ヲ同シタルコトア
 ルモ是レ固ヨリ別箇ノ問題ナルヲ以テ更ニ開戦ノ理由ト爲シ得ヘキモノトス又戰爭前ノ損害其他國
 家間ノ問題ニシテ戰爭ノ理由ト爲ラサリシモノハ媾和條約ニ關係ナキヲ以テ戰爭終了ニ依リテ消
 滅セザルヤ明カナリ

第二 兩國間ニ存在セシ條約其他ノ約定ニシテ其實行カ交戰國ノ一方又ハ雙方ノ戰爭ニ干與シタル
 爲メ中止ト爲リタルモノハ悉ク回復ス

第三 兩國人民間ノ私權ニ回復シ戰爭ニ因リテ物質的ニ其實行ヲ爲ス能ハサルニ至ラサルカ又ハ無
 效ト爲ラサル契約其他權利義務一切ノ關係ハ兩國ノ法廷ニ於テ各々之ヲ保護スルモノトス

(乙) 戰爭中ノ行爲ニ關シテハ

媾和條約ハ戰爭ニ關スル事項ニ最終ノ決定ト看做スカ故ニ交戰國一方ノ命令ノ下ニ於テ或ハ戰爭ノ
 權利ヲ超過シ又ハ其權利ニ關係ナクシテ爲シタル行爲ニ付キ媾和條約調印後ニ於テ對手國ハ其政府
 又ハ人民ノ爲メ斯ル行爲ヲ批難シ若クハ之ニ關スル要求ヲ提出スルコト能ハス又時トシテハ戰爭中
 交戰國政府ノ命令ニ出テスシテ人民ノ濫ニ戰爭行爲ヲ爲シタル者又ハ其他ノ不正ノ行爲アリタル者
 ナキニ非サレトモ斯ル場合ニ於テモ媾和條約ハ總テ兩國間ニ戰爭ノアリタル感情ヲ塗抹シ其惡感情
 ヲ一掃スルト同時ニ戰爭ノ熱情ニ伴ヒタル不正ノ行爲ヲハ罰セザルモノニシテ媾和條約調印ト共ニ

此等戰爭中ノ行爲ハ其不正ナルモノト雖モ之ヲ免除スルモノトス之ヲ名ケテ赦免ト稱シ媾和條約締
 結ニ當然伴フヘキ結果ナレトモ其條約中ニ之ヲ明定スルヲ普通トス馬關條約第九條第二項ニ於テ日
 本臣民ニシテ軍事上ノ間諜又ハ犯罪ト認メラレタル者ハ清國ニ於テ直チニ解放スヘキコトヲ約シ清
 國ハ又交戰中日本軍隊ト種種ノ關係ヲ有シタル清國臣民ニ對シ如何ナル處刑ヲモ爲サス又之ヲ爲サ
 シメザルコトヲ約スト規定セルハ其一例ナリ

(丙) 條約締結後ノ行爲ニ關シテハ

締盟國ハ條約締結ト共ニ其平和ヲ回復シ批准ノ效力ハ調印當時ニ遡ルモノトス而シテ兩國人民ノ條
 約締結後ニ於テ平和ノ事實ヲ知ラスシテ戰爭行爲ヲ爲シタルトキハ固ヨリ故意ナキカ爲メ處刑セラ
 ルルコトナシト雖モ國家ハ之ニ對シテ損害賠償ノ責任ヲ免ルル能ハス換言セハ加害國ハ其被害國ニ
 對シ可成的之ヲ原狀ニ回復スヘク損害アルトキハ悉ク賠償セザルヘカラス

第三節 戰爭行爲ノ廢止及ヒ征服

交戰國ニ於テ戰爭行爲ヲ單純ニ廢止シテ戰爭ノ終了スルコトハ古來其例甚タ少ク千七百十六年瑞典國
 及ヒ波蘭國間ノ戰爭及ヒ今世紀ニ於テ中央亞米利加並ニ南亞米利加ニ於ケル西班牙國殖民地ノ獨立シ
 タル場合ニ於ケル事實ハ其實例タリ即チ亞米利加洲ニ於テ西班牙國ニ叛亂シ獨立ヲ企テタル殖民地ニ
 對シ同國ハ千八百二十五年以來戰爭行爲ヲ廢止シ中立國及ヒ其人民ニ對シテモ中立ノ義務ヲ強制シタ
 ルコトナシ然レトモ西班牙國ハ千八百四十年ニ至ルマテハ墨國ヲ除クノ外中央及ヒ南亞米利加諸國ト
 平和ノ交通ヲ爲シタルコトナク同年ニ於テ勅令ヲ以テ「エクワドル」其相國ノ船舶ニシテ西國版圖ニ入

國際公法(戰時) 交戰關係ノ法則 戰爭ノ終了 戰爭行爲ノ廢止及ヒ征服



ルコトヲ許可シ又千八百四十四年智利國ノ獨立ヲ承認セリ尤モ智利國ノ船舶ニ對シテハ其三年前ヨリシテ交通ヲ許シ「ヴェネジエ」國ノ如キハ千八百五十四年ニ於テ其獨立ヲ承認セリ
 斯ク戰爭行為ノ廢止ニ因リ戰爭ノ終了スルトキハ其終了ノ時期ヲ確知スルコト能ハスシテ永ク交戰國
 並ニ其人民ハ互ニ對テ手國ニ於テ戰爭ノ關係ヲ繼續スルヤ否ヤノ疑ヲ有シ中立國及ヒ其人民モ局外中立
 ノ法則ニ準據シテ交戰國タリシ國家ニ對シ交通關係ヲ爲スヘキヤ否ヤノ疑ヲ免レスシテ其不便少カラ
 サルハ明カナリ然レトモ時日經過ノ後ニ於テハ交戰國カ早晚事實上平和ノ狀態ヲ回復スルニ至リ其結
 果タル媾和條約ニ依リテ戰爭ヲ終了シタルト其效果ヲ一ニスルモノトス但戰爭行為ノ廢止ニ因リ戰爭
 ヲ終了スル場合ニ於テハ確ニ平和關係ノ成立スルニ至ルマテハ兩國間ニ戰爭ト爲リタル問題ノ終了シ
 タルモノト爲スヘカラサルニ由リ同一ノ問題ニ付キ何時ニテモ戰爭ヲ新ニシ得ヘキモノナルカ如シ
 征服トハ交戰國一方ノ亡滅シテ其領土ハ戰勝國ノ爲メニ奪ハレ其人民モ戰勝國主權ノ下ニ立テテ其國
 ノ一部ト爲ルモノトス斯ル場合ニ於テ戰勝國ハ其土地ニ對シテ之ヲ自國ノ版圖ト爲スノ意思ト實力ト
 ヲ以テ事實上ノ領有ヲ繼續スル狀態ノ存スルヲ必要トス而シテ版圖ト爲スノ意思ハ之ヲ合併スルノ宣
 言等ニ依リテ發表セラレ事實上ノ領有ハ其地方ニ對シテ警備ノ行為ニ依リテ明白ト爲ルモノニシテ千
 八百六十年伊國ノ「シシリア」「モジナ」ヲ始メ同半島ノ諸國ヲ征服シ千八百三十年佛國カ「アルゼリヤ」
 ヲ征服シタルハ其實例ナリ征服ニ付キ有名ナル問題ハ千八百六年「ナボレオン」ノ「ヘッスカッセル」國ヲ
 征服シテ其土地ヲ「ウエストフアリア」王國ニ屬セシメタルニ「ナボレオン」敗北後ニ於テ「ヘッスカッセル」
 「王」ハ再ヒ其領土ヲ回復シタリシカ新政府ハ舊國ヲ繼續シタルモノナリヤ否ヤニ付キ問題ヲ生シ遂
 ニ「ブレスロー」大學ニ其審判ヲ求メタルニ同大學ハ判決シテ曰ク「ナボレオン」ノ征服ニ因リ舊國ハ亡

滅シテ千八百六年乃至十三年ノ間其土地ハ「ウエストフアリア」王國ト爲リ其間ニ於テ廢王ハ佛國ニ對
 シ戰爭ヲ繼續シタルモノニ非サルニ因リ新政府ハ舊國ノ相續者ト看做スヘカラストシ此點ニ付テハ學
 者ノ異論ナキ所ナリ

第三編 局外中立ノ法則

第一章 中立ノ意義

局外中立トハ國家カ交戰國間ノ戰爭ニ付キ孰レノ一方ニモ加擔スルコトナク戰爭中雙方ニ對シテ平和
 ノ國交ヲ繼續スル狀態ヲ謂フ隨テ局外中立ノ法則ニ付テハ交戰者ノ一方ニ對シ積極的又ハ消極的ニ他
 ノ一方ニ交戰上ノ利益ト爲ルヘキ行為ヲ爲スコトナク雙方ニ對シ戰爭前ヨリ保持シ來リタル國交ヲ爲
 スヲ原則トス然レトモ局外中立ノ地位ハ戰時ニ於テノミ存在スルモノナルヲ以テ自ラ平時國際法ノ法
 則ヲ全然之ニ通用シ得ヘキモノニ非ス換言セハ交戰國ト中立國トノ權利義務ニ付テハ交戰者カ戰爭ヲ
 遂行スルニ必要缺クヘカラサル權利ト中立國カ中立ヲ維持スルニ必要ナル諸種ノ法則アルノミナラス
 平時關係ニ於テハ國家ハ獨立權ノ作用ニ依リ特定ノ國ニ對シ他國ヨリ一層親密ノ交際ヲ爲シ之ニ特別
 ノ待遇ヲ與ヘ得ヘキモノナレトモ戰時ニ於テハ交戰國雙方ニ對シ嚴格ニ偏重ナキ態度ヲ取リテ其國交
 ヲ爲スヘキモノトス
 凡テ獨立國ハ戰爭前ヨリシテ他國トノ條約ニ因リ其行為ヲ制限セラレ居ラサルニ於テハ他國間ニ於ケ
 ル戰爭中ハ局外中立タルヘキ權利ヲ有シ又其義務アルモノニ屬シ反對ノ宣言ヲ爲スニ非サレハ第三國
 ハ自ラ局外中立タルコトヲ推測スヘキモノトス故ニ日清戰爭ニ際シテモ英、米、伊、丁、葡及ヒ瑞典ノ諸

0511

國ハ中立ノ宣言ヲ爲シタルトモ佛、獨、露等ハ別ニ其宣言ヲ爲サス此同ニ於テ獨逸國ハ初メテ中立ノ宣言ヲ爲シタルトモ斯ル宣言ハ之ヲ爲スト否トニ拘ハラズ同國ハ日清戰爭ノ當時同シク當然局外中立ナルモノトス又局外中立ト永久ノ中立トハ之ヲ區別セサルヘカラスシテ局外中立ニテハ國家カ他國間ニ戰爭アルニ際シ自國ノ獨立權ニ由リ其戰爭ニ干與スルノ自由ヲ有スルニ拘ハラズ自ラ第三者ノ地位ニ立ツコトヲ意味スルモノナレトモ永久ノ中立トハ國家又ハ一定ノ領土若クハ特定ノ物件又ハ人員ニ付キ列國條約ニ依リテ交戰者カ之ヲ侵スヘカラスト定メタルコトヲ意味スルモノニシテ歐洲中瑞西、白耳義、ルクセンブルヒ、ノ三國及ヒ亞弗利加「コンゴ」國ノ如キハ列國條約ニ依リ永世中立國トシテ他國ノ其領土ヲ侵ササルト同時ニ此等諸國ハ戰時、平時ヲ問ハズ自國ノ安全ヲ防禦スル場合ヲ除キ他國ノ戰爭ノ行爲又ハ戰爭ト爲ルヘキ行爲ニ干與スヘカラスルコトト爲リ居ルモノナリ要スルニ永世中立國ハ列國條約ニ依リ獨立權ノ行使ヲ制限シタルモノニ屬シ國際法上主權國ノ特例ト見ルヘキモノトス

又戰爭中獨立國ノ局外中立ニ付キ昔時ノ學者ハ完全中立ノ外ニ不完全若クハ制限ノ中立ナルモノヲ認メ戰爭前ヨリシテ國家カ一定ノ兵士又ハ作戰ノ資料ヲ交戰國一方ニ貸與若クハ給與シ又ハ交戰上特權ノ利益ヲ其一方ニ限リテ與フルコトヲ條約ヲ以テ約定シタルトキハ開戰後ニ於テ其規定ニ基キ交戰者一方ヲ補助シ得ヘキニ拘ハラズ其他ノ關係ニ於テハ全ク局外中立ノ地位ニ在リ得ヘキモノト爲シタルモノトス然レトモ今日ニ於テハ斯ル不完全又ハ制限ノ中立ナル國家ノ地位ヲ認メシテ縱令條約ニ依ルモ戰爭中交戰國一方ノ戰爭行爲ヲ助勢スルハ中立ノ違反ニシテ其責任ヲ負ハサルヘカラス

一定ノ場所又ハ物件又ハ人員ニ對シテ戰爭行爲ヲ及ホササルコトヲ列國條約ニ依リ規定シタルモノニ

付テモ時トシテ中立ナル文字ハ之ニ費用セラレズル場合モ亦均シク永久ノ中立ニ屬スルモノトス即チ條約ニ基ケル中立ノ場所トハ佛領「サウエイ」州、希臘領「アイオニヤン」島中「コルフ」及「ヒ」島中「パキ」島ノ如キモノニシテ「サウエイ」州ハ千八百十五年「ビヤナ」及ヒ「巴里」條約ニ於テ瑞西國中立ノ一部ト定メラレ「サルジニヤ」國ノ領土ナリシカ戰爭アルトキハ同國兵士ハ其境ニ退キ瑞西國ノ兵士ヲ以テ之ヲ護衛スルコトト爲シタルシニ千八百六十年同州ハ伊國ヨリ佛國ニ割讓セラレタリ而シテ千八百八十三年佛國政府ハ「サウエイ」州「ネウ」府ヨリ近距離ニ於テ砲臺ヲ築カントシタルニ中立地タルノ故ヲ以テ瑞西國ヨリ抗議シ佛國モ其建築ヲ廢止セリ又「コルフ」及「ヒ」島中「パキ」島ハ千八百六十四年歐洲大國ノ之ヲ希臘國ニ與ヘタルニ際シ中立地方ト爲シ希臘國モ之ヲ承認セルニ由ルモノタリ然レトモ此等中立地方ト稱スルモノニ付キ其中立ノ範圍ハ今日甚タ明確ナラスシテ政府ハ其地ニ於テ兵士ヲ募集シ軍用品ヲ徵發シ得ヘキニ由リ敵國ハ戰爭ノ必要上敵意ノ行爲ヲ之ニ及ホシ能ハサルノ理ナキカ如シ之ニ反シテ例ヘハ「巴里」條約ニテ「ダニエ」河ヲ中立トシ千八百八十八年蘇士運河ヲ中立トシタルカ如キハ其性質全ク前述セル中立地ト性質ヲ異ニシ其水上ニ於テ戰爭ノ資料ヲ得又ハ之ヲ自國作戦ノ用ニ供スル能ハサルヲ以テ斯ル列國條約ノ規定ハ犯スヘカラスル義務アルコト明カナリ更ニ又列國條約ニ基カスシテ戰爭中交戰國一方ヨリ諸國ニ對シ敵國領土中一定ノ場所ヲ中立トシ之ニ戰爭行爲ヲ及ホササルコトアリ日清戰爭中我國ハ上海ヲ以テ中立地トシ清國ニ於テ之ニ戰爭準備ヲ爲サザルコトヲ條件トシテ其中立ヲ認メタルハ其一例ナリ然レトモ斯ク列國條約ニ基カス又之ヲ永久ノ中立ト爲ササルモノハ國際公法ノ法則上之ヲ中立ト認ムル能ハスシテ單ニ交戰國ノ他國ニ對スル保證ニ過キス



一定ノ物件又ハ人員ニ付キ中立ノ文字ヲ用フルハ列國條約ニ依リ戰地假病院及ヒ陸軍病院並ニ其附屬員等ヲ意味スルモノニシテ其詳細ハ既ニ述ヘタル所ナリ要スルニ中立ノ文字ノ使用ハ諸種ノ場合ニ供用セラルルコトアレトモ本編ニ所謂局外中立ナルモノハ永久ノ中立其他ノ中立ヲ意味スルニ非スシテ獨立國カ戰爭中交戰國ヲ助勢スルノ能力アルニ拘ハラズ其戰爭ニ干與スルコトナク雙方ニ對シ平和ノ交戰國ヲ爲スノ地位ニ在ルモノナルコトヲ明カニ區別スルコトヲ要ス

交戰國間ニ於テ戰時ノ權利義務關係ノ開始スルハ既ニ論シタル如ク兩國間ニ開戦ノ意思ヲ以テ實際敵意ノ行爲アルニ於テスルコトナレトモ中立國カ交戰國ニ對スル中立關係ノ義務開始ニ付テハ然ラスシテ交戰國ハ友誼國ニ對スル義務トシテ開戦アルヤ否ヤ第三國ニ其開戦ノ事實ヲ通告スヘキモノナルト同時ニ第三國ハ戰爭ノ成立ヲ知ルニ非サレハ局外中立ノ義務ヲ負フモノニ非ス隨テ交戰國ハ開戦ヲ宣言其他ノ方法ヲ以テ諸國ニ之ヲ知ラシムヘキモノニテ開戦ノ事實ヲ不明瞭ニ爲シ置クハ中立國ニ取リ不使ト損失ヲ生スルコト尠カラサルニ由リ宣言其他ノ通告ヲ爲スハ實ニ德義上ノ義務ナルノミナラス國際公法上ノ義務ト看做サルルニ至レリ然レトモ若シ中立國政府又ハ人民ニシテ戰爭ノ起ラントスルハ戰爭ノ起ラントスルコトヲ知リタルト否ト問ハス交戰國ハ未タ戰爭ヲ公ニセザルノ故ヲ以テ既ニ敵國ト爲ラントスルモノトノ關係上斯ル中立國ノ行爲ニ因リ大ナル損害ヲ被ラントスルニ拘ハラズ之ニ對シ敵意ノ行爲ヲ爲スヘカラサルノ理由ナキニ由リ斯ル行爲ヲ爲ス中立國若クハ其人民ハ遽ニ開戦ト爲リタルカ爲メ之ニ伴フノ損害ヲ被ムリタル場合ニ於ケル其賠償ヲ加害國ニ對シテ求ムルコト能ハス

第二章 局外中立ノ發達

局外中立ナル文字カ國際公法上一定シタルハ千七百五十八年「ヴァテル」ノ著書ニ於テ始マリタルモノニテ斯法上中立ニ關スル事項ハ第十八世紀ノ半頃マテハ其文字ノ確定セザリシヲ以テ觀ルモ其法則ノ發達セザリシヲ知ルニ足ルヘシ然レトモ戰爭ニ於テ交戰國ハ戰爭ヲ爲スノ必要上他國民ノ商業ニ妨碍ヲ加ヘ轉ヘキ權利ノ如キハ希臘、羅馬ノ海上法ニ於テモ其跡ヲ止メ中世ニ於テモ實行サレタル慣例ニシテ古代ニ於テハ此權利ハ絕對的ニ行ハレタリシカ商業發達ト共ニ中立國ノ權利ヲ擴張スルニ至リタルモノトス第十七世紀ニ於テハ「グロシウス」ノ著書ニモ戰爭ニ於テ中立ノ地位ヲ保ツコト最モ難ク且危險ナルコトヲ説キ第三國ハ交戰者ノ正當ト否ト明カニシ不正ノ交戰者ヲ強ムルノ行爲又ハ正當ノ交戰者ノ行動ヲ妨クヘカラスシテ單ニ其正否ニ疑アル場合ニ於テノミ雙方ニ對シ同一ノ待遇ヲ爲スヘキコトヲ説キ今日ニ於テハ交戰者雙方ニ絕對的平等ノ待遇ヲ爲スヘキヲ義務ト爲スニ反シテ「グロシウス」ハ不平等ヲ義務ト爲シタルモノトス隨テ第十七世紀ノ中頃ニ於テハ特ニ條約ヲ以テ中立國ノ關係ヲ定ムルニ非サル以上ハ交戰國一方カ中立國領土内ニ於テ兵士ノ募集其他戰闘準備ヲ爲スコトヲ許シ時トシテハ中立國ヨリ交戰國一方ニ戰爭ノ材料ヲ與ヘタルコト尠カラズ然ルニ其後ニ至リ中立國政府ヨリ濫ニ交戰國一方ニ戰爭ノ補助ヲ爲ス慣例ノ止ムニ至リタレトモ戰爭前ヨリ條約ニ係ルモノハ其規定ヲ履行スルヲ得ヘク「ヴァテル」モ亦第三者ヨリ防禦同盟條約ノ故ヲ以テ交戰國一方ニ助勢スル軍又ハ軍隊ニ助勢ヲ與フルモ正當ト爲セリ隨テ當時交戰國ノ中立國領内ニ於テ兵士ヲ募リ軍艦ヲ買入

レ又ハ之ヲ儀裝若クハ武裝スルカ如キ行爲ハ固ヨリ不法ト看做サレサリシハ言フヲ俟タスシテ時トシテハ其國ノ許可ナクシテ交戰國ハ此等行爲ヲ爲シ得ヘキモノトセリ然ルニ第十八世紀ノ末ニ於テ「マールテンス」ヲ始メ多クノ學者ハ中立國ヨリ兵士等ヲ送りテ交戰國ヲ補助スルハ中立ト爲スヘカラスト論シ千七百八十八年露國ト瑞典國ノ戰爭ニ於テ丁抹國ヨリ兵士ヲ送りテ露國ニ助勢シタルハ條約ニ基キタレトモ之カ爲メ瑞典國ヨリ激烈ナル抗議ヲ來シ同戰爭ニシテ永ク繼續セハ丁抹國ハ露國ト共ニ瑞典國ニ對シテ敵國ノ地位ニ立ツノ已ムヘカラスルニ至リタリ

第十九世紀ニ至ルマテハ中立國ノ領内ヲ交戰國ノ戰爭ニ使用スルハ尤ムヘカラスルモノト看做サレ其實例尠カラス「ダロニエス」ハ第三國ニ於テ之ヲ避ケントセハ交戰國雙方ト條約ヲ結ヒ其好意ニ因リ自國領内ニ於テ戰鬪行爲ヲ爲スヘカラスルコトヲ約定スルニ如カストシ「ペンケルシヨーク」モ亦交戰國軍艦カ敵國船ヲ追追シテ中立國領海ニ入ルトキハ其水面ニ於テ之ヲ拿捕シ得ヘキコトヲ説キタレトモ此道理ハ今日ニ於テハ之ヲ認ムヘカラスルニ至レリ又交戰國ト中立國ノ國家間ニ於テモ局外中立ノ關係生シタルトキニ於テ中立國人民ノ戰鬪行爲ニ從事シ中立國領土ヲ戰爭準備ニ使用スルハ咎ムヘカラスルコトト看做サレタリシカ千七百九十三年英佛戰爭ニ於テ華盛頓政府ハ中立義務ヲ嚴正ニ實行スルコトヲ努メ佛國カ米國港内ニ於テ捕獲私船ヲ儀裝シ又領事ヲシテ拿捕品ヲ審判セシメタルニ對シ米國政府ハ之ニ抗議シテ佛國公使ノ召還ヲ請求シ佛國モ之ニ從フニ至リ同年ヨリ千八百十八年ニ至ルマテ米國ハ外國軍隊入籍法ヲ發布シ主トシテ第十八世紀ノ公法學者ノ意見ニ基キ自國民ノ他國間ニ於ケル戰爭行爲ニ干與スヘカラスル法令ヲ發布シタルヨリ局外中立ノ法則ニ付キ大ナル進歩ヲ促シ同戰爭中米國ノ取りタル態度ハ正當ト看做サレ諸國モ之ニ倣フニ至レリ

之ヲ要スルニ局外中立ニ關スル法則ノ發達ハ當初中立國ハ交戰國間ノ爭議ニ付キ正當ト否トテ區別シ以テ其助勢ノ義務ヲ異ニシ交戰國ハ戰爭中第三國ヲシテ戰爭ニ干與セシメサルコトヲ認メタルハ「ダロニエス」ノ意見ニテ第十七世紀ニ於テ行ハレ第十八世紀ニ於テハ條約ニ非サレハ中立國ヨリ交戰國ニ方ニ助勢スルヲ不正ト認メ又交戰國ハ戰爭上大ナル必要アルニ非サレハ中立國主權ヲ侵スヘカラストシ第十九世紀ニ於テハ戰爭前ヨリ條約ノ有無ヲ問ハス如何ナル場合ニ於テモ中立國ハ交戰者ニ加勢スル能ハス又其領土内ノ人民ヲシテ交戰者一方ノ不利益ト爲ルヘキ助勢ヲ他ノ一方ニ爲スコトヲ禁スヘク之ト同時ニ交戰國ニ於テ嚴正ニ中立ノ主權ヲ尊重スヘキコトト爲レリ

第三章 局外中立國ノ權利義務

第一節 總則

中立國ノ權利義務ニ付キ國際公法ニ於テ論スル所ハ中立國ノ交戰國ニ對スル權利義務アリ又中立國人民ノ交戰國ニ對スル義務アリテ學者中於テ混同スル者アルハ大ナル誤謬ニ屬ス何トナレハ前者ハ國家間ノ權利義務ニシテ後者ハ中立國人民ノ交戰國雙方ニ對シ其普通ノ商業、封港、戰時禁制品及ヒ中立違反ノ事項ニ關シテ有スル箇人ノ關係ニシテ總令之ニ違反スル者アルモ中立國政府ハ責任ヲ有スルニ非ス單ニ交戰國ハ自ら違反者ヲ逮捕シ捕獲審檢所ニ依リテ之ヲ罰シ得ヘキニ過キス之ニ反シテ本章ニ所謂中立國ノ權利義務ニ關スル法則ハ國家行爲ヲ規定スルヲ以テ其違反ハ自ら國家ノ責任ニ屬シ交戰國中ト中立國ノ政府間ニ於テ互ニ其救済賠償ヲ爲スヘキモノトス今其法則ヲ説クニ當リ第一、交戰國ノ中立國ニ對スル義務第二、中立國ノ交戰國ニ對スル義務トシ之ヲ左ニ説明セン

第二節 中立國ニ對スル交戰國ノ義務

中立國ニ於テ局外中立ノ義務ヲ犯ササル以上ハ交戰國ハ戰爭行為ノ爲メ其國主權ヲ侵スヘカラサル嚴正ノ義務アルモノニシテ今中立國ノ權利ニシテ交戰國ノ義務ヲ類別スレハ

- 第一 中立國ノ版圖内ニ於テ戰鬪行為ヲ爲スヘカラス
- 第二 戰爭行為ノ準備ヲ中立國版圖内ニ於テ爲ス能ハス
- 第三 局外中立ヲ維持スル爲メ中立國ノ發布セル相當ノ規定ハ交戰國ノ遵奉スヘキコト
- 第四 中立國ノ權利ヲ侵シタルトキハ其救済賠償ヲ爲スヘキコト

ノ四種ト爲スコトヲ得ヘシ

第一款 中立國版圖ノ不可侵權

中立國ノ領土、領海ニ於テ戰鬪ヲ爲スヘカラサルノ道理ハ國際法上夙キ時代ニ於テ認メラレタレトモ其實行ハ近世ニ有ルコト前述ノ如シ今日ニ於テハ此點ニ付キ又疑ナシ隨テ交戰國ノ軍艦又ハ軍艦ハ中立國ノ版圖内ニ於テハ互ニ戰鬪ヲ爲スヘカラサルノミナラス更ニ戰爭ニ關スル一切ノ行為ヲ爲ス能ハスシテ例ヘハ軍艦ノ公海ニ於テ敵船ヲ追迫シ中立國領海ニ入ルトキハ拿捕スルコト能ハス又交戰國軍隊ハ中立國ノ許可ナクシテ其領内ヲ通行若クハ之ニ侵入スル能ハス中立國ニ於テモ通行ヲ許可スルハ其義務ノ違反トス然レトモ平時國際公法ニ於テ論スル如ク國家自衛權ノ行使ニ依リ中立國版圖ノ不可侵ヲ破ルハ尤ムヘカラスシテ千八百三十七年「カロリン」號事件ハ其適例トス即チ自國ノ自衛上危險ノ

切迫シテ他ノ手段ヲ擇フノ邊ナク又之ヲ避クル手段ニ付キ熟考ノ時間ナキニ於テシ且ツ其行為ヲ爲スニ際シ被害國ニ對シテ敵意ノ存スルコトナク又自國ノ防衛ニ必要ノ範圍内ニ於テ之ヲ行ヒタル場合ナラサルヘカラス

中立國版圖内ニハ水上ト陸上トヲ問ハス交戰國ハ敵國攻撃ノ準備ヲ爲スヘカラサルコトハ千八百七十七年英米兩國間ノ華盛頓條約第六條ニ於ケル三法則中ニモ明言スル所ニテ國際公法ノ原則タリ隨テ其版圖内ニ於テ交戰國ハ兵備ヲ爲シ海陸兵士ヲ募集スルコト並ニ兵器、彈藥其他直接ニ戰爭ノ用ニ供スル物品ヲ取得スルコト能ハス然レトモ戰爭用ニ直接ナラサル物品ニ關シテハ之ヲ禁スルニ非スシテ例ヘハ航海ニ必要ナル石炭、糧食及ヒ器具等ハ交戰國船艦ノ購求スルコトヲ得ヘク又船體ノ修覆ヲ爲スモ妨ナシ但其修覆タル船艦ヲシテ航海ノ用ニ堪ヘシムルノ範圍内ニ限リ其構造ヲ變シ敵國船ノ攻撃又ハ防禦ニ關スル戰鬪力ヲ増加スル修覆ハ許ス所ニ非ス又中立國ノ任意ニ因リ交戰國軍艦ニ對シ航海用ノ物品ヲ支給スルニ付キ分量ヲ制限スルハ妨ナシ例ヘハ軍艦ニ賣渡スヘキ石炭ノ分量ニ制限ヲ爲ス如キハ交戰國雙方ニ對シ之ヲ同一ニスルニ於テハ決シテ妨ナキ所ナリ要スルニ中立國版圖内ニ於テ交戰國ハ戰爭準備ヲ爲スヘカラスト云フハ其版圖内ニ戰鬪行為ノ根據地トスヘカラサルコトト及ヒ其版圖内ヨリ敵國ニ對スル遠征ヲ爲スコト能ハサルヲ意味スルモノナリ

戰鬪行為ノ根據地ト云フハ例ヘハ陸軍ニ於テハ中立國版圖内ヨリシテ輻重ヲ得若クハ其地ニ於テ兵士ヲ募リ若クハ其場所ヨリシテ敵國ヲ侵襲シ必要ノ場合ニハ之ニ引退スル處トスルカ如キ使用ヲ引續キ其地ニ於テ爲スト否トニ因リ戰鬪行為ノ根據地ト爲シタルヤ否ヤヲ決スヘク海陸軍ノ中立國領内ニ於テ糧食其他ノ需用品ヲ臨時ニ取得シタリトテ根據地ト爲シタルモノト看做スヘカラサルニ反シ引續キ



其地ニ之ヲ仰キテ戰爭行爲ニ從事スルハ縱令其支給ノ物品ハ性質上日常生活ニ雖モ中立國權利ノ侵犯ニシテ國際法上禁スル所ナリ又敵國遠征ノ場所ト爲スヘカラスト云フハ交戰國軍隊又ハ軍艦ノ其地ニ於テ組織シ又ハ艦裝シ以テ戰爭ニ向フヲ意味スルモノニシテ千八百二十八年葡萄牙内亂ニ於テ「マリア」王ニ屬スル兵士ノ一隊ハ葡萄牙ヨリ追撃セラレ英國ニ入りテ隱匿シ兵器ヲ携帶セザリシカ士官ノ指揮下ニ在ル團體トシテ滞在シ居タルニ千八百二十九年四艘ノ商船ニ乗組ミ「ブラジル」國ニ行クト稱シテ出發シ葡國領「テルセイラ」島ニ上陸セントシタルニ因リ英國ハ同島ニ軍艦ヲ派遣シ置キテ其上陸ヲ禁シ兵器ハ別ニ商品トシテ送リタリシカ其團體ヲ葡國ニ對スル遠征ト看做シテ之ヲ差押ヘタリ此英國軍艦ノ葡國領海ニ於テ差押ヲ爲シタルハ不法ナレトモ中立國タル英國ヨリ戰爭ノ遠征ヲ爲サントスルヲ差止メタルハ正當トス之ニ反シテ千八百七十年普佛戰爭ノ初ニ於テ米國在留ノ佛國人及ヒ獨逸人ハ本國ニ對スル兵役義務ヲ盡スカ爲メ歸國スルニ際シ簡便別又ハ小團體ニテ出發シタルハ問題ト爲ラザリシカ千二百名ノ佛國人ハ紐育港ヨリ二艘ノ佛國汽船ニ乗組ミ九萬六千挺ノ小銃及ヒ千百萬萬ノ彈丸ヲ積荷トシテ歸國セントシタルヲ以テ米國政府ハ之ヲ差止メタルニ法廷ハ獨逸ニ對スル遠征ニ非ストシ佛人ハ武器携帶ノ者ニ非ス又士官ノ監督ノ下ニ在ラサルニ因リ本國ニ上陸スルヤ否ヤ軍隊ニ入ルコト明カナレトモ直チニ之ヲ戰爭上ノ遠征トシテ出發スル者ト看做ス能ハス而シテ小銃、彈丸ハ其物自體ハ正當ノ商品ナリトノ理由ヲ以テ之ヲ無罪トセリ之ヲ要スルニ敵國ニ對スル遠征ヲ爲スヘカラストハ其團體ニシテ陸軍又ハ海軍ノ指揮ノ下ニ在ラサルヘカラストシテ戰爭ニ直チニ使用シ得ヘキ物ニ付テノミ之ヲ禁止スルニ過キス

第二款 中立ノ規定及ヒ其違反

中立國ニ對スル義務ヲ交戰國ノ履行ヲ怠リ又ハ其義務ニ違反シタルトキハ中立國ハ其救濟賠償ヲ求め得ヘキノミナラス必要ノ場合ニハ兵力ヲ以テ自國權利ノ侵犯ヲ防キ若クハ侵犯者ヲ逮捕シ其物品ヲ差押ヘ得ヘシ加之中立國ハ他國ノ戰爭中自ラ其中立ヲ嚴正ニ維持スルノ必要ヨリシテ交戰國戰鬪者ノ其版圖内ニ於テ遵守スヘキ法律規則ヲ實行シ得ヘシ然レトモ其中立ニ關スル規定ハ主トシテ領海内ニ於テ交戰國軍艦ニ對スルモノニシテ軍隊ハ中立國版圖内ニ入ルコト能ハサレトモ海軍ニ付テハ中立國ニ於テ其入港ヲ禁スルニ非サレハ自由ニ其領海及ヒ港灣ニ入り得ヘキモノニシテ此特權ノ由リテ來ル所ハ中立國ノ默許ニ在ルヲ原則トス隨テ中立國ハ其領内ニ交戰國軍艦ノ入ルヲ許スニ付キ自國ノ中立ヲ維持スルニ必要ナル條件ヲ附シ得ヘキモノニシテ交戰國ハ之ニ服從スルノ義務ヲ有シ單ニ其規定ノ不合法ニシテ不相當ナル制限ヲ破ルヘカラサルコトヲ請求シ交戰國一方ニ偏重ナル待遇ヲ受クヘカラサルコトヲ要求シ得ルニ過キス但天災ニ因リ又ハ航海ニ不當ナル狀態ニ陥ルトキハ中立國ノ規定如何ニ拘ハラス其版圖内ナル如何ナル港ニ於テモ難ヲ避ケ得ヘシ

方今中立國版圖内ニ於ケル交戰國軍艦ニ對スル規定トシテ諸國一般ニ行ハルル慣例ニ依レハ二十四時間ノ法則アリテ交戰國一方ノ軍艦ニシテ中立國ノ港ニ在ルトキハ其敵國軍艦若クハ商船ノ其港内ニ在ルニ際シ一方ノ船舶其港ヲ立去リタル後少クモ二十四時間ヲ經過セザレハ對手國ノ軍艦、商船ヲ出港セシメサルヲ普通トシ其目的トスル所ハ自國領海又ハ領海附近ニ於テ戰爭行爲ヲ爲スヲ防キ以テ同港ニ出入スル船舶又ハ自國領土ニ危險ヲ與フルヲ防クニアリ然レトモ時トシテハ軍艦司令官ニ於テ斯ル

行爲ヲ領海又ハ其近傍ニ於テ行ハサルコトノ證言ニ依リ出港ヲ許スコトナキニ非ス此法則ノ行ハルルニ至リタルハ千八百六十一年乃至千八百六十四年米國南軍ノ軍艦「ナシビル」號ノ英國「サウサンプトン」港ニ於テ修覆中北軍ノ軍艦「タスカローラ」號ノ同港ニ入港シ「ナシビル」號ノ出港ヲ待チ擊破セントシタルヲ以テ英國軍艦ハ「タスカローラ」號ヲ二十四時間港内ニ止メ置キ「ナシビル」號ヲ公海ニ護送セリ此事件ヨリシテ英國ハ千八百六十二年一月三十一日前述二十四時間ノ法則ヲ規定シ且交戰國軍艦ハ其修覆ノ場合ヲ除キ少クモ入港後二十四時間内ニ於テ出港スヘキコトヲ規定セリ而シテ交戰國軍艦ハ航海ノ特許ヲ受クヘク之ヲ終リタル後ハ二十四時間内ニ立去ルヘキコトヲ規定セリ而シテ交戰國軍艦ハ航海ノ糧食其他ノ需用品ヲ其港内ニ於テ購求シ得ヘシト雖モ石炭ノ如キハ方今軍艦ノ爲メニハ殆ト兵器ト需用ノ程度ヲ同シクシ其多少ニ因リ戰闘力ニ大差アルヲ以テ其賣渡ノ分量ニ制限ヲ設ケ本國最近港マテノ航海ニ必要ナル分量以外ヲ一時ニ搭載スルコトヲ許サス又三個月間ニ一度以上同一軍艦ニ其搭載ヲ禁セリ此規定ノ全部又ハ一部ハ其後ノ戰爭ニ於テ諸國ノ適用スル所ト爲リ千八百七十年普佛戰爭ニ於テ米國モ英國ト同一ノ規定ヲ設ケ方今ニ於テハ國際法上ノ規定ト看做サルニ至ラントシ一昨年比律賓戰爭ニ當リ我國ノ中立ニ關シテモ大體ニ於テハ之ト同一ノ法令發布セラレタリ然レトモ此二十四時ノ法則及ヒ石炭ノ搭載ニ關スル制限ハ未ダ以テ國際公法ノ法則ト確定シタルモノニ非ス若シ中立國ニ於テ交戰國雙方ニ對シ石炭ノ分量ニ付キ何等ノ規定ヲ爲ササルモ決シテ中立義務ノ違反ニ非ス交戰國軍艦ノ拿捕物ヲ率キテ中立國港内ニ入ルハ國際公法上禁スル所ニ非ス然レトモ今世紀ノ半頃ヨリシテ中立國ハ交戰國軍艦ノ拿捕物ヲ率キテ入港スルハ難破ヲ避ケル場合ノ外ハ諸國之ヲ禁スルニ至リ今後國際公法上ノ慣例ト爲ラントスルノ傾向アリ然レトモ方今ニ於テハ未ダ中立國ノ義務トスル能

ハス又陸戰ニ於テ交戰國軍隊ハ中立國領土内ニ入ル能ハサレトモ敵軍ノ追擊ニ因リ己ムヲ得ス入り來ルコトナキニ非ス此場合ニ於テハ中立國ハ之ヲ追出スヘキ義務ナクシテ其兵士ヲ本國ニ返シ若クハ再ヒ戰爭ニ赴カシムル能ハスト雖モ自國領内ニ入ルキ否キ其兵器ヲ取去リ戰爭終了ニ至ルマテ自國ノ留置クヘキモノトス而シテ其留置ノ費用ハ本國政府ヨリ拂戻スヘキ義務ヲ有ス千八百七十一年佛國兵士八萬五千人ハ獨逸軍ノ爲メニ追擊セラレ瑞西國ニ入りタルニ同國ハ其兵器ヲ取去リ政府ヨリ衣食ヲ給シテ之ヲ留置キ戰爭後佛國政府ハ其費用ヲ返還シタルハ之カ一例ニシテ「ブルセル」宣言第五三條ニ於テモ詳ニ之ヲ規定シ交戰國軍隊ニ屬スル兵士ヲ領内ニ入ルルトキハ兵器ヲ取去リ成ルヘク戰地ヨリ隔リタル場所ニ置クヘク兵營、城堡若クハ一定ノ場所ヲ限リ留置シ得ヘク其士官ハ中立國政府ノ許可ナクシテ國境ヲ越エサルヘキ宣誓ニ因リ居住ヲ自由ニシ得ヘク之ヲ爲スト否トハ中立國ノ任意ニ在ルコトヲ定メ第五四條ニ於テハ中立國ハ兵士、糧食、衣服及ヒ總テ人情上支給スヘキモノハ之ヲ給與シ其自國ノ兵士ヲ留置シタルニ付キ要シタル一切ノ費用ハ媾和ノ時ニ於テ本國ヨリ支拂フヘキコトヲ規定シ平和會議陸戰ノ法規慣例ニ關スル規則第五七條及ヒ第五八條ニ於テモ同一ノ規定アリ交戰國ノ義務ヲ盡サスシテ中立國主權ヲ侵犯シタル場合ニ於テハ固ヨリ其救濟賠償ヲ爲スヘキ責任ヲ有ス然レトモ其救濟賠償ノ方法ハ國際公法上一定シタルモノナシ但中立國版圖内ニ於テ交戰國ノ海上捕獲ヲ行ヒタルトキハ其船舶並ニ積荷ヲ悉ク中立國ニ引渡スヘキコトハ既ニ定シ中立國ハ之ヲ自國ノ法令ニ依リ又ハ行政處分ヲ以テ其原所有者ニ引渡スヘキモノタリ而シテ斯ル違反ノ行爲ニ對シ交戰國ノ中立國ニ爲スヘキ謝罪償金其他名譽ニ對スル救濟ノ形式等ニ付テハ一定シタルノ法則ナク又一定シ得ヘキモノニ非シテ各侵犯ノ場合ニ付キ事體ノ輕重ニ因リ當事者間ノ談判ニテ定ムヘキモノトス



千八百六十四年十月、ブラジル國「バヒヤ」港ニ於テ米國北軍艦カ南軍艦「フロリダ」號ヲ拿捕シタルニ對シ「ブラジル」國ノ抗議ニ因リ米國政府ハ拿捕ヲ爲シタル「ワチュセット」號ノ艦長ヲ軍法會議ニテ罰シ「バヒヤ」港在留米國領事ハ拿捕救護ノ故ヲ以テ免職セシメ拿捕ヲ行ヒタル場所ニ於テ「ブラジル」國旗ニ禮砲ヲ爲シ「フロリダ」號ハ航海中沈没シタル爲メ「ブラジル」國ニ引渡スコト能ハサリシカ其海員ハ總テ解放シタルハ其一例ナリ

然レトモ交戰國ハ戰爭ノ避クヘカラサル必要ニ迫リ中立國主權ヲ侵犯スルハ咎ムヘカラスシテ戰地ニ於ケル中立國ノ物件ヲ戰鬪ノ進行上破損スルハ咎ムヘカラサルコト一般ノ原則上疑ナキ所ナレトモ船舶其他ノ財産ニシテ其地ヲ通過スルカ如キ戰地ニ固著セサル中立國ノ物件ニハ故意ニ戰鬪行爲ヲ及ボス能ハサルヲ通則トスルニ拘ハラズ交戰者ノ必要ニ迫リテハ斯ル物件ヲ使用又ハ破損スルコトアリ千八百七十年獨逸軍ハ佛國砲艦「セイシ」河ニ上リ來ルニ際シ「ジクレーヤ」ニ於テ六艘ノ英國商船ヲ沈メテ之ヲ防キ又同戰爭中「アルサス」州ニ於テ六百乃至七百輛ノ列車ニシテ瑞西國鐵道會社ニ屬スル物ヲ軍用ニ供シ埃國ノ列車ヲモ戰爭用ニ充テタルハ其實例ニテ斯ル場合ニ於テハ中立國ニ對シ固ヨリ賠償スヘキノミナラス法理上ヨリ論スルトキハ斯ル行爲ハ決シテ正當ト爲スコト能ハスシテ「フヒリモール」ハ曰ク例ヘハ商人ノ生命ヲ防禦スル爲メ隣人ノ馬又ハ武器ヲ收用スルカ如キ切迫シタル事情アルニ非サレハ決シテ之ヲ許スヘカラストシ「ダナ」ハ之ヲ交戰者ノ權利ト爲サスシテ必要ニ迫リタルトキニ於テ斯ル行爲ニ出ツルモノハ其謝罪ト賠償ヲ爲スヘク之ヲ拒ムニ於テハ戰爭ノ危險ノ伴フヘキモノト説キタレトモ近世ノ實例ニ於テ之ト同一ノ行爲アルヲ以テ觀レハ慣例上之ヲ不法ト謂フコト能ハス斯ク必要ニ迫リ戰地ニ固著セサル中立國ノ物件ヲ使用若クハ破損シテ咎ムヘカラサル例外ノ法則ヲ

名ケテ「アンガリヤ」法ト曰フ

第三節 交戰國ニ對スル中立國ノ義務

戰爭中中立國ノ有スヘキ義務ノ範圍ニ付テハ方今國際公法ニ於テ最モ不明瞭ヲ極メ學說並ニ實例ノ一定セサルモノ多シ既ニ其全體ノ法則ニ於テ一定セサルカ爲メ其適用上益々範圍ノ明瞭ヲ缺キ居ルコトナレトモ其義務ノ大體ヲ總括シテ言ヘハ直接又ハ間接ニ戰鬪ニ干與シ又ハ其一方ニ助勢シ若クハ人民ヲシテ戰爭行爲ニ助力セシメサルト同時ニ交戰國ノ政府又ハ商人ヲシテ自國領土内ヲ戰爭行爲ニ使用スルヲ禁シ又其領土内ニ於テ戰爭準備ニ從事セシメサルニ在リ今其義務ヲ類別スレハ

- 第一 交戰國ノ一方ニ對シテ兵力ノ助勢ヲ與ヘス又一方ニ與ヘタル如何ナル特權ヲモ他方ニ對シテモ拒ムコト能ハス
- 第二 交戰國ニ兵器、金錢等荷モ戰鬪力ヲ助ケル物件ヲ支給スヘカラス
- 第三 交戰國軍隊ニ對シ其領土内ヲ通行セシメス又領土内ニ於テ兵士ノ募集ヲ禁遏スルコト
- 第四 交戰國ノ代人若クハ其人民ノ中立國領内ニ於テ戰爭ノ準備ヲ爲サシメサルコト又軍艦其他戰爭ニ從事スル船舶ノ戰鬪力ヲ増加スルコトヲ許サス
- 第五 局外中立ノ義務違反ヨリ生スル直接ノ損害ハ被害國タル交戰國ニ對シ賠償スヘキコト

以上五種ト爲ス

第一款 戰時行爲ニ干與又ハ助力スヘカチサル義務

局外中立ノ性質上中立國ハ軍艦又ハ軍隊ヲ以テ交戰國一方ヲ助勢スヘカラサルハ疑ナク其一方ニ對シ特別ノ便宜ヲ與フヘキ條約ノ存在スル場合ニ於テモ戰爭ニ際シテハ之ヲ實行スルコト能ハスシテ斯ル條約ヲ締結シ交戰國一方ニ戰闘力ヲ給與スルハ申立義務ノ違反トス隨テ千七百八十八年露國ト瑞典トノ戰爭ニ於テ丁抹國ハ條約ニ基キ露國ニ兵士ヲ貸與シタルヨリ以來列國間斯ル條約ヲ爲ス者ナク千七百七十八年米佛條約ニテ他國ノ軍艦其他ノ船舶ニ對シテハ戰爭中拿捕物ヲ率キテ自國港内ニ入り若クハ其港内ニ於テ斯ル船舶ヲ續裝シ或ハ拿捕物ヲ賣却スルヲ許サス其航海ノ需用品ハ本國最近港ニ至ルニ必要ナル物ノ外ハ買入ルルコトヲ禁スルニ拘ラス佛國船舶ニ對シテノミ之ヲ許スヘキコトヲ規定シタリシカ千七百九十三年英佛戰爭中ニ於テ米國政府ハ此條約ノ實行ニ付キ困難ヲ極メ英國政府ハ嚴シク之ニ抗議シタルヲ以テ千八百零九年米佛條約ニテハ前條約ヲ改正シ斯ル偏重ナル規定ヲ削除シ今日ニ於テハ交戰國一方ニ對シテ待遇ヲ異ニスル條約ヲ締結スルモノナキニ至リ戰闘用ノ船舶兵器、彈藥其他戰闘ニ用フル物件又ハ金錢ヲ交戰國ニ給與スルハ中立義務ノ違反ニシテ之ヲ貸與スルコトヲモ爲ス能ハス加之戰闘用ノ物件ノ賣却スラモ國際公法上禁スル所タリ然レトモ茲ニ注意ヲ要スルハ兵器其他戰闘用ノ物件並ニ金錢等ヲ交戰國一方ニ支給スル能ハサルハ中立國政府ノ義務ニシテ政府ニ於テノミ之ヲ爲スヘカラサルニ止マリ中立國領内ニ在ル人民ニシテ商人的ニ之ヲ爲スニ於テハ中立國ハ其行爲ニ付キ何タル責任ヲ負フモノニ非ス但國家ハ他國ノ戰爭中自國ノ兵器、船舶等ヲ政府ノ都合ニ因リ公賣セシテ付テハ問題ノ存スル所ナリ

千八百二十五年瑞典政府ハ海軍ヲ縮少スル爲メ六艘ノ軍艦ヲ西班牙政府ニ賣却ヲ申込ミタリシカ之ニ應セザリシヲ以テ其三艘ヲ英國商人ニ賣渡シ同商人ハ之ヲ墨西哥國ニ賣ラントセリ然ルニ當時墨西哥國ハ西班牙國ニ對シテ叛亂ヲ爲シ居タルヲ以テ西班牙政府ノ抗議ニ因リ瑞典國ハ之ト墨西哥國ニ軍艦ノ轉賣セラルヘキ事實ヲ知ラスシテ英國商人ニ賣リタルニ拘ラス其賣却ヲ取消シ又千八百六十三年英國政府ハ老朽ノ砲艦「ピクトル」號ヲ一商社ニ賣却シタルニ其砲艦ノ米國海軍ノ手ニ入りタル事實アリタルヨリシテ同政府ハ南北戰爭中他ノ軍艦ノ公賣ヲ中止セリ之ニ反シ千八百六十八年米國政府ハ舊式ノ兵器及ヒ彈藥ヲ公賣スルコトヲ決定シ千八百七十年其公賣ヲ始メタルニ當時普佛戰爭ノ爲メ之ヲ中止スル理由ナシトシ佛國政府ノ代人ハ米國ニ於テ大砲九十五門小銃三十七萬八千挺ヲ買入レ其代金ハ在紐育ノ佛國領事ヨリ米國政府ニ納メタリ此事件ニ關シ米國政府ノ理由トスル所ハ公賣ノ當時ニ於テ入札人ノ佛國代人ナルコトヲ知ラス若シ又之ヲ知リタリト假定スルモ米國政府ニ於テ兵器ヲ公賣ニ付タルコトト爲シタルハ普佛戰爭以前ノ行爲ニシテ偶々千八百七十年ニ賣却ヲ始メタルハ其行爲ノ繼續ナルニ因リ之ヲ中止スヘキ義務ナキモノトセリ蓋シ此米國ノ行爲ニ付テハ學者ノ非難アリテ此點ニ關シテハ未タ一定ノ法則ナシト雖モ中立國ノ義務トシテハ其公賣ノ爲メ交戰國一方ノ戰闘力ヲ增加スルノ事實ヲ知リタルトキハ英國及ヒ瑞典國ノ如ク之ヲ中止スヘキモノノ如シ

中立國政府ハ交戰國ノ一方ニ對シテ金錢ヲ貸與スヘカラサルノミナラス千七百九十八年英佛戰爭中ニ於テ巴里駐劄米國公使ハ佛國ノ公債募集ニ關シテ其保證ヲ與フヘキ要求ヲ拒絕シタルハ學者一般ニ正當ト認ムル所ナリ然レトモ近世學者中ニ於テスラ中立國ノ義務ト中立國人民ノ義務トヲ混同シ中立國人民ヨリシテ交戰國ニ金錢ヲ貸與シ又ハ其公債募集ニ應スルコトニ異論ヲ唱フル者アレトモ中立國人民ノ金錢ヲ支給シ公債募集ニ應スルカ如キハ決シテ答ムル所ニ非ス何トナレハ金錢ハ商業上物品ノ代



用ニシテ總テ中立國人民ハ之ヲ使用シテ戰爭中ト雖モ交戰國雙方ト商業ヲ繼續スルモノナルニ因リ荷
モ商業ヲ中止セサル以上ハ金錢ノ流出、流入スルハ中立國ト交戰國トノ間ニ免ルルコト能ハサル所ナ
リ又交戰國ノ公債ノ一度市場ニ現ハルトキハ之ヲ賣買スルハ諸國民ノ自由ニシテ縱令中立國ニ於テ
其人民ノ公債賣買ヲ禁セントスルモ決シテ爲シ能ハサル所ナルニ因リ中立國ハ斯ル人民ノ行爲ニ付キ
何タル義務ヲ有スルモノニ非ス單ニ戰爭ト費用ヲ補助スル爲メ中立國人民ヨリ交戰國ニ金錢ヲ輸入ス
ル如キハ之ヲ戰時禁制品トシテ敵國ハ海上ニ於テ捕獲スルノ危險自ラ伴ヒ居ルニ過キス此道理ハ單ニ
金錢ニ限ラス兵器、彈藥其他軍用品ノ賣買ニ付テモ同一ニシテ中立國政府ハ其賣買讓渡ニ關スル公
手續ヲ爲スヘカラサルニ止マリ千八百八十五年阿片戰爭ニ於テ米國政府ハ上海ノ自國領事ニ訓令シテ
佛國ニ對スル戰罰ニ使用スル爲メ清國ニ向ヒ米國商船ノ讓渡ヲ公認スヘカラスト爲シタルニ止マリ米
國人民ノ賣買ヲ禁セザリシヲ以テ觀ルモ之ヲ證スルニ足ルヘシ

第二款 中立國版圖内ヲ戰爭行爲ノ用ニ供セシメ

サルノ義務

「グロシユース」ハ交戰國軍隊ノ中立國ヲ通過スルハ其權利ト認メ中立國ニ於テ正當ノ理由ニ因リテ之
ヲ拒ム場合ニ非サレハ強迫的ニ通過スルヲ得ルモノトナシ「バテル」モ中立國版圖内ニ於テ交戰國ハ
兵士ヲ募集シ得ヘク其兵士ハ軍隊ノ主要ナル部分ヲ占メサル以上ハ中立國ニ於テ之ヲ許可シタルカ爲
メ何タル義務ヲ負フコトナシ軍隊ノ通過ニ付テモ其許可ヲ交戰國雙方ニ對シテ爲ストキハ中立國ニ
妨ケンシト論シ近世學者中ニ於テモ「ホイートン」ノ如キハ軍隊通過ノ權利ヲ認メ之ヲ不完全ナル權利

ト名ケ中立國ノ意思ニ反シ強行スヘカラスト爲シタルニ過キス又「マンニング」「フヒリモ」モ中立國
ト同一ノ許可ヲ交戰國雙方ニ與フルトキハ中立國ニ妨ケンシト説ケル

然レトモ之ニ反對ノ學說ハ却テ有力ニテ「ヘフテル」「ブルンチユリ」「カルボー」「ホル」等ノ學者ノ
多數ヲ占メ交戰國ノ中立國領内ニ於テ兵士ヲ募集スル能ハス中立國モ之ヲ禁止スヘキ義務アルコト第
十八世紀中ヨリシテ諸國ノ認ムル所ト爲リ今日ニ至リテハ亦疑ナキモノトス凡ソ中立國領内ヲ交戰國
軍隊ノ通過ニ關シテハ中立國ニ於テ交戰國間ニ於ケル戰爭ノ進行上利害關係ノ同一ナル事情ノ下ニ交
戰國雙方ノ軍隊ノ通行セシムル能ハサルノミナラス戰爭ノ勝敗ニ大關係ヲ有スル瞬間ニ於テ交戰國一
方ニ軍隊ノ通過ヲ爲サシムルハ戰罰ヲ助勢スルモノナラサルヲ得ヌ加之其軍隊通行ヲ許ス行爲自體ハ
其性質上戰爭ノ進行ヲ助ケルモノナルヲ以テ中立ノ性質ニ反スルモノトス隨テ千八百七十五年ニハ埃國
軍隊カ瑞西國ヲ通過シテ佛國領土ヲ攻撃シタルコトアレトモ千八百七十年ニ於テハ「アルサス」州ノ兵
士ニシテ佛國陸軍本隊ニ合併スル爲メ瑞西國ノ版圖ノ通行ヲ求メタルニ同國ハ斷然之ヲ拒絕シ若シ兵
器ヲ携帯セズ軍服ヲ著セザル者ニ非サレハ其通行ヲ拒ミ又白耳義國モ「セゲン」戰爭後獨逸軍隊ノ負傷
者多數ヲ有シ困難シタルニ拘ラス自國鐵道ヲ其負傷者ノ運搬ニ用フルコトスラ之ヲ拒ミ佛國ハ當時若
シ白耳義國ニ於テ其通過ヲ許サハ中立違反タルコトヲ公言セリ但シ中立國ハ交戰國ニ對シテ其通過ヲ
許シ得ヘキヤ否ヤニ付テハ其後學者間ニ議論ヲ生シ遂ニ「ブル」セル「宣言第五條」ニ於テ中立國ハ交
戰國軍隊ニ屬スル病者、負傷者ヲシテ版圖内ヲ通過スルヲ許シ得ヘシ尤モ其運搬ノ列車中ニ戰罰ニ關
スル人又ハ物ヲ積込マサル場合ニ限ルヘク又病者、負傷者ノ通過ヲ許スニ付テハ中立國ハ其運搬ノ安
全及ヒ之ヲ監督ニ必要ナル手段ヲ講スルノ義務アリト規定シ平和會議ノ陸戰例規第五九條ニ於テモ之



ト同一ノ規定アリ隨テ方今ニ於テハ交戰國軍隊ノ中立國ヲ通過スルハ病者、負傷者ノ外ハ總テ不法ト看做サレ千八百七十七年墨西哥軍隊ノ反亂者ヲ追撃シテ「テキサス」州ニ入りタルニ當リテモ米國政府ヨリ激烈ノ抗議ヲ來セリ之ニ反シテ同年露土戰爭ノ初ニ於テ露國ハ「ルーマニヤ」國トノ條約ニ因リ土國ヲ攻撃ノ爲メ同國領内ヲ通過シテ露國軍隊ノ其道路、鐵道電信等ヲ自由ニ使用スヘコトヲ約定シ五千萬ノ兵士ハ「ルーマニヤ」ヲ通過シテ「ブルガリヤ」國ニ侵入シタルノ事實アリト雖モ是レ全ク歐洲東方ニ於ケル國際公法上ノ例外ナルノミナラス「ルーマニヤ」國ハ當時土國ノ屬國ニシテ獨立セントシタルモノナルニ因リ露國兵士ノ之ヲ通過シタルハ名義上ヨリ言ヘハ敵國領土ニ入りタルモノト同シク又「ルーマニヤ」國モ其獨立ヲ爲サントスルニ付キ露國ヲ助ケ先ツ軍隊ノ通過ヲ許可シテ直チニ自國兵士ヲ以テ露國ニ同盟シタルモノナルニ由リ猶ホ日清戰爭ニ於テ我軍隊ノ朝鮮ヲ通過シタルト異ナルコトナク此例外ヲ見テ直チニ之ヲ中立國ニ關スル法則ト論定スルコト能ハス

交戰國一方ノ軍隊ニシテ敵軍ノ爲メニ追撃セラレ中立國ニ入ルヲ許ス場合ニハ戰爭ノ終リマテ其兵士ヲ留メ置クヘキ義務アルコト既ニ述ヘタルカ如ク此場合ニ於テ軍隊ハ俘虜ヲ携帶スルヲ許サスシテ俘虜ヲ有スルトキハ中立國版圖内ニ入ルキハ自由ノ身體ト爲ルヘキモノトス然レトモ軍艦ニシテ俘虜ヲ以テ中立國港内ニ入ルトキハ其艦内ニ在ル間ハ中立國ノ干渉スルヲ許サス若シ俘虜ニシテ艦外ニ出ヅルトキハ交戰者ハ中立國版圖内ニ於テ捕フルコト能ハス中立國モ亦之ヲ捕ヘテ軍艦ニ引渡スハ中立義務ノ違反トス又中立國版圖内ニ於テ交戰國カ兵士ヲ募集スル權利ナキコトニ付テハ第十八世紀ニ於テ其議論岐レ瑞西國ハ常ニ隣國トノ條約上兵士ヲ交戰國ニ給シ來リシカ千八百五十九年以來ハ英國其他歐洲大陸ノ之ニ干渉シ同國ヲシテ其人民ニ對シ外國軍隊ニ入ルコトヲ禁スルノ法律ヲ發布セシメタ

ルト同時ニ他國ニ於テモ其戰爭ニ瑞西ノ兵士ヲ使用スルヲ禁スルニ至リ今日ニ於テハ中立國ニ於テモ兵士ノ募集ヲ禁スヘキ義務明カナルニ至レリ

交戰國ハ中立國ノ領土、領海ヨリシテ武裝ノ遠征ヲ爲スヘカラサル義務ヲ有スルト同時ニ中立國モ亦其版圖内ニ於テ武裝ノ遠征ヲ爲ス者ヲ禁止スヘク又其版圖内ニ於テ交戰國軍艦其他戰闘用ノ船舶若クハ軍隊ノ戰闘力ヲ増加セシムヘカラサル義務ヲ有シ交戰國一方ニ反對シテ戰爭ノ爲メ人民團體ノ組織シタル海陸軍兵士ノ出發スルヲ防クヘキモノニシテ其版圖内ノ人民ヲシテ嚴正ニ中立ヲ維持セシムヘキモノトス隨テ交戰國軍艦等ノ其領土内ニ於テ兵器ヲ増加スル如キハ之ヲ禁止スルノ義務アリテ其水兵ヲ募集スルカ如キ行為ヲ爲サシメサルニ付キ相當ノ方法ヲ講セサルヘカラス而シテ中立國モ常ニ此點ニ付テハ自國ノ權利ヲ侵害セラルルヲ防クノ手段ヲ取ルコトヲ努メ米國ニ於テハ千八百十八年法律ヲ以テ其版圖内ノ人民ニシテ交戰國船舶ヲ港内ニ在ル者ニ對シ戰闘力ヲ増加スルノ行為ヲ禁シ軍艦本國ノ人民ヲ除キ其他ノ人民ハ水兵ト爲ルコトヲ禁シ千八百十九年英國法律ニテモ同一ノ規定ヲ設ク但シ水兵ト爲ルコトニ付キ米國法律ノ例外ヲ削除セリ然レトモ茲ニ注意ヲ要スヘキハ總テ列國內國法ノ規定如何ニ拘ラス諸國ハ國際公法上ノ義務ヲ免ルル能ハスシテ若シ内國法ノ規定ニシテ國際公法ヨリ嚴ナル場合ニ於テモ交戰國ハ其規定ヲ利用シテ之ニ反スル中立國ノ行為ヲ責ムル能ハサルト同時ニ中立國ニシテ内國法ノ寬大ニ失スル所ヨリ國際公法上ノ中立ノ義務ヲ盡サルトキハ内國法ヲ以テ其義務不履行ノ抗辯トスルコト能ハス

國際公法(戰時) 局外中立ノ法則 局外中立國ノ權利義務 交戰國ニ對スル中立國ノ義務

0521

人民ノ版圖内ニ於テ交戰國ノ海陸軍ニ入り若クハ之ニ加ハルノ目的ヲ以テ出發スルヲ禁スヘキモノトス但シ國家ハ其人民ノ簡人ニ付キ其動作ヲ一監督スルコト能ハサルニ因リ人民ノ簡簡別別ニ領内ヲ出テ交戰國ニ至リテ戰闘ニ加ハル者ヲ防止スルハ決シテ爲シ能ハサルコトニテ交戰國モ各任意ニ其軍隊ニ加ハルル中立國人ハ之ヲ用ヒ得ヘク又之カ爲メ大ナル影響ヲ戰闘上ニ及ホササルノミナラス斯簡人ハ交戰國戰闘者ト爲ルニ於テ中立國人民ノ特權ヲ失フヘキモノナルニ因リ斯ク簡人ノ交戰國ニ赴キ戰爭ニ從事スル者ヲ防止スヘキ責任ハ中立國ノ有セサルモノトス然レトモ自國領内ニ於テ軍隊ヲ組織シテ交戰國ノ戰爭ニ加ハル爲メ出發スルカ又ハ交戰軍隊ニ加入ノ目的ヲ以テ多數人民ノ續續交戰國ニ赴ク如キハ政府ニ於テ容易ニ之ヲ知り得ヘク又禁止シ得ヘキモノナルニ因リ斯ル場合ニ於テ其出發ヲ防止スヘキ義務アルモノトス隨テ千八百七十六年露國數千名ノ人民カ團體ヲ爲シテ土國ト「セルビヤ」國トノ戰爭ニ於テ「セルビヤ」軍隊ニ加ハルノ目的ヲ以テ露國南部ノ國境ニ向ヒ出發セルニ際シ政府ノ之ヲ禁セザリシハ中立ノ義務ヲ盡サザリシモノタリ蓋シ國民ノ交戰國一方ニ同情ヲ表スルニ當リテハ其意向ヲ制止スルコト政府ニ取リテ尤モ困難ナル業ニ屬シ千七百九十三年英佛戰爭ニ於テ米國人民ノ佛國ニ同情ヲ表シ千八百三十八年加奈太内亂ニ於テハ米國人民ノ反亂者ニ加擔シ南北戰爭ニ於テハ英國人民ノ南軍ニ同情ヲ表シタル際ニ於ケルカ如ク國民ノ熱情ニ對シ其行爲ヲ禁遏シテ以テ嚴正ノ中立ヲ維持スルハ何レノ國ノ政府ニ於テモ困難ナリト雖モ其困難ナルカ爲メ中立國ハ義務ヲ免ルル能ハス又交戰國一方ヨリ中立國人民ノ拿捕ヲ行フ免許狀ヲ受クルハ中世以來行ハレタル所ナリシカ千八百五十六年巴里宣言ニ依リ私船ヲ以テ拿捕ヲ用ニ供スルヲ禁シタルカ爲メ今日ニ於テハ其免許狀ヲ受クル者ナク締盟國ハ之ヲ出ス能ハサルニ因リ免許狀ヲ受クルノ禁止ハ論ナキニ至レリ

第三款 中立義務ノ不履行ヨリ直接ニ結果スル損害

中立國ノ義務ヲ履行セサルヨリ交戰國一方ニ生スル損害ニ付テハ交戰國ハ其賠償ヲ中立國ニ求ムルノ權利ナキコトヲ主張スル學者ナキニ非ス其理由トスル所ハ交戰國ノ中立國版圖内ニ於テ戰闘ヲ爲シ又ハ海上捕獲ヲ爲スカ如キハ中立國ノ主權ヲ侵害スルモノナレトモ交戰國間ニ於テハ兵力アルノミニシテ中立國ノ義務ヲ履行セサルノ結果ハ其一方ノ兵力ヲ強メタリトテ對手國タル其敵國ノ戰爭ニ關スル權利上ニ何タル直接ノ侵害ヲ爲シタル者ニ非ストスルニ在リ然レトモ此議論ノ誤ナルコトハ「ヘフテ」ル「ブルンチユリー」カル「ボー」等ニ依リ證明サレタル所ニシテ國際公法上國家ニ權利義務ヲ定メタル以上ハ其國際關係上一國ノ義務ヲ履行セサルハ即チ他國ノ權利ヲ侵害シタルモノナラサルヲ得ス而シテ斯ル權利ノ侵害ノ爲メ結果スル損害ヲ賠償スル責任ナシトセハ國際公法ノ基礎ヲ攻撃スルモノナラサルヲ得ス隨テ中立國ノ義務ヲ怠リ又ハ履行セサルヨリ生スル交戰國ノ戰爭ノ損害ニ付テハ中立國ニ對シテ其賠償ヲ要請シ得ヘク千八百六十二年米國戰爭中「アラバマ」事件ニ付キ千八百七十一年「ゼチバ」仲裁裁判ノ判決ニ依リ「アラバマ」ジョウジヤ「フロリダ」等南軍ニ屬スル戰爭用ノ船舶ヲ英國ニ於テ製造武裝シタルノ故ヲ以テ千五百五十萬弗ヲ英國政府ヨリ米國政府ニ賠償シタルカ如キハ其實例ナリ今有名ナル「アラバマ」事件ノ概略ヲ説明セン千八百六十二年「アラバマ」號ハ英國「リバープール」港ニ於テ「レヤード」商會ノ爲メニ製造セラレ同年三月十五日進水式ヲ行ヒタルニ同港在留米國領事ハ南軍ノ軍艦ト爲ス目的ヲ以テ製造中ナルコトヲ探知シ之ヲ在倫敦米國公使「アダムス」氏ニ報告シタルニ因リ六月二十三日同公使ハ英國外務大臣ニ迫リ該船舶ハ戰爭行爲ヲ爲スヘキ明カナル目的ニテ製造

セラレ南軍代表者ノ爲メニ指揮セラレントシ既ニ其代表者ハ英國ニ渡來シ居リ又船舶ノ製造ヲ注文シタル者ハ南軍ノ代理者及ヒ士官タルコトハ「リバープール」港ニ於テ隠レナキ所タルヲ以テ英國政府ニ於テ同船舶出港ヲ差止ラレシコトヲ請求シタルニ由リ政府ハ「リバープール」ノ稅關長ヲシテ其事情ヲ探知セシメ七月一日稅關長竝ニ大藏大臣ノ意見ニテ「アラバマ」號ハ戰爭用ノ爲メ製造中ナルコト明カナレトモ大砲、彈藥等ヲ搭載セサルヲ以テ英國法律ニ由リ差押ヲ爲スヘキ證據不十分ナルモノトシ米國領事ニ南軍ノ之ヲ軍艦ト爲スヘキ證據ヲ蒐集スヘキコトヲ回答シ領事ハ七月二十二日其證據書類ヲ米國公使ニ提出シ二十四日公使ハ證據書類ト辯護士ノ意見書ヲ外務大臣ニ出シ重テ差押ヲ請求シタルニ因リ英國政府ハ之ヲ法律顧問會ニ付シテ研究セシメタルニ二十八日ニ至リ同會ヨリ外務大臣ニ復牌シテ該船舶ハ其出港ヲ差止ムヘキモノナリトセリ然ルニ「アラバマ」號ハ同日朝航海試驗ノ姿ヲ裝ヒテ出帆シ英國ノ版圖内ナル「アングレシー」ノ一小灣ニ至リテ「リバープール」ヨリ別船ニテ送リ來リタル四十名ノ水夫ヲ乗込マシメタリ但シ「リバープール」稅關ニ於テハ四十名ノ水夫ノ商船ニ乗込ミ出發シタルハ「アラバマ」號ニ乗込マントスルコトヲ知リタルニ拘ハラヌ之ヲ差止メザリシ事實アリ而シテ三十一日「アラバマ」號ハ亞弗利加「アゾール」島ニ於ケル「テルセイラ」港ニ入り倫敦及ヒ「リバープール」ヨリ二艘ノ船舶ニテ之ヲ送リタル兵器、彈藥其他船舶ノ艦裝ヲ整ヘ更ニ水夫ヲ乗込マシメ以來南軍軍艦トシテ海上捕獲ニ從事シ戰爭中北軍ノ商般七十艘ヲ捕獲シ又英國ノ港灣ニハ屢々入港シタルモノニテ「フロリダ」シエナンド「バー」等ノ船舶モ相類似シタル事情ニテ英國ニ於テ製造セラレ兵器ト船舶ト別レニ製造シテ英國領海外ニ於テ其武裝ヲ整ヘテ軍艦トシ以テ南北戰爭中海上捕獲ニ從事シタルモノトス隨テ「アラバマ」以下ノ事件ヲ觀ルトキハ英國ニテ其艦體ト兵器トハ別ニ注文セラレシモノニ

テ之ヲ箇箇ノ注文ニ付テ觀察スルトキハ固ヨリ各ムヘカラサル賣買ニ過キス然レトモ其注文ヲ綜合シテ觀ルトキハ中立國ニ於テ交戰ニ對スル戰爭上ノ遠征ヲ許シタルモノトス隨ズ此事件ハ戰爭後英米兩國ノ問題ト爲リ千八百七十一年華盛頓條約ニ依リ之ヲ英米兩國ノ各代表者及ヒ伊、瑞西竝ニ「ブラジル」三國ノ代表者ヨリ成立セル仲裁裁判ニ付スルコトトシ千八百七十二年九月十四日「ゼンバ」仲裁裁判ニ依リ前述ノ如キ判決ヲ下セリ而シテ英米兩國ハ此問題ヲ仲裁法廷ニ出スニ先テ華盛頓條約ヲ以テ此事件ヲ審判スル基礎ト爲スヘキ法則トシテ同條約第六條ニ於テ左ノ法則ヲ定メタリ

中立國政府ハ(第一)其版圖内ニ於テ平和ノ關係ニ在ル國家ニ對シ巡洋又ハ戰爭行爲ヲ爲スノ目的ヲ有スト認ムルニ足ルヘキ船舶ノ製造、艦裝、武裝ヲ防遏スル爲メ相當ノ注意ヲ爲スヘク又巡洋若クハ戰爭行爲ヲ爲ス目的ナル船舶則チ其船舶ノ全體若クハ一部ハ殊ニ戰爭ノ用ニ適シタルモノ其版圖内ヨリ出發スルヲ防止スヘキ相當ノ注意ヲ爲スヘキコト(第二)其港灣又ハ領海ヲ交戰國一方ノ他方ニ對シテ海軍使用ノ根據地トシ又ハ軍事上ノ需用品若クハ兵器ノ改新又ハ増加或ハ兵士募集ノ目的ニ使用スルノ許可若クハ其使用ヲ爲サシメサルコト(第三)港灣又ハ領海ニ關シ竝ニ版圖ニ於ケル總テノ人民ニ關シテ前記ノ義務ヲ破ル者アルヲ防止スルニ付キ相當ノ注意ヲ爲スヘキ義務アルコト是ナリ

此法則タル英、米兩國ノ華盛頓條約締結ノ當時ニ於テ國際公法ノ法則タリシモノニ非ズ隨テ英國政府モ同條約中ニ於テ「アラバマ」以下ノ事件ニ付キ米國政府ヨリシテ損害賠償ノ要求アリタル當時ニ於ケル國際公法ノ原則トシテ之ヲ認ムル能ハス單ニ兩國ノ交誼ヲ厚クシ且ツ將來ニ於ケル完全ナル法則ヲ設タルカ爲メ兩國間ノ此問題ヲ決スルニ當リテ規則ニ依ルヘキコトヲ仲裁裁判者ニ於テ了知セラルヘク又將來兩締盟國ハ此規定ヲ遵奉スヘク且ツ他ノ海上諸國ノ之ニ同意スルコトヲ勸誘スヘキヲ約定ス

0523

ト明定セリ而シテ「ゼネバ」仲裁者ハ英國代表者ヲ除キ多數ヲ以テ英國ハ前記規則中ニ於ケル相當ノ注意ヲ缺キタルモノトシ米國ノ勝訴ト爲セリ然レトモ此判決ノ當否竝ニ華盛頓條約ノ三法則ニ關シテ其後議論百出シ「カルボー」其他大陸ノ公法學者ハ之ヲ以テ現行國際公法ノ明瞭ナル規定ト看做ス者多ク英米兩國其他ノ學者中ニ於テハ若シ此法則ヲ實行スルトキハ從來國際公法ト爲リ居ラサル壓制且ツ實行スヘカラサル義務ヲ中立國ニ負ハシムルモノトスルモノ尠カラズ千八百七十三年三月英國宰相「グランドストン」モ議會ニ於テ公言シテ曰ク英國政府カ此法則ニ付キ諸國ノ同意ヲ求ムル場合ニ於テハ「ゼネバ」仲裁者ノ判決ハ縱令其一部タリトモ其法則ニ附隨スル法規ト國際公法上看做スコト能ハサルモノトシ千八百七十一年乃至七十四年ニ於テ英米兩國政府ハ華盛頓條約ノ規定ニ基キ第六條ノ法則ヲ諸國ニ通知シ其同意ヲ求メントスルニ當リ其通知書ニ付キ意見ヲ異ニシ七十六年以後ハ之ニ諸國ノ同意ヲ得ントスルノ企モ廢止ト爲レリ又之ニ先テ墺國及ヒ獨逸政府ハ此法則ニ全然承諾ヲ拒絕スヘキコトヲ公ニシ如何ナル國モ未タ之ヲ實行セントノ意思ヲ表明シタルコトナク三法則ノ如キハ英米兩國間ニ於テスラ效力アルヤ否ヤハ疑ハシキニ至レリ

要スルニ華盛頓條約ノ三法則ヲ「ゼネバ」仲裁者ノ適用スルニ當リ英國政府ハ果シテ所謂相當ノ注意ヲ爲シタルヤ否ヤノ論點ニ歸著スト雖モ前述ノ如ク「アラバマ」號出帆當時ノ事情ヲ審ニシ英國ハ其相當ノ注意ヲ缺キタルモノトスヘキヤ否ヤハ別問題トシテ茲ニ論スルノ必要ナシ然レトモ總テ中立國ノ義務履行ニ關シテハ相當ノ注意ヲ怠リタルト否トニ依リ其損害ニ對スル救濟賠償ノ責任ヲ有スルヤ否ヤノ岐ルル所ナルヲ以テ相當ノ注意トハ果シテ如何ナル程度ノモノナルヤヲ審ニスルノ必要アリ此點ニ付キ「アラバマ」仲裁事件ニ於テ「ゼネバ」仲裁裁判ニ提出セシ米國政府ノ議論ニ據ラハ中立國ノ義務ハ其

田舎地役ハ通行 (Via) ノ權、水路權 (Aque ductus) 汲水權 (Aque haustus) 牧畜權 (Jus pascendi) 家畜ヲ飲ノ權 (Neotus ad aquam appansum) 石灰及ヒ砂石ノ採掘權 (Jus calis eogunatae, reneae fodie-ndae) 等ナリトス市街地役ハ眺望ノ權 (Jus prospectandi) 欄干其他ノモノヲ隣地上ニ凸出セシムル權 (Jus projectandi) 隣接セル家屋又ハ壁ニ柱梁ヲ支ヘシムル權 (Jus tigni immitendi) 檐上ヨリ流ルル雨水ヲ隣地ニ落チシムルノ權 (Jus stillicidii vel fuminis recipiendi) 隣地ニ建築セシメ又ハ既ニ存スル建築物ヲ高メサラシムルノ權 (Jus altius non tollendi) 等ナリ

地役ノ設立ニ於テハ本來地役ハ所有權ノ分支ナルヲ以テ所有權移轉ノ方法ニ依リ之ヲ設立スルヲ得ルモノ一切ノ方法皆地役ニ適用スヘキニ非ス又時代ニ從ヒテ變遷アリタリ
 (一) 民法法ニ從ヘハ地役ハ讓與 (Translatio) ニ因リ又ハ所有權ノ減少 (Detractio) ニ因リテ之ヲ設定スルコトヲ得タリ地役ノ讓與ハ一ノ土地所有者カ其土地ヨリ享クヘキ或利益ヲ分割シテ之ヲ他人ニ屬スル土地ニ結合スルトキニ生スルモノニシテ地役ハ讓與サレタル物件ノ如ク取得者ノ資産ヲ増スモノナリ然レトモ地役ハ無體物ニシテ民法法ハ其占有ヲ認メサルヲ以テ先取引渡ヲ得セシニ因リテ之ヲ取得スルヲ許サス「マンシバシオ」ハ唯リ賣買方式ヲ受クヘキ物タル田舎地役ニ應用セラレ其他擬許權、分配宣告等ハ田舎ノ市街ノ別ナク地役ヲ得ル方法トシテ用ヒラル
 所有權ヨリ地役權ヲ減少シタルトキニ於テハ地役ハ讓與ニ因ルニ非スシテ土地ノ所有主ハ地役ノミヲ減殺シ其所有權ヲ讓與シタルトキニ起ルモノニシテ地役ノ抑留ナリ故ニ「マンシバシオ」ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得



(二)「プレートル」法律ハ地役ヲ以テ占有ノ目的物タルヲ許シ準占有ヲ創立シテヨリ主タル土地ノ所有主ハ從タル土地ノ地役ヲ占有スルコトヲ得ルニ至レリ又地役ノ占有者カ真ノ所有主ニ非サル者ヨリ之ヲ得タルトキ一定年限ノ後ニハ長期時効ニ因リ之ヲ得取スルコトヲ得又引渡ニ於テモ地役ヲ以テ準引渡トシ之ヲ設立スルコトヲ許セリ

(三)「ジュスチニアン」ノ時ニ至リテハ「マンシバシオ」及ヒ擬訴棄權ハ消失シ地役ハ其他ノ方法ニ依リ設立セララルヲ得タリ

地役ノ消失
地役ハ其實行ヲ爲スヘカラサルノ事實又ハ當事者ノ意思ニ因リ消滅ス地役ノ實行スヘカラサル事實トハ主又ハ從タル土地ノ一カ消滅スルトキニ來リ又兩土地ノ合併即チ同一人ノ所有ニ歸スルトキモ亦然

當事者ノ意思ニ因ル場合ハ主タル土地ノ所有者カ明白ニ其權利ヲ拋棄スルヨリ來ル市民法ニ於テ其結果ヲ生セシムルニハ擬訴棄權ニ依リ之ヲ爲スコトヲ要シタリ又一定ノ年限間地役ヲ利用セサルトキハ主タル土地所有主カ地役ヲ拋棄シタルモノト爲スモ此推測ハ十分水キ時日ノ間地役ヲ利用セサルヲ要シ教科時代ニハ之ヲ二年トシ「ジュスチニアン」時代ニハ地役所有主ノ在不在ニ依リテ十年又ハ二十年ト爲シタリ然レトモ市街地役ニ於テハ唯リ其不用ノミナラス尙ホ其實行ニ反スヘキ障礙ヲ要ス例ヘハ眺望地役ニ於テ隣地上ニ之ヲ妨クヘキ建物ヲ建設シタルカ如キ是ナリ而シテ此障礙物ハ從タル土地ノ所有者或ハ其他ノ第三者カ之ヲ爲シタルヲ問ハサルモノトス市街又ハ田舎地役ニ從ヒ此差異アルハ市街地役ハ繼續のニシテ田舎地役ハ間斷のナルニ由ル換言スレハ市街地役ハ常久使用セラレツツアルモ

ノト思考セラレ田舎地役ハ其使役ノ際ノミ利用セラレ其他ノ時間ニ於テハ中斷スルヲ以テナリ

第二節 對人地役 (Servitutes personarum) (用役權、使用權、住居權)

此種ノ地役ハ前節ニ説明シタル地役ニ等シク物權ナルモ殊ニ之ニ對人地役 (servitutes personarum) ナル名稱ヲ與フルハ其一定シタル人ノ爲メニ設立セラレタルヲ以テナリ所謂地役ニ於テハ其數多ノ種類存在スルモ對人地役ニ於テハ僅ニ用益權 (Usus fructus) 使用權 (Usus) 住居權 (Habitatus) 奴隸又ハ家畜ノ使用權 (Opere servorum animalis) ナル四種ニ過キス就中用益權ハ所有權ノ元素タル收益、使用ノ兩權ヲ兼ネタルモノニシテ住居權、奴隸又ハ家畜使役權ハ其一部ニ過キサルヲ以テ予ハ單ニ用役權ニ就キテ説カントス
用益權ハ他人ニ屬シ反復シタル使用ニ堪フヘキ物ヲ使用シ之ヨリ生スル果實ヲ收メ己ノ所有ト爲スノ權利ナリ是レ明カニ用益權 (Usus fructus) ナル字ノ指示スル所ナリ是ヲ以テ觀レハ用益權ナルモノハ所有權中ノ最モ利得ヲ與フルノ元素即チ使用權 (Jus utendi) 及ヒ收益權 (Jus fructus) ヲ擧ゲテ他人ニ分割スルモノニシテ餘ス所ハ唯リ處分權 (Jus aduendi) ニ過キス故ニ羅馬人ハ此所有權ヲ呼ブハ虛有權 (Nudum dominium, Nuda proprietas) ナル名ヲ以テシ所有權ノ生スル利益ヨリ剝奪セラレタル示シタリ用益權主ハ使用權ニ基キ物ノ利益ヲ増加スル附屬ノ權利例ヘハ土地ニ於テハ地役ト共ニ物ヲ使用シ又收買權ニ基キ物ヨリ生スル果實ヲ收取シテ己ノ所有ト爲スノ權アリ果實トハ物ノ特定シタル性質或ハ合意上ノ結果ヨリ生スル定期的ノ生産物ヲ指スモノニシテ定期ニ收穫スルコトヲ得ス而シテ偶然發生シタル生産物ハ之ヲ以テ果實ト爲サス隨テ用益權主ニ屬セスシテ所有主ニ屬セシム

羅馬法 物 實產ヲ成スヘキ權利 地役 對人地役

本來用益權ハ動産不動産ヲ別タス有體物上ニ設定セララルコトヲ得ルモ其性質トシテ物體ヲ保存シ之ヨリ生スル利益ヲ享有スルニ止マルヲ以テ消費ニ因リテ始メテ利益ヲ得ヘキ物件例ヘハ金錢ニ於テハ用益權ノ目的ト爲ルヲ許サザリシカ「オーギヌスチヌ」帝ノ時ニ及ヒテ準用益權ナルモノヲ認メ準用益權主ハ此等物件ノ所有主ト爲リ之ヲ消費スルヲ得唯其終結ノ日同一種類ノ物件ヲ所有主ニ返還スルヲ以テ足レリト決シタリ

用益權ハ元來一定シタル人ノ爲メニ設定セルモノナルヲ以テ其性質トシテ讓與スヘカラサルモノナリ然レトモ用益權主ハ有償或ハ無償ヲ以テ其權利ノ實行ヲ讓與スルヲ得之ヲ讓受ケタル者ハ用益權ヨリ生スル一切ノ利益ヲ收ムルコトヲ得ルモ用益權ニ於テハ其名義者ノ身上ニ結合サルヲ以テ用益權主ノ死スルニ追ヒ用益權モ亦終局ヲ告タルモノナリ

用益權ノ目的ハ物件ノ享有即チ之ヨリ生スル利益ヲ收ムルニ在ルヲ以テ用益權主ハ物件ヲ類敗スヘカラヌ又其用方ヲ變スヘカラス收入ヲ以テ支辨スヘキ租賦及ヒ修繕ノ費用ハ其負擔ニ屬シ用益權終了ノ際物ヲ返却セサルヘカラス當初ニ於テハ用益權主ノ義務ハ此ノ如ク列舉スルモノニ止マリ虛有權主ノ利害ハ關知スル所ニ非ス自ラ手ヲ下シテ物件ヲ類敗セサルトキハ己ノ怠惰ニ因リテ生スルモ其損害ニ任セザリシカ後世ニ及ヒ虛有權主ヲ保護スルノ目的ヲ以テ「プレトール」ハ更ニ用益權主カ物件ノ享有ニ入ルニ先チ或手續ノ履行ヲ爲ササルヘカラサルコトヲ命シタリ此手續ハ用益權主カ保證人ヲ立テテ善良ナル家父ノ享有 (Dignus homo est aditus) 及ヒ用益權終了ノ時物件ノ返還ヲ擔保セシムルニ在リ善良ナル家父ノ享有ナル約束ニ因リ用益權主ハ爾後虛有者ニ對シ己ノ怠惰ヨリ生スル一切ノ結果ニ關シ責任ヲ負フヲ以テ其享有セル物權ニシテ時效ニ據ル虞アルトキハ之ヲ中断シ又ハ地役ニシテ不

使用ニ因リ消滅スヘキモノアルトキハ之ヲ實行シ又羊群ニ於テ羊ノ死ビスルトキハ之ヲ補充セサルヘカラス物件返還ノ約束ハ無用ナルカ如キモ虛有權主ハ用益權終了ニ當リ訴訟ノ生シタルトキ其所有權ヲ證明スルノ勞ナク直チニ物件返還ヲ請求スルヲ得隨テ訴訟手續ヲ容易ナラシムルノ便アリ

用益權ハ終身のノ權利ナルヲ以テ用益權主ノ死亡ニ因リテ消滅シ又物件ノ消滅、棄權及ヒ一定時間ノ不使用ニ因リ然リ不使用ノ年月ハ當初動産ニ於テハ一年、不動産ニ於テハ二年ナリシカ「ジュステニア」ノ時ニハ甲ニハ三年、乙ニハ十年又ハ二十年ト爲シタリ

使用權ハ物件ヲ使用スルノミニシテ果實ニ於テ毫モ之ヲ利スルコト能ハサリシカ後世實際ニ於テ使用權主ニ利益ヲ得セシメンカ爲メ果實ノ一部ヲ收ムルコトヲ許シタリ例ヘハ牛羊等ニ於テハ其乳ヲ取リ田野ニ於テハ野菜、果實、花等ヲ採取スルヲ得然レトモ其收ムル所ハ使用權主ノ一身或ハ一家ノ用ニ充ツルヲ度トシ之ニ超過スルヲ得ス

第五章 「プレトール」ニ依リ制定セラレタル物權

第一節 市民法ノ所有權ニ準スヘキ物權

市民法上ノ所有權 (Dominium) ハ其適用範圍狹隘ニシテ實際ニ於テ弊害ヲ感セシヨリ「プレトール」ハ更ニ之ニ擬スヘキ物件ヲ制定シ其缺點ヲ補ヒタリ

(一) 外國人ハ市民法ノ所有權ヲ得ルコト能ハサリシヨリ若シ外國人ニシテ引渡ニ因リ物件ヲ得取シタルトキハ法官ハ物件ヲ得タルモノトシ長期時效ニ因リ遂ニ其所有權ヲ得ルコトヲ許シタリ

羅馬法 物 資產ヲ成スヘキ權利 「プレトール」ニ依リ制定セラレタル物權 一二九

(一) 州縣ノ土地ハ市民法ノ所有權ノ目的タルコト能ハサリシカ法官ハ之ニ對シ一種ノ所有權ヲ作り又長期時効ニ因リ之ヲ得取スルヲ容シタリ

(二) 是レ得取者ノ身分ニ關セズ又物件ノ性質ニ拘ハラサルモ讓與方法ヨリ來ルモノニシテ市民法ハ之ヲ認メサルヲ以テ讓與ノ效力ヲ生スルコト能ハサルモノナリ而シテ「アレトール」ハ之ヲ保護センカ爲メ得取者ハ名義上ニ於テ物權ノ所有權ヲ得ルコト能ハサルモ實際ニ於ケル效力ヲ保有スルコトト爲シタリ此場合ニ於テハ讓與者ハ市民法上尙ホ所有權ヲ有スルモ讓受者ハ物件ヲ以テ其財産中ニ有スルモノト爲シタリ (in bonis habere) 例ヘン(一)引渡ニ因リ賣買式ヲ受クヘキ物ヲ得タルトキ(二)「アレトール」ノ命令 (edicto) ニ因リ相續ヲ得タルトキ (Bonorum possessio) (三)辨償スルノ資力ナキ債務者ノ資產ヲ賣買ニ依リ得タルトキ (Bonorum venditio, Bonorum emptio) ノ如キ是ナリ

第二節 永借權及ヒ地上權 (地役ニ準スヘキ「アレトール」制度ノ物權)

一 永借權 (Emphyteusis) 永借權ハ他人ニ屬スル物ノ上ニ有スル權利ニシテ恰モ用益權ニ於ケル如ク物件ヲ使用シ又其生産スル所ノ果實ヲ收メテ己ノ所有ト爲スノ權利ナリ然レトモ其範域ハ用益權ヨリモ廣大ニシテ永借權主ハ己ノ利益ニ必要ナリト認ムルニ從ヒ土地ノ狀態ヲ變シ之ヲ修正シ加之其用方ヲモ交易スルコトヲ得永借權ハ唯リ永借權者ノ身上ニ特有ナラサルヲ以テ之ヲ相續者ニ傳ヘ又生存者間ニ於テハ何タル名義ヲ問ハス移轉スルコトヲ得然レトモ永借權ノ所有權ニ異ナル點ハ期限ノ到來ニ因リ或ハ永借權主ノ相續者ナクシテ死亡スルトキ及ヒ一定年間に年賦ヲ拂ハサルトキハ消滅スルモノトス

二 地上權 (Superficies) 地上權ハ土地上ニ立テル建築物ニ適應セル永借權ニシテ土地所有主ハ地上權ニ依リ甚タ長キ年月間又ハ無期ノ間ニ種ノ地役ヲ負擔スルモノナリ

第六章 債務 (Obligatio)

債權又ハ債務トハ同一事ノ相反セル兩側ヨリ下セル觀察ニシテ若シ債權ノ何タルモノナルカラ研究シ其性質ヲ確定スルトキハ又同時ニ債務ノ如何ナルモノナルカラ認知シ其原理ヲ通察スルモノナリ此債權又ハ債務ハ所謂對人權ニシテ上章ニ陳述シタル物權ナルモノハ常ニ物上ニ於テ有スル權利ナリシカ對人權ハ常ニ人ノ上ニ負ハシムルノ義務ナリトス而シテ羅馬ニ於テハ此權利ヲ觀察スルニ債務ノ一方ヨリシタリ今其「ジュスチニアン」帝及ヒ「ポリーヌ」カ下セシ定義ニ依リニ債務トハ羅馬ノ民法ニ基キ人ヲシテ強ヒテ或物ヲ返辨セシムルコトヲ得ル所ノ法律上ノ索條ナリ (Obligatio est iuris vinculum quo necessitate astringimur aliojuns solvenda rei, secundum nostrae civitatis jura)

此定義ヲ分解スレハ左ノ三箇ノ意味ヲ含ム

(一) 債務 (Obligatio) ハ法律上ノ索條 (Vinculum) ニシテ尋常索條ニハ必ス兩端ヲ具フル如ク茲ニハ二箇ノ主體ヲ有シ一ヲ自動主體ト爲シ二ヲ受動主體ト爲ス此兩者間ノ地位ハ優劣ノ差アリ一ハ他ニ對シ多少服從ノ狀態ヲ現ハシ自然ノ自由ヲ失ヒ之ニ反シテ他ハ固有ノ自由以外ニ於テ更ニ特別ナル利益ヲ得取ス此ノ如ク束縛ヲ受ケタル主體ヲ債務者 (Debitor) ト名ケ束縛ヲ爲ス所ノ主體ヲ債權者 (Creditor) ト名ケ而シテ債權、債務兩者ヲ繫連スル索條ハ法律上ノ索條 (Vincula juris) ニシテ法律ハ訴權及ヒ強制執行ナル制裁ヲ創設シ債權者ハ之ヲ利用スルノ便ヲ有ス是レ實ニ法律的義務ノ特徵ニシテ彼ノ單ニ



吾人ノ良心ニ放任シ之ヲ干犯スルモ絶エテ德義ノ地ニ制裁ナキ道徳上ノ義務ニ異ナル主點ノ隨一ナリ
而シテ羅馬人ノ觀念ニ依レハ義務ノ主體タル兩者ノ關係ハ固定不動ニシテ當事者一方ノ意思加之雙方
ノ協和ニ因リテモ當事者タル人ヲ變更スルコト能ハス又其目的ヲ改新スルコト能ハス

(二) 債務ノ目的ハ強ヒテ債務者ヲシテ債權者ノ爲メニ金錢ヲ以テ評價シ得ヘキ行為又ハ不作爲ヲ爲サ
シムルニ在リ(altius solvende re) 而シテ債權者ハ權利ノ目的タル物ト直接關係ヲ生セス又物權ニ
於ケル如ク追及、優先等ノ特別ナル地位ヲ享有セス債務者ノ資産ハ總テノ義務ニ對シ共同ノ擔保ヲ成
スモノナリ是ヲ以テ債務ハ又人權ノ稱號ヲ以テ呼ハレ物權ノ字ニ對立セラル

(三) 債務ハ國ノ法律ニ遵據スルニ非サレハ發生スルコト能ハサルコト明瞭ニシテ此規則ハ殆ト「ジュス
チニア」ノ之ヲ明言スルヲ待タズ即チ一國法律ノ認メサル所權利ノ存在スルコトナシ

債務ハ(一)其起源ヲ市民法ニ取レルカ又ハ普通民法ニ取レルカニ從ヒ(二)或ハ之カ制裁タル訴權ノ源
泉ヲ市民法ニ汲ムカ又ハ法官法ノ源泉ニ汲ムカニ從ヒ(三)或ハ法律ノ制裁ヲ有スルカ又ハ有セサルカ
ニ從ヒ(四)或ハ其契約ヨリ生スルカ又ハ犯罪ヨリ生スルカニ從ヒ之ヲ數種ニ類別ス

(一) 債務ニシテ其起源ヲ市民法又ハ普通民法ニ取レルカアリ甲ハ古昔時代ヨリ羅馬市ノ法律カ之ヲ認メ
唯リ市民ニノミ應用スヘキ特別ナル法律ノ一部ヲ成スモノニシテ此債務ハ其形式のナルト狹隘ナル
ト又嚴密ナルトノ性質ヲ以テ其起源ヲ表徴スルモノナリ例ヘハ銅片及ヒ秤ヲ用ヒ儀式のノ方法(mo-
des et litum)ニ依リ結ヒタル金錢ノ貸借(Nexum) 或儀式ニ從ヒ定メタル言句ヲ用ヒテ債權者、債務
者ノ應答ニ依リ成ル口頭契約(Verborum obligatio, sponsio) 及ヒ羅馬市民カ出納ノ帳簿上ニ記入セル
ヨリ成ル書上契約(Litterarum obligatio)ノ如シ

通民法ノ債務トハ羅馬人民カ他ノ進歩シタル人民ト交通スルニ及ヒ其中ニ應用セラレタル習慣ヲ採
用シタルモノニシテ内外人ノ別ナク之ヲ用フルヲ得其性質トシテ單ニ自然ノ通理ニ基キ煩雜ナル外
形ヲ要セス例ヘハ買賣、貸借、組合ノ如ク債權ノ大部分ヲ含著スルモノナリ

(二) 債務ニシテ之カ制裁タル訴權ノ市民法ニ其源泉ヲ汲ムルカ又ハ法官法ニ其源泉ヲ汲ムルカニ從
ヒタル類別ハ羅馬ニ於テ法律ノ進行ヲ指示スルモノニシテ市民法ハ獨リ古昔時代ヨリ認メタル債務
ノ外或通民法ノ債務ヲ認メテ訴權ヲ付與セシモ尙ホ不完備ノ點アリシヲ以テ法官法ニ「プレトル」
ハ之ヲ補充シカ爲メ自ラ訴權ヲ創立シテ之ニ制裁ヲ與ヘタルニ在リ

(三) 債務ニシテ制裁ヲ有スルト然ラサルトニ從ヒ市民法ノ債務又ハ自然債務ト爲ス此兩者ハ等シク
法律上ノ義務ニシテ自然債務ト雖モ決シテ道徳上ノ道義ト混淆スヘカラス唯何レノ法律ニ基礎ヲ取
ルヲ分タス甲者ハ訴權ヲ有シ乙者ハ之ナキモノヲ謂フ

(四) 債務ノ源泉カ契約ニ在ルカ又ハ犯罪ニ在ルカニ從ヒ立テタル類別ニシテ或條件ニ依リ形成サレ
タル意思ノ合同ハ契約トシテ義務ヲ生セシムルモノナリ又不法行為ニ因リ他人ニ損害ヲ被ラシメタ
ル場合ニ於テハ不法行為ヲ犯シタル者ハ之ヨリ生スル結果ヲ補修セサルヘカラス然レトモ此契約及
ヒ犯罪ノ外ニ正當ナル事故ニシテ更ニ合意ノ存セサルアリ或ハ不法行為ニシテ法律ノ列舉セル犯罪
ニ該當セサルモノアリ法學者ハ其等シク債務ノ源泉タルヘキヲ認定シ甲ノ行為ヲ以テ契約ニ擬シ之
ヲ準契約(Obligatio quasi ex contractu)ト爲シ乙ヲ以テ犯罪ニ擬シ(Obligatio quasi ex delicto)ト爲
シ其ニ之ニ對シ訴權ヲ認許セリ

第七章 契約 (Contractus)

契約ハ必ス合意ヲ觀察セシムルモノニシテ畢竟契約ハ合意ノ特別ナル一ノ形式ニ過キス而シテ合意トハ法律關係ヲ生セシムルノ目的ヲ以テ當事者間ニ爲シタル協和ナリ此當事者カ共通意思ノ發表ヨリシテ生スル協和ハ羅馬法ニ於テ之ヲ呼ビテ「パクトム」(Pactum)又「パクシオ」(Pactio)ト謂ヒ一一致(Pactio)ノ字ニ其源ヲ汲ミタリ或ハ又之ヲ指スニ「コンヴェンシオ」(Convēntio)ノ字ヲ以テスルハ其ニ(Gnū)來ル(Venire)ノ字ヲ合セタルモノナリ此等ノ字ヲ以テ知ラルル如ク合意ハ當事者ノ自由ナル希望ニ從ヒテ生スルモノニシテ私法上其應用セラルヘキ境域ハ甚タ濶大ニシテ親族權、物權ニ於テ屢々法律行為ヲ形成スル基礎ト爲ルモ合意ノ最モ普ク適用セラレ又無數ノ形體ヲ取ルハ債務ノ部ニ於テナリトスルハ實ニ大多數ノ場合ニ於テハ債務ノ起源ト爲リ又其消滅ヲ招クハ是レ合意ノ結果ナレハナリ近世法律ノ原則トシテハ其目的ノ如何ヲ問ハス又其發表セラルル方法ノ何タルヲ分タス當事者ニ於テ意思合同ノ原則トキハ合意ハ直チニ形成セラレ其效力ヲ生スルモノトス例ヘハ債務ヲ創造スルノ合意ニ於テハ債權者ト爲ルヘキ者ハ債務者ト爲ルヘキ者カ義務ヲ負フコトヲ承諾シ又債務者ハ債權者ト爲ルヘキ者ニ對シ其權利ニ羈束セララルコトヲ承諾セシトキハ債務ハ即チ成立セララルモノナリ然レトモ羅馬法ニ於テ合意ノ債務ニ關シ取レル規則ハ大ニ之ニ異ナリ單純ナル當事者ノ意思ノ協和ハ羅馬人ノ之ヲ呼ビテ空虛合意(Pactum nudum)ト爲スモノニシテ即チ一ノ訴權ナキ合意ニ過キス故ニ若シ合意ヲシテ債務ニ法律上ノ效力ヲ有セシメントセハ他ニ有形的事實ノ之ニ附加セララルコトヲ必要トス此規則ハ羅馬法ノ形式主義ヨリ起レルモノニシテ終始一貫シテ採レル原則ナリ而シテ數百年ノ間多少

ノ緩和ヲ加ヘタルモ「ジュスチニア」帝ノ時ニ至リテモ仍ホ遵守セラレタリ蓋シ古代ノ法律ニ從ヘハ當事者意思ニシテ有效ナル結果ヲ生セントセハ必ス同時ニ一定ノ儀式ヲ實行セラルヘカラス例ヘハ古昔ノ金錢貸借(Stipulatio)ニ於テハ「マンシパシオ」ノ式ヲ籍リ稱衡及ヒ銅片ヲ用ヒ借主ハ嚴ニ一定ノ言辭ヲ唱ヘテ返済スルコトヲ約束セラルヘカラサリシカ如シ然レトモ此煩雜ノ不便ナル方法ハ十二銅版法ヲ去ル遠キ以前ニ於テ既ニ放棄セララルモノ仍ホ形式主義ハ市民法ノ基礎ヲ成シ合意ハ一定シタル言辭(Verba)ノ明言又ハ帳簿(Libellus)上ノ記入又ハ物ノ交付ヲ以テ伴ハルルニ非サレハ成立スルコト能ハス而シテ市民法ハ終ニ單ニ承諾(Consensus)ヲ以テ成立スヘキ或種ノ契約ヲ認メ遂ニ四種ノ契約ヲ成セリ此ノ如ク市民法ノ範域ハ狭小ニシテ所謂市民法ノ契約ナルモノハ其數制限セラレ社會ノ關係頻繁ト爲ルニ及ヒ其需用ヲ充タスコト能ハス故ニ法律ノ發達スルニ隨ヒ法官及ヒ皇帝ハ從來市民法ノ認メサリシ契約ヲ容レ之ニ附スルニ訴權ヲ以テシタルモ名稱上之ヲ區別シテ「パクタ」(Pacta)ト呼ビ法官ノ制裁ヲ附シタルモノヲ「プレトール」(Praetor)ト謂ヒ「パクタ」(Pacta praetoria)ト謂ヒ皇帝ノ制裁ヲ附シタルモノヲ法律「パクタ」(Pacta legitima)ト謂ヘリ

第八章 契約ニ必要ナル要素

契約ニ必要ナル條件ニ三アリ曰ク當事者ノ承諾曰ク當事者ノ契約能力曰ク一定ノ目的是ナリ

第一節 承諾

承諾ノ當事者雙方ノ意思カ協和セルニ由リ成ルモノニシテ債務者ハ一定シタル供給ヲ爲スコトヲ約シ

羅馬法 物 資產ヲ成スヘキ權利 契約ニ必要ナル要素 承諾

債權者ハ之ニ對シテ承諾ニ在リ此兩意思ノ存在セルトキハ即チ承諾ヲ形成スルモノニシテ其發表ノ順序ハ更ニ承諾ノ形成ニ關係セス羅馬語ニ於テ承諾 (Consensus) ナル字ハ感情ヲ共ニスル J. Cuius est in re (ナル字組成ナルルヲ觀ルモ明カニ上ノ意ヲ示ス承諾ハ當事者一方ノ提議(又ハ申込) (Pollicitatio) ヨリ區別セサルヘカラス此提議 (Pollicitatio) ハ合意ノ案文ニシテ當事者相互ノ承諾ヲ得ルニ及ヒテ始メテ法律關係ヲ生スル所ノ合意ト爲ルモノナリ

此法律關係ハ眞實ニ於テ承諾ノ存スルニ非サレハ生スルヲ得サルモノナリ故ニ癡狂者、酩酊者及ヒ七歳以下ノ小兒ハ承諾ヲ與フルヲ得ヘカサル自然ノ狀態ニ在ルモノナリ其他戲ニ承諾シタルトキノ如キ共ニ皆眞實ナル意思ノ缺亡セルモノナリ此等ノ場合ニ於テハ承諾ノ形成ヲ得サルヤ明カナリ然レトモ或場合ニ於テハ承諾ハ形成セラレタルモ瑕疵ヲ包藏スルコトアリ其原因ヲ列舉スレハ錯誤、詐欺、暴行(強迫)ノミニシテ今羅馬法上其合意ノ效力上ニ有セル結果ヲ檢索セン

(甲) 錯誤 (Error) 羅馬法ニ於テ錯誤ハ三箇ノ場合ニ於テハ全然承諾ヲ破壞スルモノトシタリ (一) 契約ノ性質上ニ於ケル錯誤例ヘハ甲ハ賣買ヲ爲サント欲セシニ乙ハ貸借ヲ爲サント欲セシトキノ如シ (二) 契約ノ目的タル有形的實物ニ於ケル錯誤 (Error in persona) 例ヘハ奴隸ノ男女ニ於ケル錯誤ノ如シ (三) 人ノ有形的實體上ノ錯誤 (Error in persona) 是レ實際ニ於テハ稀有ノ事ニシテ單ニ仲介者ヲ經テ承諾ヲ傳致スルトキノミ生シ得ヘシ例ヘハ甲ヨリ金錢ヲ借ラント欲シタルニ乙ヨリ金錢ヲ受取リタルトキノ如シ

此三種ノ場合ヲ除クノ外市民法ノ原則トシテ錯誤ハ承諾ヲ毀害スルコト能ハス故ニ物ノ本然ノ性質、其廣狹對手ノ身分等ニ於ケル錯誤ハ更ニ承諾ノ效力ニ向ヒテ影響スルコトナカリキ然レトモ法學者

雜 錄

○大審院判例要旨

○不完全ナル抵當登記ノ效力 本件ニ付テハ甲第一號證ニ掲クル抵當登記ノ建物ト強制競賣ノ命令ニ掲クル建物ト同一物ナルヤ否ヤヲ判然區別セサルヘカラス若シ同一物ニ非サルニ於テハ其點ニ依リ上告人ノ請求ヲ排斥スヘク又同一物ナリトスレハ其登記上不完全ナル點アルモ之カ變更登記ヲ求ムヘキ途アルヲ以テ其變更登記ヲ求ムルト否トハ別問題ニシテ上告人カ先ニ登記ヲ受ケタル部分ニ付テハ其登記ヲ以テ被告人ニ對抗シ得ヘキモノタリ是レ不動産登記法ノ精神ニシテ當院モ亦認ムル所ノ判例ナリ (明治三十九年六月二十二日第二〇九號民事部判決)

○民法第五百四條ノ法意 民法第五百四條ヲ閱スルニ「第五百條ノ規定ニ依リテ代位ヲ爲スヘキ者アル場合ニ於テ債權者カ故意又ハ懈怠ニ因リテ其擔保ヲ喪失又ハ減少シタルトキハ代位ヲ爲スヘキ者ハ其喪失又ハ減少ニ因リ價還ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル限度ニ於テ其責ヲ免ル」トアリ依テ案スルニ第五百條ノ規定ニ依リ抵當不動産ノ第三取得者又ハ保證人等債權ノ辨濟ヲ爲スニ付キ正當ノ利益ヲ有スル者ハ辨濟ニ因リテ當然債權者ニ代位スル者ナルカ故ニ保證人又ハ第三取得者アル場合ニ於テ債權者タル者ハ故意又ハ懈怠ニ因リテ他ノ擔保ヲ喪失又ハ減少シ以テ辨濟ニ因リテ代位スヘキ保證人又ハ第三取得者ノ權利ヲ害シ價還ヲ受クルコト能ハサルニ至ラシムルヲ得サルハ理ノ

當然ナリ故ニ債權者ニ於テ故意又ハ懈怠ニ因リ擔保ヲ喪失又ハ減少シ代位スヘキ者ノ權利ヲ害シ之ヲシテ償還ヲ受クルコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ本條ニ於テ保證人又ハ第三取得者等代位スヘキ者ヲシテ債權者ノ所爲ニ因リ害ヲ受クヘキ限度ニ於テ其責ヲ免レシメ以テ債權者ノ所爲ニ因リ代位スヘキ者ヲシテ害ヲ受クルコトナカラシメタルモノトス是レ本條ノ法意ナリ(明治三十九年ノ第二民事部判決)

○抵當權ノ性質

抵當權ハ其性質不可分ナルカ故ニ債權者ノ承諾アルカ又ハ民法第三百七十七條同第三百七十八條ノ如ク明文ヲ以テ例外ヲ設ケタル場合ヲ除クノ外縱令債權ノ一部ニ變更ヲ生スルモ債權全部ノ辨濟アルニアラサレハ依然トシテ存在シ消滅又ハ變更セサルモノトス(同上)

○抵當登記ノ變更 民法第五百四條ニ依リ第三取得者カ抵當債權ノ一部ニ對シ辨濟ノ責ヲ免レ得ル場合ト雖モ抵當權ハ依然トシテ存在シ消滅セサルハ勿論毫モ其變更ヲ生スヘキ理ナキヲ以テ抵當登記ノ變更ヲ許シ得ヘキモノニアラス(同上)

法學志林

第八卷 每月一回廿日發行
 第八號 定價一冊拾貳錢
 八月二十日 郵稅一冊拾貳錢
 行 壹冊前金 郵稅共 (第八十四號)
 貳拾錢

◎志

土地ト建物トノ關係
 大使ニ直接談判權アリヤ
 保險金受取人ノ保護

法學博士 梅謙次郎
 法學博士 中村進午
 法學士 佐竹三吾
 法學士 山内正瞭
 理學博士 菊池大麓

資本論
 理學及ヒ其應用

◎法質疑

典民法四題(横田法學士、三浦法學士、宮田法學士、梅法學博士)
 錄(民法一題(片山法學士)、
 民事訴訟法二題(板倉法學士、松岡法學士))

◎判例

例 大審院判決例八件

◎雜報

○典宮檢事長答辭書 ○日本辯護士協會ノ宣言書 ○刑法調査ノ成行及起草委員 ○參事總長ノ更迭 ○放大本正御像建設ノ發起 ○学位授與 ○金州丸存廢ノ處分 ○電車ノ値上 ○市長マルノ論議 ○學生藝妓殺シノ判例
 ○青年學生ノ花柳患者 ○女子ノ犯罪
 ○法政大學新學年擔任講師 ○清政大學寄宿舎新築 ○第二十二回卒業證書授與式祝賀 ○學年試驗問題 ○梅友與助 ○本誌編輯會 ○城氏ノ遺稿 ○水原氏ノ遺稿 ○寄贈書目

發行所

法政大學

(電話番町二七四番)

校外生規則摘要

- 一 十个月以上本大學ノ校外生タル者ニシテ本大學ニ入學スル者ハ入學金ヲ免除ス
- 一 講義錄ノ講習ヲ終リタル者ハ校外生修業書ヲ請求スルコトヲ得但手數料金貳拾錢ヲ納ムヘシ
- 一 校外生ノ講習料ハ金九圓トシ一時前納金七圓五拾錢トシ二回前納金四圓トシ十五个月分納金六拾錢トス但講義錄ハ十二个月ニテ完結ス
- 一 講習料ヲ納付シタルトキハ講義錄ヲ郵送スルヲ以テ別ニ領取證ヲ交付セズ若シ發信ノ日ヨリ二十日ヲ過キテ講義錄ノ到達セザルトキハ其旨本大學出版局ニ通知スヘシ
- 一 校外生ニシテ講習十个月ヲ終リタルトキハ本人望ミニ依リ論文試験及ヒ筆記試験ヲ施行ス但時宜ニ依リ遠試験ヲ爲ス前項ノ試験成績優等ナル者ハ本大學ノ學生又ハ應講生ニ編入シ在志寄附ノ奨學金ヲ以テ一學年中ノ授業料並ニ寄宿料ヲ支辨スヘシ
- 一 三十九年度校外生ニ付テハ三十九年八月及ヒ十二月ノ二回ニ試験ヲ施行シ優等生ヲ選拔スヘシ
- 一 校外生ハ講義錄中ニ疑義アルトキハ講義錄ノ番號科目頁數及ヒ疑問ノ要點ヲ記載シ本大學編輯局ヘ宛テ郵送スヘシ
- 一 質疑通信ノ文章解シ難キモノ、主旨明瞭ニシテ解答ヲ要セスト認ムルモノハ解答ヲ付セズ
- 一 質疑中有疑ト認ムルモノハ之ニ解答ヲ付シ法學志林又ハ講義錄ニ登載スヘシ

(明治三十八年十一月九日第三種郵便物認可)

毎月三回、五日、十五日、二十五日發行)

明治三十九年九月二日印刷
明治三十九年九月五日發行

(定價金參拾錢)

編輯兼發行所
東京市牛込區牛込北町十番地
萩原敬之

印刷者
東京市四谷區四谷左門五十八番地
重利俊夫

印刷所
東京市芝區明舟町十一番地
金子活版所

發行所
東京市麴町區富士見町六丁目十六番地

司法省 指定
法政大學
(電話番町百七拾四番)